第３期吹田市障がい者計画策定のための
アンケート調査結果

報　告　書

平成22年（2010年）３月

吹　田　市

目　次

Ⅰ　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
1　調査目的………………………………………………………………………… 1
2　調査の実施概要………………………………………………………………… 1
3　報告書の見方…………………………………………………………………… 2

Ⅱ　18歳以上手帳所持者調査の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
1　対象者のことについて………………………………………………………… 3
2　日中の過ごし方、外出の状況について………………………………………13
3　仕事のことについて……………………………………………………………16
4　地域との関わりについて………………………………………………………23
5　災害など緊急時の対応について………………………………………………26
6　医療の受診、医療的な支援について…………………………………………28
7　障害者自立支援法に関するサービスについて………………………………33
8　心のバリアフリーについて……………………………………………………41
9　将来の暮らしについて…………………………………………………………46
10　吹田市の障がい者施策のあり方について……………………………………51

Ⅲ　18歳未満手帳所持者調査の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54
1　対象者のことについて…………………………………………………………54
2　日中の過ごし方、外出の状況について………………………………………61
3　学校、進路のことについて……………………………………………………64
4　障がいの状況の診断・判定、療育について…………………………………66
5　地域との関わりについて………………………………………………………69
6　災害など緊急時の対応について………………………………………………73
7　医療の受診、医療的な支援について…………………………………………75
8　障害者自立支援法に関するサービスについて………………………………79
9　心のバリアフリーについて……………………………………………………86
10　将来の暮らしについて…………………………………………………………91
11　吹田市の障がい者施策のあり方について……………………………………94

Ⅳ　発達障がい児調査の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・96
1　対象者のことについて……96
2　通学の状況、日中の過ごし方について…… 100
3　障がいがあることで必要だった支援、学校生活で困っていることについて…… 103
4　医療の受診について…… 106
5　障害者自立支援法に関するサービスについて…… 107
6　心のバリアフリーについて…… 109
7　将来の暮らしについて…… 112
8　吹田市の障がい者施策のあり方について…… 113

Ⅴ　地域福祉の担い手調査の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 115
1　対象者のことについて…… 115
2　障がい者に対する支援の状況について…… 118
3　地域での住民等による福祉活動の状況について…… 124

巻末資料　使用した調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 129
○18歳以上手帳所持者対象調査票…… 129
○18歳未満手帳所持者対象調査票…… 149
○発達障がい児対象調査票…… 165
○地域福祉の担い手対象調査票…… 177

Ⅰ　調査の概要

１　調査目的

障がい者・障がい児を取り巻く家庭・地域生活の状況、就労・就学の状況、安心・安全の状況及び将来の暮らしの意向を把握し､障がい福祉施策の今後の方向性を検討するための基礎資料とする。

また、地域で福祉活動に活躍している地区福祉委員や民生委員などを対象に、支援者として把握している障がい者のニーズや課題、地域福祉を担う立場としてのニーズを把握する。

さらに、今だ福祉施策の狭間にある発達障がい児のニーズを把握し、市としての取組の方向性を検討する基礎資料とする。

２　調査の実施概要

調査対象	配付数	回答数	回答率	対象の属性と調査方法
18歳以上手帳所持者	1,800	878	48.8%	身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳所持者から無作為抽出。 個人に郵送配付、郵送回収。ただし、18歳未満手帳所持者調査は、対象者の保護者に回答を求めた。
18歳未満手帳所持者	500	244	48.8%	
発達障がい児	100	37	37.0%	市教育委員会で把握している発達障がい児の保護者に対し、市立小・中学校の担任より調査協力の意思を確認した上で調査票を直接配付、郵送回収。
地域福祉の担い手	490	307	62.7%	市内33の地区福祉委員長から各地区の地域福祉の担い手に対して直接配付、郵送回収。 ボランティア団体は直接配付、郵送回収。
合計	2,890	1,466	50.7%	

３　報告書の見方

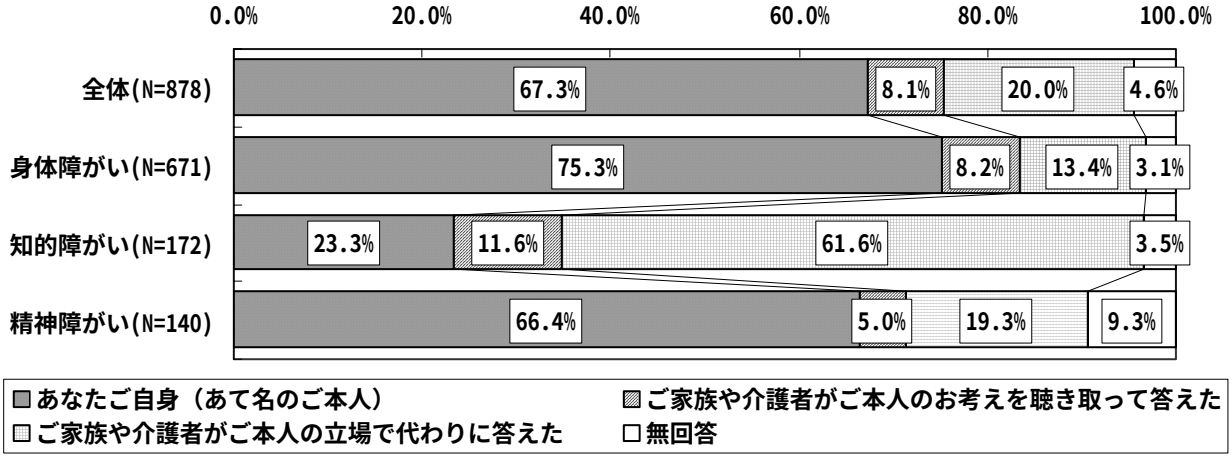
- 集計結果は、すべて小数第２位を四捨五入した値を表記している。
- 設問の当該集計母数は、「(N=***)」と表記している。
- 単数回答設問では、各選択肢の回答構成比の合計が四捨五入の関係で100.0%にならない場合がある。また、複数回答設問では、当該設問に回答すべき人数を集計母数として各選択肢の回答構成比を求めているため、回答構成比の合計が100.0%を超える場合がある。
- 本文中の表・グラフにおいて、選択肢が長い文章の場合には簡略化している場合がある。
- グラフで回答のなかった場合の「0.0%」表記は、繁雑さを避けるため、省略している場合がある。
- 障がい種別の集計図表については、身体障がい者手帳所持者→身体障がい、療育手帳所持者→知的障がい、精神障がい者保健福祉手帳所持者→精神障がいと表記している。
- 「Ⅲ　18歳未満手帳所持者の結果」では、精神障がい者保健福祉手帳所持者の回答数が極めて少なく、他の集計区分との比較が困難なため、図表による集計結果の表記、分析は割愛している。
- 設問ごとの分析の最初に提示する図表の「全体」と障がい種別ごとの集計結果で、「全体」の回答数と障がい種別ごとの回答数の合計とが一致しないのは、たとえば、身体障がい者手帳と療育手帳を重複所持している場合には、「身体障がい」と「知的障がい」のそれぞれの集計母数（回答数）に計上しているためである。なお、「全体」の回答数は、前ページ「２　調査の実施概要」の表中「回答数」に相当する、本調査の各調査対象区分の実回答数である。
- 「無回答」は構成比の多少に関係なく、結果の分析に一切考慮していない。

Ⅱ　18歳以上手帳所持者調査の結果

1　対象者のことについて

（1）調査票の記入者

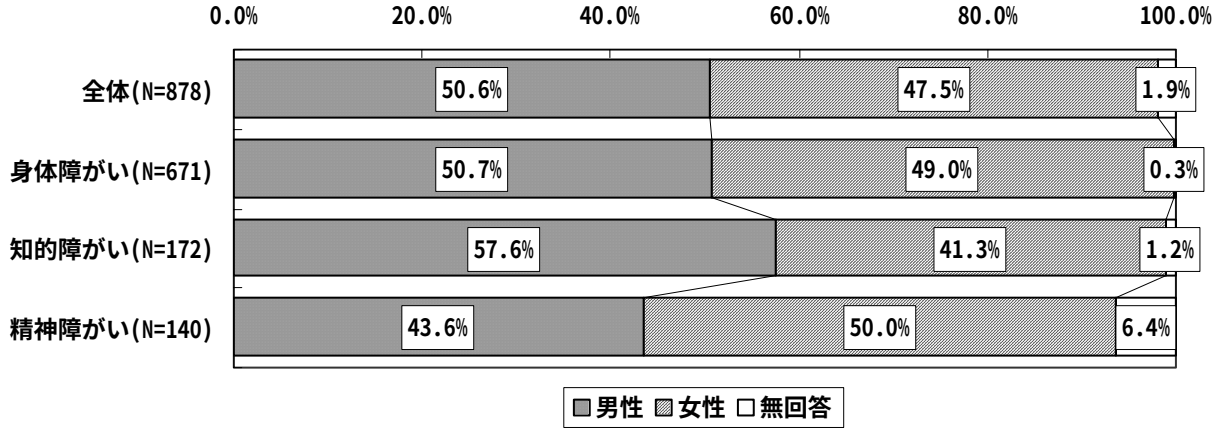
図表　調査票の記入者



調査票の記入者をみると、身体障がいと精神障がいでは「あなたご自身」が最も多い（身体：75.3%、精神：66.4%）。また、知的障がいでは「ご家族や介護者がご本人の立場で代わりに答えた」が61.6%で最も多い。

（2）性別

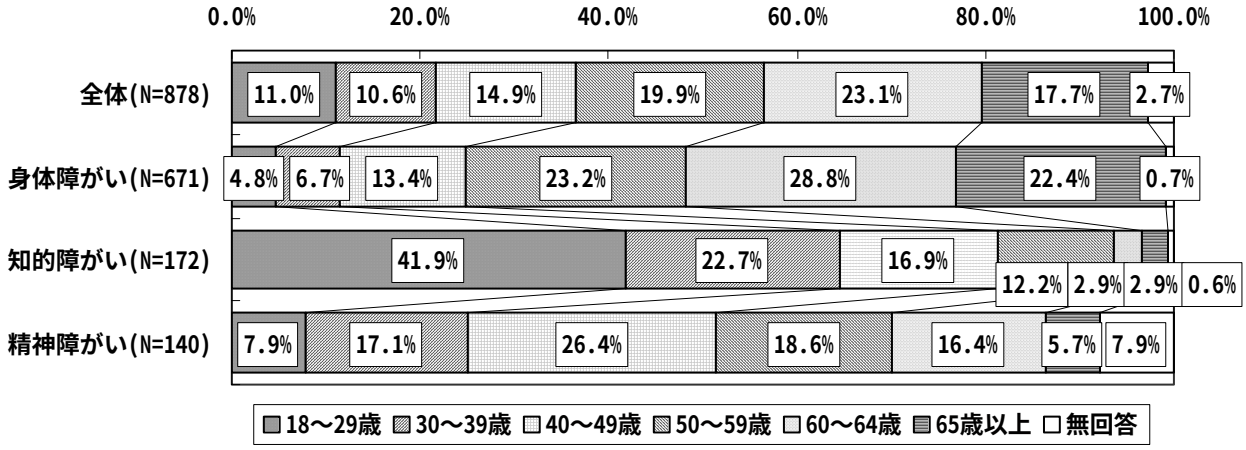
図表　性別



性別をみると、身体障がいと知的障がいでは「男性」が「女性」を上回っているが、精神障がいでは「女性」が「男性」を上回っている。

（３）年齢（平成21年11月１日時点の満年齢）

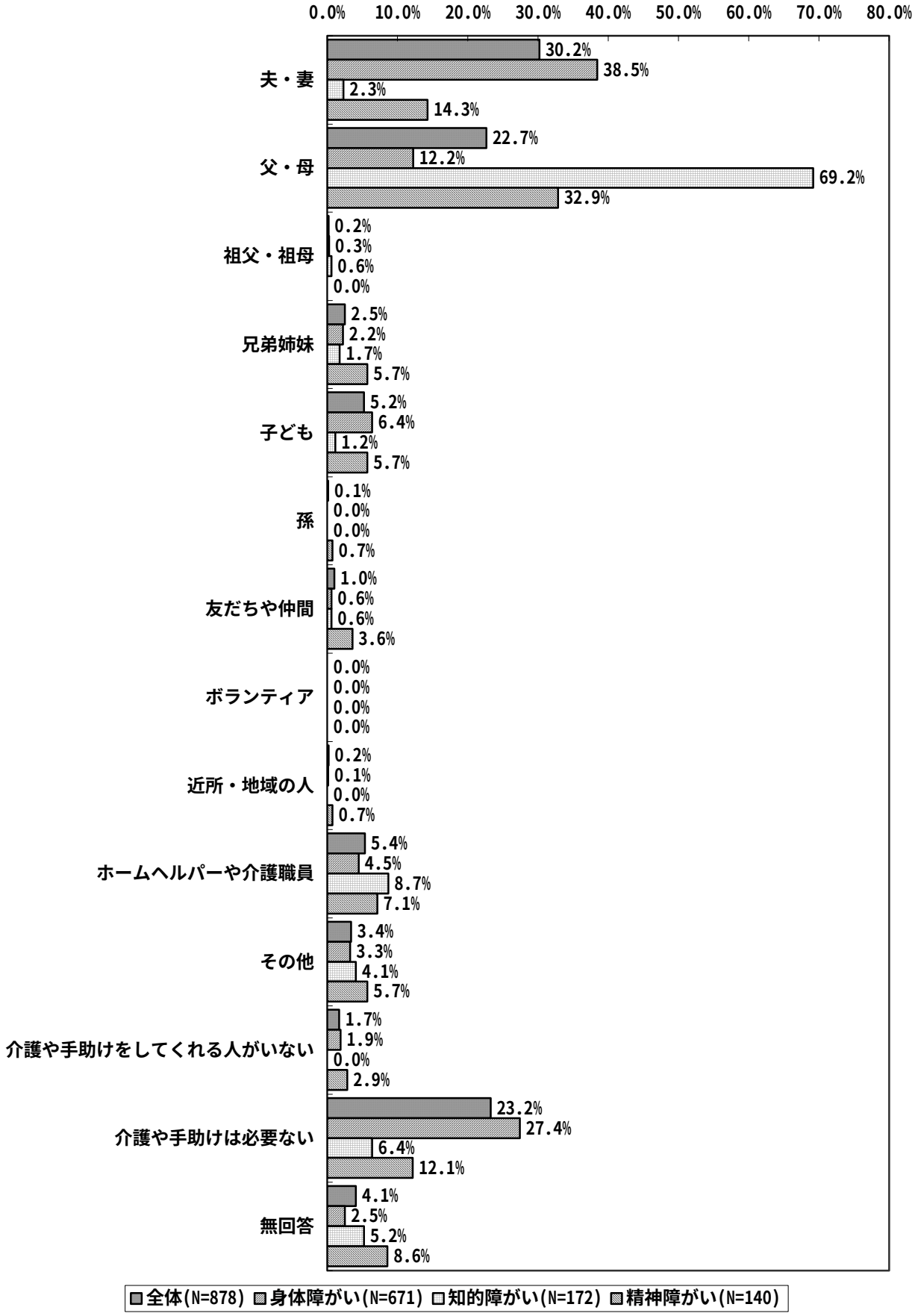
図表　年齢



年齢をみると、身体障がいでは「60～64歳」が28.8%で最も多い。知的障がいでは「18～29歳」が41.9%で最も多く、次いで、「30～39歳」が22.7%となっており、若年層が多い。精神障がいでは「40～49歳」が26.4%で最も多く、次いで、「50～59歳」が18.6%となっており、中年層が多い。

（4）主な介護者

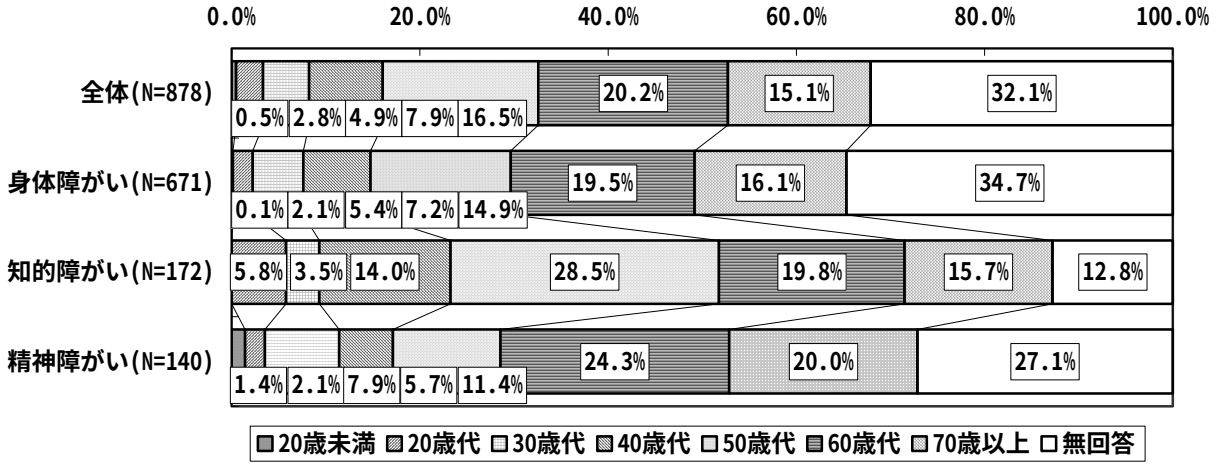
図表　主な介護者



主な介護者をみると、「その他」を除き、身体障がいでは「夫・妻」が38.5%で最も多く、次いで、「介護や手助けは必要ない」が27.4%となっている。知的障がいと精神障がいでは「父・母」が最も多く（知的：69.2%、精神：32.9%）、次いで、知的障がいでは「ホームヘルパーや介護職員」が8.7%、精神障がいでは「夫・妻」が14.3%となっている。

（5）主な介護者の年齢

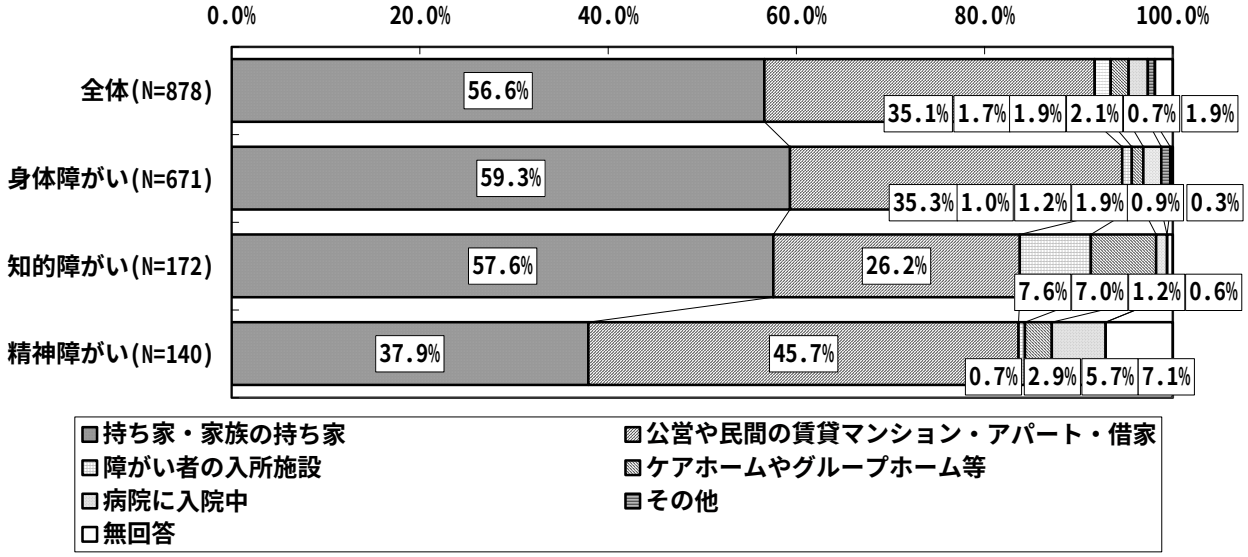
図表　主な介護者の年齢



主な介護者の年齢をみると、身体障がいと精神障がいでは「60歳代」が最も多く（身体：19.5%、精神：24.3%）、知的障がいでは「50歳代」が28.5%で最も多い。

（6）住まいの種類

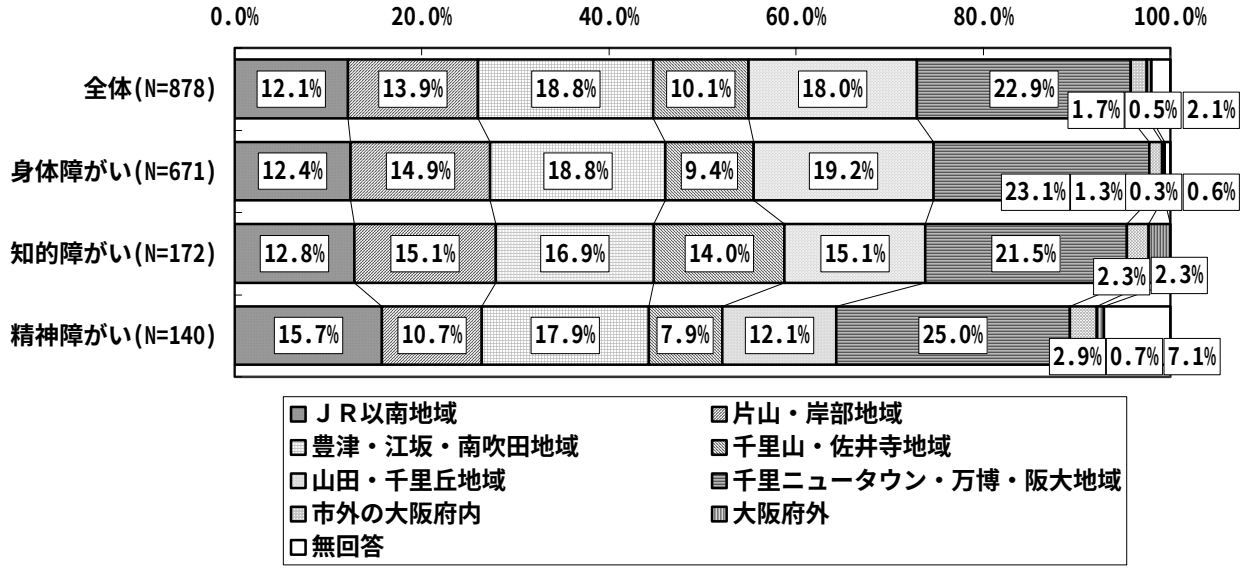
図表　住まいの種類



住まいの種類をみると、身体障がいと知的障がいでは「持ち家・家族の持ち家」が最も多く（身体：59.3%、知的：57.6%）、精神障がいでは「公営や民間の賃貸マンション・アパート・借家」が45.7%で最も多い。

（７）居住地域

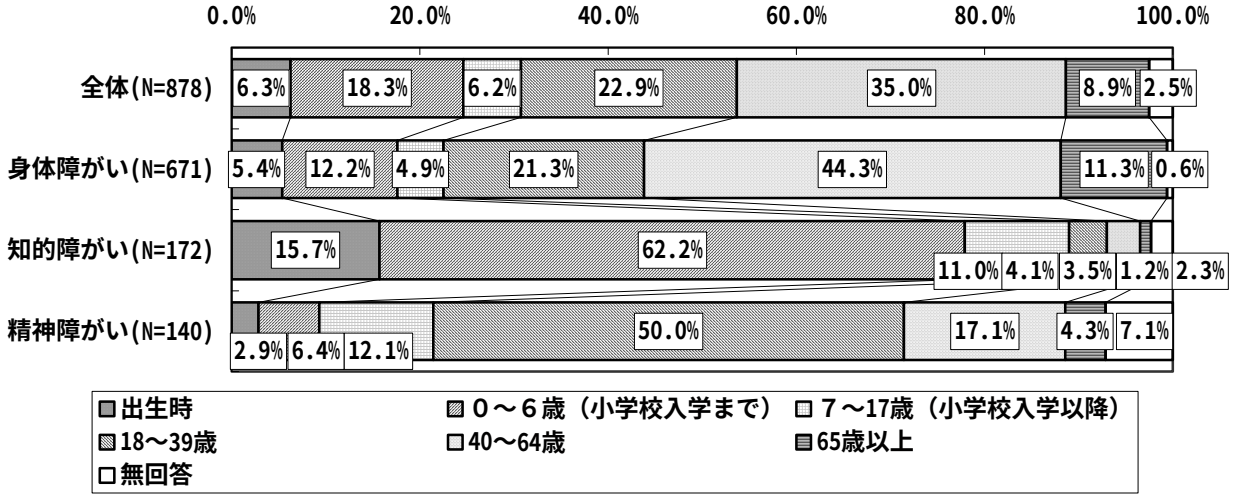
図表　居住地域



居住地域をみると、障がい種別に関係なく「千里ニュータウン・万博・阪大地域」が最も多い（身体：23.1%、知的：21.5%、精神：25.0%）。

（８）障がいが判明した時期

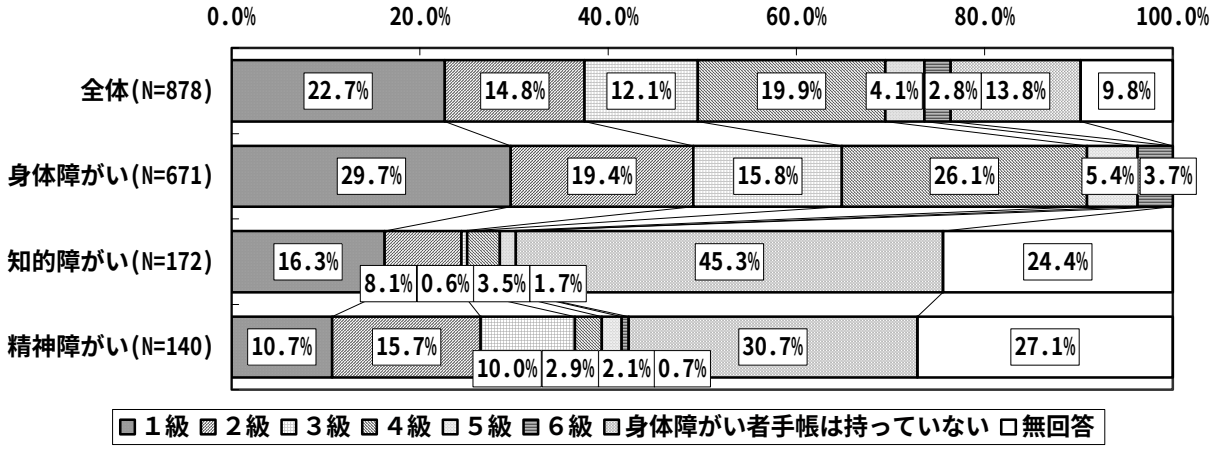
図表　障がいが判明した時期



障がいが判明した時期をみると、身体障がいでは「40～64歳」が44.3%、知的障がいでは「０～６歳（小学校入学まで）」が62.2%、精神障がいでは「18～39歳」が50.0%でそれぞれ最も多い。

（９）身体障がい者手帳の所持の有無・等級

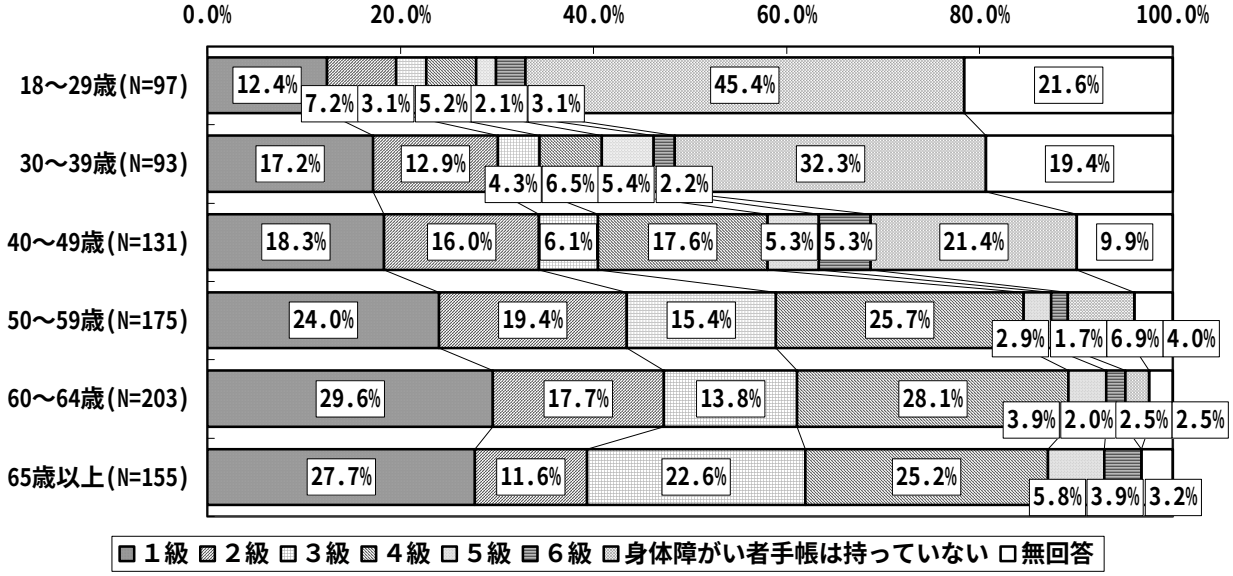
図表　身体障がい者手帳の所持の有無・等級



身体障がい者手帳の所持の有無・等級をみると、身体障がい者手帳所持者は全体の76.4%となっており、身体障がいでは「１級」が29.7%で最も多い。

また、知的障がい及び精神障がいで、等級に関係なく身体障がい者手帳をを重複所持しているのは、知的障がいでは30.2%、精神障がいでは42.1%となっている。

図表　身体障がい者手帳の所持の有無・等級（年齢別）



年齢別にみると、年齢層が高いほど手帳所持者が多い傾向となっており、50歳以上では80%以上を占めている。また、50歳以上では「１級」と「４級」の占める割合が50歳未満に比べて大きい。

（10）身体障がいの部位（複数回答）

図表　身体障がいの部位

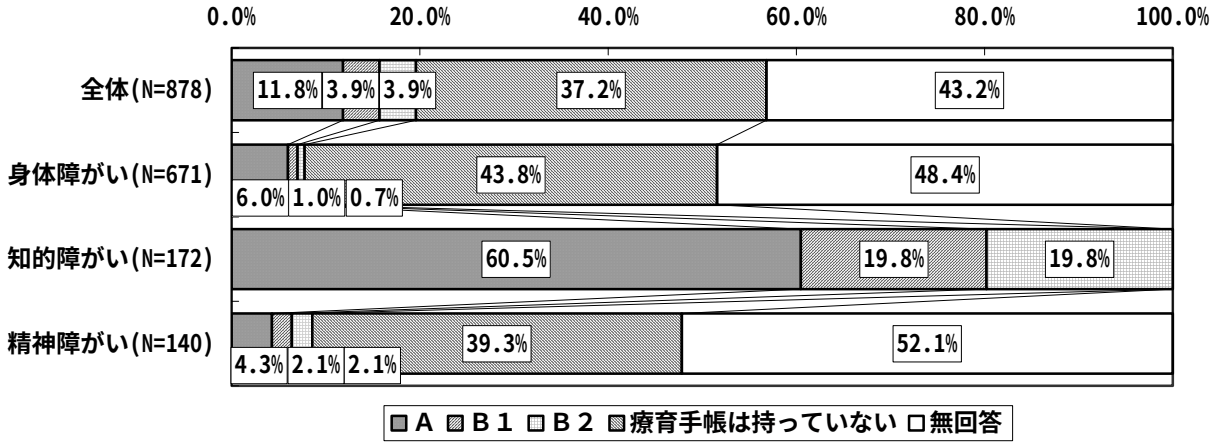
		集計母数	視覚障がい	聴覚障がい・平衡機能障がい	音声・言語・そしゃく機能障がい	肢体不自由	内部障がい	身体障がいはない
障がい種別	全体	671	9.8%	6.9%	6.7%	55.0%	30.0%	0.0%
	身体障がい	671	9.8%	6.9%	6.7%	55.0%	30.0%	0.0%
	知的障がい	52	11.5%	1.9%	17.3%	61.5%	21.2%	0.0%
	精神障がい	59	8.5%	3.4%	8.5%	30.5%	22.0%	0.0%
年齢（身体障がい）	18～29歳	32	9.4%	12.5%	6.3%	65.6%	9.4%	0.0%
	30～39歳	45	15.6%	8.9%	8.9%	46.7%	22.2%	0.0%
	40～49歳	90	10.0%	8.9%	6.7%	56.7%	27.8%	0.0%
	50～59歳	156	8.3%	6.4%	6.4%	60.9%	28.2%	0.0%
	60～64歳	193	11.9%	5.2%	8.3%	53.4%	29.0%	0.0%
	65歳以上	150	7.3%	6.7%	4.7%	49.3%	42.0%	0.0%

身体障がいの部位をみると、障がい種別に関係なく「肢体不自由」が最も多い（身体：55.0%、知的：61.5%、精神：30.5%）。

年齢別にみると、「内部障がい」は年齢層が高いほど多く、「肢体不自由」や「聴覚障がい・平衡機能障がい」は年齢層が低いほど多い傾向となっている。

（11）療育手帳の所持の有無・判定

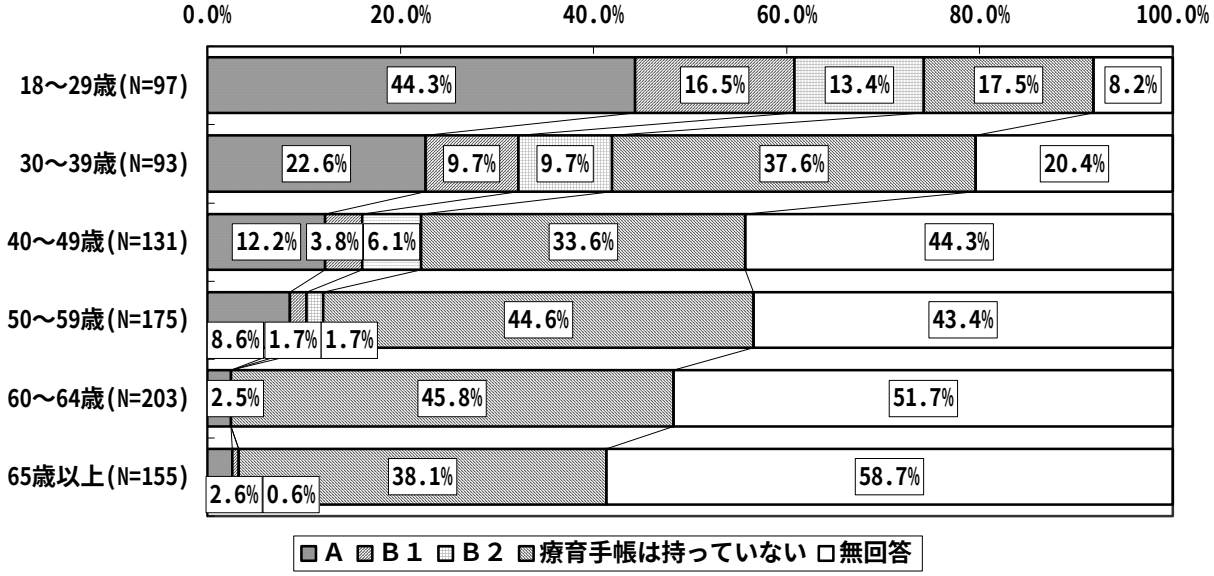
図表　療育手帳の所持の有無・判定



療育手帳の所持の有無・判定をみると、療育手帳所持者は全体の19.6%となっており、知的障がいでは「A」が60.5%で最も多い。

また、身体障がい及び精神障がいで、判定に関係なく療育手帳を重複所持しているのは、身体障がいでは7.7%、精神障がいでは8.5%となっている。

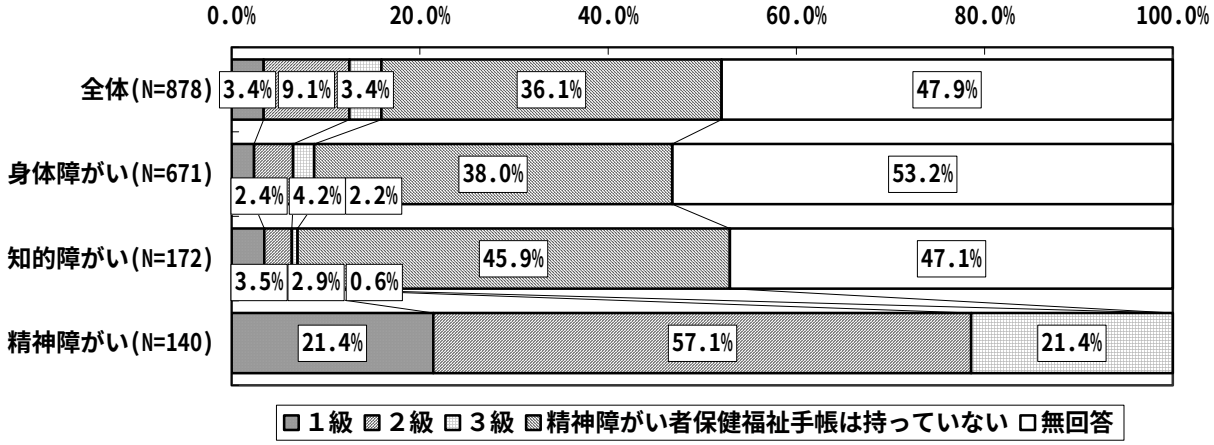
図表　療育手帳の所持の有無・判定（年齢別）



年齢別にみると、年齢層が低いほど療育手帳所持者が多く、なおかつ「A」が多い傾向となっている。

（12）精神障がい者保健福祉手帳の所持の有無・等級

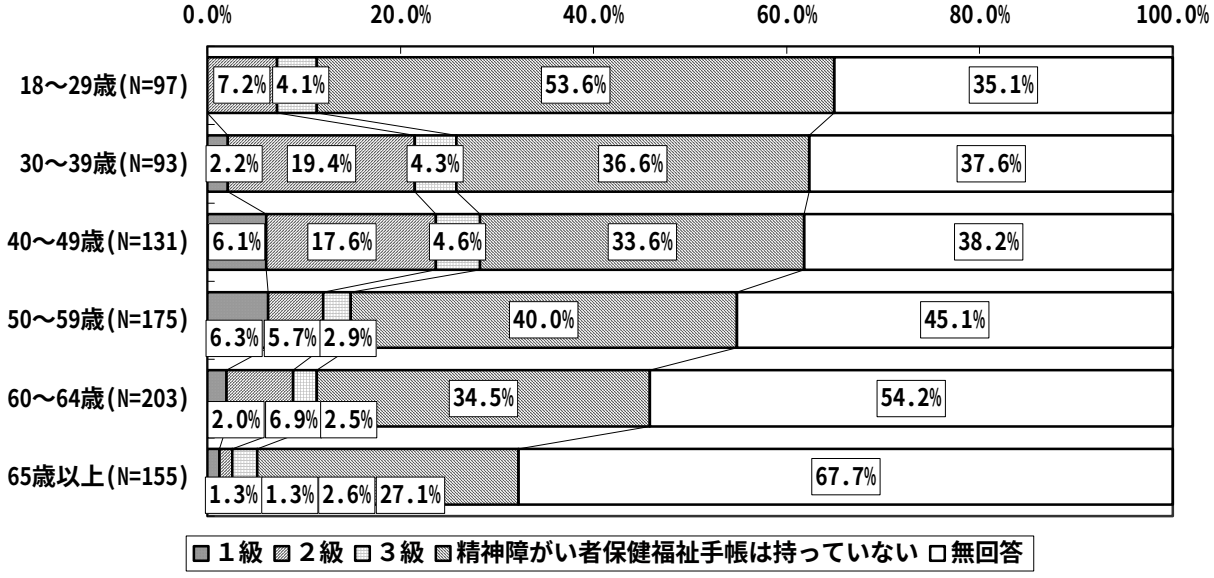
図表　精神障がい者保健福祉手帳の所持の有無・等級



精神障がい者保健福祉手帳の所持の有無・等級をみると、精神障がい者保健福祉手帳所持者は全体の15.9%となっている。精神障がいでは、「２級」が57.1%で最も多い。

また、身体障がい及び知的障がいで、等級に関係なく精神障がい者保健福祉手帳を重複所持しているのは、身体障がいでは8.8%、精神障がいでは7.0%となっている。

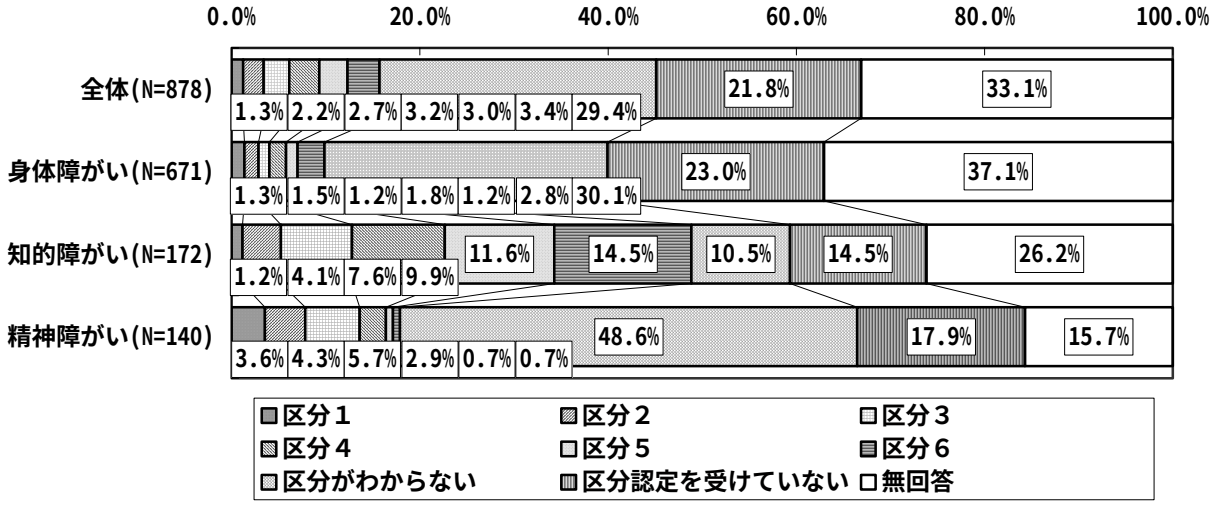
図表　精神障がい者保健福祉手帳の所持の有無・等級（年齢別）



年齢別にみると、30～49歳では精神障がい者保健福祉手帳所持者が25%を超えており、30歳未満と50歳以上が15%未満であるのに比べて多い。

（13）障がい程度認定区分

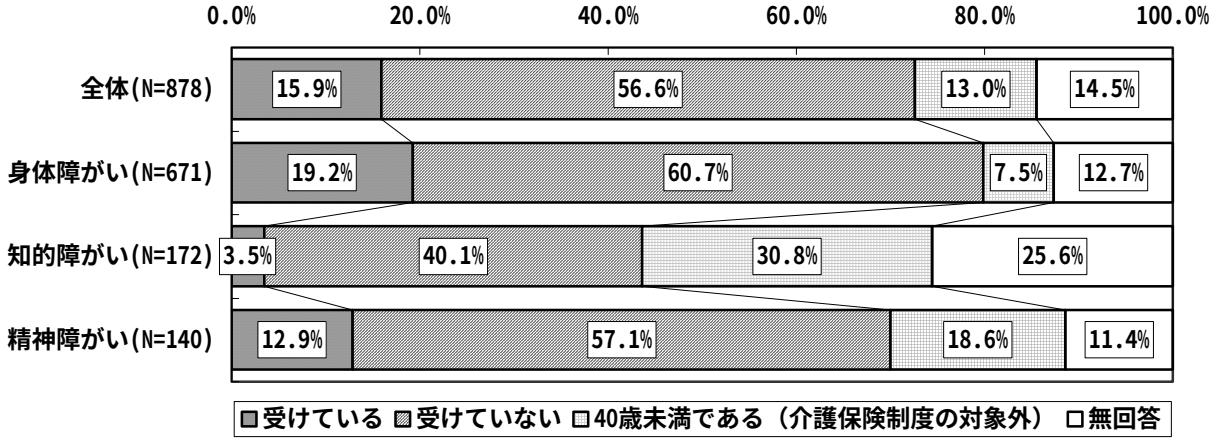
図表　障がい程度認定区分



障がい程度認定区分をみると、「区分がわからない」「区分認定を受けていない」を除き、身体障がいと知的障がいでは「区分６」が最も多く（身体：2.8%、知的：14.5%）、精神障がいでは「区分３」が5.7%で最も多い。

（14）介護保険制度の要支援・要介護認定の状況

図表　介護保険制度の要支援・要介護認定の状況

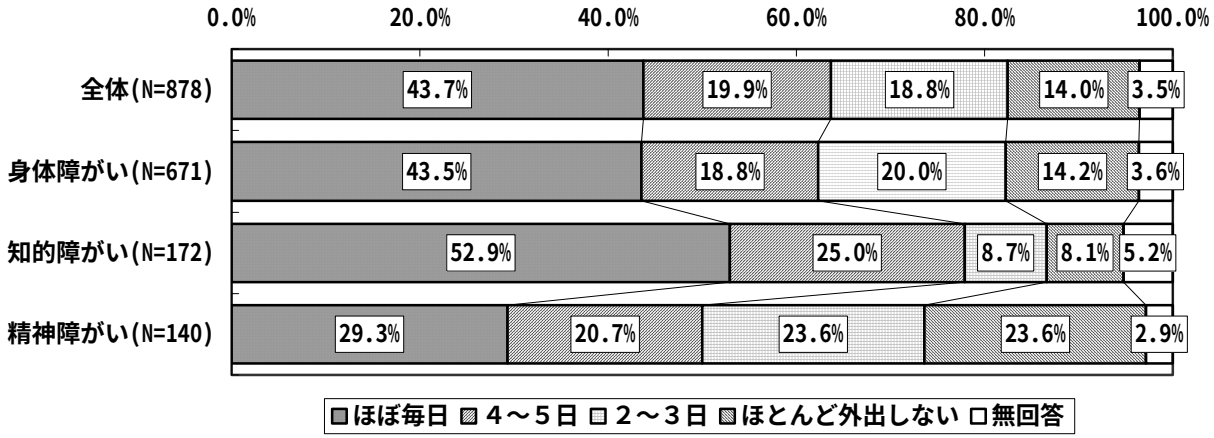


介護保険制度の要支援・要介護認定の状況をみると、障がい種別に関係なく「受けていない」が最も多い（身体：60.7%、知的：40.1%、精神：57.1%）。次いで、身体障がいでは「受けている」（19.2%）、知的障がいと精神障がいでは「40歳未満である（介護保険制度の対象外）」（知的：30.8%、精神：18.6%）となっている。

２　日中の過ごし方、外出の状況について

（１）１週間の外出頻度

図表　１週間の外出頻度



１週間の外出頻度をみると、障がい種別に関係なく「ほぼ毎日」が最も多い（身体：43.5%、知的：52.9%、精神：29.3%）。精神障がいでは「ほとんど外出しない」と「２～３日」がそれぞれ25%近くを占め、他の障がい種別に比べて外出頻度が少ない人が多い。

（2）日中の過ごし方

図表　日中の過ごし方（複数回答）

		集計母数	特に何もせず、自宅にいる	会社等で働いている	作業所や施設等で訓練や作業をしている	学校へ通っている	趣味の活動をしている	スポーツをしている	知りあいや友だちと会う	障がい者団体等が主催の活動に参加している	地域の活動や行事に参加している	買物などに外出する	病院やクリニックへ訓練や治療に通っている	短期入所（ショートステイ）を利用している	日中一時支援を利用している
平日	全体	878	28.7%	27.2%	15.4%	1.8%	10.7%	2.6%	12.2%	1.7%	2.7%	31.3%	29.0%	1.3%	3.5%
	身体障がい	671	29.5%	30.1%	7.9%	1.2%	12.5%	2.7%	13.4%	1.3%	3.4%	33.1%	30.3%	0.7%	3.4%
	知的障がい	172	12.8%	19.2%	56.4%	2.9%	3.5%	2.9%	3.5%	2.3%	0.0%	13.4%	16.3%	4.1%	2.3%
	精神障がい	140	39.3%	14.3%	18.6%	2.1%	8.6%	2.1%	12.9%	3.6%	1.4%	38.6%	37.1%	1.4%	6.4%
休日	全体	878	46.1%	2.5%	1.1%	0.6%	16.1%	5.9%	17.2%	3.3%	3.9%	42.3%	4.3%	1.0%	3.2%
	身体障がい	671	45.0%	2.4%	1.0%	0.7%	16.1%	5.4%	16.2%	2.4%	3.9%	39.8%	4.8%	0.9%	1.5%
	知的障がい	172	51.2%	2.9%	2.3%	0.0%	13.4%	8.1%	17.4%	7.6%	3.5%	50.6%	4.1%	2.9%	12.2%
	精神障がい	140	50.0%	2.1%	3.6%	1.4%	13.6%	6.4%	17.9%	2.9%	5.7%	37.9%	4.3%	1.4%	2.1%

日中の過ごし方をみると、平日は、身体障がいでは「買物などに外出する」が33.1%、知的障がいでは「作業所や施設等で訓練や作業をしている」が56.4%、精神障がいでは「特に何もせず、自宅にいる」が39.3%でそれぞれ最も多い。「特に何もせず、自宅にいる」は精神障がいでは39.3%と他の障がい種別に比べて多い。また、「作業所や施設等で訓練や作業をしている」は知的障がいでは56.4%と突出している。

休日は、障がい種別に関係なく「特に何もせず、自宅にいる」が最も多く（身体：45.0%、知的：51.2%、精神：50.0%）、知的障がいと精神障がいでは半数を超えている。

（3）外出の際に困ること

図表　外出の際に困ること（複数回答）

		集計母数	道路や駅の周辺、建物の段差で移動しにくい	道路や歩道の自転車や店の看板などが邪魔で通りにくい	車道と歩道の区別がわかりにくくて危険を感じる	道路や建物に点字ブロックが敷かれていない	音声信号がなくて横断歩道を渡りにくい	バスや電車の乗り降りの介助をしてもらえない	電車やバスの切符の買い方、料金の支払い方がわからない	信号や道路標識の意味がわからない
障がい種別	全体	878	24.3%	14.6%	7.9%	1.3%	1.9%	4.3%	9.7%	4.2%
	身体障がい	671	30.0%	17.9%	8.8%	1.6%	2.1%	4.6%	5.4%	1.5%
	知的障がい	172	12.8%	6.4%	8.1%	0.0%	1.2%	5.2%	30.8%	15.1%
	精神障がい	140	12.9%	7.9%	3.6%	1.4%	0.7%	1.4%	4.3%	3.6%

		集計母数	建物のスロープの勾配がきつい	建物に車いす用のトイレや手すりがない	公共施設や駅などのエレベーターやエスカレーターの場所がわかりにくい	障がい者のための施設・設備を示すシンボルマークの表示がない	手助けを求める声を気軽にかけられない	他人の目や言動が気になる、または他人に迷惑をかけるので、出かける気になれない	その他	特に困っていることはない
障がい種別	全体	878	9.5%	6.9%	12.2%	6.4%	10.5%	11.8%	13.8%	30.4%
	身体障がい	671	11.3%	8.8%	13.6%	7.3%	9.1%	10.0%	14.8%	30.4%
	知的障がい	172	2.3%	5.8%	8.7%	3.5%	15.1%	10.5%	13.4%	25.0%
	精神障がい	140	6.4%	1.4%	13.6%	4.3%	12.1%	25.0%	14.3%	30.0%

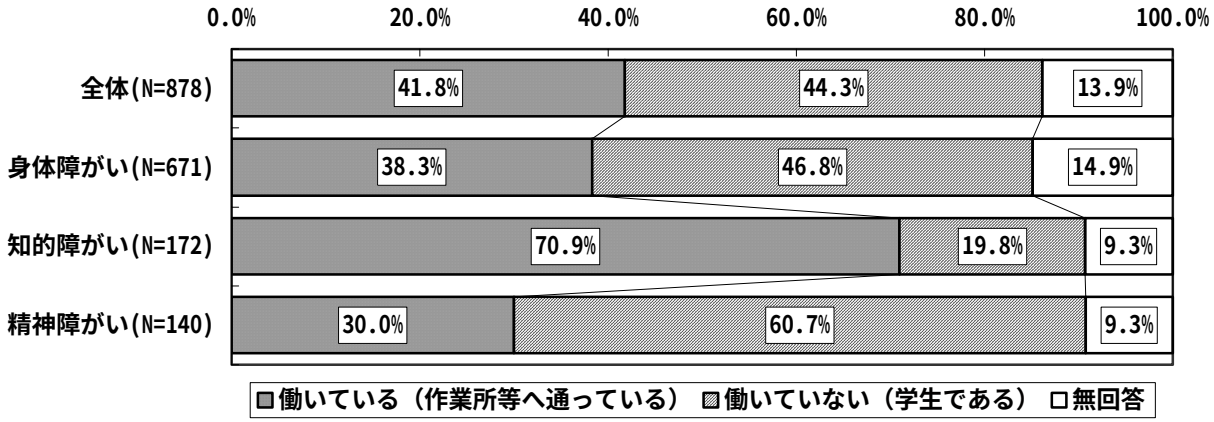
外出の際に困ることをみると、「特に困っていることはない」を除き、身体障がいでは「道路や駅の周辺、建物の段差で移動しにくい」が30.0%、知的障がいでは「電車やバスの切符の買い方、料金の支払い方がわからない」が30.8%、精神障がいでは「他人の目や言動が気になる、または他人に迷惑をかけるので、出かける気になれない」が25.0%でそれぞれ最も多い。

精神障がいの「他人の目や言動が気になる、または他人に迷惑をかけるので、出かける気になれない」は25.0%と他の障がい種別の約10%に比べて多い。

3　仕事のことについて

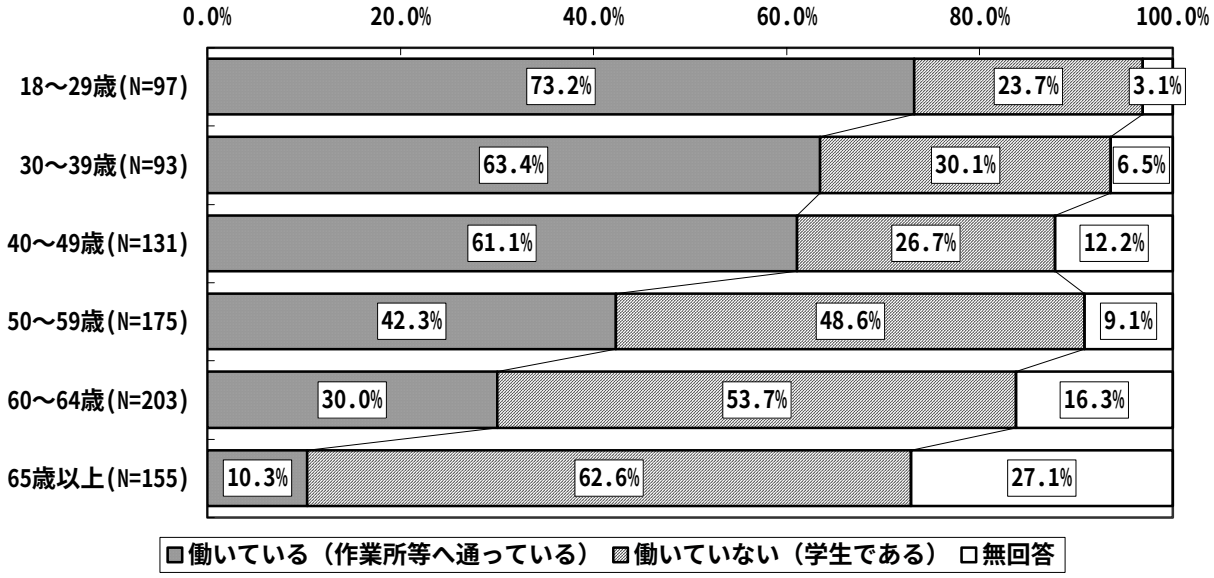
（1）就労状況

図表　就労状況



就労状況をみると、身体障がいと精神障がいでは「働いていない（学生である）」（身体：46.8%、精神：60.7%）が「働いている（作業所等へ通っている）」（身体：38.3%、精神：30.0%）を上回っているが、知的障がいでは「働いている」（70.9%）が「働いていない」（19.8%）を上回っている。

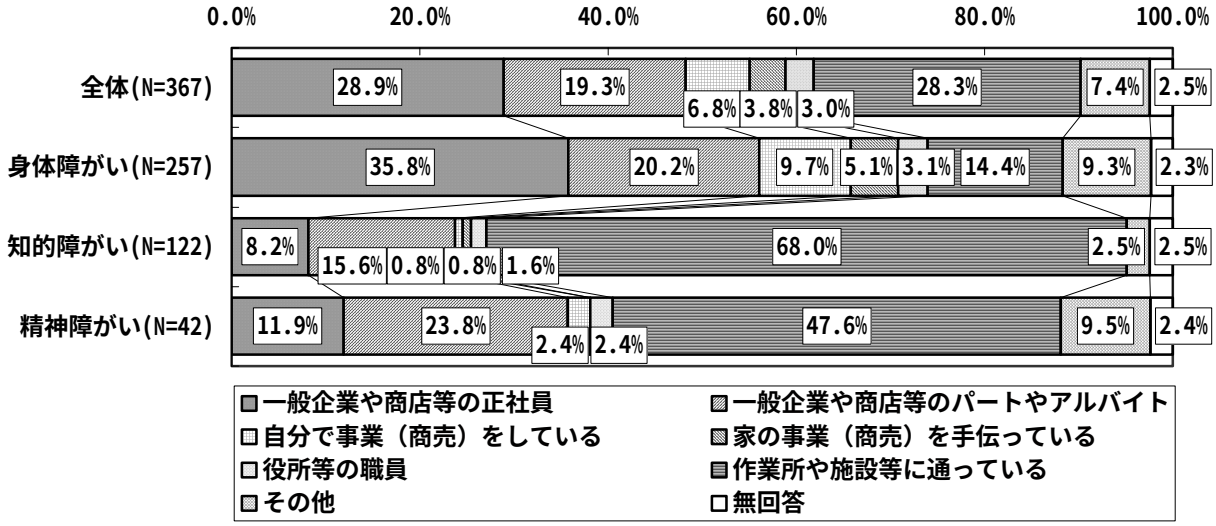
図表　就労状況（年齢別）



年齢別にみると、年齢層が低いほど「働いている」が多い傾向となっており、50歳未満では60%以上を占めている。

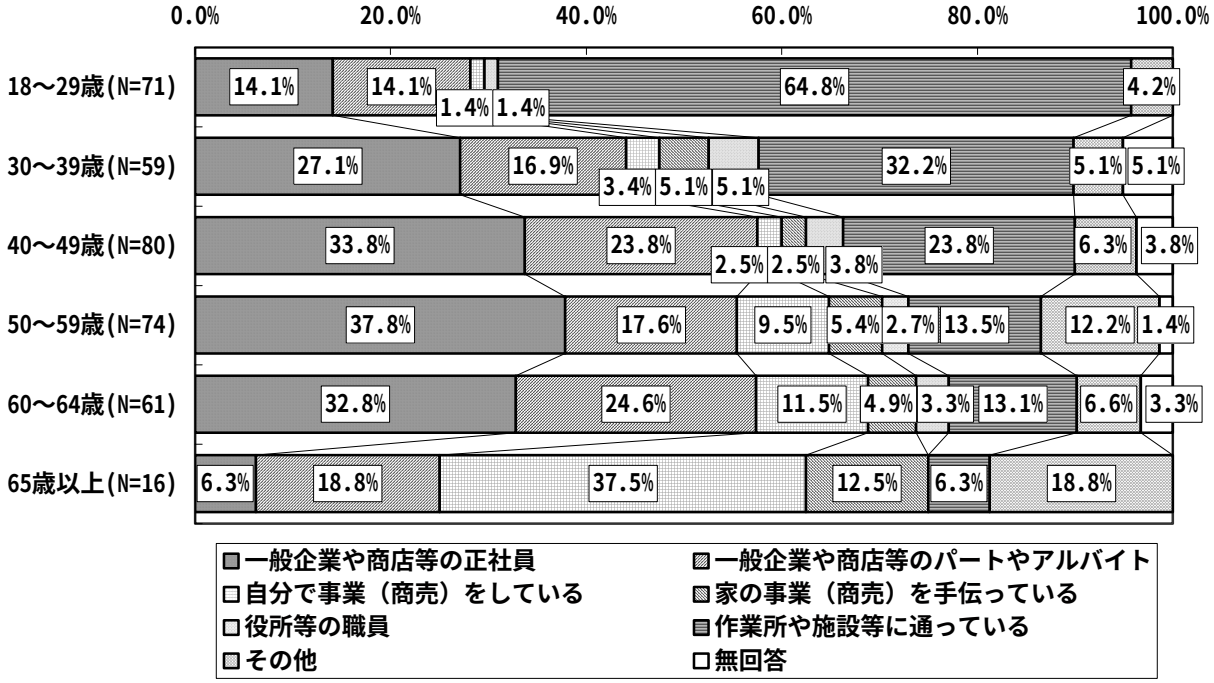
（2）就労・雇用形態

図表　就労・雇用形態



就労している人の就労・雇用形態をみると、「その他」を除き、身体障がいでは「一般企業や商店等の正社員」が35.8%で最も多く、知的障がいと精神障がいでは「作業所や施設等に通っている」が最も多い（知的：68.0%、精神：47.6%）。次いで、いずれの障がい種別でも「一般企業や商店等のパートやアルバイト」（身体：20.2%、知的：15.6%、精神：23.8%）となっている。

図表　就労・雇用形態（年齢別）



年齢別にみると、40歳未満では「作業所や施設等に通っている」が最も多く、18～29歳では60%以上を占めている。また、40～64歳では「一般企業や商店等の正社員」が最も多い。

（3）仕事でいやなことや不安に感じていること

図表　仕事でいやなことや不安に感じていること（複数回答）

		集計母数	能力や働きに応じた賃金がもらえない	希望する勤務日数や勤務時間などの融通を聞いてもらえない	職場・作業環境がバリアフリー化されていない	職場・作業所等へ通うための交通が不便である	自分にあった仕事をさせてもらえない	仕事の仕方を上手に教えてくれる人がいない	職場の人の障がいに対する理解が足りない
障がい種別	全体	367	10.9%	4.1%	6.0%	6.8%	4.1%	3.5%	8.4%
	身体障がい	257	9.3%	3.9%	8.2%	6.6%	3.9%	2.3%	8.9%
	知的障がい	122	10.7%	2.5%	3.3%	6.6%	3.3%	4.1%	4.9%
	精神障がい	42	23.8%	4.8%	4.8%	9.5%	2.4%	7.1%	11.9%
就労形態	一般企業や商店等の正社員	106	11.3%	7.5%	6.6%	6.6%	5.7%	5.7%	12.3%
	一般企業や商店等のパートやアルバイト	71	9.9%	8.5%	5.6%	5.6%	4.2%	4.2%	16.9%
	自分で事業（商売）をしている	25	4.0%	0.0%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	家の事業（商売）を手伝っている	14	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	役所等の職員	11	9.1%	9.1%	18.2%	9.1%	9.1%	0.0%	18.2%
	作業所や施設等に通っている	104	14.4%	0.0%	3.8%	10.6%	4.8%	1.9%	2.9%

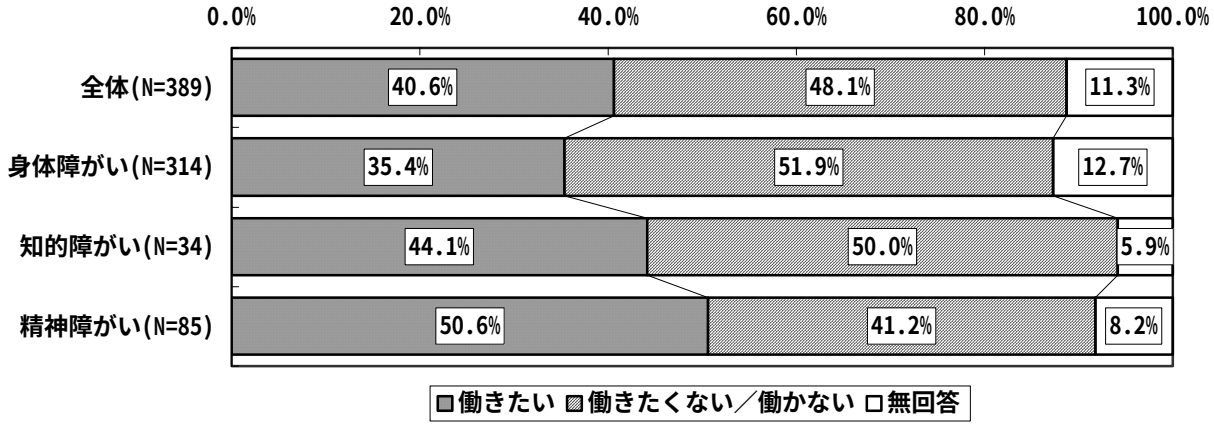
		集計母数	昇進や能力の評価をきちんとしてくれない	人間関係がうまくいかない	いつやめさせられるかわからない	仕事のやりがいが感じられない	その他	いやなこと・不安なことはない
障がい種別	全体	367	6.5%	9.5%	9.5%	7.1%	11.4%	34.3%
	身体障がい	257	7.4%	7.4%	8.9%	6.6%	10.5%	37.7%
	知的障がい	122	1.6%	12.3%	9.0%	5.7%	12.3%	27.9%
	精神障がい	42	19.0%	19.0%	14.3%	16.7%	14.3%	26.2%
就労形態	一般企業や商店等の正社員	106	13.2%	10.4%	7.5%	10.4%	8.5%	45.3%
	一般企業や商店等のパートやアルバイト	71	8.5%	7.0%	28.2%	11.3%	8.5%	22.5%
	自分で事業（商売）をしている	25	0.0%	8.0%	4.0%	0.0%	12.0%	32.0%
	家の事業（商売）を手伝っている	14	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	7.1%	57.1%
	役所等の職員	11	9.1%	27.3%	27.3%	0.0%	9.1%	36.4%
	作業所や施設等に通っている	104	1.0%	8.7%	0.0%	5.8%	14.4%	29.8%

就労している人が仕事でいやなことや不安に感じていることをみると、「その他」「いやなこと・不安なことはない」を除き、身体障がいと精神障がいでは「能力や働きに応じた賃金がもらえない」が最も多く（身体：9.3%、精神：23.8%）、知的障がいでは「人間関係がうまくいかない」が12.3%で最も多い。集計母数がやや少ないものの、精神障がいでは「能力や働きに応じた賃金がもらえない」や「昇進や能力の評価をきちんとしてくれない」「いつやめさせられるかわからない」「仕事のやりがいが感じられない」などは、他の障がい種別に比べて多い。

就労形態別にみると、一般企業や商店等の正社員では「昇進や能力の評価をきちんとしてくれない」、一般企業や商店等のパートやアルバイトでは「いつやめさせられるかわからない」がそれぞれ最も多い。

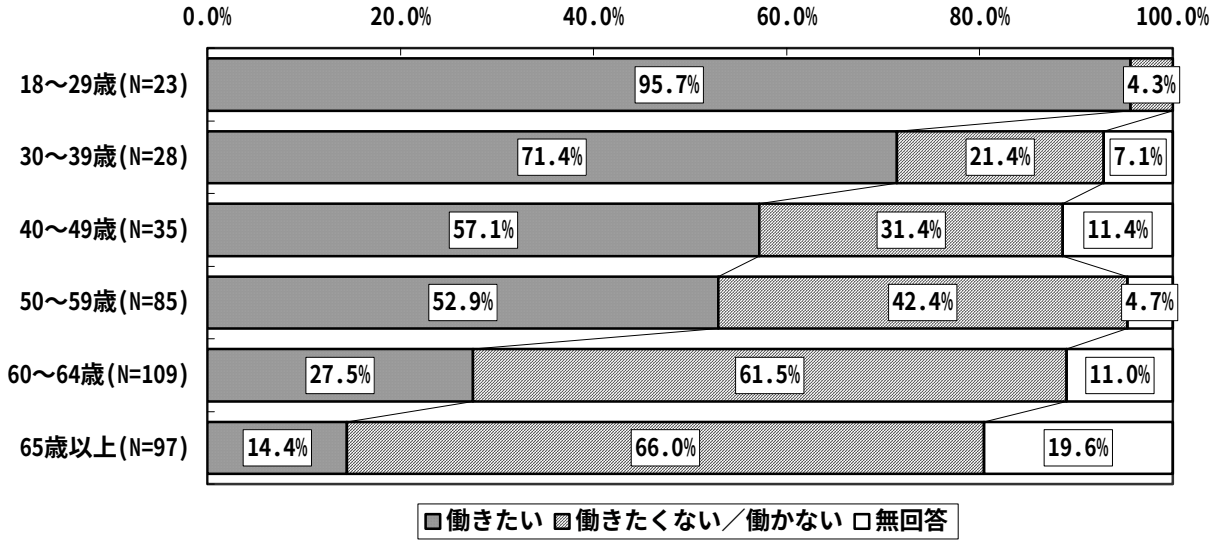
（4）今後の就労意向

図表　現在働いていない人の今後の就労意向



現在就労していない人の今後の就労意向をみると、身体障がいと知的障がいでは「働きたくない」（身体：51.9%、知的：50.0%）が「働きたい」（身体：35.4%、知的：44.1%）を上回っている。精神障がいでは「働きたい」（50.6%）が「働きたくない」（41.2%）を上回っている。

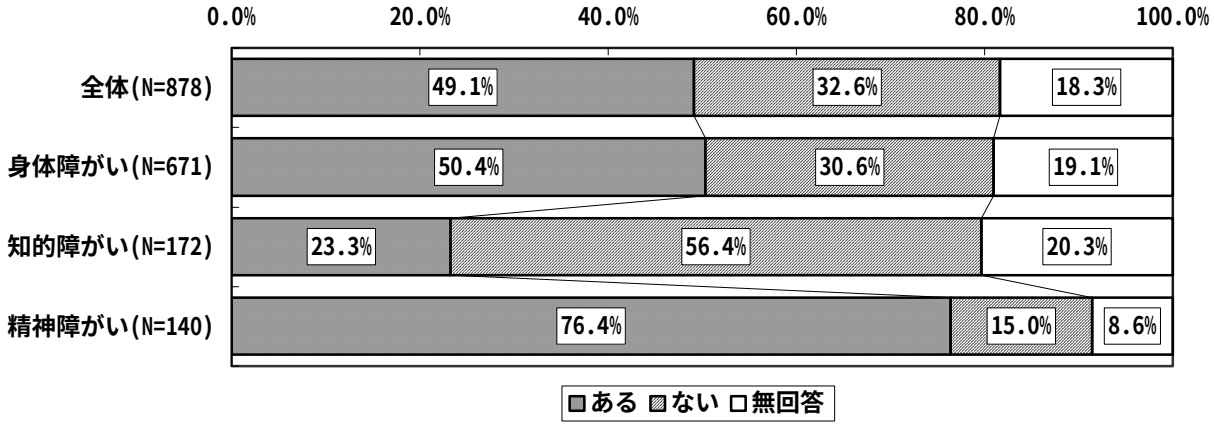
図表　現在働いていない人の今後の就労意向（年齢別）



年齢別にみると、年齢層が低いほど「働きたい」が多い傾向となっており、60歳未満では「働きたい」が半数以上を占め、「働きたくない」を上回っている。

（5）仕事をやめた経験の有無

図表　仕事をやめた経験の有無



仕事をやめた経験の有無をみると、身体障がいと精神障がいでは「ある」（身体：50.4%、精神：76.4%）が「ない」（身体：30.6%、精神：15.0%）を上回っている。知的障がいでは「ない」（56.4%）が「ある」（23.3%）を上回っている。

（6）仕事をやめた理由

図表　仕事をやめた理由（複数回答）

		集計母数	能力や働きに応じた賃金がもらえなかったから	希望する勤務日数や勤務時間などの融通を聞いてもらえなかったから	職場・作業環境のバリアフリー化などの改善がされなかったから	自分にあった仕事をさせてもらえなかったから	仕事の仕方を上手に教えてもらえなかったから	職場の人の態度や言動でいやな思いをしたから	昇進や能力の評価がきちんとされなかったから
障がい種別	全体	431	6.7%	6.7%	1.6%	8.1%	6.0%	20.4%	6.3%
	身体障がい	338	7.7%	6.8%	1.8%	7.1%	4.1%	16.0%	7.1%
	知的障がい	40	5.0%	2.5%	0.0%	20.0%	15.0%	30.0%	5.0%
	精神障がい	107	7.5%	10.3%	0.9%	10.3%	13.1%	32.7%	5.6%

		集計母数	仕事のやりがいが感じられないから	作業所や施設等の利用料を払えなくなったから	仲間ができず、孤独だったから	障がいの程度が重くなったから	病気がちになったから	リストラにあったから	その他
障がい種別	全体	431	10.7%	1.4%	8.4%	26.2%	29.2%	12.5%	27.8%
	身体障がい	338	9.5%	1.2%	6.2%	25.1%	28.1%	11.5%	29.3%
	知的障がい	40	17.5%	2.5%	10.0%	15.0%	20.0%	10.0%	30.0%
	精神障がい	107	14.0%	3.7%	22.4%	38.3%	40.2%	14.0%	15.9%

仕事をやめた経験がある人のやめた理由をみると、身体障がいと精神障がいでは「病気がちになったから」が最も多く（身体：28.1%、精神：40.2%）、知的障がいでは「職場の人の態度や言動でいやな思いをしたから」が30.0%で最も多い。

「自分にあった仕事をさせてもらえなかったから」や「仕事の仕方を上手に教えてもらえなかったから」「仕事のやりがいが感じられなかったから」「仲間ができず、孤独だったから」は、知的障がいと精神障がいでは10～20%台で、身体障害の10%未満に比べてやや多い。また、「職場の人の態度や言動でいやな思いをしたから」は、知的障がいと精神障がいでは身体障がいの16.0%の約２倍ある。

（７）障がい者に対する就労支援の認知度

図表　障がい者に対する就労支援の認知度（複数回答）

		集計母数	障がい者を短期間試しに雇い入れるトライアル雇用制度	障がい者が職場や仕事に慣れるのを助けるジョブコーチ、ジョブライフサポーターを派遣する制度	すいた障害者就業・生活支援センターによる企業開拓や職場への定着支援	作業所や施設等の授産製品の販売所	大阪府が実施する職業訓練等の講座	ハローワーク	JOBカフェすいた、JOBナビすいた	知っているものはない
障がい種別	全体	878	6.4%	6.7%	7.9%	20.4%	11.8%	43.6%	9.0%	28.9%
	身体障がい	671	5.7%	4.8%	6.4%	18.6%	12.7%	45.3%	8.8%	28.5%
	知的障がい	172	6.4%	13.4%	14.0%	26.2%	8.7%	29.7%	5.8%	33.1%
	精神障がい	140	7.1%	10.7%	9.3%	17.1%	10.7%	37.9%	14.3%	36.4%
就労状況	働いている	367	9.3%	11.2%	11.2%	23.2%	12.0%	51.2%	12.3%	28.9%
	働いていない	389	4.9%	4.1%	6.7%	21.9%	13.9%	44.2%	8.2%	31.1%
今後の就労意向	働きたい	158	7.0%	5.1%	8.2%	22.2%	20.9%	55.7%	13.3%	27.8%
	働きたくない／働かない	187	2.7%	2.7%	5.3%	20.9%	9.1%	38.0%	4.3%	35.3%

障がい者に対する就労支援の認知度をみると、「知っているものはない」を除き、障がい種別に関係なく「ハローワーク」が最も多く（身体：45.3%、知的：29.7%、精神：37.9%）、次いで、「作業所や施設等の授産製品の販売所」となっている（身体：18.6%、知的：26.2%、精神：17.1%）。

就労状況別にみると、「大阪府が実施する職業訓練等の講座」と「知っているものはない」以外は、働いている人が働いていない人に比べて各項目の認知度が高い。

今後の就労意向別にみると、「知っているものはない」以外の項目は働きたい人の認知度が働きたくない／働かない人の認知度に比べて高い。ただ、働きたい人では「障がい者を短期間試しに雇い入れるトライアル雇用制度」や「障がい者が職場や仕事に慣れるのを助けるジョブコーチ、ジョブライフサポーターを派遣する制度」「すいた障害者就業・生活支援センターによる企業開拓や職場への定着支援」は10%未満と他の項目に比べて認知度が低い。

（８）障がい者が働くために必要な環境や支援

図表　障がい者が働くために必要な環境や支援（複数回答）

		集計母数	能力や働きに応じた賃金や身分が守られるようにする	希望する就労形態を可能な限り事業所が受け入れる	職場・作業環境をバリアフリー化するなど改善を図る	職場へ通うための便利な交通手段を確保する	仕事に就くための勉強や訓練を受けられる施設を増やす	仕事や社会生活に慣れる訓練を一般企業や役所等で受け入れる	障がい者と職場との調整や訓練の指導をする人を配置する
障がい種別	全体	878	40.5%	25.3%	24.1%	24.5%	25.9%	19.9%	22.2%
	身体障がい	671	38.6%	23.1%	26.8%	26.1%	24.4%	17.0%	18.5%
	知的障がい	172	39.0%	23.8%	18.0%	17.4%	27.9%	25.6%	32.6%
	精神障がい	140	40.7%	31.4%	14.3%	22.1%	27.9%	22.9%	23.6%

		集計母数	自分にあった仕事が見つけやすい相談・あっせん窓口を充実させる	職場での差別や偏見をなくすための指導・啓発を強化する	法定雇用率や障がい者雇用に関する助成制度を事業所に周知する	同じような障がいのある仲間といっしょに働ける場を増やす	障がい者が従事できる職種、分野の開拓を事業所内で進める	その他
障がい種別	全体	878	38.3%	23.5%	21.2%	23.9%	30.6%	4.2%
	身体障がい	671	37.7%	21.3%	21.3%	20.1%	29.8%	4.2%
	知的障がい	172	31.4%	23.3%	16.9%	37.2%	27.3%	5.8%
	精神障がい	140	44.3%	30.7%	21.4%	37.1%	32.1%	4.3%

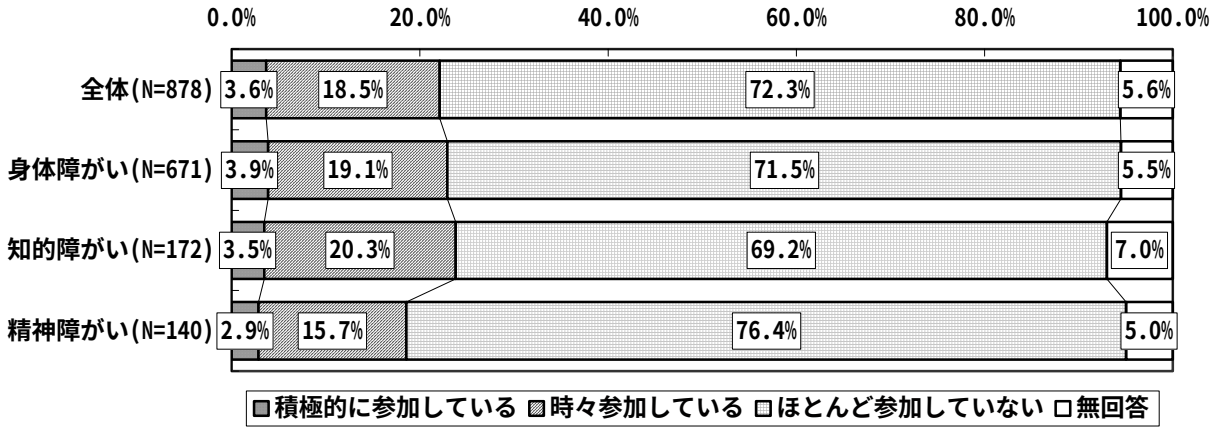
障がい者が働くために必要な環境や支援をみると、身体障がいと知的障がいでは「能力や働きに応じた賃金や身分が守られるようにする」が最も多く（身体：38.6%、知的：39.0%）、精神障がいでは「自分にあった仕事が見つけやすい相談・あっせん窓口を充実させる」が44.3%で最も多い。

「希望する就労形態を可能な限り事業所が受け入れる」や「職場での差別や偏見をなくすための指導・啓発を強化する」は、精神障がい者では30%を超えており、身体障がいと知的障がいが20%台であるのに比べてやや多い。また、「仕事や社会生活に慣れる訓練を一般企業や役所等が受け入れる」や「同じような障がいのある仲間といっしょに働ける場を増やす」は、知的障がいと精神障がいが身体障がいに比べて多い。

4　地域との関わりについて

（1）地域での活動や行事への参加状況

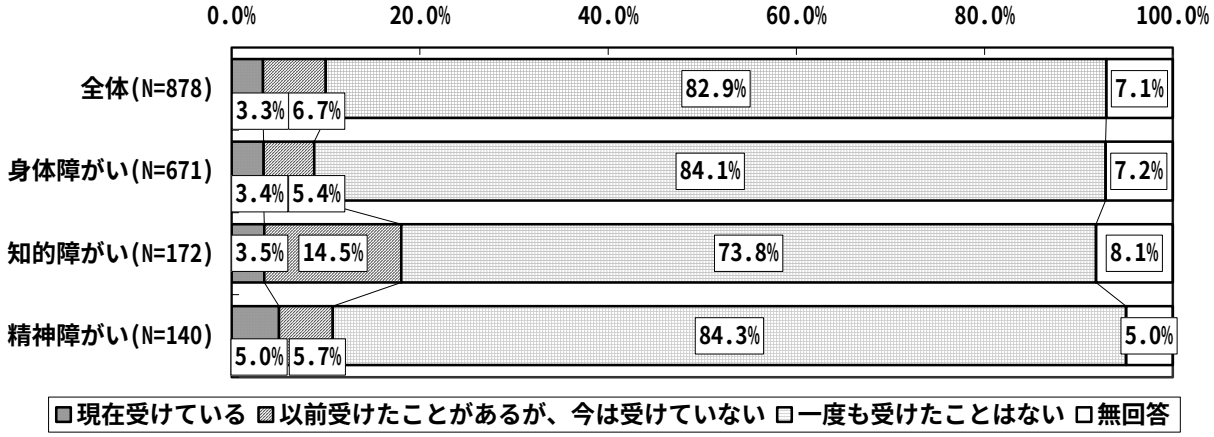
図表　地域での活動や行事への参加状況



地域での活動や行事への参加状況をみると、障がい種別に関係なく「ほとんど参加していない」が最も多い（身体：71.5%、知的：69.2%、精神：76.4%）。

（2）近所の人やボランティアによる支援の経験の有無

図表　近所の人やボランティアによる支援の経験の有無



近所の人やボランティアによる支援の経験の有無をみると、障がい種別に関係なく「一度も受けたことはない」が最も多く（身体：84.1%、知的：73.8%、精神：84.3%）、身体障がいと精神障がいでは80%以上を占めている。「現在受けている」は障がい種別間での大差はないが、「以前受けたことがあるが、今は受けていない」は知的障がいでは14.5%と身体障がいと精神障がいに比べて10ポイント近く多い。

（３）地域福祉の担い手の認知度

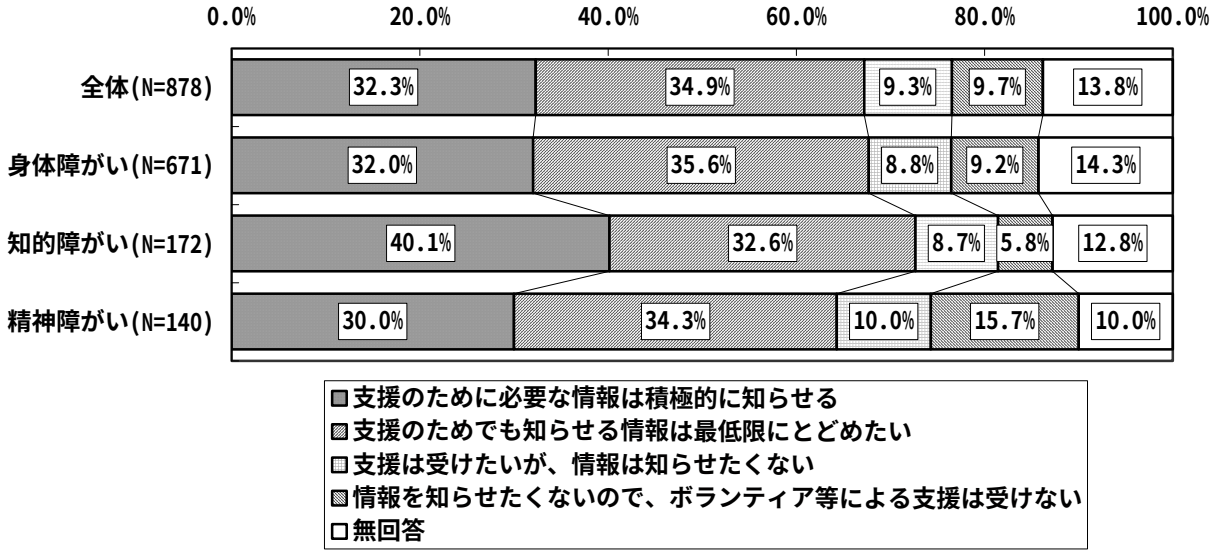
図表　地域福祉の担い手の認知度（複数回答）

		集計母数	民生委員・児童委員	社会福祉協議会の地区福祉委員	自治会	社会福祉協議会のボランティア団体	住民や学生等によるボランティア団体	その他
障がい種別	全体	878	58.2%	22.1%	33.1%	17.1%	11.0%	3.4%
	身体障がい	671	61.8%	23.8%	35.5%	17.7%	11.3%	2.8%
	知的障がい	172	46.5%	16.9%	21.5%	12.8%	12.8%	5.8%
	精神障がい	140	47.1%	15.7%	26.4%	13.6%	7.1%	6.4%

地域福祉の担い手の認知度をみると、障がい種別に関係なく「民生委員・児童委員」が最も多く（身体：61.8%、知的：46.5%、精神：47.1%）、次いで、「自治会」となっている（身体：35.5%、知的：21.5%、精神：26.4%）。

（４）支援のために必要な情報のボランティア等への提供に関する意識

図表　支援のために必要な情報のボランティア等への提供に関する意識



支援のために必要な情報のボランティア等への提供に関する意識をみると、身体障がいと精神障がいでは「支援のためでも知らせる情報は最低限にとどめたい」が最も多く（身体：35.6%、精神：34.3%）、知的障がいでは「支援のために必要な情報は積極的に知らせる」が40.1%で最も多い。

（5）ボランティア等に支援してほしいこと

図表　ボランティア等に支援してほしいこと（複数回答）

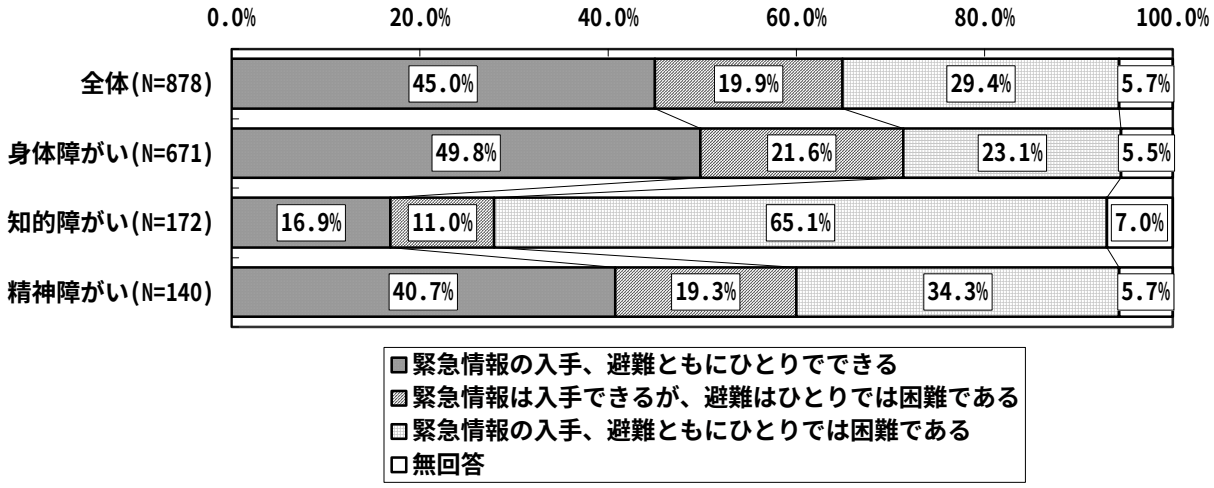
		集計母数	他人との意思疎通の手助けをする	外出の際の付き添いをする	趣味やレクリエーションの活動をする	障がい者同士、同じ障がいのある仲間同士で集まれる場を設ける	障がいのある人とない人とが交流できる場を設ける	日常の相談に応じる	自宅での家事や食事、入浴の手助けをする	家族が急用などで介護できないときの見守りをする	授産製品の販売活動などを助けてくれる	その他	ボランティア等による支援は受けたくない
障がい種別	全体	878	10.3%	19.9%	14.5%	15.6%	13.9%	21.5%	12.2%	22.9%	2.3%	6.5%	17.4%
	身体障がい	671	8.8%	17.1%	12.1%	15.4%	13.7%	20.4%	11.0%	21.9%	1.9%	7.7%	18.0%
	知的障がい	172	14.0%	39.0%	26.2%	15.1%	16.9%	15.7%	15.1%	38.4%	2.9%	4.1%	8.7%
	精神障がい	140	17.1%	16.4%	17.1%	22.1%	20.0%	36.4%	18.6%	17.1%	2.1%	2.1%	20.0%

ボランティア等に支援してほしいことをみると、身体障がいでは「家族が急用などで介護できないときの見守りをする」が21.9%、知的障がいでは「外出の際の付き添いをする」が39.0%、精神障がいでは「日常の相談に応じる」が36.4%でそれぞれ最も多い。

5　災害など緊急時の対応について

（1）災害発生時の緊急情報入手・避難能力

図表　災害発生時の緊急情報入手・避難能力



災害発生時の緊急情報入手・避難能力をみると、身体障がいと精神障がいでは「緊急情報の入手、避難ともにひとりでできる」が最も多く（身体：49.8%、精神：40.7%）、知的障がいでは「緊急情報の入手、避難ともにひとりでは困難である」が65.1%で最も多い。

（2）災害発生時に困ること

図表　災害発生時に困ること（複数回答）

		集計母数	どこで、どんな災害が起こったのかを知ることができない	助けを求めるための手段がない	助けを求めても、すぐに助けに来てくれる人がいない	避難するために手助けしてくれる人が必要である	避難場所等で周りの人との意思疎通がうまくできない	避難場所で必要な介護を受けられない	必要な薬が手に入らなかったり、治療を受けられなかったりする
障がい種別	全体	878	22.7%	16.1%	17.1%	32.5%	19.1%	13.1%	30.8%
	身体障がい	671	17.9%	13.0%	14.8%	29.7%	12.4%	12.4%	30.6%
	知的障がい	172	51.7%	31.4%	20.9%	54.1%	50.0%	25.6%	23.8%
	精神障がい	140	24.3%	25.0%	27.1%	30.0%	30.7%	7.9%	41.4%

		集計母数	医療的ケアを受けられなくなる	補装具や日常生活用具を使えなくなる	避難場所が障がい者に配慮されていない	ふだんと違う状況に、不安になったり混乱したりする	その他	特に困ることはない
障がい種別	全体	878	18.8%	10.4%	24.9%	38.6%	3.3%	15.1%
	身体障がい	671	19.7%	12.5%	24.0%	30.1%	3.4%	17.9%
	知的障がい	172	11.0%	5.2%	32.6%	64.0%	3.5%	4.1%
	精神障がい	140	24.3%	5.7%	20.7%	60.7%	2.9%	9.3%

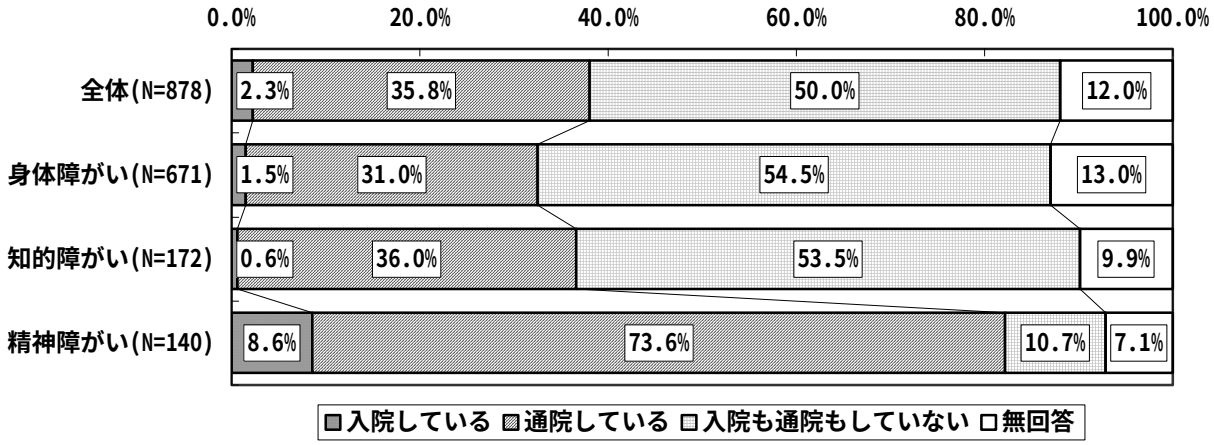
災害発生時に困ることをみると、身体障がいでは「必要な薬が手に入らなかったり、治療を受けられなかったりする」が30.6%で最も多く、知的障がいと精神障がいでは「ふだんと違う状況に、不安になったり混乱したりする」が最も多い（知的：64.0%、精神：60.7%）。

「どこで、どんな災害が起こったのかを知ることができない」や「避難するために手助けしてくれる人が必要である」「避難場所等で周りの人との意思疎通がうまくできない」は、知的障がいでは50%以上となっており、他の障がい種別に比べて多い。

6　医療の受診、医療的な支援について

（1）精神科病院への入院・通院状況

図表　精神科病院への入院・通院状況



精神科病院への入院・通院状況をみると、身体障がいと知的障がいでは「入院も通院もしていない」が最も多い（身体：54.5%、知的：53.5%）。精神障がいでは「通院している」が73.6%、「入院している」が8.6%となっており、「現在は入院も通院もしていない」は10.7%となっている。

（2）精神科病院を退院する際に必要と思うサービス

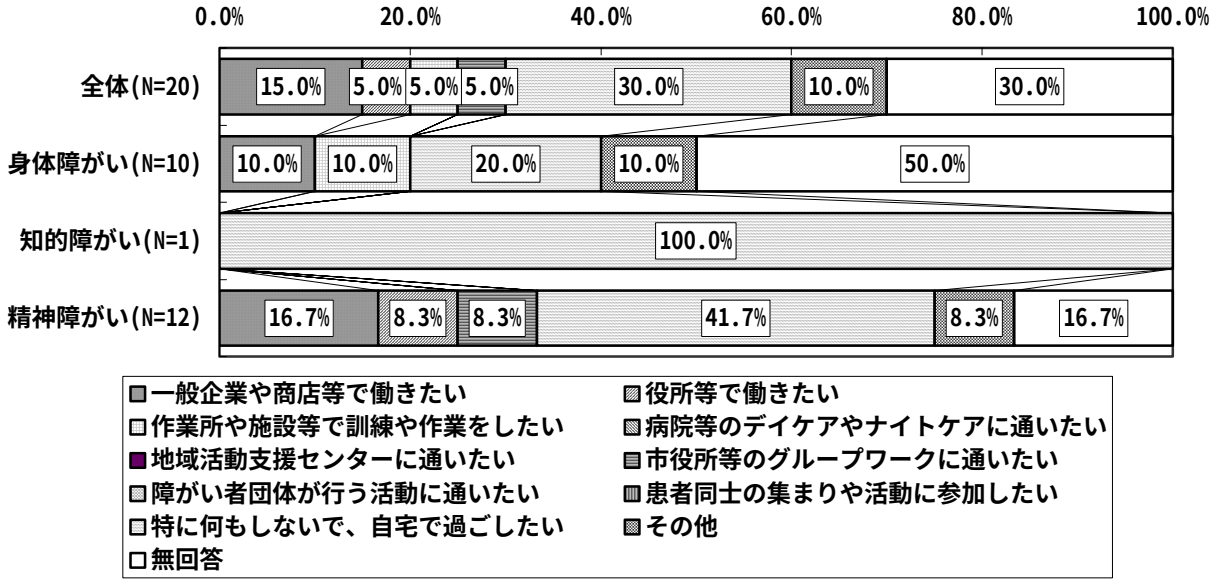
図表　精神科病院を退院する際に必要と思うサービス（複数回答）

		集計母数	自宅で身の回りの世話や介護をしてくれるサービス	生活に必要な外出や社会参加のための外出を支援してくれるサービス	自宅に看護師等が訪問し、薬や病気のこと、生活の相談にのってくれるサービス	創作的活動や生産活動に参加できるサービス	身近で生活や障がい福祉サービス等の相談ができるサービス	働くために必要な訓練と仕事に慣れる訓練が受けられるサービス	職場との連絡・調整や仕事の指導をしてくれる人がいてくれるサービス	入院している間から地域で生活するための練習ができるサービス	地域で生活する練習ができるグループホーム等の施設	サービスの契約やお金の管理に関する支援をしてくれるサービス	入院中から退院後の生活や仕事のことなどを継続して相談できるサービス	その他
障がい種別	全体	20	15.0%	15.0%	20.0%	15.0%	25.0%	15.0%	20.0%	20.0%	20.0%	15.0%	40.0%	10.0%
	身体障がい	10	30.0%	0.0%	20.0%	0.0%	30.0%	10.0%	20.0%	10.0%	0.0%	10.0%	20.0%	10.0%
	知的障がい	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	精神障がい	12	8.3%	25.0%	16.7%	25.0%	25.0%	16.7%	16.7%	25.0%	33.3%	25.0%	50.0%	8.3%

精神科病院に入院中の人が退院する際に必要と思うサービスをみると、集計母数が少ない知的障がいを除いて、身体障がいでは「自宅で身の回りの世話や介護をしてくれるサービス」と「身近で生活や障がい福祉サービス等の相談ができるサービス」がともに30.0%（３人）、精神障がいでは「入院中から退院後の生活や仕事のことなどを継続して相談できるサービス」が50.0%（６人）でそれぞれ最も多い。

（３）精神科病院退院後の生活の意向

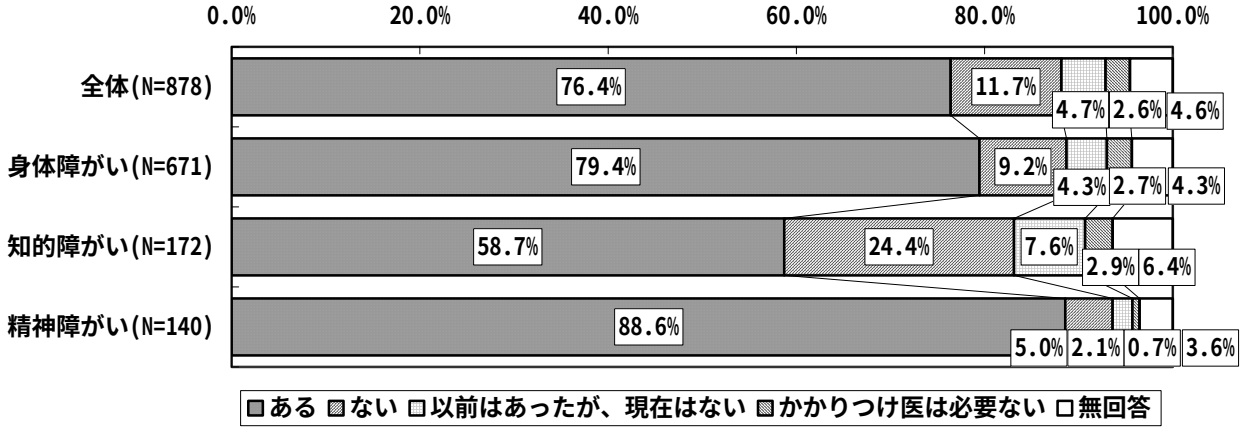
図表　精神科病院退院後の生活の意向



精神科病院に入院中の人の退院後の生活の意向をみると、集計母数が少ない知的障がいを除いて、身体障がい・精神障がいともに「特に何もせずに自宅で過ごしたい」が最も多い（身体：20.0%（２人）、精神：41.7%（５人））が、これに次いで、精神障がいでは「一般企業や商店等で働きたい」が16.7%（２人）となっている。

（４）かかりつけ医の有無

図表　かかりつけ医の有無

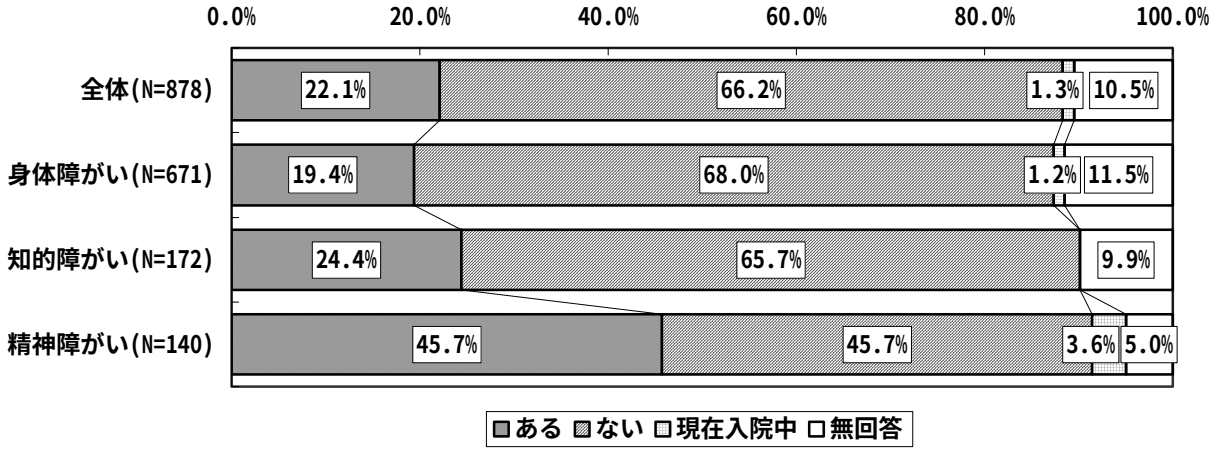


かかりつけ医の有無をみると、障がい種別に関係なく「ある」（身体：79.4%、知的：58.7%、精神：88.6%）が「ない」（身体：9.2%、知的：24.4%、精神：5.0%）を上回っている。

過去・現在を問わず、かかりつけ医がないのは知的障がいが32.0%で最も多い。

（5）夜間や休日に医師の診察を受ける必要が生じた経験

図表　夜間や休日に医師の診察を受ける必要が生じた経験



夜間や休日に医師の診察を受ける必要が生じた経験をみると、身体障がいと知的障がいでは「ない」（身体：68.0%、知的：65.7%）が「ある」（身体：19.4%、知的：24.4%）を上回っているが、精神障がいでは「ある」と「ない」がともに45.7%で同率となっている。

（6）夜間や休日に医師の診察を受ける必要が生じたときの対応

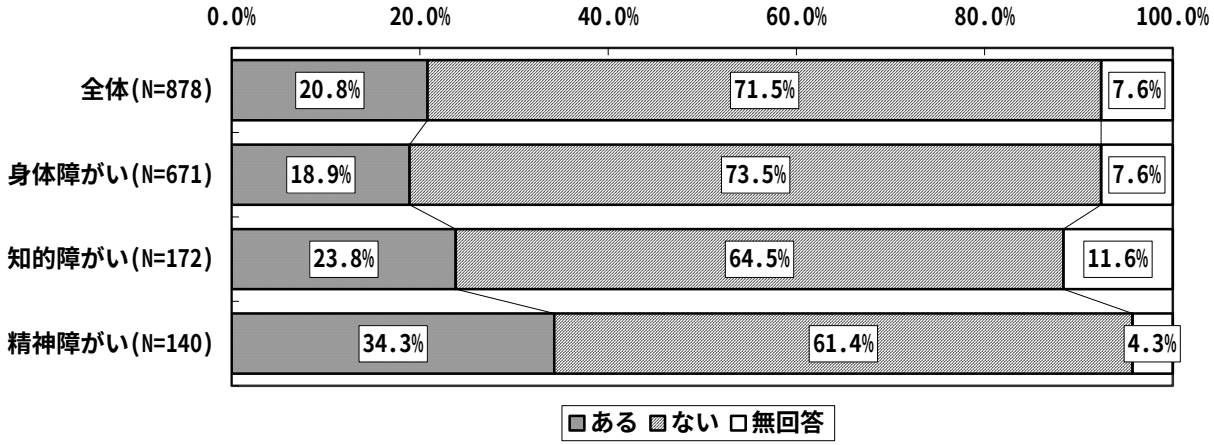
図表　夜間や休日に医師の診察を受ける必要が生じたときの対応（複数回答）

		集計母数	かかりつけの病院やクリニックですぐにみてもらえた	かかりつけ以外の病院やクリニックですぐにみてもらえた	とん服薬を服用して我慢した	かかりつけの病院やクリニックが開くまで何もせずに我慢した	電話相談機関に電話をした	家族や友人に相談をした	その他
障がい種別	全体	194	41.2%	17.5%	24.7%	15.5%	3.1%	22.7%	12.4%
	身体障がい	130	51.5%	21.5%	11.5%	13.8%	2.3%	22.3%	9.2%
	知的障がい	42	47.6%	19.0%	16.7%	7.1%	0.0%	9.5%	11.9%
	精神障がい	64	18.8%	17.2%	50.0%	20.3%	6.3%	31.3%	14.1%

夜間や休日に医師の診察を受ける必要が生じたときの対応をみると、身体障がいと知的障がいでは「かかりつけの病院やクリニックですぐにみてもらえた」が最も多く（身体：51.5%、知的：47.6%）、精神障がいでは「とん服薬を服用して我慢した」が50.0%で最も多い。

（７）障がい以外のけがや病気の際に、病院などで不適切な対応を受けた経験の有無

図表　障がい以外のけがや病気の際に、病院などで不適切な対応を受けた経験の有無の有無



障がい以外のけがや病気の際に、病院などで不適切な対応を受けた経験の有無をみると、障がい種別に関係なく「ない」（身体：73.5%、知的：64.5%、精神：61.4%）が「ある」（身体：18.9%、知的：23.8%、精神：34.3%）を上回っているが、経験が「ある」人は精神障がいで最も多い。

（８）病院などで経験した不適切な対応等

図表　病院などで経験した不適切な対応等（複数回答）

		集計母数	医師の態度や言動でいやな思いをした	看護師や受付の人の態度や言動でいやな思いをした	診療を拒否された	入院できなかったり、すぐに退院させられたりした	障がいがあることで、通常受けられる医療や検査を受けられなかった	障がいがあることで、付き添いなど特別な対応を求められた	医師や看護師などが障がい者への対応に慣れていなかった	待合室等での他の患者の態度や言動でいやな思いをした
障がい種別	全体	183	59.6%	49.2%	14.8%	8.2%	3.8%	10.4%	27.3%	17.5%
	身体障がい	127	59.1%	49.6%	15.7%	8.7%	3.1%	12.6%	23.6%	12.6%
	知的障がい	41	53.7%	34.1%	14.6%	4.9%	9.8%	14.6%	39.0%	29.3%
	精神障がい	48	58.3%	52.1%	20.8%	14.6%	6.3%	16.7%	22.9%	18.8%

病院などで経験した不適切な対応等をみると、障がい種別に関係なく「医師の態度や言動でいやな思いをした」が最も多く（身体：59.1%、知的：53.7%、精神：58.3%）、次いで、身体障がいと精神障がいでは「看護師や受付の人の態度や言動でいやな思いをした」（身体：49.6%、精神：52.1%）、知的障がいでは「医師や看護師などが障がい者への対応に慣れていなかった」が39.0%となっている。

「診療を拒否された」や「入院できなかったり、すぐに退院させられたりした」は、精神障がいが他の障がい種別に比べて多い。同様に、「医師や看護師などが障がい者への対応に慣れていなかった」や「待合室等での他の患者の態度や言動でいやな思いをした」は、知的障がいが他の障がい種別に比べて多い。

（9）必要としている医療的ケア

図表　必要としている医療的ケア（複数回答）

		集計母数	膀胱留置カテーテル	導尿	摘便	人工肛門の造設	胃ろう	経管栄養	人工呼吸器の装着	気管切開
障がい種別	全体	878	0.9%	1.6%	2.7%	1.5%	1.5%	1.5%	0.6%	1.5%
	身体障がい	671	1.2%	1.9%	3.3%	1.9%	1.5%	1.8%	0.7%	1.8%
	知的障がい	172	0.0%	1.2%	2.9%	0.0%	1.2%	1.7%	0.0%	1.7%
	精神障がい	140	0.7%	0.7%	2.9%	0.0%	1.4%	0.7%	0.7%	0.7%
年齢	18～29歳	97	1.0%	1.0%	3.1%	1.0%	2.1%	3.1%	1.0%	3.1%
	30～39歳	93	2.2%	1.1%	4.3%	1.1%	1.1%	3.2%	1.1%	2.2%
	40～49歳	131	0.0%	1.5%	0.0%	0.8%	0.8%	1.5%	0.0%	1.5%
	50～59歳	175	0.0%	2.3%	1.7%	1.7%	1.7%	0.6%	0.6%	0.6%
	60～64歳	203	1.0%	1.5%	5.4%	0.5%	2.0%	1.0%	0.5%	1.5%
	65歳以上	155	1.9%	1.3%	1.9%	3.9%	0.0%	0.6%	0.6%	0.6%

		集計母数	気管内・口腔内吸引	在宅酸素療法	じょく瘡（床ずれ）の処置	インシュリン注射	経中心静脈栄養（IVH、CV等）	その他	特に必要ない
障がい種別	全体	878	2.7%	0.9%	2.5%	3.6%	0.8%	10.7%	60.7%
	身体障がい	671	3.1%	1.0%	3.3%	4.5%	1.0%	11.9%	58.4%
	知的障がい	172	3.5%	1.2%	1.7%	0.6%	0.0%	4.7%	69.2%
	精神障がい	140	2.9%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	12.1%	59.3%
年齢	18～29歳	97	5.2%	2.1%	2.1%	1.0%	1.0%	8.2%	78.4%
	30～39歳	93	2.2%	0.0%	1.1%	3.2%	1.1%	8.6%	62.4%
	40～49歳	131	2.3%	0.8%	1.5%	1.5%	0.0%	9.9%	68.7%
	50～59歳	175	2.3%	0.0%	1.7%	3.4%	0.0%	14.3%	58.3%
	60～64歳	203	2.5%	0.0%	2.5%	3.9%	1.5%	9.9%	62.1%
	65歳以上	155	2.6%	3.2%	5.2%	7.7%	1.3%	11.6%	43.9%

必要としている医療的ケアをみると、「その他」と「医療的ケアは必要ない」を除き、身体障がいでは「インシュリン注射」が4.5%、知的障がいでは「気管内・口腔内吸引」が3.5%で最も多い。精神障がいでは「摘便」「気管内・口腔内吸引」「インシュリン注射」がともに2.9%で最も多い。

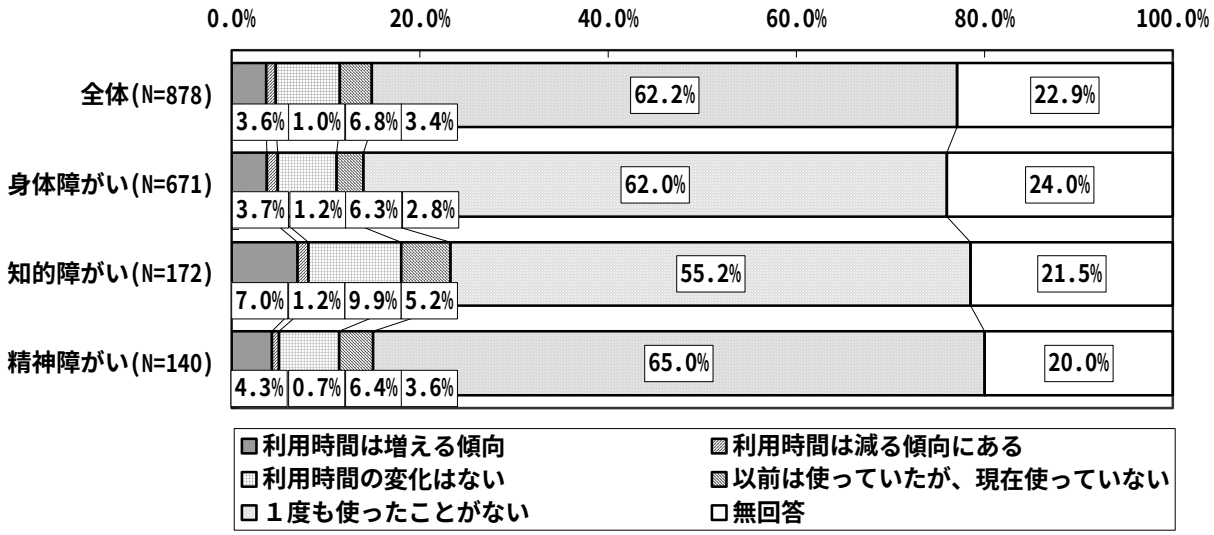
年齢別にみると、18～29歳と40～49歳では「気管内・口腔内吸引」、30～39歳と60～64歳では「摘便」、50～59歳と65歳以上歳では「インシュリン注射」がそれぞれ最も多い。

7　障害者自立支援法に関するサービスについて

（1）障害者自立支援法で定められているサービスの利用状況

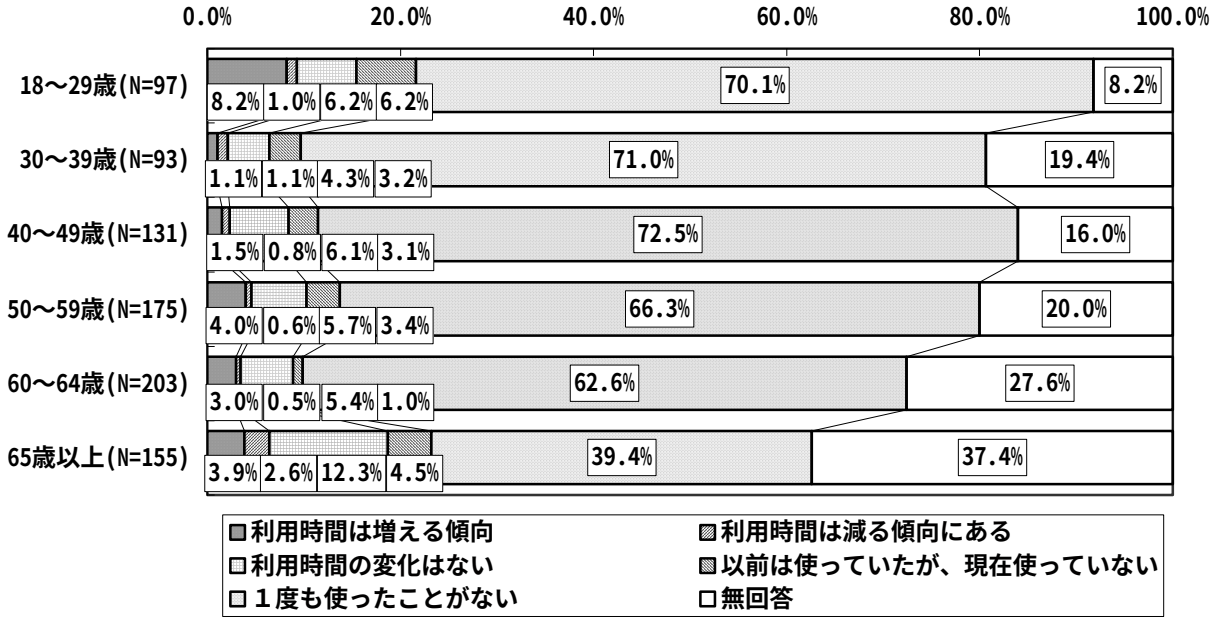
ア　訪問系サービス

図表　訪問系サービス



訪問系サービスの利用状況をみると、利用時間の長短に関係なく、現在利用している人は知的障がいで18.1%と最も多い。

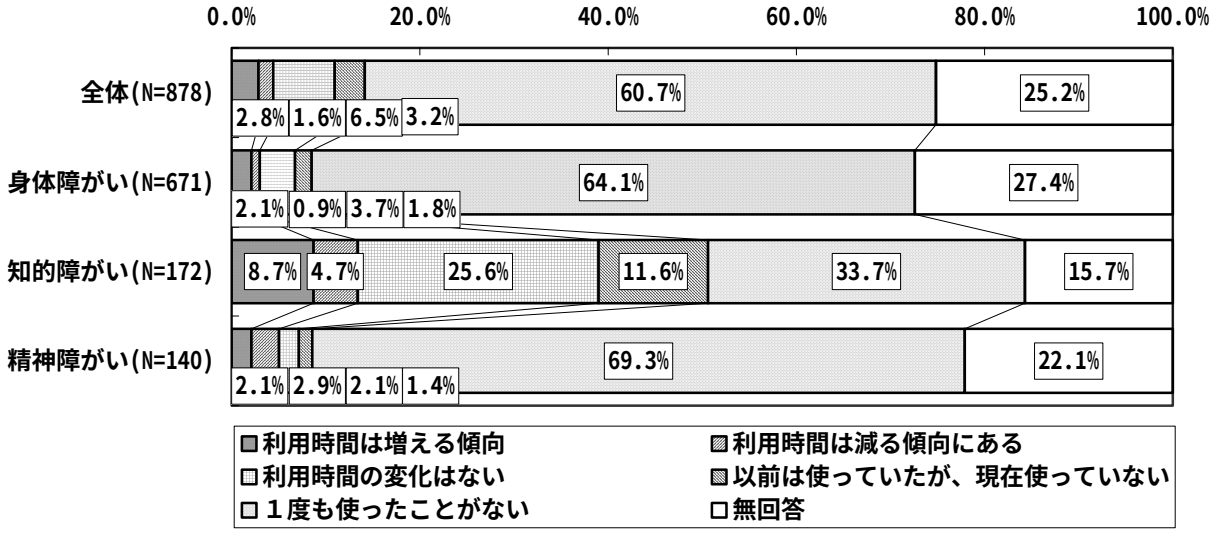
図表　訪問系サービス（年齢別）



年齢別にみると、「利用時間は増える傾向」は18～29歳が8.2%で最も多い。

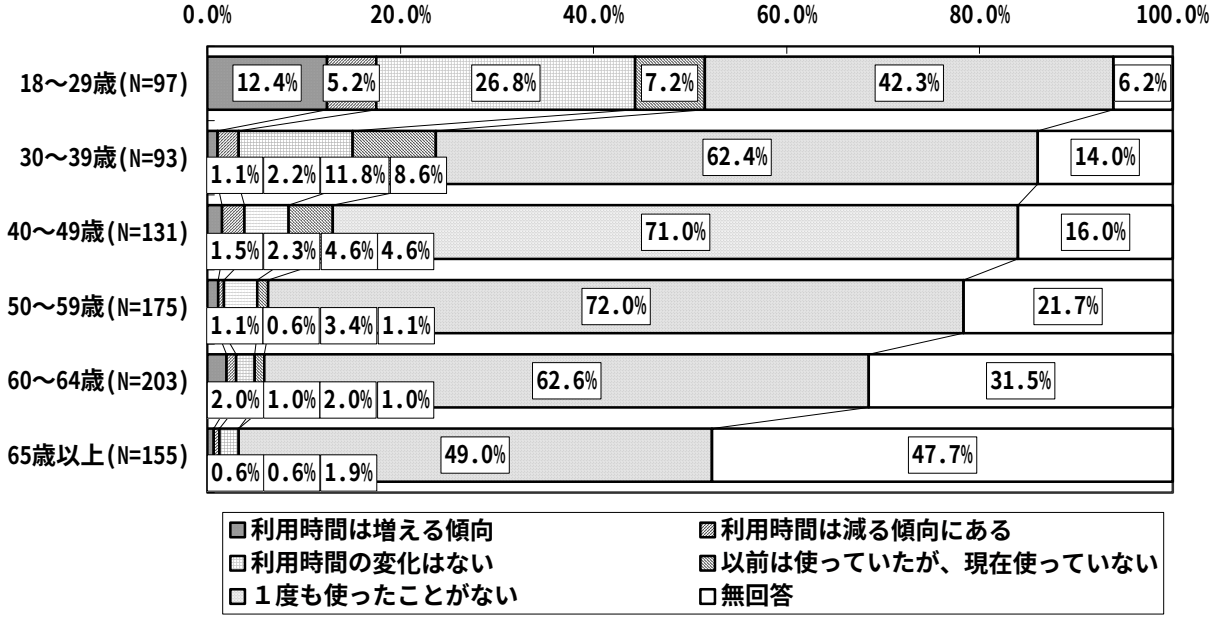
イ　ガイドヘルプサービス

図表　ガイドヘルプサービス



ガイドヘルプサービスの利用状況をみると、利用時間の長短に関係なく、現在利用している人は知的障がいが39.0%で最も多い。

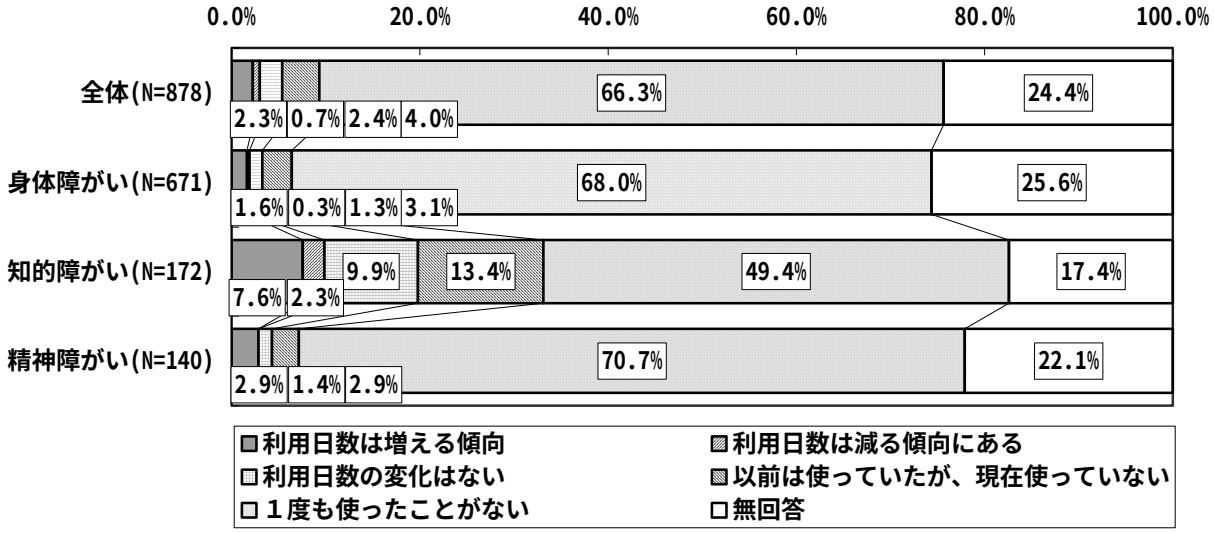
図表　ガイドヘルプサービス（年齢別）



年齢別にみると、利用時間の長短に関係なく、現在利用している人は年齢層が低いほど多い傾向となっている。

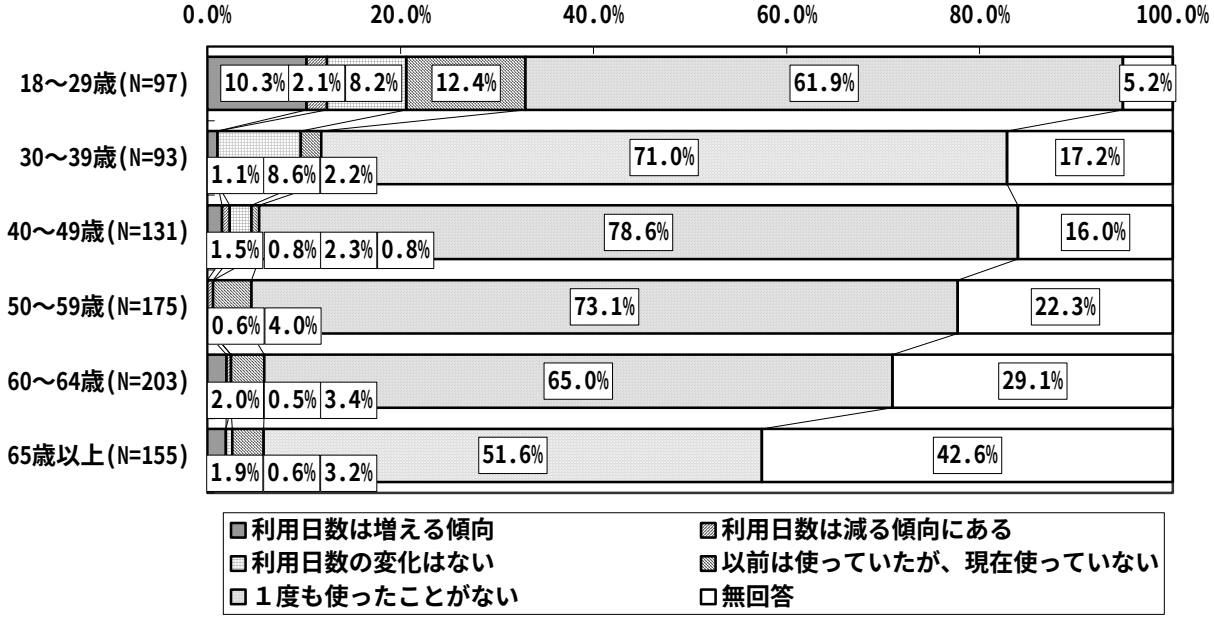
ウ　ショートステイ（短期入所）

図表　ショートステイ



ショートステイ（短期入所）の利用状況をみると、利用日数の多少に関係なく、現在利用している人は知的障がいが19.8%で最も多い。

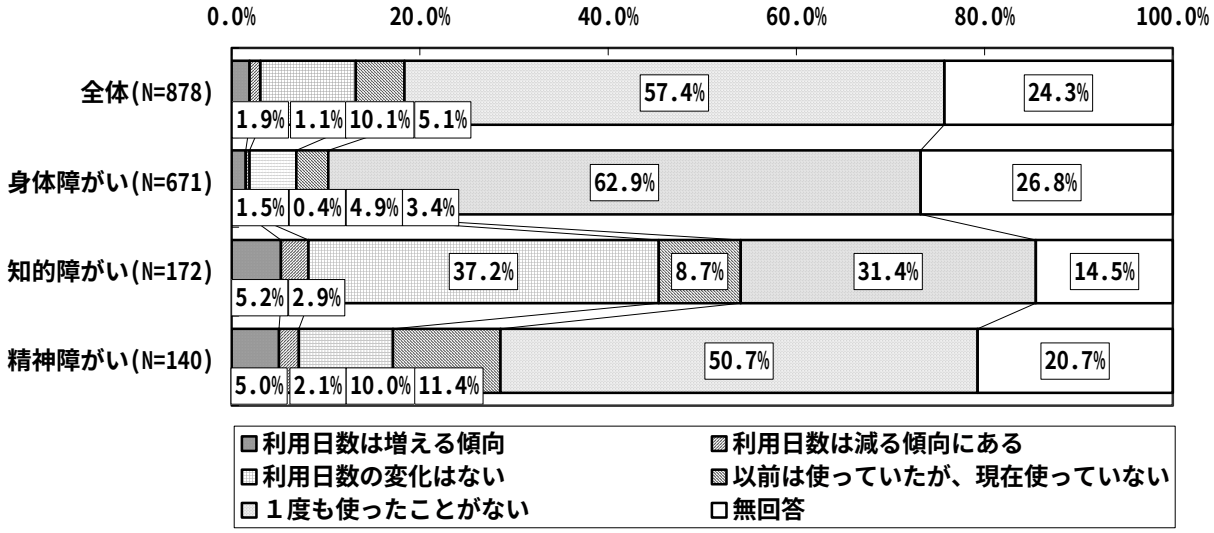
図表　ショートステイ（年齢別）



年齢別にみると、「利用時間は増える傾向」は18～29歳が10.3%で最も多い。

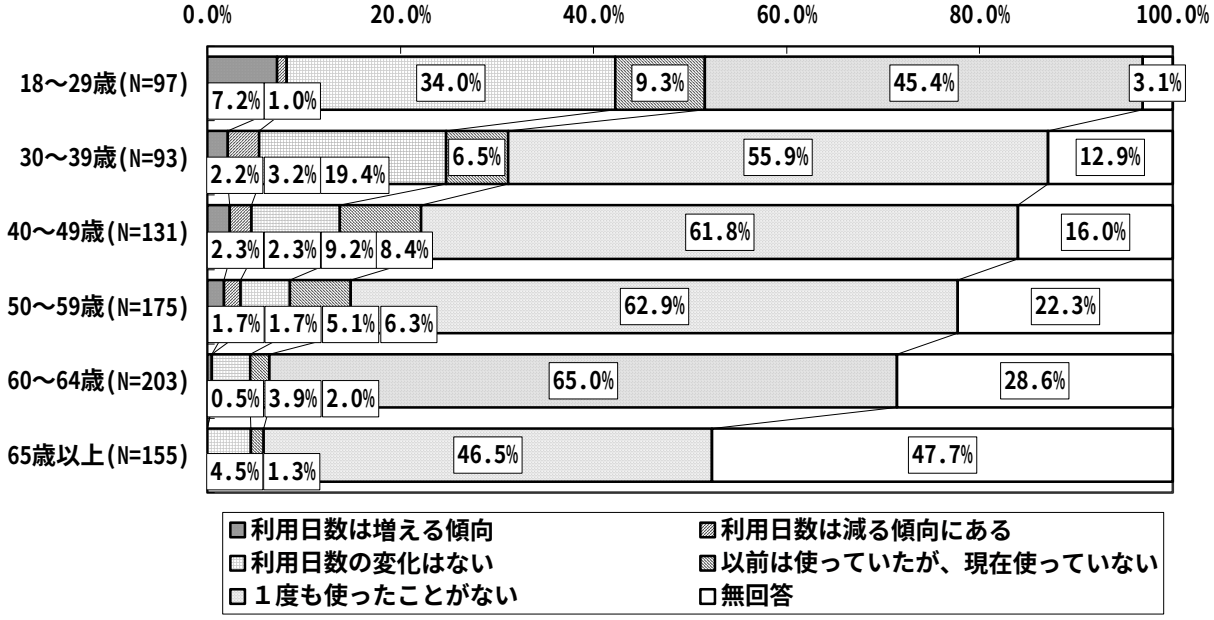
エ　通所系サービス

図表　通所系サービス



通所系サービスの利用状況をみると、利用日数の多少に関係なく、現在利用している人は知的障がいが45.3%で最も多い。

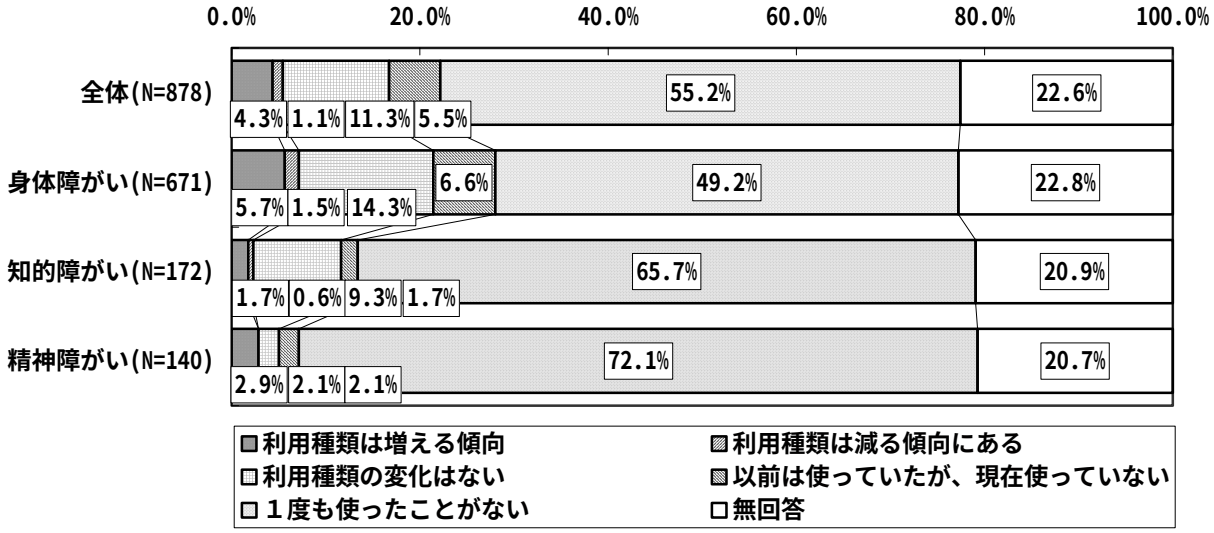
図表　通所系サービス（年齢別）



年齢別にみると、「利用日数は増える傾向」は18～29歳で7.2%と最も多くなっており、利用日数の多少に関係なく、年齢層が低いほど現在利用している人が多い傾向となっている。

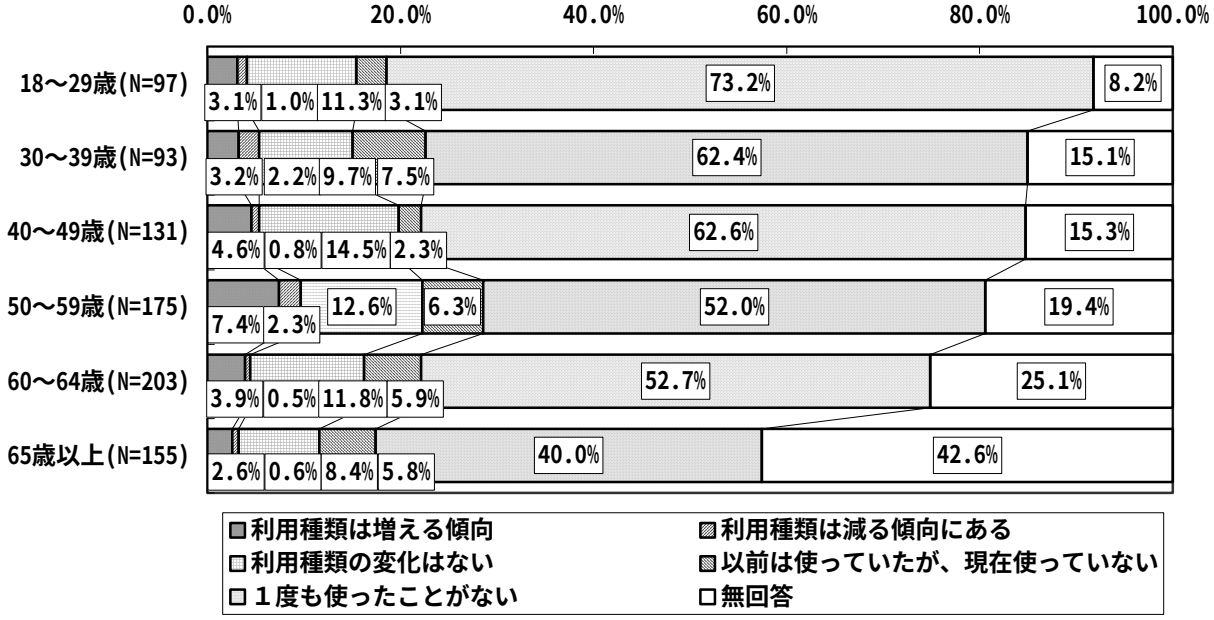
オ　補装具費の支給、日常生活用具の給付等事業

図表　補装具費の支給、日常生活用具の給付等事業



補装具費の支給、日常生活用具の給付等事業の利用状況をみると、利用種類の多少に関係なく、現在利用している人は身体障がいが21.5%で最も多い。

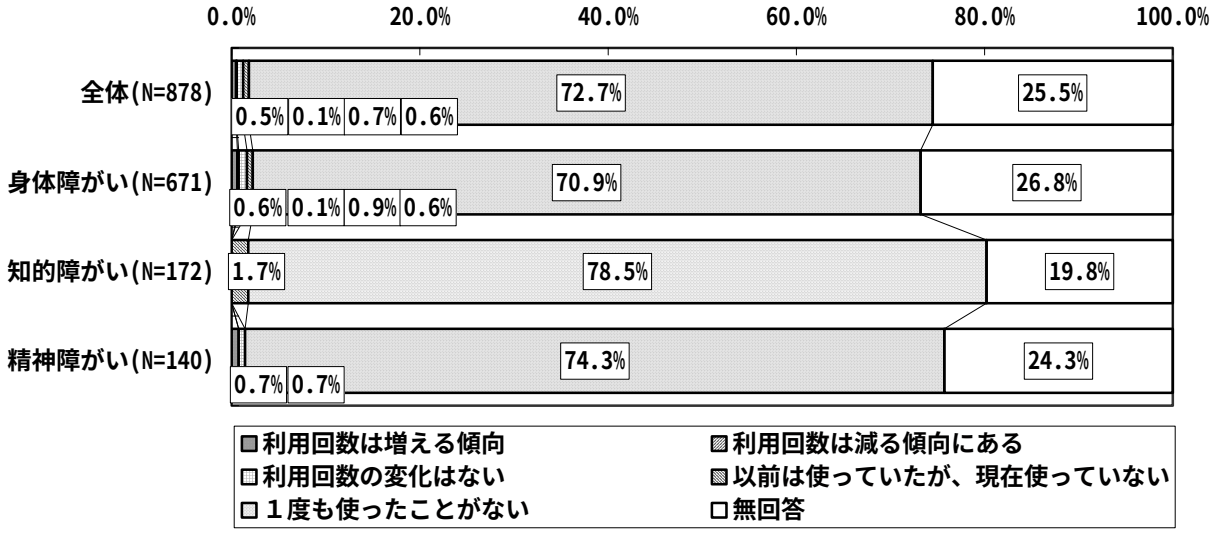
図表　補装具費の支給、日常生活用具の給付等事業（年齢別）



年齢別にみると、利用種類の多少に関係なく、現在利用している人は50～59歳が22.3%で最も多い。

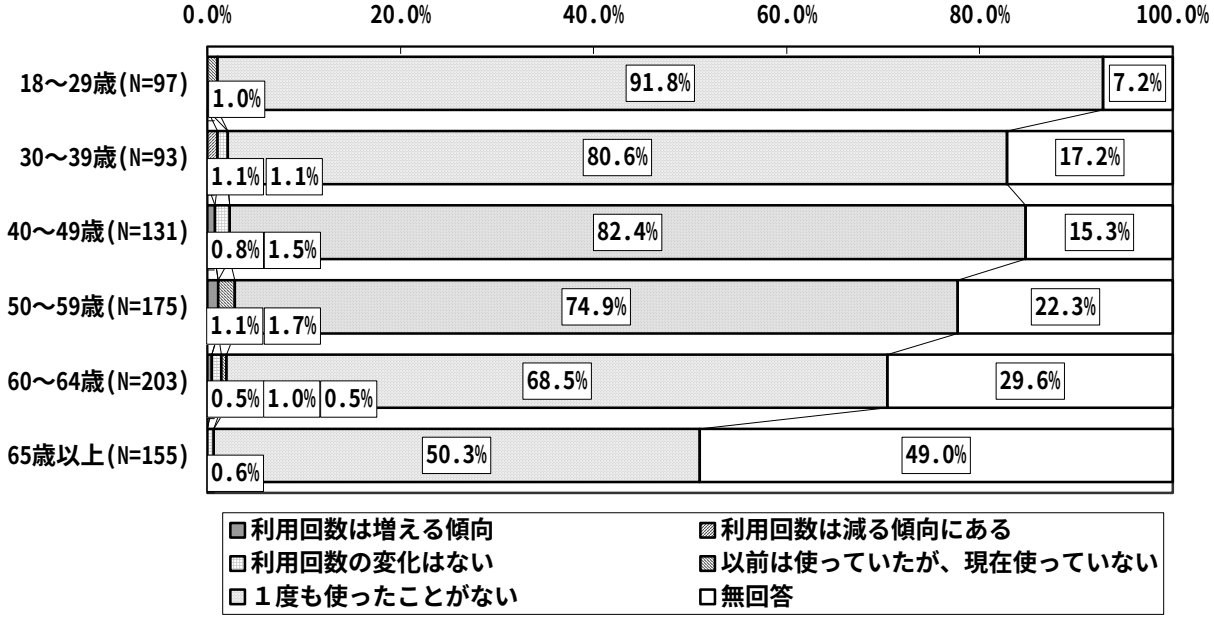
カ　コミュニケーション支援事業

図表　コミュニケーション支援事業



コミュニケーション支援事業の利用状況をみると、利用回数の多少に関係なく、現在利用している人は精神障がいが1.4%で最も多い。

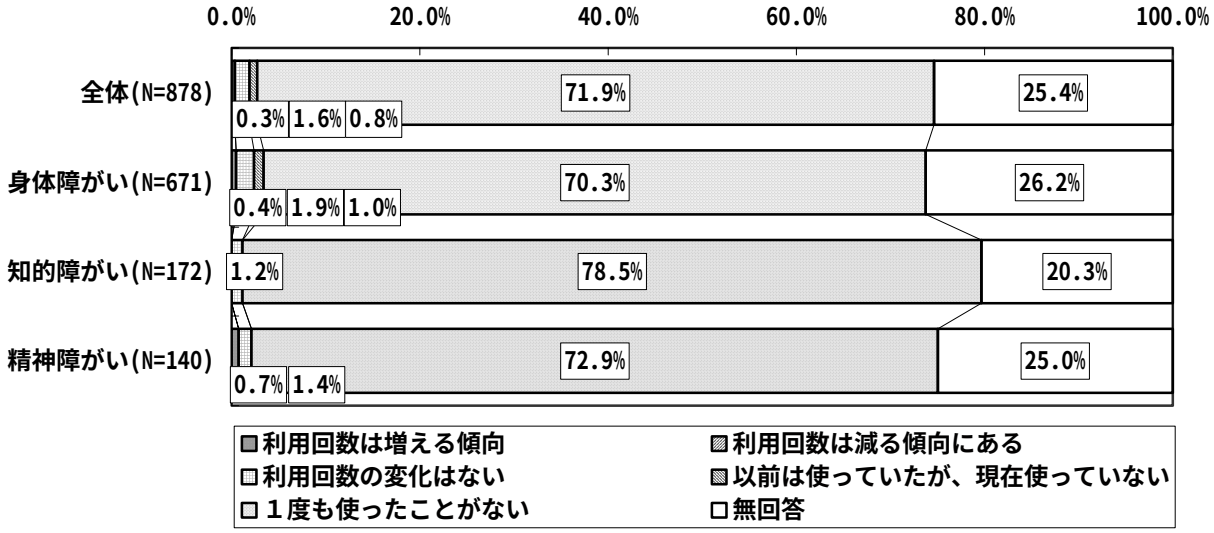
図表　コミュニケーション支援事業（年齢別）



年齢別にみると、利用回数の多少に関係なく、現在利用している人は40～49歳が2.3%で最も多い。

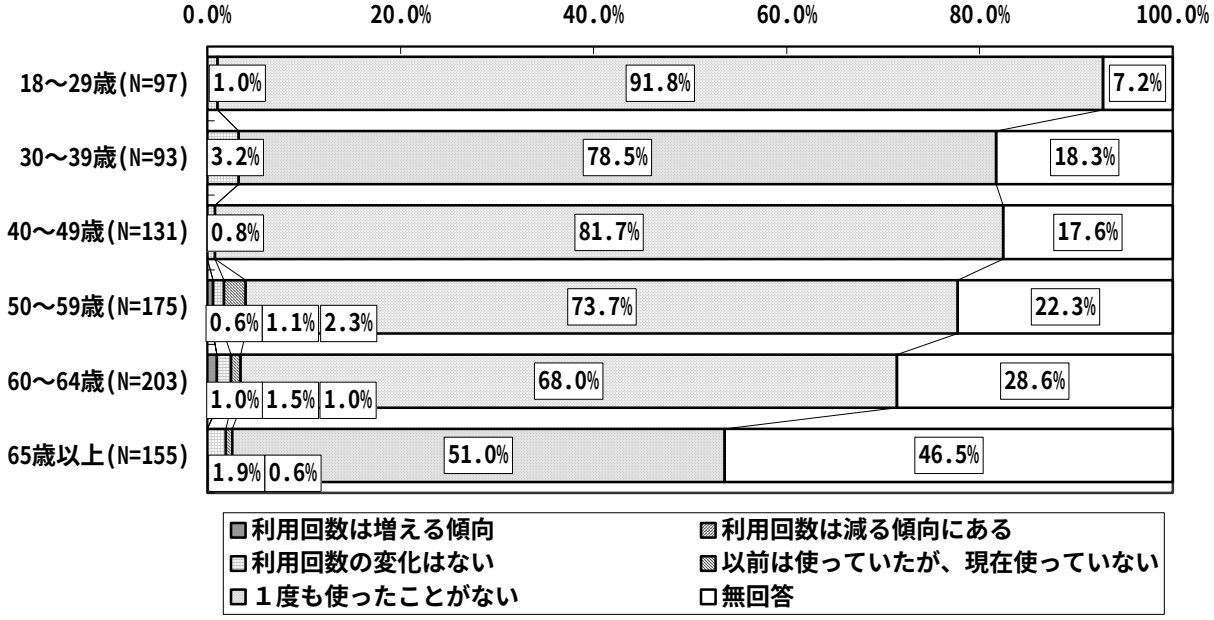
キ　訪問入浴サービス事業

図表　訪問入浴サービス事業



訪問入浴サービス事業の利用状況をみると、利用回数の多少に関係なく、現在利用している人は身体障がいが2.3%で最も多い。

図表　訪問入浴サービス事業（年齢別）



年齢別にみると、利用回数の多少に関係なく、現在利用している人は30～39歳が3.2%で最も多い。

（2）必要度が高いサービス

図表　必要度が高いサービス（複数回答）

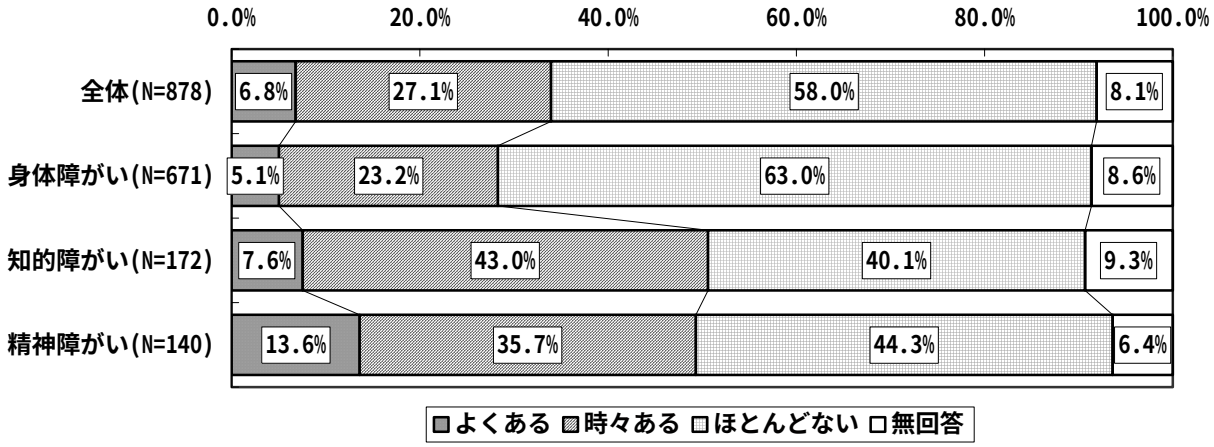
		集計母数	訪問系サービス	ガイドヘルプサービス	ショートステイ（短期入所）	通所系サービス	居住系サービス（グループホームやケアホーム）	補装具費の支給、日常生活用具の給付等事業	相談支援事業	コミュニケーション支援事業	訪問入浴サービス事業	更生訓練費・施設入所者就職支度金給付事業	特にない
障がい種別	全体	878	17.9%	13.3%	10.8%	9.7%	8.0%	18.3%	14.5%	5.1%	2.7%	6.3%	30.6%
	身体障がい	671	18.6%	8.3%	7.7%	6.9%	3.4%	23.4%	11.6%	4.8%	3.4%	4.5%	34.4%
	知的障がい	172	15.1%	40.1%	30.8%	17.4%	25.0%	5.8%	16.9%	4.1%	1.2%	9.3%	11.6%
	精神障がい	140	22.9%	9.3%	10.7%	17.9%	11.4%	6.4%	25.0%	8.6%	1.4%	11.4%	27.1%

必要度が高いサービスをみると、「特にない」を除き、身体障がいでは「補装具費の支給、日常生活用具の給付等事業」が23.4%、知的障がいでは「ガイドヘルプサービス」が40.1%、精神障がいでは「相談支援事業」が25.0%でそれぞれ最も多い。

8　心のバリアフリーについて

（1）障がいがあることで不適切な対応等をされた経験の有無

図表　障がいがあることで不適切な対応等をされた経験の有無



障がいがあることで不適切な対応等をされた経験の有無をみると、「よくある」は精神障がいが13.6%で最も多い。

身体障がいでは「ほとんどない」が「よくある」と「時々ある」を合計した「ある」を上回っているが、知的障がいと精神障がいでは「ある」が過半数を占め、「ほとんどない」を上回っている。

（2）障がいがあることで不適切な対応等をされた場面

図表　障がいがあることで不適切な対応等をされた場面（複数回答）

		集計母数	学校の入学や進学の時	学校での生活	就職活動の時	職場でのふだんの生活	仕事の給料や昇進	近所づきあい	商店などでの入店拒否や店員の態度
障がい種別	全体	878	5.5%	8.3%	8.7%	8.2%	5.2%	10.3%	4.2%
	身体障がい	671	3.6%	4.5%	7.3%	8.0%	5.5%	8.0%	3.6%
	知的障がい	172	15.7%	25.0%	8.7%	6.4%	2.3%	12.8%	8.7%
	精神障がい	140	2.9%	7.9%	15.0%	11.4%	9.3%	20.7%	5.0%
不適切な対応の経験	よくある	60	18.3%	23.3%	26.7%	26.7%	16.7%	31.7%	20.0%
	時々ある	238	10.1%	15.1%	15.1%	16.0%	7.6%	24.4%	7.6%
	ほとんどない	509	2.4%	4.1%	4.7%	3.3%	3.3%	2.2%	1.2%

		集計母数	病院の診療拒否	タクシー等の乗車拒否	まちでの周りの人の視線や言動	役所での職員の対応	福祉施設での介護職員等の対応	その他
障がい種別	全体	878	3.0%	4.0%	22.0%	5.6%	2.1%	7.6%
	身体障がい	671	2.1%	4.8%	17.4%	5.5%	1.5%	8.2%
	知的障がい	172	4.1%	4.1%	41.3%	2.9%	2.9%	3.5%
	精神障がい	140	7.9%	3.6%	22.9%	8.6%	5.0%	9.3%
不適切な対応の経験	よくある	60	10.0%	15.0%	51.7%	16.7%	10.0%	18.3%
	時々ある	238	5.9%	6.7%	47.1%	10.5%	3.8%	8.4%
	ほとんどない	509	1.2%	2.0%	8.8%	2.6%	0.4%	6.9%

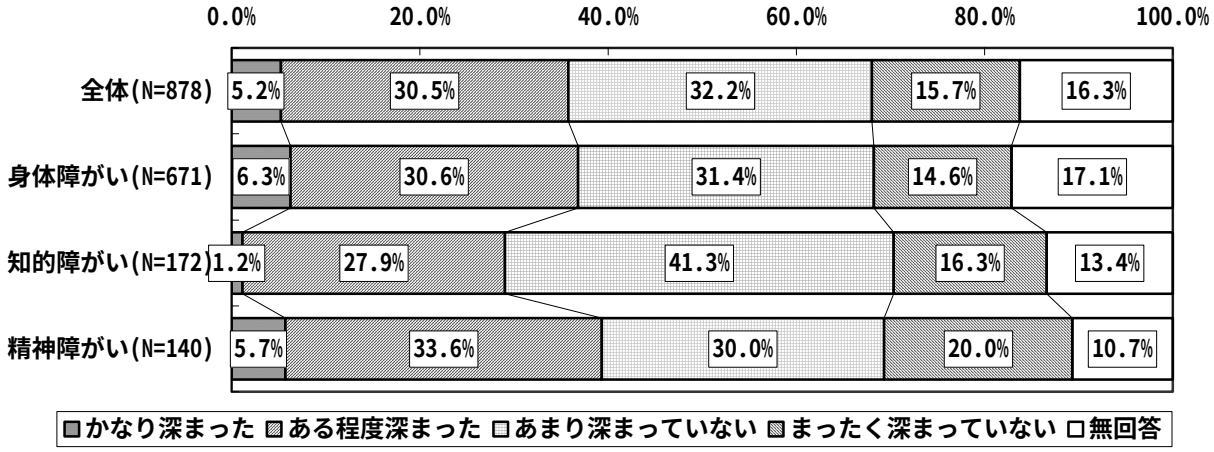
障がいがあることで不適切な対応等をされた場面をみると、障がい種別に関係なく「まちでの周りの人の視線や言動」が最も多い（身体：17.4%、知的：41.3%、精神：22.9%）。次いで、知的障がいでは「学校での生活」が25.0%、精神障がいでは「近所づきあい」が20.7%となっている。

「学校の入学や進学の時」や「学校での生活」は、知的障がい者では10%以上と他の障がい種別が10%未満であるのに比べてやや多い。同様に、「就職活動の時」や「職場でのふだんの生活」は、精神障がいでは10%台と他の障がい種別が10%未満であるのに比べてやや多い。

障がいがあることで不適切な対応等をされた経験の有無別にみると、全般的に不適切な対応等の経験の頻度が高いほど多い傾向となっている。

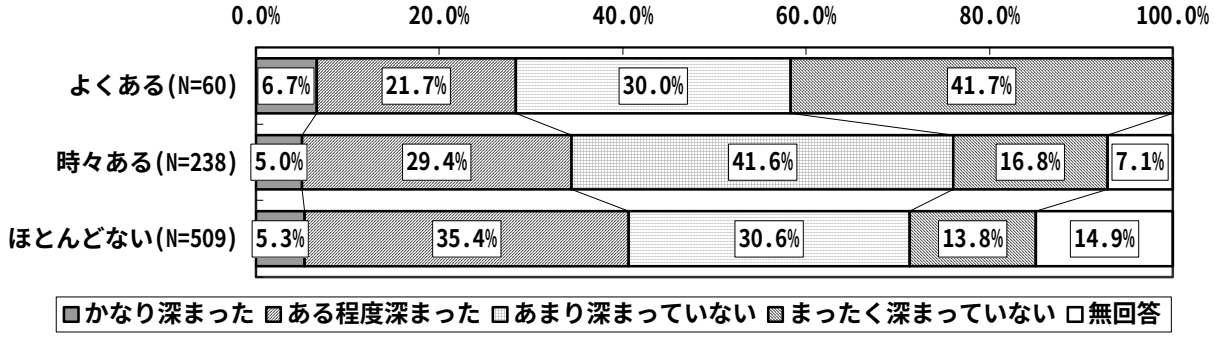
（３）障がい者や障がいに対する市民の理解は深まったか

図表　障がい者や障がいに対する市民の理解は深まったか



障がい者や障がいに対する市民の理解は深まったかをみると、障がい種別に関係なく、「まったく深まっていない」と「あまり深まっていない」とを合計した「深まっていない」（身体：46.0%、知的：57.6%、精神：50.0%）が「かなり深まった」と「ある程度深まった」とを合計した「深まった」（身体：36.9%、知的：29.1%、精神：39.3%）を上回っている。「まったく深まっていない」は、精神障がいが20.0%で最も多い。

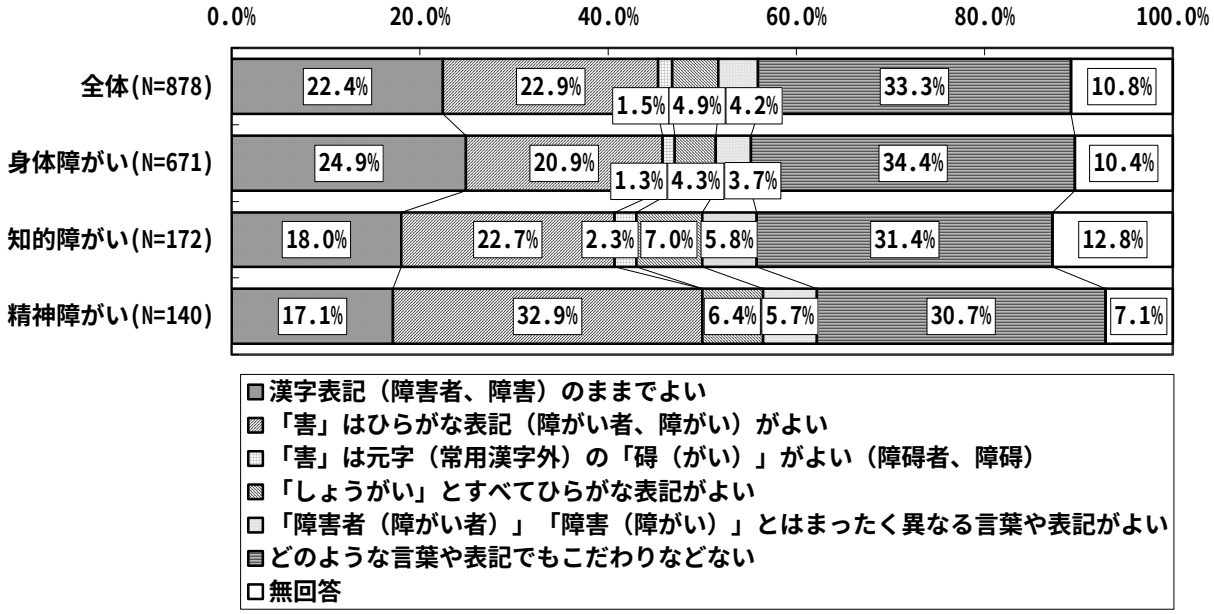
図表　障がい者や障がいに対する市民の理解は深まったか（障がいがあることで不適切な対応等をされた経験の有無別）



障がいがあることで不適切な対応等をされた経験の有無別にみると、不適切な対応の経験が多い人ほど「深まっていない」が多い傾向となっており、「まったく深まっていない」は「よくある」で40%を超えている。

（4）「障害」の「害」の字の表記についての意見

図表　「障害」の「害」の字の表記についての意見



「障害」の「害」の字の表記についての意見をみると、身体障がいと知的障がいでは「どのような言葉や表記でもこだわりなどない」が最も多く（身体：34.4%、知的：31.4%）、精神障がいでは「『害』はひらがな表記（障がい者、障がい）がよい」が32.9%で最も多い。

（5）障がい者・障がいに対する理解を深めるために吹田市に希望する取組

図表　障がい者・障がいに対する理解を深めるために吹田市に希望する取組（複数回答）

		集計母数	学校教育等を通じて、子どもの頃から障がいに関する教育を行う	企業等での社内教育・研修で、障がいに関する教育を行うよう指導する	市報すいた等の広報媒体を活用して周知・啓発を継続的に行う	障がいのある人とない人とが交流できる機会や場を充実させる	作業所や施設等の授産製品等の販売・展示機会を充実させ、障がい者の活動を知らせる	市が主催する講座・教室等の社会教育を充実させる	その他
障がい種別	全体	878	58.7%	32.1%	25.2%	28.4%	23.5%	17.3%	5.2%
	身体障がい	671	58.1%	30.0%	26.5%	25.5%	19.8%	16.2%	5.5%
	知的障がい	172	66.3%	32.0%	20.9%	39.5%	44.8%	17.4%	4.7%
	精神障がい	140	50.0%	38.6%	24.3%	30.7%	25.0%	26.4%	3.6%
年齢	18～29歳	97	73.2%	41.2%	23.7%	46.4%	42.3%	11.3%	7.2%
	30～39歳	93	72.0%	43.0%	20.4%	35.5%	29.0%	19.4%	6.5%
	40～49歳	131	58.8%	42.7%	20.6%	35.9%	19.8%	17.6%	6.1%
	50～59歳	175	57.1%	34.9%	23.4%	25.1%	22.9%	20.0%	4.0%
	60～64歳	203	59.1%	25.6%	28.6%	20.7%	18.7%	18.2%	4.4%
	65歳以上	155	43.9%	16.1%	31.6%	20.6%	18.1%	16.1%	5.2%
回答者	本人が回答	591	59.2%	34.0%	27.7%	26.6%	19.5%	17.1%	4.7%
	介護者が聴き取って代筆	71	56.3%	36.6%	12.7%	28.2%	22.5%	16.9%	5.6%
	介護者が回答	176	63.6%	26.1%	24.4%	36.9%	37.5%	18.8%	7.4%
不適切な対応の経験	よくある	60	63.3%	55.0%	26.7%	41.7%	30.0%	23.3%	5.0%
	時々ある	238	65.5%	39.1%	28.2%	36.1%	27.7%	20.6%	8.0%
	ほとんどない	509	59.5%	29.1%	25.3%	25.3%	22.6%	15.7%	4.3%

障がい者・障がいに対する理解を深めるために吹田市に希望する取組をみると、障がい種別に関係なく「学校教育等を通じて、子どもの頃から障がいに関する教育を行う」が最も多い（身体：58.1%、知的：66.3%、精神：50.0%）。「障がいがある人とない人とが交流できる機会や場を充実させる」と「作業所や施設等の授産製品等の販売・展示機会を充実させ、障がい者の活動を知らせる」は、知的障がいが身体障がいと精神障がいに比べて多い。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「学校教育等を通じて、子どもの頃から障がいに関する教育を行う」が最も多い。「市報すいた等の広報媒体を活用して周知・啓発を継続的に行う」は年齢層が高いほど多い傾向がみられる。逆に、「学校教育等を通じて、子どもの頃から障がいに関する教育を行う」や「企業等での社内教育・研修で、障がいに関する教育を行うよう指導する」「障がいのある人とない人とが交流できる機会や場を充実させる」「作業所や施設等の授産製品等の販売・展示機会を充実させ、障がい者の活動を知らせる」は年齢層が低いほど多い傾向がみられる。

回答者別にみると、回答者に関係なく「学校教育等を通じて、子どもの頃から障がいに関する教育を行う」が最も多い。介護者自身が回答している場合では、本人または介護者が代筆している場合に比べて「障がいのある人とない人とが交流できる機会や場を充実させる」や「作業所や施設等の授産製品等の販売・展示機会を充実させ、障がい者の活動を知らせる」が多い。

障がいがあることで不適切な対応等をされた経験の有無別にみると、「企業等での社内教育・研修で、障がいに関する教育を行うよう指導する」や「障がいのある人とない人とが交流できる機会や場を充実させる」などは、不適切な経験の頻度が高いほど多い傾向が特に強くみられる。

9　将来の暮らしについて

（1）将来の暮らしについての不安

図表　将来の暮らしで不安に思っていること（複数回答）

		集計母数	自分の健康や障がいのこと	生活に必要なお金や収入のこと	住まいや生活の場所のこと	介護してくれる人がいなくなること	自傷・他害などの行動のこと	利用できる障がい福祉サービスのこと	結婚や出産・子育てのこと	進学や学校のこと
障がい種別	全体	878	50.9%	45.0%	15.5%	21.2%	2.4%	7.9%	4.2%	0.0%
	身体障がい	671	54.8%	43.7%	13.6%	21.8%	1.2%	8.0%	3.4%	0.0%
	知的障がい	172	35.5%	47.1%	22.1%	26.2%	4.7%	9.3%	4.1%	0.0%
	精神障がい	140	47.1%	52.1%	22.1%	17.9%	5.7%	8.6%	7.9%	0.0%
年齢	18～29歳	97	32.0%	60.8%	22.7%	21.6%	7.2%	5.2%	14.4%	0.0%
	30～39歳	93	39.8%	55.9%	21.5%	14.0%	3.2%	8.6%	11.8%	0.0%
	40～49歳	131	59.5%	48.1%	19.8%	18.3%	4.6%	9.2%	6.1%	0.0%
	50～59歳	175	57.7%	48.0%	14.3%	18.3%	0.0%	7.4%	1.1%	0.0%
	60～64歳	203	55.7%	44.8%	13.3%	23.2%	1.5%	9.4%	0.0%	0.0%
	65歳以上	155	50.3%	23.9%	9.0%	28.4%	1.3%	7.1%	0.6%	0.0%
回答者	本人が回答	591	56.2%	45.5%	14.4%	15.1%	1.9%	7.6%	5.8%	0.0%
	介護者が聴き取って代筆	71	54.9%	49.3%	12.7%	33.8%	0.0%	8.5%	0.0%	0.0%
	介護者が回答	176	35.8%	40.3%	18.8%	38.1%	5.1%	9.7%	0.6%	0.0%

		集計母数	就職や仕事のこと	引きこもり・閉じこもりのこと	医療や病気のこと	自分が高齢になってからのこと	親が亡くなったあとのこと	意思疎通や対人関係に関すること	その他	特に不安はない
障がい種別	全体	878	9.6%	2.5%	26.3%	34.6%	23.1%	6.5%	1.7%	5.6%
	身体障がい	671	7.6%	1.3%	30.1%	36.5%	12.7%	5.5%	1.8%	7.0%
	知的障がい	172	7.6%	0.0%	18.6%	26.2%	75.6%	11.0%	2.3%	0.6%
	精神障がい	140	17.9%	11.4%	20.7%	35.0%	31.4%	10.0%	3.6%	3.6%
年齢	18～29歳	97	20.6%	0.0%	16.5%	19.6%	70.1%	12.4%	2.1%	0.0%
	30～39歳	93	17.2%	5.4%	10.8%	26.9%	47.3%	6.5%	2.2%	4.3%
	40～49歳	131	13.0%	4.6%	23.7%	32.8%	34.4%	9.9%	3.1%	3.1%
	50～59歳	175	11.4%	1.7%	31.4%	48.0%	15.4%	6.3%	0.6%	6.9%
	60～64歳	203	3.4%	2.5%	32.5%	37.4%	4.9%	3.4%	0.5%	6.9%
	65歳以上	155	0.6%	0.6%	28.4%	31.0%	1.9%	3.9%	3.2%	9.0%
回答者	本人が回答	591	10.7%	3.0%	28.1%	38.6%	11.8%	5.2%	0.8%	6.9%
	介護者が聴き取って代筆	71	14.1%	0.0%	25.4%	32.4%	29.6%	7.0%	4.2%	2.8%
	介護者が回答	176	4.0%	1.1%	21.6%	23.9%	58.0%	10.8%	2.8%	2.8%

将来の暮らしで不安に思っていることをみると、身体障がいでは「自分の健康や障がいのこと」が54.8%で最も多く、次いで、「生活に必要なお金や収入のこと」が43.7%となっている。知的障がいでは「親が亡くなったあとのこと」が75.6%で最も多く、次いで、「生活に必要なお金や収入のこと」が47.1%となっている。精神障がいでは「生活に必要なお金や収入のこと」が52.1%で最も多く、次いで、「自分の健康や障がいのこと」が47.1%となっている。

「親が亡くなったあとのこと」は、知的障がいでは75.6%と突出しており、精神障がいでも31.4%と身体障がいに比べて多い。

年齢別にみると、18～29歳では「親が亡くなったあとのこと」、30～39歳では「生活に必要なお金

や収入のこと」、40歳以上では「自分の健康や障がいのこと」がそれぞれ最も多い。

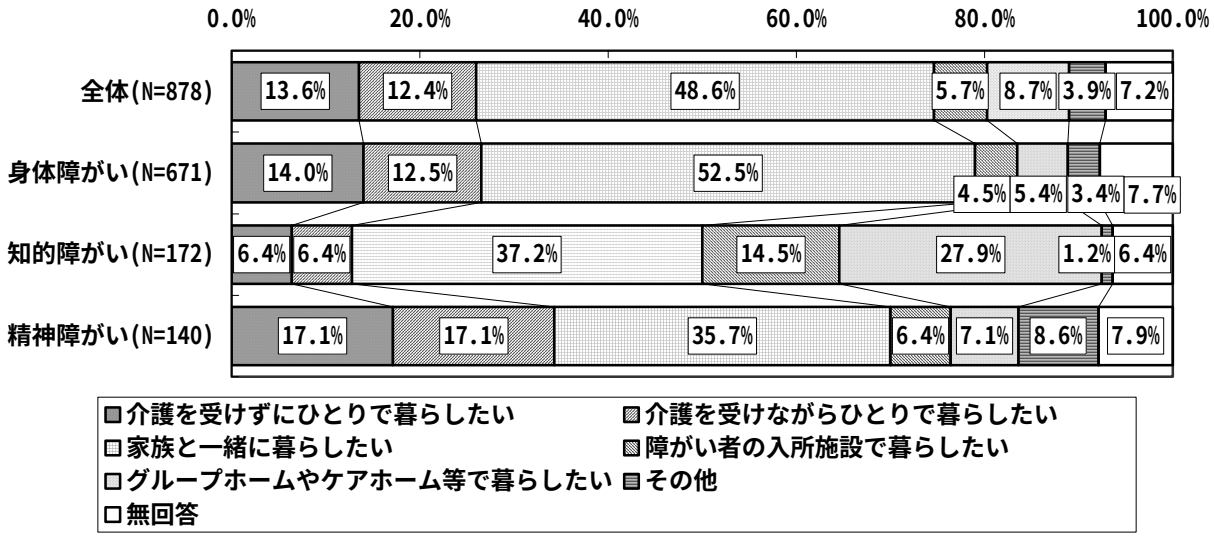
「自分の健康や障がいのこと」は年齢層が高いほど多い傾向がみられるが、「生活に必要なお金や収入のこと」や「住まいや生活の場所のこと」「結婚や出産、子育てのこと」「就職や仕事のこと」「親が亡くなったあとのこと」などは、年齢層が低いほど多い傾向がみられる。

回答者別にみると、本人が回答している場合と介護者が代筆している場合では「自分の健康や障がいのこと」が最も多く、介護者自身が回答している場合では「親が亡くなったあとのこと」が最も多い。

「介護してくれる人がいなくなること」や「親が亡くなったあとのこと」は、本人が回答している場合よりも、介護者が代筆または介護者自身が回答している場合に多い傾向となっている。

（2）希望する将来の暮らし方

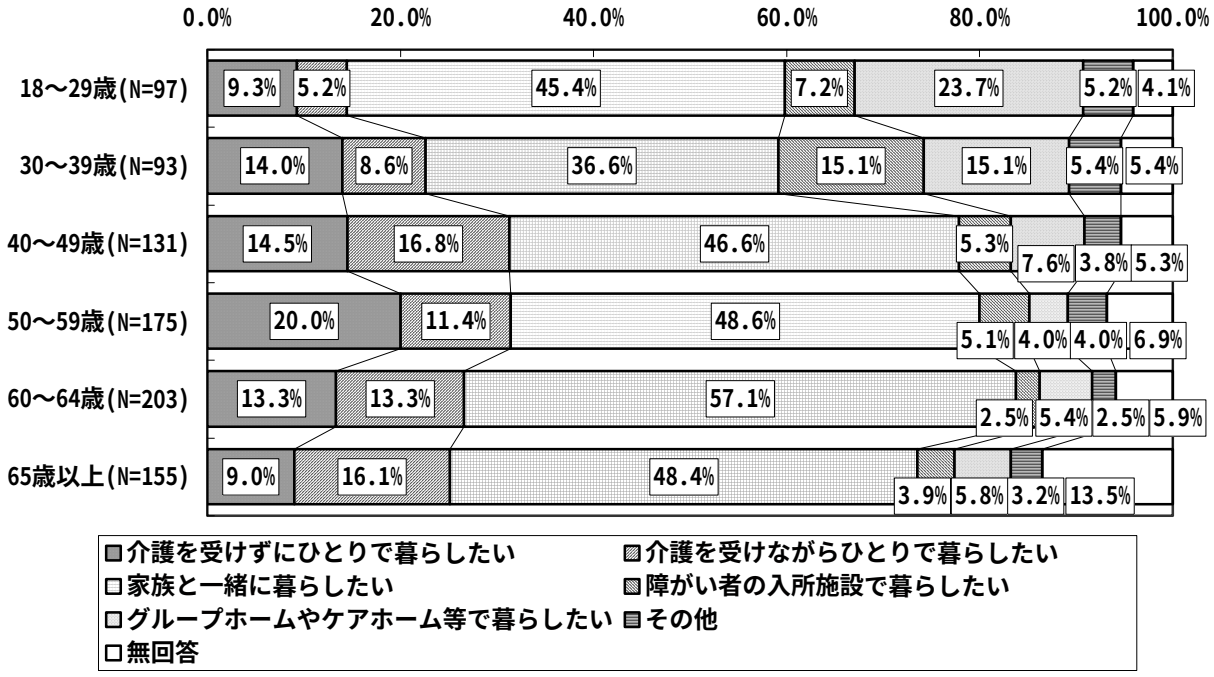
図表　将来希望する暮らし方



将来希望する暮らし方をみると、障がい種別に関係なく「家族と一緒に暮らしたい」が最も多い（身体：52.5%、知的：37.2%、精神：35.7%）。

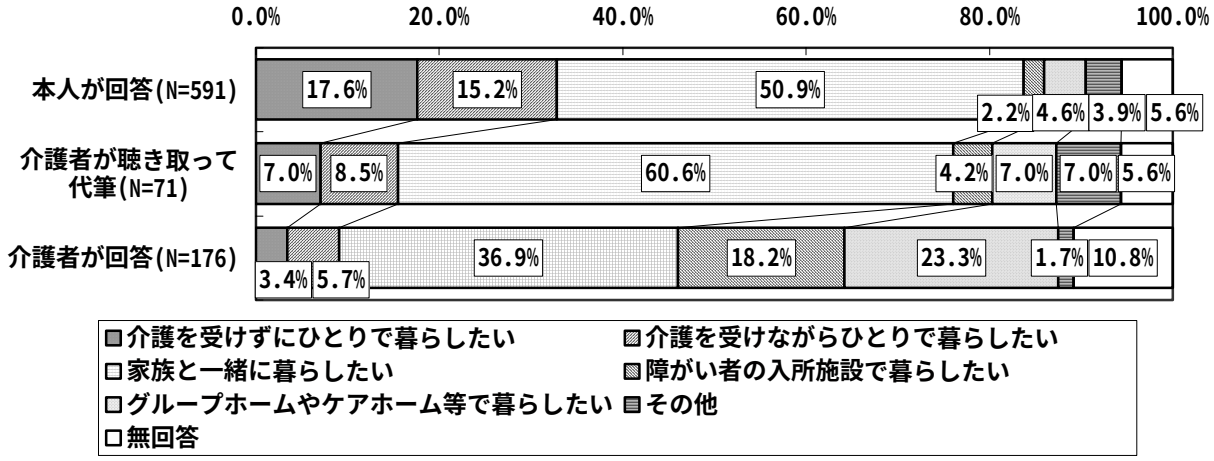
介護の有無に関係なく「ひとりで暮らしたい」は精神障がいで34.2%と最も多い。また、「障がい者の入所施設で暮らしたい」と「グループホームやケアホーム等で暮らしたい」は、それぞれ知的障がいで最も多い。

図表　将来希望する暮らし方（年齢別）



年齢別にみると、介護の有無に関係なく「ひとりで暮らしたい」は40～59歳が他の年齢層に比べて多い。逆に、「障がい者の入所施設で暮らしたい」と「グループホームやケアホームで暮らしたい」との合計は18～39歳で30%以上を占め、40歳以上に比べて多い。

図表　将来希望する暮らし方（回答者別）



回答者別にみると、回答者に関係なく「家族と一緒に暮らしたい」が最も多い。本人が回答している場合では介護の有無に関係なく「ひとりで暮らしたい」が30%を超えており、介護者が代筆または介護者自身が回答している場合に比べて多い。逆に、介護者が代筆または介護者自身が回答している場合ほど「障がい者の入所施設で暮らしたい」と「グループホームやケアホーム等で暮らしたい」が、本人が回答している場合に比べて多い傾向となっており、介護者自身が回答している場合では、これらの占める割合が40%を超えている。

年齢別の結果とあわせて、若年層で介護者が代筆または介護者自身が回答している場合に、「障がい者の入所施設で暮らしたい」と「グループホームやケアホーム等で暮らしたい」という介護者の意向が強く反映されているものと推測される。

（3）希望する暮らし方の実現に必要な支援や取組（３つ以内で複数回答）

図表　希望する暮らし方の実現に必要な支援や取組（1）（複数回答）

		集計母数	ひとり暮らしをするための練習ができる場がある	介護や支援の仕組み、サービスが充実する	同じ障がいがある人との交流や活動ができる場がある	賃貸マンションなどを問題なく借りられる	働く場所が近くにある	仕事以外の活動ができる場がある	グループホームやケアホームが増える
障がい種別	全体	878	10.0%	32.1%	12.5%	12.0%	16.7%	8.0%	13.3%
	身体障がい	671	7.5%	32.2%	12.7%	12.2%	15.1%	8.5%	8.8%
	知的障がい	172	19.8%	39.0%	9.9%	5.8%	19.2%	7.6%	36.0%
	精神障がい	140	17.9%	25.7%	20.0%	17.9%	20.0%	6.4%	13.6%
年齢	18～29歳	97	19.6%	36.1%	8.2%	10.3%	28.9%	8.2%	33.0%
	30～39歳	93	15.1%	25.8%	14.0%	17.2%	21.5%	4.3%	20.4%
	40～49歳	131	9.9%	22.9%	19.1%	18.3%	24.4%	11.5%	13.0%
	50～59歳	175	9.7%	36.6%	12.6%	13.7%	20.6%	10.3%	10.3%
	60～64歳	203	6.9%	35.0%	13.3%	9.4%	10.3%	9.4%	7.9%
	65歳以上	155	5.2%	34.2%	9.7%	5.8%	2.6%	3.2%	8.4%
回答者	本人が回答	591	9.1%	29.4%	13.9%	14.4%	17.8%	8.8%	7.4%
	介護者が聴き取って代筆	71	11.3%	28.2%	8.5%	8.5%	18.3%	7.0%	15.5%
	介護者が回答	176	12.5%	46.6%	11.4%	5.1%	10.8%	5.7%	32.4%

		集計母数	障がい者の入所施設が身近な地域に整備される	地域の人が障がい者や障がいに対する理解を深める	家族が自分の暮らし方を理解してくれる	住まいを契約するときの保証人や契約を助けてくれる人がいる	市営・府営住宅に優先的に入居できる	介護してくれる家族が休息できる制度が充実する	その他
障がい種別	全体	878	17.9%	18.8%	17.0%	7.7%	22.1%	22.6%	3.3%
	身体障がい	671	15.4%	16.8%	18.5%	6.1%	21.5%	24.4%	3.3%
	知的障がい	172	36.6%	24.4%	5.8%	6.4%	15.7%	19.8%	2.3%
	精神障がい	140	16.4%	21.4%	20.7%	18.6%	32.9%	19.3%	5.0%
年齢	18～29歳	97	29.9%	27.8%	6.2%	11.3%	17.5%	20.6%	5.2%
	30～39歳	93	21.5%	28.0%	17.2%	6.5%	24.7%	17.2%	1.1%
	40～49歳	131	14.5%	19.8%	16.0%	19.8%	35.1%	18.3%	4.6%
	50～59歳	175	15.4%	19.4%	17.7%	5.7%	26.3%	20.6%	3.4%
	60～64歳	203	18.2%	14.8%	19.7%	5.4%	20.7%	28.6%	3.4%
	65歳以上	155	14.2%	12.3%	19.4%	1.3%	9.0%	23.2%	1.9%
回答者	本人が回答	591	11.3%	18.6%	20.1%	9.5%	25.0%	18.3%	3.6%
	介護者が聴き取って代筆	71	19.7%	14.1%	19.7%	4.2%	23.9%	26.8%	1.4%
	介護者が回答	176	40.9%	22.7%	6.8%	2.3%	12.5%	36.9%	3.4%

希望する暮らし方の実現に必要な支援や取組をみると、身体障がいと知的障がいでは「介護や支援の仕組み、サービスが充実する」が最も多く（身体：32.2%、知的：39.0%）、精神障がいでは「市営・府営住宅に優先的に入居できる」が32.9%で最も多い。

「働く場所が近くにある」は、知的障がいと精神障がいが身体障がいに比べて多い傾向となっている。同様に、「ひとり暮らしをするための練習ができる場がある」や「地域の人が障がい者や障が

いに対する理解を深める」は、知的障がいと精神障がいが身体障がいに比べて多い傾向となっている。また、「介護や支援の仕組み、サービスが充実する」は身体障がいと知的障がいでは30%台で精神障がいの20%台に比べて多い。「住まいを契約するときの保証人や契約を助けてくれる人がいる」や「市営・府営住宅に優先的に入居できる」は精神障がいで特に多く、身体障がい及び知的障がいとの差が大きい。

年齢別にみると、30～39歳では「地域の人が障がい者や障がいに対する理解を深める」、40～49歳では「市営・府営住宅に優先的に入居できる」、それ以外の年齢層では「介護や支援の仕組み、サービスが充実する」がそれぞれ最も多い。

「ひとり暮らしをするための練習ができる場がある」や「働く場所が近くにある」「グループホームやケアホームが増える」「障がい者の入所施設が身近な地域に整備される」「地域の人が障がい者や障がいに対する理解を深める」などは、年齢層が低いほど多い傾向がみられる。

回答者別にみると、介護者自身が回答している場合では「介護や支援の仕組み、サービスが充実する」「グループホームやケアホームが増える」「障がい者の入所施設が身近な地域に整備される」などが、本人または介護者が代筆している場合に比べて多い。

10　吹田市の障がい者施策のあり方について

（１）障がい者施策の重要度

図表　障がい者施策の重要度

		集計母数	かなり力を入れて取り組むべき	やや力を入れて取り組むべき	どこまで取り組むべきか	無回答
ア　市民に対する障がい者・障がいに関する啓発・教育を強化する	全体	878	27.9%	22.8%	26.7%	22.7%
	身体障がい	671	25.2%	23.1%	27.4%	24.3%
	知的障がい	172	36.6%	22.7%	21.5%	19.2%
	精神障がい	140	40.7%	15.7%	25.0%	18.6%
イ　障がい者支援に関わる福祉人材やボランティアを養成する	全体	878	29.7%	26.1%	21.9%	22.3%
	身体障がい	671	26.8%	26.8%	22.7%	23.7%
	知的障がい	172	43.6%	22.1%	14.5%	19.8%
	精神障がい	140	35.0%	22.9%	21.4%	20.7%
ウ　障がいの種別・程度に応じた多様な広報・情報提供態勢の充実を図る	全体	878	25.4%	24.8%	26.3%	23.5%
	身体障がい	671	22.8%	25.6%	27.1%	24.4%
	知的障がい	172	27.9%	25.0%	23.3%	23.8%
	精神障がい	140	35.7%	20.7%	22.1%	21.4%
エ　障がい者の円滑な意思疎通を支援するため、支援人材の養成、設備の整備を図る	全体	878	28.0%	27.2%	21.9%	22.9%
	身体障がい	671	24.4%	28.8%	22.7%	24.1%
	知的障がい	172	41.9%	24.4%	12.2%	21.5%
	精神障がい	140	38.6%	21.4%	19.3%	20.7%
オ　障がいの種別に応じた相談態勢の充実を図る	全体	878	30.8%	25.1%	22.1%	22.1%
	身体障がい	671	27.6%	25.2%	23.5%	23.7%
	知的障がい	172	33.7%	28.5%	18.6%	19.2%
	精神障がい	140	47.1%	22.1%	12.1%	18.6%
カ　障がい者の権利と尊厳を守るための相談・支援態勢の充実を図る	全体	878	26.1%	23.7%	27.2%	23.0%
	身体障がい	671	22.7%	24.0%	28.8%	24.6%
	知的障がい	172	33.7%	23.8%	21.5%	20.9%
	精神障がい	140	38.6%	24.3%	17.9%	19.3%
キ　障害者自立支援法のサービスの充実を図る	全体	878	31.4%	22.2%	23.0%	23.3%
	身体障がい	671	27.7%	23.1%	24.1%	25.0%
	知的障がい	172	48.3%	18.0%	13.4%	20.3%
	精神障がい	140	40.0%	20.0%	20.7%	19.3%
ク　発達障がい者や難病患者への支援の仕組みを強化する	全体	878	33.0%	23.3%	19.8%	23.8%
	身体障がい	671	30.8%	23.5%	20.4%	25.2%
	知的障がい	172	40.1%	25.0%	12.2%	22.7%
	精神障がい	140	38.6%	21.4%	20.0%	20.0%
ケ　障がい者の仕事や訓練（作業所や施設等）以外の日中活動、居場所の充実を図る	全体	878	27.6%	24.5%	24.8%	23.1%
	身体障がい	671	22.7%	24.9%	27.1%	25.3%
	知的障がい	172	48.8%	20.3%	12.2%	18.6%
	精神障がい	140	36.4%	22.1%	22.1%	19.3%
コ　障がい児の学校等以外での日中活動、居場所の充実を図る	全体	878	24.3%	26.8%	24.0%	24.9%
	身体障がい	671	22.1%	26.8%	24.6%	26.5%
	知的障がい	172	33.1%	27.3%	15.7%	23.8%
	精神障がい	140	28.6%	25.0%	25.0%	21.4%

図表　障がい者施策の重要度（２）

		集計母数	取をかり入なり組れりむて力	り入や組れや力むて取を	取どこりおれ組りまむにで	無回答
サ　障がいの早期発見・早期対応態勢の充実を図る	全体	878	32.5%	22.1%	21.8%	23.7%
	身体障がい	671	30.4%	21.9%	21.9%	25.8%
	知的障がい	172	35.5%	22.7%	20.9%	20.9%
	精神障がい	140	42.1%	20.0%	17.9%	20.0%
シ　療育相談・指導態勢の充実を図る	全体	878	22.9%	26.0%	26.3%	24.8%
	身体障がい	671	20.0%	26.1%	27.4%	26.5%
	知的障がい	172	34.9%	24.4%	18.0%	22.7%
	精神障がい	140	30.0%	22.9%	25.0%	22.1%
ス　障がい児一人ひとりに応じた教育態勢の充実を図る	全体	878	24.5%	25.6%	24.8%	25.1%
	身体障がい	671	22.5%	25.5%	25.8%	26.2%
	知的障がい	172	32.0%	26.7%	17.4%	23.8%
	精神障がい	140	27.1%	27.1%	25.0%	20.7%
セ　企業等に対して障がい者雇用に関する周知・啓発を強化する	全体	878	33.5%	24.3%	18.0%	24.3%
	身体障がい	671	30.8%	24.4%	19.4%	25.3%
	知的障がい	172	36.6%	26.7%	13.4%	23.3%
	精神障がい	140	42.1%	20.7%	15.7%	21.4%
ソ　就労に向けた職場体験、訓練機会の確保・充実を図る	全体	878	28.9%	25.5%	20.8%	24.7%
	身体障がい	671	26.4%	25.0%	22.4%	26.2%
	知的障がい	172	34.3%	28.5%	15.1%	22.1%
	精神障がい	140	37.1%	22.1%	17.9%	22.9%
タ　障がいの早期発見・早期対応に向けた健診等の充実を図る	全体	878	32.3%	22.6%	20.6%	24.5%
	身体障がい	671	30.6%	22.5%	20.9%	26.1%
	知的障がい	172	34.3%	23.8%	19.8%	22.1%
	精神障がい	140	39.3%	22.9%	16.4%	21.4%
チ　安心して診療が受けられる地域医療体制の充実を図る	全体	878	42.6%	22.2%	12.9%	22.3%
	身体障がい	671	40.7%	22.8%	12.8%	23.7%
	知的障がい	172	49.4%	19.8%	10.5%	20.3%
	精神障がい	140	50.7%	20.0%	10.0%	19.3%
ツ　バリアフリーなど福祉のまちづくりを強化する	全体	878	38.8%	23.8%	15.5%	21.9%
	身体障がい	671	40.1%	22.5%	14.8%	22.7%
	知的障がい	172	37.8%	27.3%	14.0%	20.9%
	精神障がい	140	35.7%	20.7%	22.1%	21.4%
テ　安心して利用できる住まいの場の確保を図る	全体	878	40.9%	20.3%	15.7%	23.1%
	身体障がい	671	37.1%	20.3%	17.6%	25.0%
	知的障がい	172	53.5%	18.0%	8.1%	20.3%
	精神障がい	140	52.9%	15.0%	13.6%	18.6%
ト　防犯・防災対策の強化を図る	全体	878	33.4%	24.4%	19.0%	23.2%
	身体障がい	671	32.9%	23.1%	19.2%	24.7%
	知的障がい	172	32.0%	28.5%	17.4%	22.1%
	精神障がい	140	36.4%	23.6%	20.0%	20.0%
ナ　行政に対する障がい者・障がいに関する啓発・教育を強化する	全体	878	35.4%	22.3%	19.4%	22.9%
	身体障がい	671	32.8%	22.5%	20.4%	24.3%
	知的障がい	172	40.1%	26.2%	13.4%	20.3%
	精神障がい	140	45.0%	16.4%	20.0%	18.6%

障がい者施策の重要度をみると、全体で「かなり力を入れて取り組む」が最も多いのは「チ　安心して診療が受けられる地域医療体制の充実を図る」（42.6%）で、以下、「テ　安心して利用できる住まいの場の確保を図る」（40.9%）、「ツ　バリアフリーなど福祉のまちづくりを強化する」（38.8%）となっている。

「ツ　バリアフリーなど福祉のまちづくりを強化する」は身体障がいが他の障がい種別に比べて「かなり力を入れて取り組む」が多くなっている。また、「キ　障害者自立支援法のサービスの充実を図る」や「ケ　障がい者の仕事や訓練（作業所や施設等）以外の日中活動、居場所の充実を図る」などは知的障がいが他の障がい種別に比べて「かなり力を入れて取り組む」が多い。

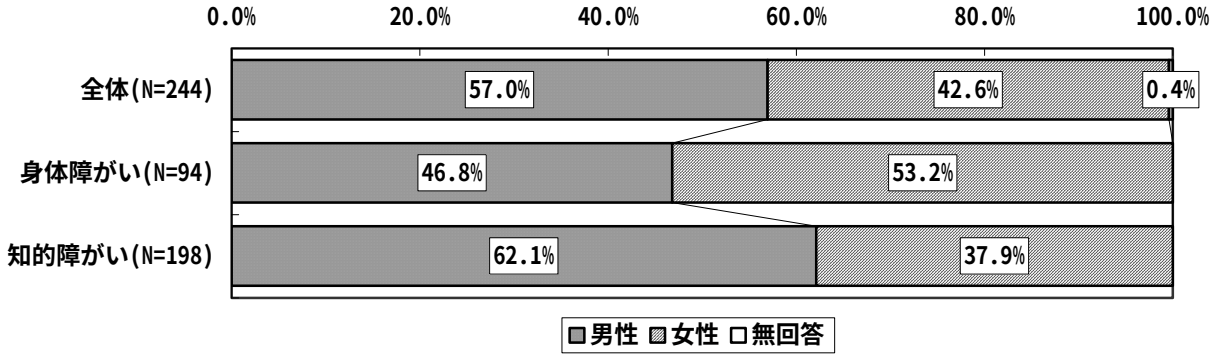
さらに、「オ　障がいの種別に応じた相談態勢の充実を図る」「サ　障がいの早期発見・早期対応態勢の充実を図る」「セ　企業等に対して障がい者雇用に関する周知・啓発を強化する」「ナ　行政に対する障がい者・障がいに関する啓発・教育を強化する」などは精神障がいが他の障がい種別に比べて「かなり力を入れて取り組む」が多い。

III　18歳未満手帳所持者調査の結果

１　対象者のことについて

（１）性別

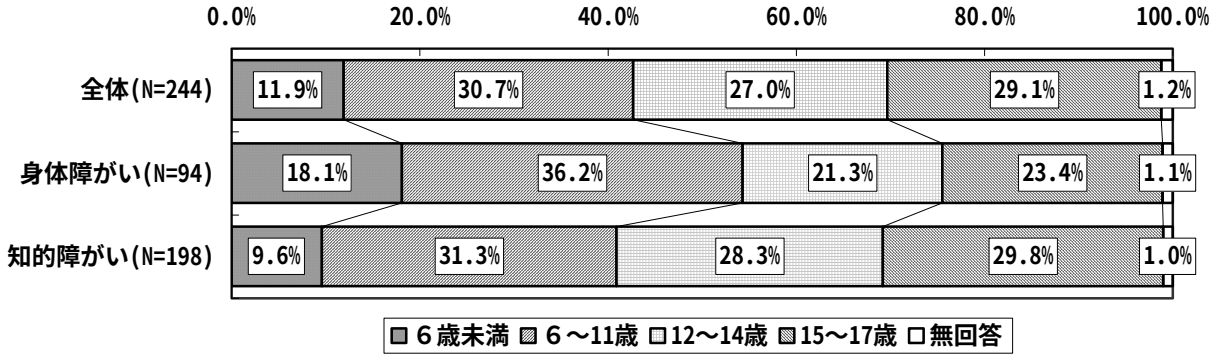
図表　性別



性別をみると、身体障がいでは「女性」が「男性」を上回っており、知的障がいではこれが逆転している。

（２）年齢（平成21年11月１日時点の満年齢）

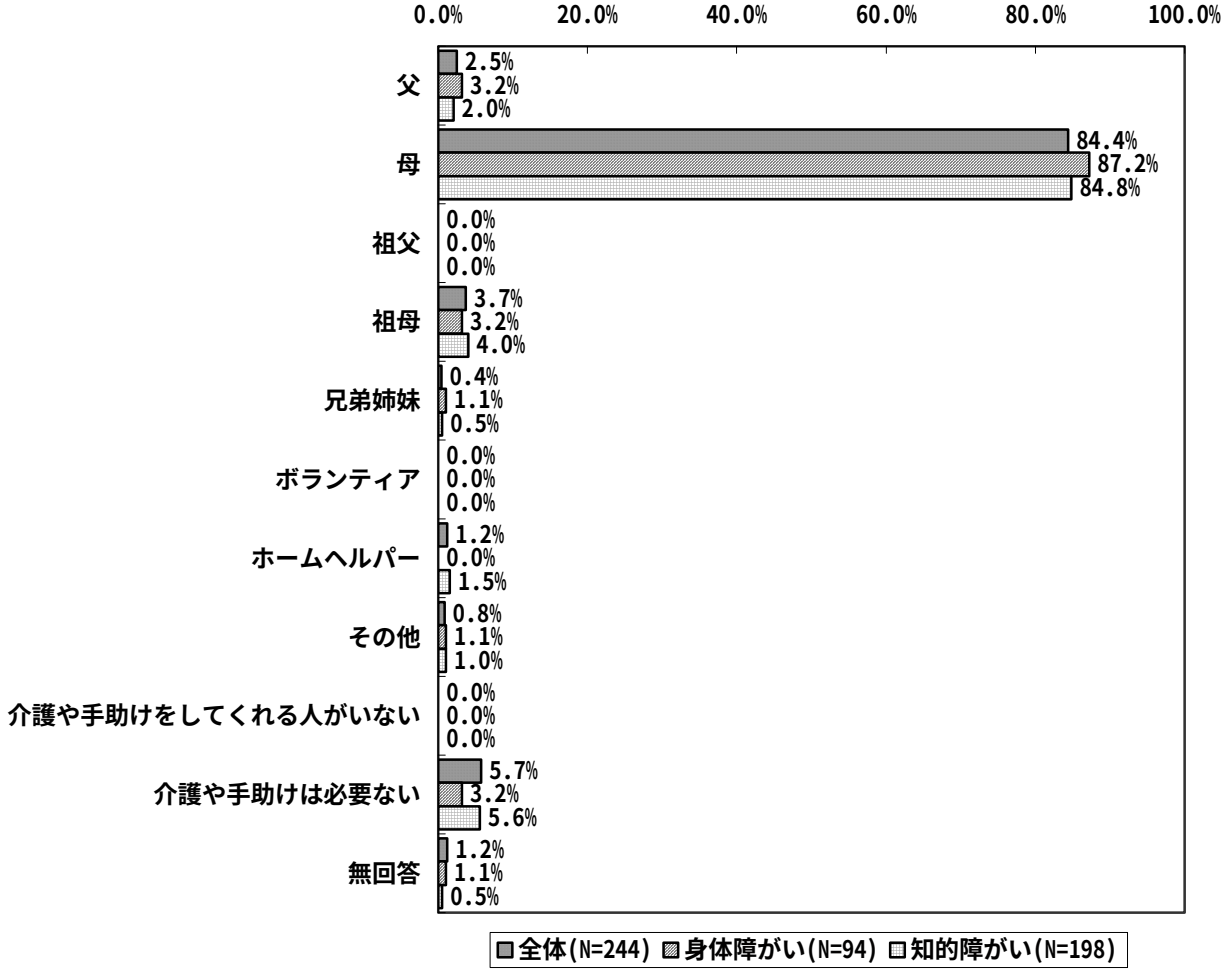
図表　年齢



年齢をみると、障がい種別に関係なく「６～11歳」が最も多く（身体：36.2%、知的：31.3%）、次いで、「15～17歳」（身体：23.4%、知的：29.8%）となっている。

（3）主な介助者

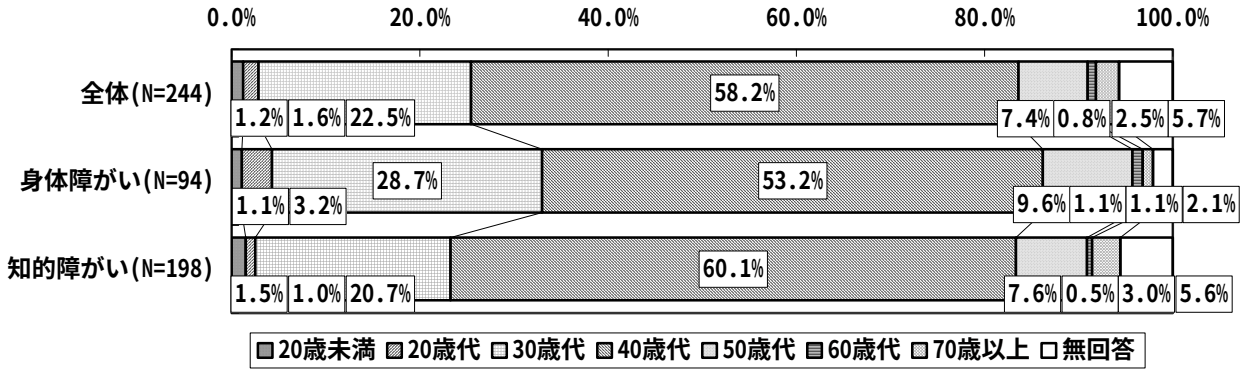
図表　主な介護者



主な介護者をみると、障がい種別に関係なく「母」が最も多く、80%以上を占めている（身体：87.2%、知的：84.8%）。

（4）主な介護者の年齢

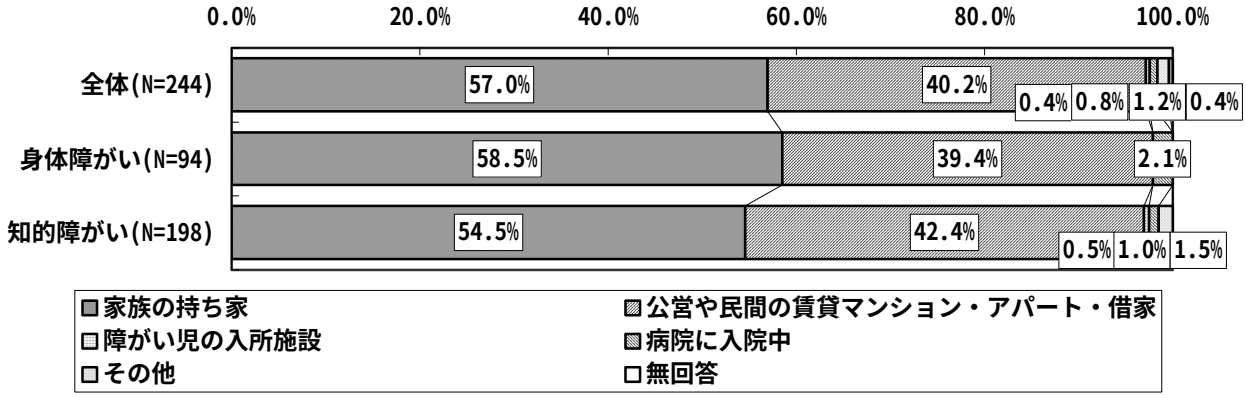
図表　主な介護者の年齢



主な介護者の年齢をみると、障がい種別に関係なく「40歳代」が最も多く（身体：53.2%、知的：60.1%）、次いで、「30歳代」（身体：28.7%、知的：20.7%）となっている。

（５）住まいの種類

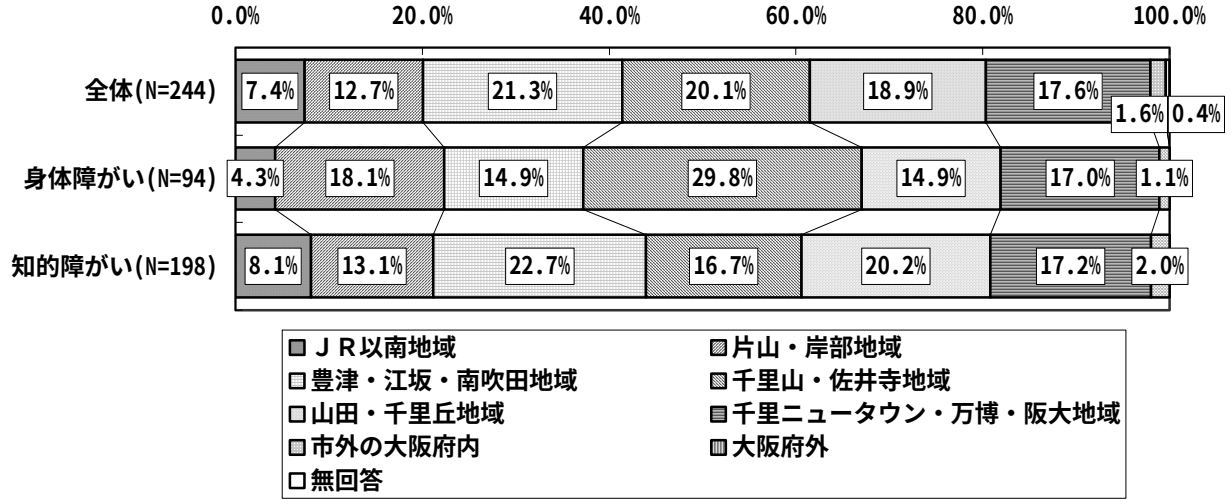
図表　住まいの種類



住まいの種類をみると、障がい種別に関係なく「家族の持ち家」が最も多く（身体：58.5%、知的：54.5%）、次いで、「公営や民間の賃貸マンション・アパート・借家」（身体：39.4%、知的：42.4%）となっている。

（６）居住地域

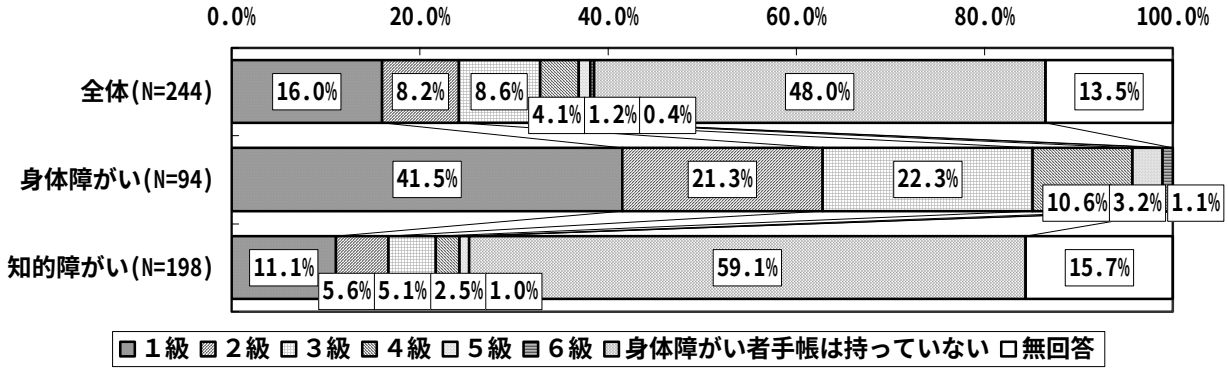
図表　居住地域



居住地域をみると、身体障がいでは「千里山・佐井寺地域」が29.8%、知的障がいでは「豊津・江坂・南吹田地域」が22.7%でそれぞれ最も多い。

（７）身体障がい者手帳の所持の有無・等級

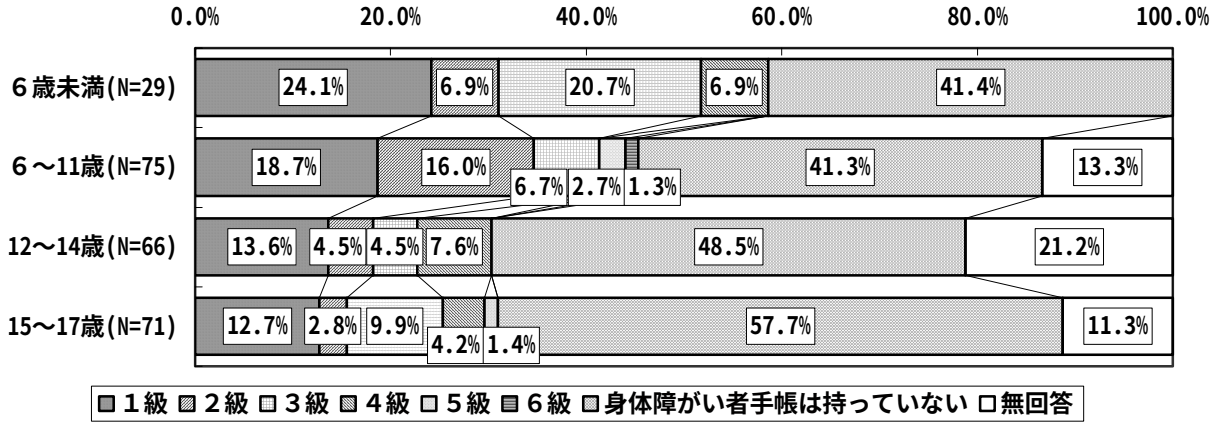
図表　身体障がい者手帳の所持の有無・等級



身体障がい者手帳の所持の有無・等級をみると、身体障がい者手帳所持者は全体の38.5%となっており、身体障がいでは、「１級」が41.5%で最も多い。

また、知的障がいで、等級に関係なく身体障がい者手帳を重複所持しているのは25.3%となっている。

図表　身体障がい者手帳の所持の有無・等級（年齢別）



年齢別にみると、年齢層が低いほど身体障がい者手帳所持者は多い傾向となっており、また、「1級」も年齢層が低いほど多い傾向となっている。

（８）身体障がいの部位

表　身体障がいの部位（複数回答）

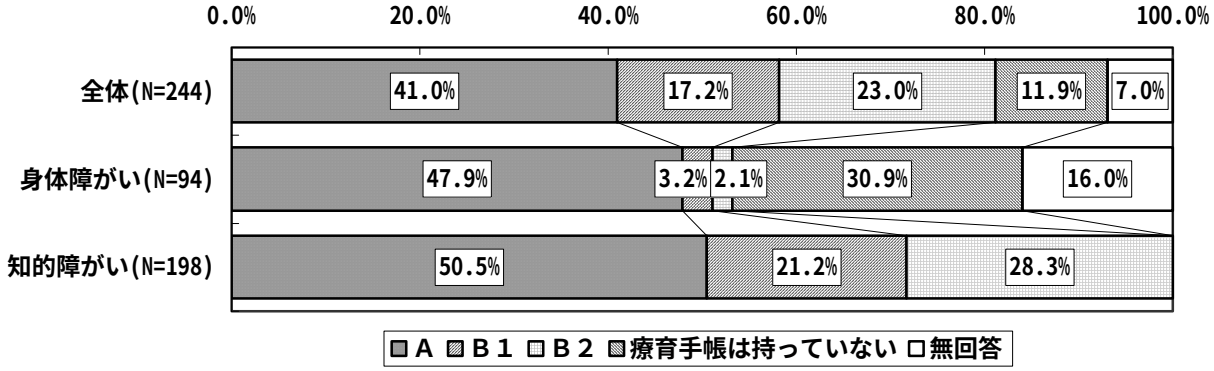
		集計母数	視覚障がい	聴覚障がい・平衡機能障がい	音声・言語・そしゃく機能障がい	肢体不自由	内部障がい	身体障がいはない
障がい種別	全体	94	8.5%	18.1%	5.3%	54.3%	31.9%	0.0%
	身体障がい	94	8.5%	18.1%	5.3%	54.3%	31.9%	0.0%
	知的障がい	50	12.0%	10.0%	8.0%	74.0%	24.0%	0.0%
年齢（身体障がい）	６歳未満	17	5.9%	29.4%	0.0%	29.4%	47.1%	0.0%
	６～11歳	34	11.8%	17.6%	2.9%	61.8%	32.4%	0.0%
	12～14歳	20	10.0%	15.0%	5.0%	60.0%	25.0%	0.0%
	15～17歳	22	4.5%	13.6%	13.6%	54.5%	27.3%	0.0%

身体障がいの部位をみると、障がい種別に関係なく「肢体不自由」が最も多い（身体：54.3%、知的：74.0%）。

年齢別にみると、６歳未満では「内部障がい」、６歳以上では「肢体不自由」がそれぞれ最も多い。

（９）療育手帳の所持の有無・判定

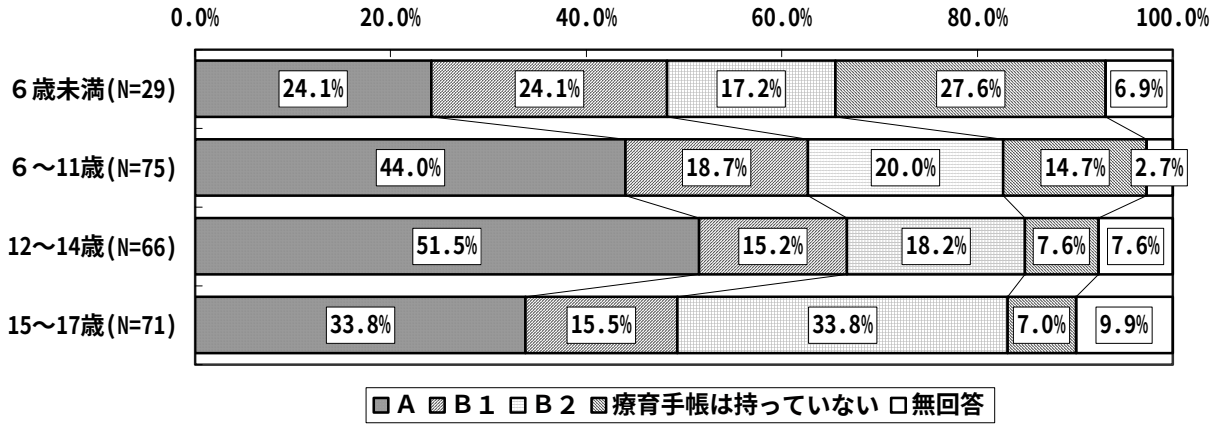
図表　療育手帳の所持の有無・判定



療育手帳の所持の有無・判定をみると、療育手帳所持者は全体の81.2%となっており、知的障がいでは、「Ａ」が50.5%で最も多い。

また、身体障がいで、判定に関係なく療育手帳を重複所持しているのは53.2%となっている。

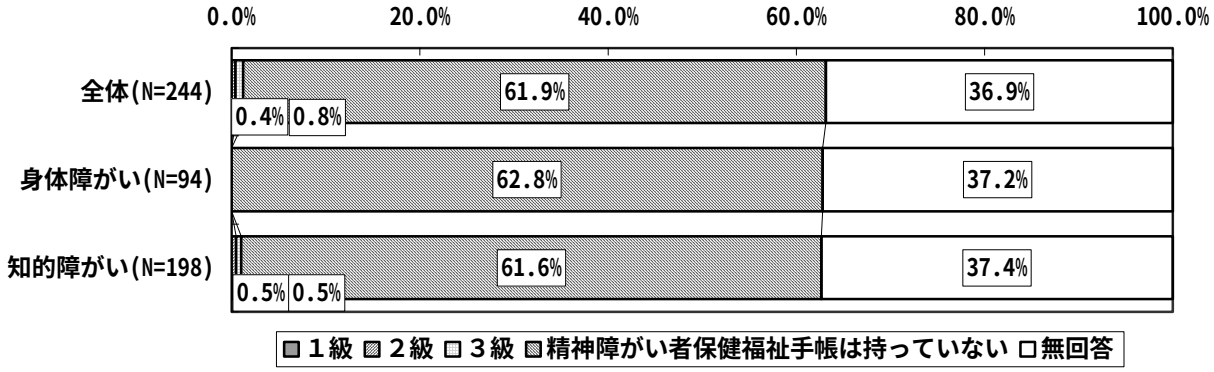
図表　療育手帳の所持の有無・判定（年齢別）



年齢別にみると、６歳未満では「療育手帳は持っていない」、６歳以上では「Ａ」が最も多い（15～17歳では「Ｂ２」も同率で最多）。

（10）精神障がい者保健福祉手帳の所持の有無・等級

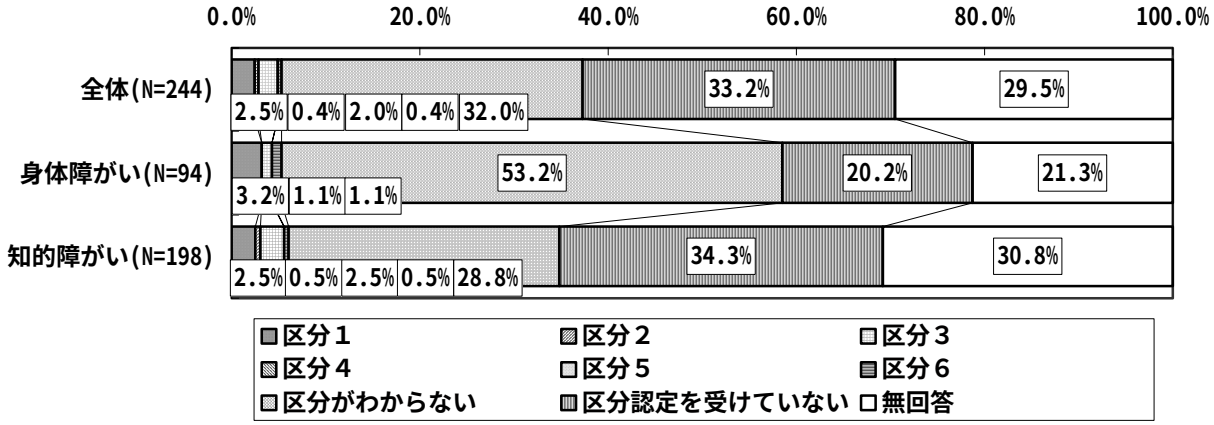
図表　精神障がい者保健福祉手帳の所持の有無・等級



精神障がい者保健福祉手帳の所持の有無・等級をみると、精神障がい者保健福祉手帳所持者は全体の1.2%（３人）となっている。

（11）障がい程度認定区分

図表　障がい程度認定区分

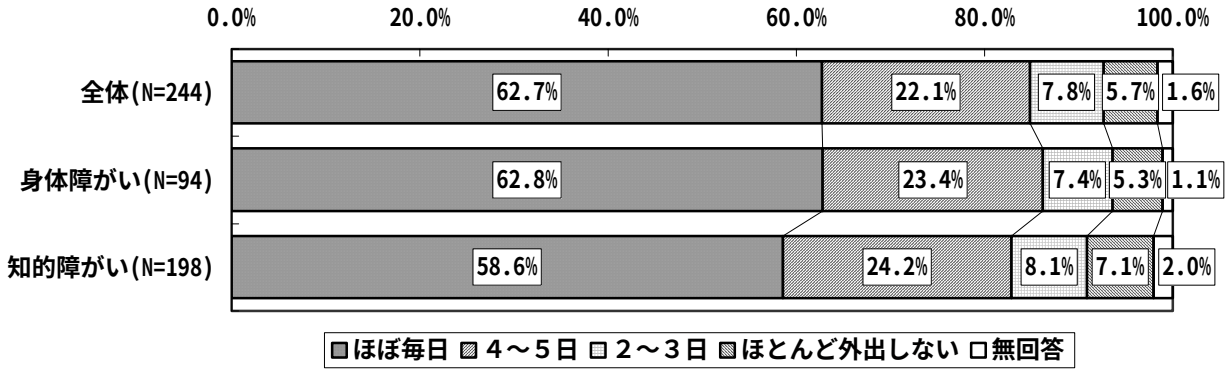


障がい程度認定区分をみると、「区分がわからない」「区分認定を受けていない」を除き、障がい種別に関係なく「区分１」が最も多い（身体：3.2%、知的：2.5%（知的では「区分３」も同率で最多））。

２　日中の過ごし方、外出の状況について

（１）１週間の外出頻度

図表　１週間の外出頻度



１週間の外出頻度をみると、障がい種別に関係なく「ほぼ毎日」が最も多く（身体：62.8%、知的：58.6%）、次いで、「４～５日」（身体：23.4%、知的：24.2%）となっている。知的障がいでは「ほとんど外出しない」と「２～３日」の合計が15.2%で、身体障がいの12.7%に比べて外出頻度が少ない人がやや多い。

（2）希望する休み等の過ごし方

図表　希望する休み等の過ごし方（複数回答）

		集計母数	障がいのない友だちとの遊びや交流をさせたい	障がいのある友だちとの遊びや交流をさせたい	学童保育に行かせたい	学校のクラブ活動等に参加させたい	図書館や児童館へ行かせたい	習い事に行かせたい	地域の子ども会の活動に参加させたい	スポーツをさせたい	公園などへの散歩に行かせたい
平日の学校等の放課後	全体	244	41.0%	17.6%	16.4%	30.7%	10.7%	22.1%	3.3%	33.6%	16.0%
	身体障がい	94	46.8%	17.0%	12.8%	29.8%	12.8%	24.5%	4.3%	24.5%	19.1%
	知的障がい	198	37.4%	17.7%	18.2%	30.3%	10.6%	19.2%	3.5%	33.8%	17.7%
学校等の休みの昼間	全体	244	35.2%	21.7%	4.9%	11.1%	9.8%	9.0%	7.4%	29.1%	18.9%
	身体障がい	94	38.3%	24.5%	1.1%	12.8%	9.6%	8.5%	7.4%	17.0%	18.1%
	知的障がい	198	29.3%	20.2%	6.1%	9.6%	10.6%	8.1%	7.1%	30.8%	21.2%
夏休みなど長い休みの昼間	全体	244	37.3%	24.6%	14.3%	16.4%	9.8%	11.9%	9.4%	29.5%	16.8%
	身体障がい	94	45.7%	25.5%	9.6%	16.0%	9.6%	13.8%	8.5%	19.1%	18.1%
	知的障がい	198	32.8%	23.7%	15.2%	15.7%	10.1%	10.6%	10.6%	32.3%	18.2%

		集計母数	家族と一緒に旅行に連れていきたい	ガイドヘルパーと一緒に外出させたい	「太陽の広場」に参加させたい	児童デイサービスに行かせたい	短期入所に行かせたい	日中一時支援に行かせたい	障がい者団体等が行う日中見守り事業に行かせたい	障がい者団体等が主催する行事に参加させたい	外出せずに、自宅で過ごさせたい
平日の学校等の放課後	全体	244	2.5%	10.7%	9.0%	4.1%	1.6%	6.6%	4.1%	2.9%	13.1%
	身体障がい	94	1.1%	10.6%	11.7%	4.3%	1.1%	2.1%	3.2%	0.0%	13.8%
	知的障がい	198	3.0%	12.1%	9.6%	5.1%	2.0%	7.6%	5.1%	3.0%	14.1%
学校等の休みの昼間	全体	244	5.7%	13.1%	2.9%	5.7%	2.0%	8.6%	4.9%	5.7%	2.9%
	身体障がい	94	6.4%	5.3%	1.1%	7.4%	2.1%	6.4%	4.3%	3.2%	4.3%
	知的障がい	198	5.6%	16.2%	3.0%	6.6%	2.5%	10.1%	6.1%	7.1%	3.0%
夏休みなど長い休みの昼間	全体	244	41.0%	20.1%	5.3%	13.5%	14.3%	14.8%	8.6%	13.1%	0.8%
	身体障がい	94	43.6%	18.1%	5.3%	13.8%	17.0%	12.8%	7.4%	9.6%	1.1%
	知的障がい	198	40.4%	22.7%	6.1%	16.7%	17.2%	17.2%	10.6%	14.6%	1.0%

希望する休み等の過ごし方をみると、平日の学校等の放課後は、障がい種別に関係なく「障がいのない友だちとの遊びや交流をさせたい」が最も多く（身体：46.8%、知的：37.4%）、次いで、身体障がいでは「学校のクラブ活動等に参加させたい」が29.8%、知的障がいでは「スポーツをさせたい」が33.8%となっている。

学校等の休みの昼間は、身体障がいでは「障がいのない友だちとの遊びや交流をさせたい」が38.3%で最も多く、次いで、「障がいのある友だちとの遊びや交流をさせたい」が24.5%となっている。知的障がいでは「スポーツをさせたい」が30.8%で最も多く、次いで、「障がいのない友だちとの遊びや交流をさせたい」が29.3%となっている。

夏休みなど長い休みの昼間は、身体障がいでは「障がいのない友だちとの遊びや交流をさせたい」が45.7%で最も多く、次いで、「家族と一緒に旅行に連れていきたい」が43.6%となっている。知的障がいでは「家族と一緒に旅行に連れていきたい」が40.4%で最も多く、次いで、「障がいのない友だちとの遊びや交流をさせたい」が32.8%となっている。

（3）外出の際に困ること

図表　外出の際に困ること（複数回答）

		集計母数	道路や駅の周辺、建物の段差で移動しにくい	道路や歩道の自転車や店の看板などが邪魔で通りにくい	車道と歩道の区別がわかりにくくて危険を感じる	道路や建物に点字ブロックが敷かれていない	音声信号がなくて横断歩道を渡りにくい	バスや電車の乗り降りの介助をしてもらえない	電車やバスの切符の買い方、料金の支払い方がわからない	信号や道路標識の意味がわからない
障がい種別	全体	244	15.2%	13.1%	16.0%	0.4%	0.8%	11.1%	29.5%	13.9%
	身体障がい	94	31.9%	23.4%	17.0%	1.1%	1.1%	23.4%	16.0%	5.3%
	知的障がい	198	14.1%	12.6%	16.7%	0.5%	1.0%	10.1%	34.8%	16.7%

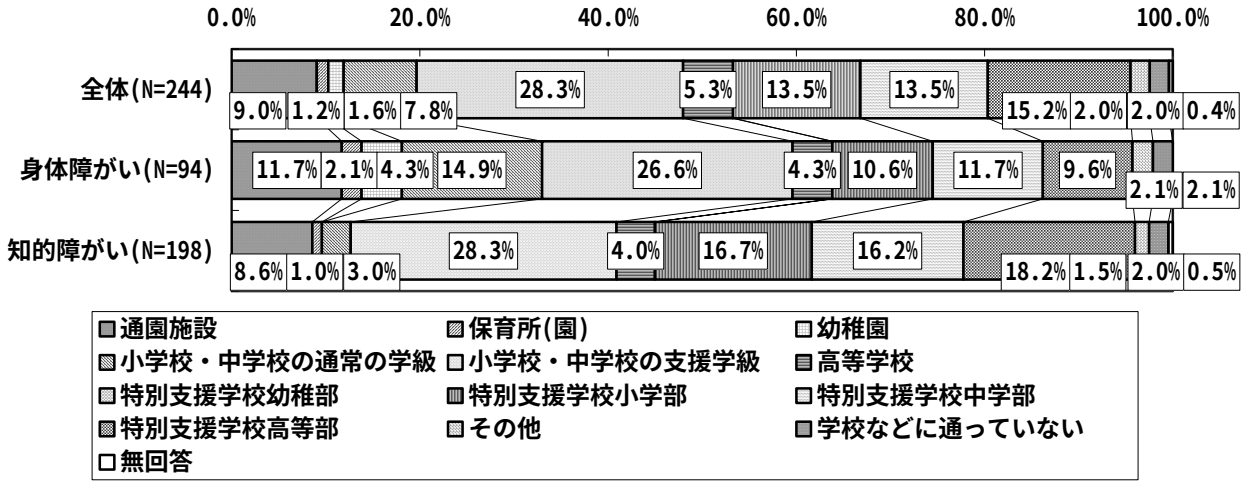
		集計母数	建物のスロープの勾配がきつい	建物に車いす用のトイレや手すりがない	公共施設や駅などのエレベーターやエスカレーターの場所がわかりにくい	障がい者のための施設・設備を示すシンボルマークの表示がない	手助けを求める声を気軽にかけられない	他人の目や言動が気になる、または他人に迷惑をかけるので、出かける気になれない	その他	特に困っていることはない
障がい種別	全体	244	4.1%	6.6%	11.9%	4.9%	21.3%	22.1%	18.4%	18.9%
	身体障がい	94	9.6%	17.0%	23.4%	4.3%	18.1%	12.8%	22.3%	18.1%
	知的障がい	198	3.5%	6.6%	10.1%	5.6%	21.7%	24.7%	18.2%	16.2%

外出の際に困ることをみると、「特に困っていることはない」を除き、身体障がいでは「道路や駅の周辺、建物の段差で移動しにくい」が31.9%、知的障がいでは「電車やバスの切符の買い方、料金の支払い方がわからない」が34.8%でそれぞれ最も多い。

3　学校、進路のことについて

（1）通学・通園状況

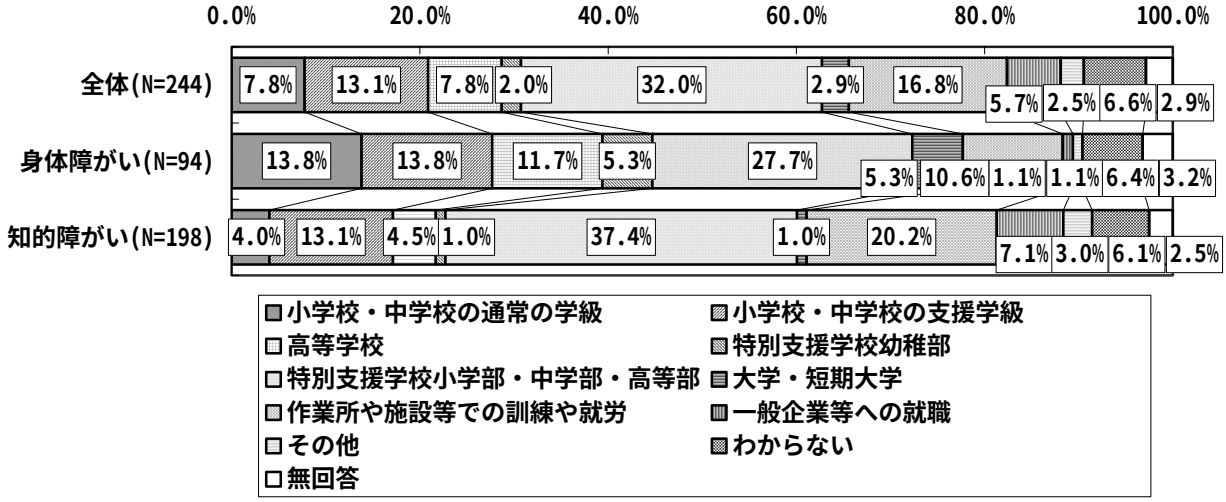
図表　通学・通園状況



通学・通園状況をみると、障がい種別に関係なく「小学校・中学校の支援学級」が最も多く（身体：26.6%、知的：28.3%）、次いで、身体障がいでは「小学校・中学校の通常の学級」が14.9%、知的障がいでは「特別支援学校高等部」が18.2%となっている。

（2）希望の進路

図表　進路の希望



進路の希望をみると、「その他」と「わからない」を除き、障がい種別に関係なく「特別支援学校小学部･中学部･高等部」が最も多く（身体：27.7%、知的：37.4%）、次いで、身体障がいでは「小学校・中学校の通常の学級」と「小学校・中学校の支援学級」がともに13.8%、知的障がいでは「作業所や施設等での訓練や就労」が20.2%となっている。

（3）学校等で困っていること

図表　学校等で困っていること（複数回答）

		集計母数	学校等の施設や設備が障がいに配慮されていない	他の児童・生徒との人間関係がうまくいかない	他の児童・生徒の障がいに対する理解・配慮が足りない	学校として障がいに対する理解・配慮が足りない	通学・通園のための移動手段や移動介助が確保しにくい	希望する個別指導を受けられない	適切な指導・相談に応じてもらえない	進級・進学に関する	その他
障がい種別	全体	244	7.4%	19.3%	14.3%	18.0%	13.9%	11.1%	5.3%		19.7%
	身体障がい	94	13.8%	16.0%	11.7%	14.9%	28.7%	9.6%	4.3%		21.3%
	知的障がい	198	5.1%	18.2%	13.6%	18.2%	11.1%	12.1%	5.1%		19.2%

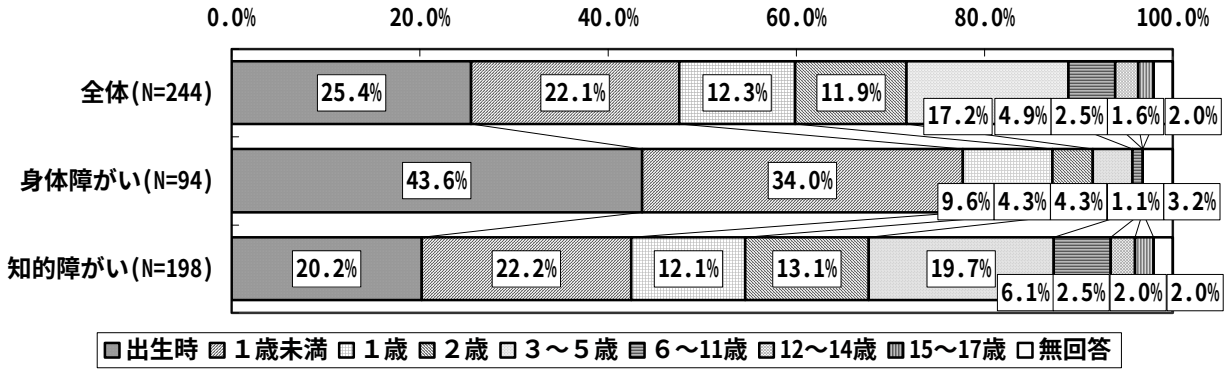
学校等で困っていることをみると、「その他」を除き、身体障がいでは「通学・通園のための移動手段や移動介助が確保しにくい」が28.7%で最も多く、次いで、「他の児童・生徒との人間関係がうまくいかない」が16.0%となっている。知的障がいでは「他の児童・生徒との人間関係がうまくいかない」と「学校として障がいに対する理解・配慮が足りない」がともに18.2%で最も多い。

「学校等の施設や設備が障がいに配慮されていない」や「通学・通園のための移動手段や移動介助が確保しにくい」は、身体障がいが知的障がいに比べて多く、その差が大きい。逆に、「学校として障がいに対する理解・配慮が足りない」は知的障がいが身体障がいに比べて多く、その差が大きい。

４　障がいの状況の診断・判定、療育について

（１）障がいが判明した時期

図表　障がいが判明した時期



障がいが判明した時期をみると、身体障がいでは「出生時」が43.6%で最も多く、次いで、「１歳未満」が34.0%となっており、１歳未満が75%以上を占めている。知的障がいでは「１歳未満」が22.2%で最も多く、次いで、「出生時」が20.2%となっている。

（２）障がいが判明したきっかけ

図表　障がいが判明したきっかけ（複数回答）

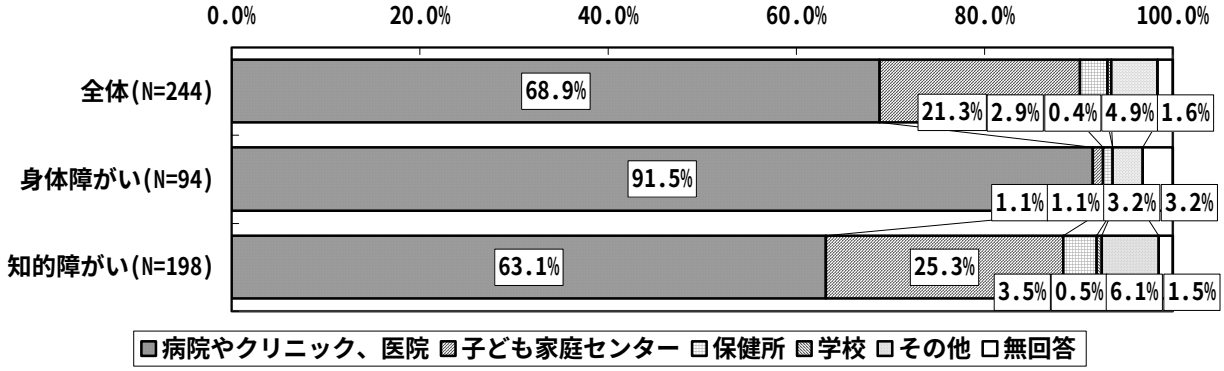
		集計母数	市の乳幼児健診	かかりつけ医のアドバイス	保健師のアドバイス	幼稚園や保育所での健診	学校での健診	幼稚園や保育所の教員・保育士のアドバイス	学校の教員のアドバイス	家族が気になる症状に気づいて	その他
障がい種別	全体	244	30.3%	21.3%	8.6%	1.6%	0.4%	6.1%	4.9%	34.0%	23.8%
	身体障がい	94	12.8%	28.7%	6.4%	0.0%	1.1%	1.1%	0.0%	27.7%	39.4%
	知的障がい	198	34.3%	19.2%	9.1%	2.0%	0.0%	7.6%	6.1%	35.9%	20.2%

障がいが判明したきっかけをみると、「その他」を除き、身体障がいでは「かかりつけ医のアドバイス」が28.7%で最も多く、次いで、「家族が気になる症状に気づいて」27.7%となっている。知的障がいでは「家族が気になる症状に気づいて」が35.9%で最も多く、次いで、「市の乳幼児健診」が34.3%となっている。

「かかりつけ医のアドバイス」は身体障がいが知的障がいに比べて多いが、「市の乳幼児健診」や「幼稚園や保育所の教員・保育士のアドバイス」「学校の教員のアドバイス」「家族が気になる症状に気づいて」などは知的障がいが身体障がいに比べて多い。

（３）障がいの診断・判定が確定した場所

図表　障がいの診断・判定が確定した場所



障がいの診断・判定が確定した場所をみると、障がい種別に関係なく「病院やクリニック」が最も多く（身体：91.5%、知的：63.1%）、身体障がいでは91.5%となっている。また、知的障がいでは「子ども家庭センター」が25.3%となっている。

（4）障がいの診断・判定を受けた頃に困っていたこと

図表　障がいの診断・判定を受けた頃に困っていたこと（複数回答）

		集計母数	障がいのことや療育について相談できる医療機関や相談窓口が十分になかった	適切な治療を受けられる医療機関が十分になかった	療育施設が十分になかった	保健所や病院等に相談しても、適切な情報提供、助言・指導を受けられなかった	介護などのために利用できる福祉サービスの種類・内容がわからなかった	保護者が仕事を続けられないなど仕事上の問題が生じた	医療費などの助成を受けられるかどうかわからなかった	成長段階に応じて、適切かつ継続的な支援を受けられるか不安だった	その他
障がい種別	全体	244	37.7%	19.7%	15.6%	17.6%	28.7%	17.6%	18.9%	54.5%	8.6%
	身体障がい	94	40.4%	11.7%	16.0%	16.0%	27.7%	25.5%	22.3%	52.1%	10.6%
	知的障がい	198	37.4%	20.7%	17.7%	17.7%	30.3%	17.7%	15.7%	55.1%	8.1%

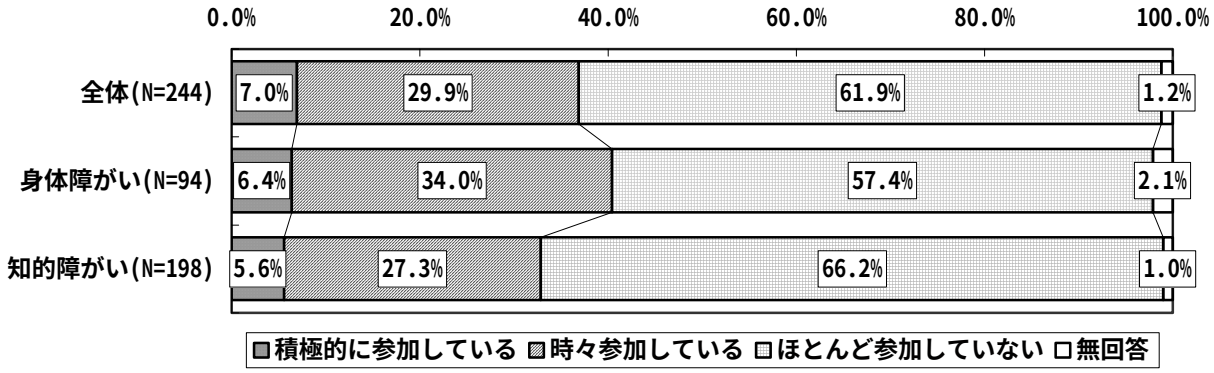
障がいの診断・判定を受けた頃に困っていたことをみると、障がい種別に関係なく「成長段階に応じて、適切かつ継続的な支援を受けられるか不安だった」が最も多く（身体：52.1%、知的：55.1%）、次いで、「障がいのことや療育について相談できる医療機関や相談窓口が十分になかった」（身体：40.4%、知的：37.4%）となっている。

「適切な治療を受けられる医療機関が十分になかった」は知的障がいが身体障がいに比べて多く、「保護者が仕事を続けられないなど仕事上の問題が生じた」や「医療費などの助成を受けられるかどうかわからなかった」は身体障がいが知的障がいに比べて多く、障がい種別間での差が大きい。

5　地域との関わりについて

（1）地域での活動や行事への参加状況

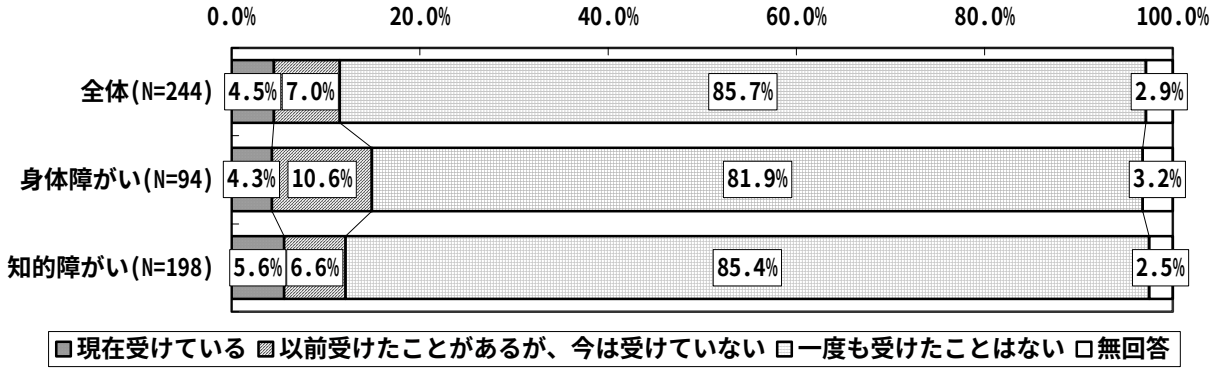
図表　地域での活動や行事への参加状況



地域での活動や行事への参加状況をみると、障がい種別に関係なく「ほとんど参加していない」が最も多い（身体：57.4%、知的：66.2%）。「積極的に参加している」と「時々参加している」とを合計した「参加している」人は、身体障がいでは40.4%、知的障がいでは32.9%となっている。

（２）近所の人やボランティアによる支援の経験の有無

図表　近所の人やボランティアによる支援の経験の有無



近所の人やボランティアによる支援の経験の有無をみると、障がい種別に関係なく「一度も受けたことはない」が最も多い（身体：81.9%、知的：85.4%）。

（３）地域福祉の担い手の認知度

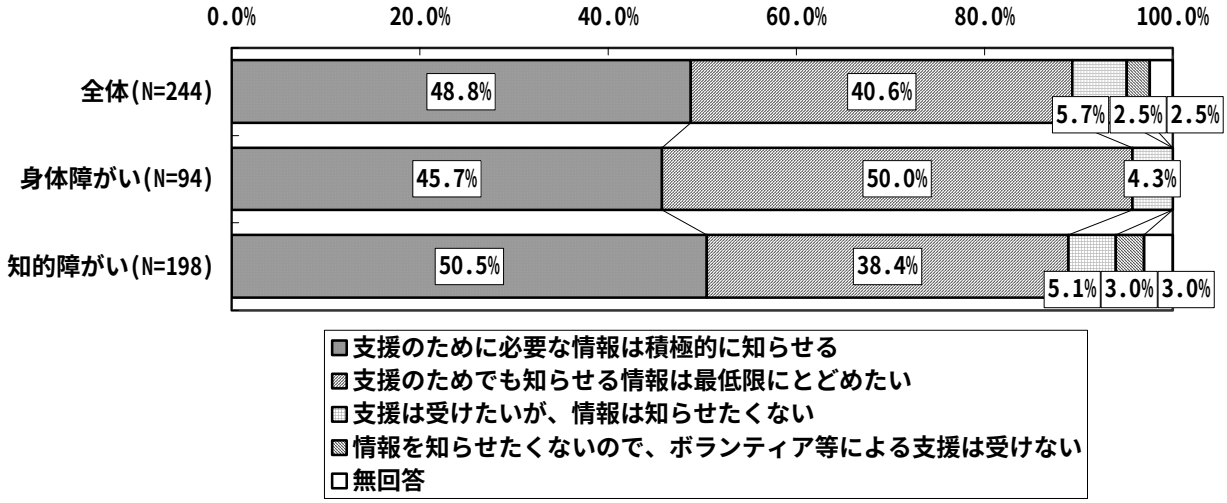
図表　地域福祉の担い手の認知度（複数回答）

		集計母数	民生委員・児童委員	社会福祉協議会の地区福祉委員	自治会	社会福祉協議会のボランティア団体	住民や学生等によるボランティア団体	その他
障がい種別	全体	244	40.2%	13.5%	14.3%	12.7%	11.1%	4.9%
	身体障がい	94	36.2%	10.6%	8.5%	17.0%	6.4%	5.3%
	知的障がい	198	38.4%	13.6%	14.6%	12.1%	11.1%	5.1%

地域福祉の担い手の認知度をみると、障がい種別に関係なく「民生委員・児童委員」が最も多く（身体：36.2%、知的：38.4%）、次いで、身体障がいでは「社会福祉協議会のボランティア団体」が17.0%、知的障がいでは「自治会」が14.6%となっている。

（4）支援のために必要な情報のボランティア等への提供に関する意識

図表　支援のために必要な情報のボランティア等への提供に関する意識



支援のために必要な情報のボランティア等への提供に関する意識をみると、身体障がいでは「支援のためでも知らせる情報は最低限にとどめたい」が50.0%で最も多く、「支援のために必要な情報は積極的に知らせる」の45.7%を上回っている。これに対し、知的障がいでは「支援のために必要な情報は積極的に知らせる」が50.5%で最も多く、「支援のためでも知らせる情報は最低限にとどめたい」の38.4%を上回っている。

（5）ボランティア等に支援してほしいこと

図表　ボランティア等に支援してほしいこと（複数回答）

		集計母数	他人との意思疎通の手助けをする	外出の際の付き添いをする	趣味やレクリエーションの活動をする	障がい者同士、同じ障がいのある仲間同士で集まれる場を設ける	障がいのある人とない人とが交流できる場を設ける	日常の相談に応じる	自宅での家事や食事、入浴の手助けをする	家族が急用などで介護できないときの見守りをする	授産製品の販売活動などを助けてくれる	その他	ボランティア等による支援は受けたくない
障がい種別	全体	244	24.6%	46.3%	38.5%	22.1%	32.8%	13.1%	6.6%	43.9%	1.6%	6.6%	5.3%
	身体障がい	94	19.1%	38.3%	21.3%	25.5%	38.3%	11.7%	11.7%	39.4%	2.1%	11.7%	3.2%
	知的障がい	198	25.8%	50.5%	41.9%	23.2%	32.8%	13.1%	6.1%	49.0%	1.5%	4.0%	5.1%

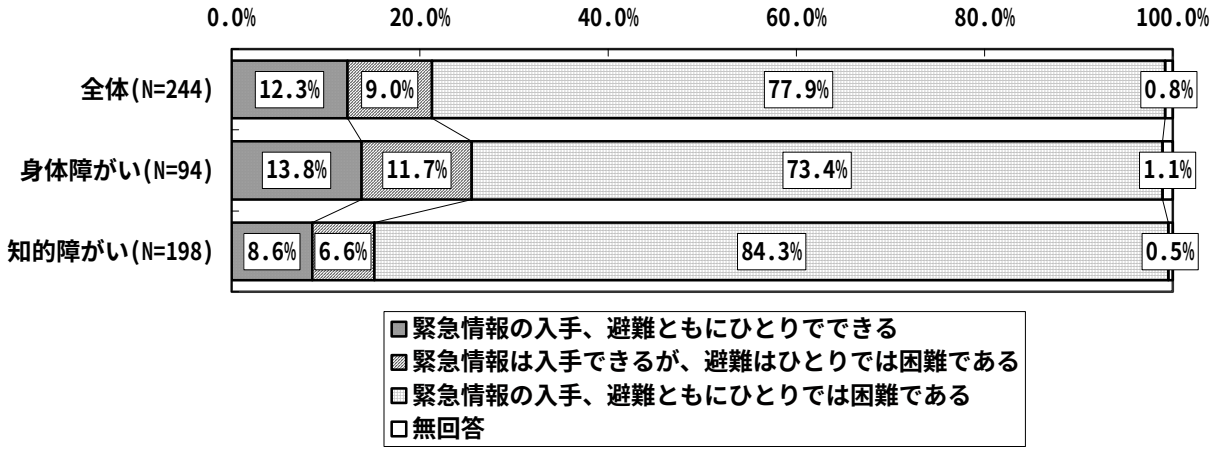
ボランティア等に支援してほしいことをみると、身体障がいでは「家族が急用などで介護できないときの見守りをする」が39.4%、知的障がいでは「外出の際の付き添いをする」が50.5%でそれぞれ最も多い。

「障がいのある人とない人とが交流できる場を設ける」や「自宅での家事や食事、入浴の手助けをする」は身体障がいが知的障がいに比べて多く、逆に、「他人との意思疎通の手助けをする」や「外出の際の付き添いをする」「趣味やレクリエーションの活動をする」「家族が急用などで介護できないときの見守りをする」は知的障がいが身体障がいに比べて多く、障がい種別間での差が大きい。

6　災害など緊急時の対応について

（1）災害発生時の緊急情報入手・避難能力

図表　災害発生時の緊急情報入手・避難能力



災害発生時の緊急情報入手・避難能力をみると、障がい種別に関係なく「緊急情報の入手、避難ともにひとりでは困難である」が最も多い（身体：73.4%、知的：84.3%）。

（2）災害発生時に困ること

図表　災害発生時に困ること（複数回答）

		集計母数	どこで、どんな災害が起こったのかを知ることができない	助けを求めるための手段がない	助けを求めても、すぐに助けに来てくれる人がいない	避難するために手助けしてくれる人が必要である	避難場所等で周りの人との意思疎通がうまくできない	避難場所で必要な介護を受けられない	必要な薬が手に入らなかったり、治療を受けられなかったりする
障がい種別	全体	244	66.4%	47.5%	28.3%	57.4%	52.5%	24.6%	28.7%
	身体障がい	94	60.6%	45.7%	29.8%	56.4%	41.5%	31.9%	37.2%
	知的障がい	198	73.7%	55.6%	30.3%	62.6%	60.6%	26.3%	27.3%

		集計母数	医療的ケアを受けられなくなる	補装具や日常生活用具を使えなくなる	避難場所が障がい者に配慮されていない	ふだんと違う状況に、不安になったり混乱したりする	その他	特に困ることはない
障がい種別	全体	244	17.2%	14.8%	35.7%	59.4%	4.9%	4.1%
	身体障がい	94	23.4%	30.9%	42.6%	39.4%	3.2%	6.4%
	知的障がい	198	15.7%	12.6%	36.9%	67.2%	5.1%	2.0%

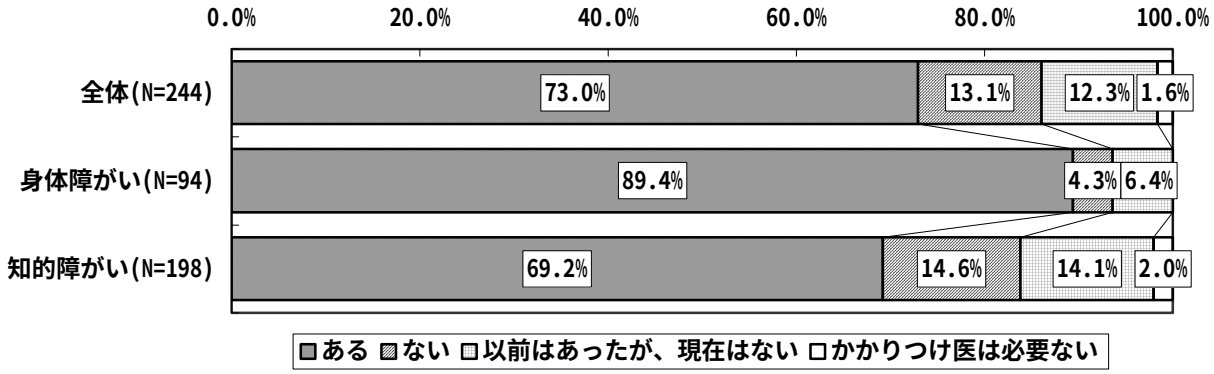
災害発生時に困ることをみると、障がい種別に関係なく「どこで、どんな災害が起こったのかを知ることができない」が最も多い（身体：60.6%、知的：73.7%）。

「避難場所等で周りの人との意思疎通がうまくできない」や「ふだんと違う状況に、不安になったり混乱したりする」は知的障がいが身体障がいに比べて多く、その差が大きい。

7　医療の受診、医療的な支援について

（1）かかりつけ医の有無

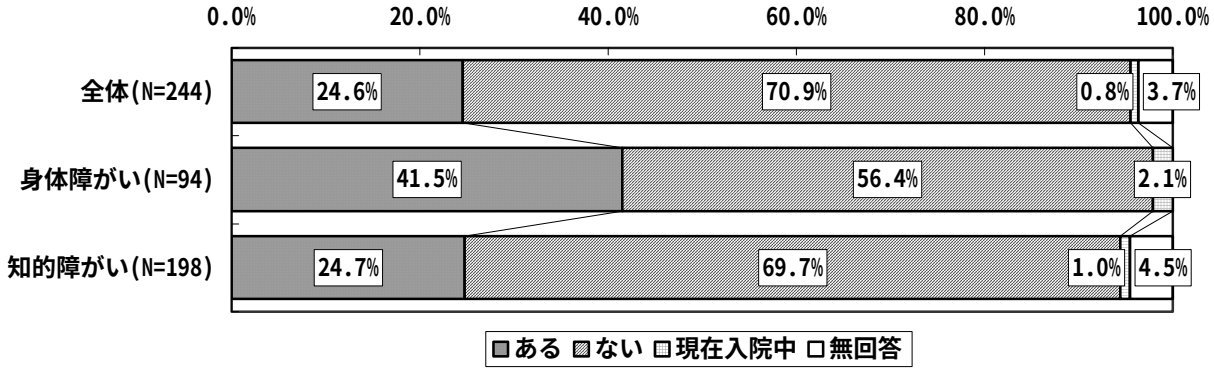
図表　かかりつけ医の有無



かかりつけ医の有無をみると、障がい種別に関係なく「ある」（身体：89.4%、知的：69.2%）が「ない」（身体：4.3%、知的：14.6%）を上回っている。

（２）夜間や休日に医師の診察を受ける必要が生じた経験

図表　夜間や休日に医師の診察を受ける必要が生じた経験



夜間や休日に医師の診察を受ける必要が生じた経験をみると、「ない」（身体：56.4%、知的：69.7%）が「ある」（身体：41.5%、知的：24.7%）を上回っている。

（３）夜間や休日に医師の診察を受ける必要が生じたときの対応

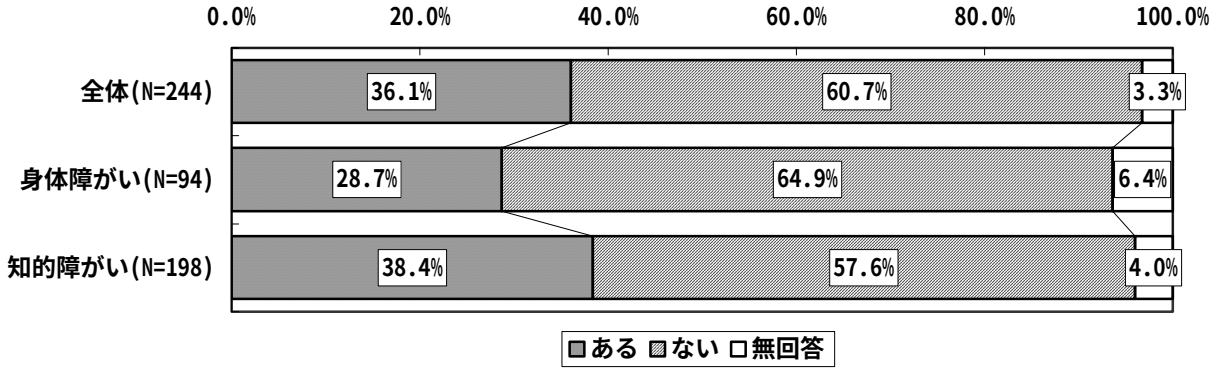
図表　夜間や休日に医師の診察を受ける必要が生じたときの対応（複数回答）

		集計母数	かかりつけの病院やクリニックですぐにみてもらえた	かかりつけ以外の病院やクリニックですぐにみてもらえた	とん服薬を服用して我慢した	かかりつけの病院やクリニックが開くまで何もせずに我慢した	電話相談機関に電話をした	家族や友人に相談をした	その他
障がい種別	全体	60	63.3%	28.3%	8.3%	0.0%	10.0%	1.7%	15.0%
	身体障がい	39	71.8%	28.2%	12.8%	0.0%	7.7%	0.0%	7.7%
	知的障がい	49	61.2%	30.6%	8.2%	0.0%	8.2%	2.0%	16.3%

夜間や休日に医師の診察を受ける必要が生じたときの対応をみると、障がい種別に関係なく「かかりつけの病院やクリニックですぐにみてもらえた」が最も多く（身体：71.8%、知的：61.2%）、次いで、「かかりつけ以外の病院やクリニックですぐにみてもらえた」（身体：28.2%、知的：30.6%）となっている。

（４）障がい以外のけがや病気の際に、病院などで不適切な対応を受けた経験の有無

図表　障がい以外のけがや病気の際に、病院などで不適切な対応を受けた経験の有無



障がい以外のけがや病気の際に、病院などで不適切な対応を受けた経験の有無をみると、障がい種別に関係なく、「ない」（身体：64.9%、知的：57.6%）が「ある」（身体：28.7%、知的：38.4%）を上回っている。

（５）病院などで経験した不適切な対応等

図表　病院などで経験した不適切な対応等（複数回答）

		集計母数	医師の態度や言動でいやな思いをした	看護師や受付の人の態度や言動でいやな思いをした	診療を拒否された	入院できなかったり、すぐに退院させられたりした	障がいがあることで、通常受けられる医療や検査を受けられなかった	障がいがあることで、付き添いなど特別な対応を求められた	医師や看護師などが障がい者への対応に慣れていなかった	待合室等での他の患者の態度や言動でいやな思いをした
障がい種別	全体	88	62.5%	39.8%	10.2%	2.3%	11.4%	19.3%	42.0%	28.4%
	身体障がい	27	48.1%	29.6%	14.8%	0.0%	7.4%	18.5%	29.6%	22.2%
	知的障がい	76	65.8%	43.4%	7.9%	2.6%	11.8%	21.1%	44.7%	31.6%

病院などで経験した不適切な対応等をみると、障がい種別に関係なく「医師の態度や言動でいやな思いをした」が最も多く（身体：48.1%、知的：65.8%）、次いで、「医師や看護師などが障がい者への対応に慣れていなかった」（身体：29.6%、知的：44.7%）となっている（身体障がいは「看護師や受付の人の態度や言動でいやな思いをした」も同率）。

（６）必要とする医療的ケア（複数回答）

図表　必要としている医療的ケア

		集計母数	膀胱留置カテーテル	導尿	摘便	人工肛門の造設	胃ろう	経管栄養	人工呼吸器の装着	気管切開
障がい種別	全体	244	0.4%	1.6%	0.8%	0.4%	2.0%	2.5%	1.2%	0.4%
	身体障がい	94	1.1%	4.3%	2.1%	1.1%	5.3%	6.4%	3.2%	1.1%
	知的障がい	198	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	2.5%	0.0%	0.0%
年齢	６歳未満	29	0.0%	3.4%	0.0%	3.4%	10.3%	6.9%	0.0%	3.4%
	６～11歳	75	1.3%	1.3%	0.0%	0.0%	1.3%	4.0%	2.7%	0.0%
	12～14歳	66	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	1.5%	1.5%	0.0%
	15～17歳	71	0.0%	2.8%	1.4%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%

		集計母数	気管内・口腔内吸引	在宅酸素療法	じょく瘡（床ずれ）の処置	インシュリン注射	経中心静脈栄養（ＥＶＨ、ＣＶ等）	その他	特に必要ない
障がい種別	全体	244	2.9%	3.3%	0.4%	0.0%	0.4%	10.2%	74.6%
	身体障がい	94	7.4%	8.5%	1.1%	0.0%	1.1%	18.1%	58.5%
	知的障がい	198	2.5%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	77.8%
年齢	６歳未満	29	3.4%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	75.9%
	６～11歳	75	5.3%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	14.7%	64.0%
	12～14歳	66	1.5%	3.0%	0.0%	0.0%	1.5%	6.1%	81.8%
	15～17歳	71	1.4%	1.4%	1.4%	0.0%	0.0%	12.7%	77.5%

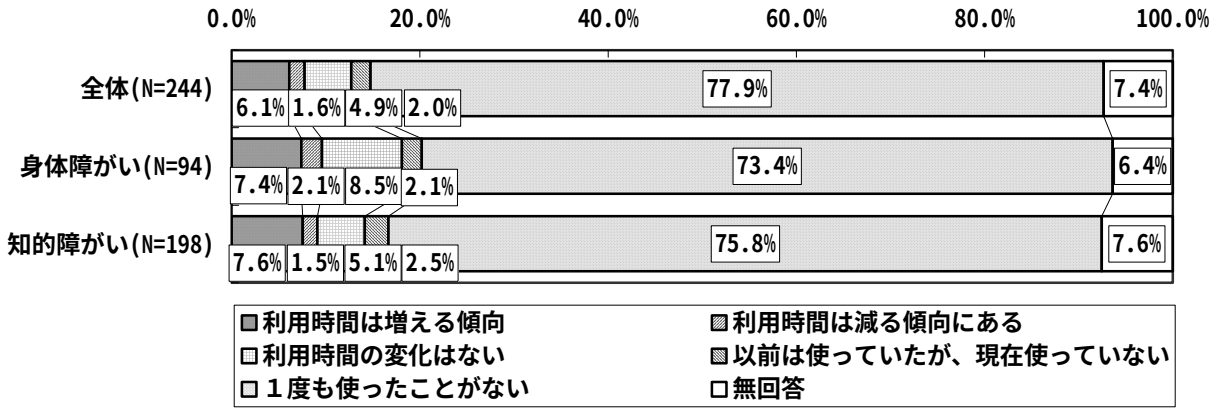
必要としている医療的ケアをみると、「その他」と「医療的ケアは必要ない」を除き、身体障がいでは「在宅酸素療法」が8.5%で最も多く、次いで、「気管内・口腔内吸引」が7.4%となっている。知的障がいでは「経管栄養」と「気管内・口腔内吸引」がともに2.5%で最も多い。

８　障害者自立支援法に関するサービスについて

（１）障害者自立支援法で定められているサービスの利用状況

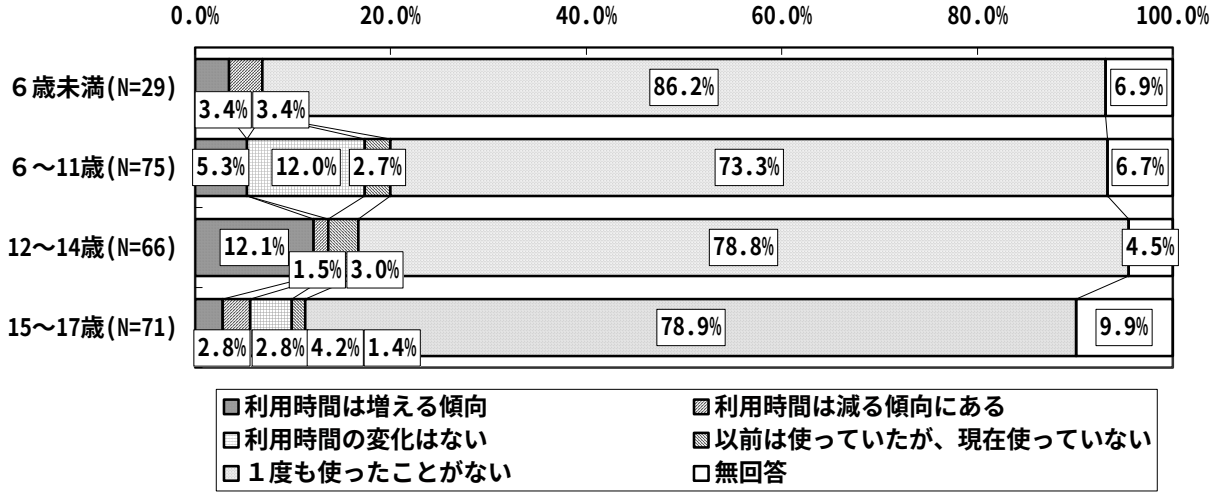
ア　訪問系サービス

図表　訪問系サービス



訪問系サービスの利用状況をみると、利用時間の長短に関係なく、現在利用している人は身体障がい（18.0%）が知的障がい（14.2%）を上回っている。

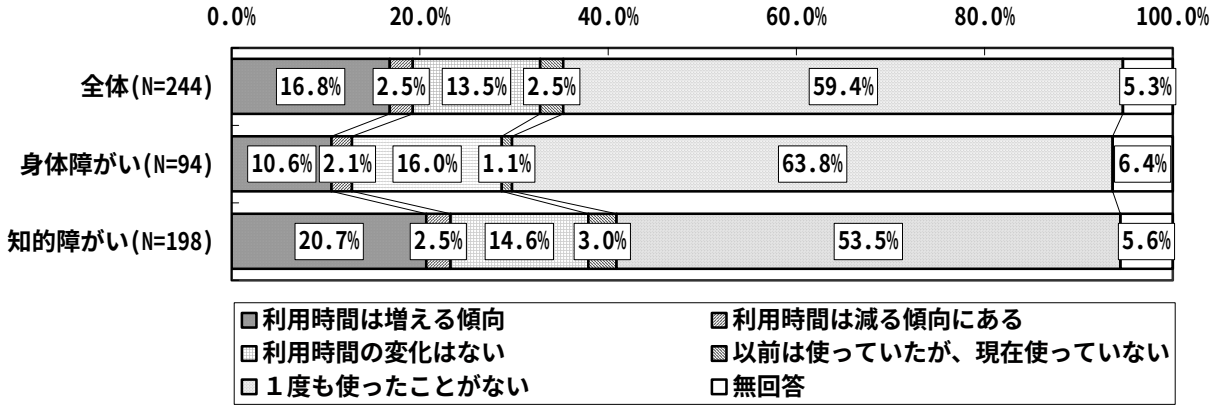
図表　訪問系サービス（年齢別）



年齢別にみると、「利用時間は増える傾向」は12～14歳が12.1%で最も多い。

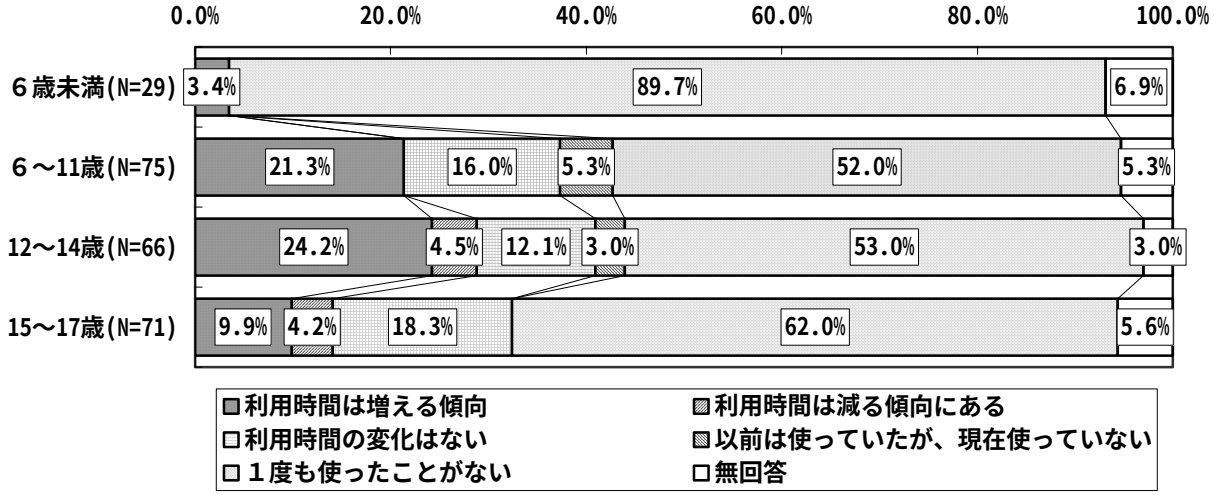
イ　ガイドヘルプサービス

図表　ガイドヘルプサービス



ガイドヘルプサービスの利用状況をみると、利用時間の長短に関係なく、現在利用している人は知的障がい（37.8%）が身体障がい（28.7%）を上回っている。

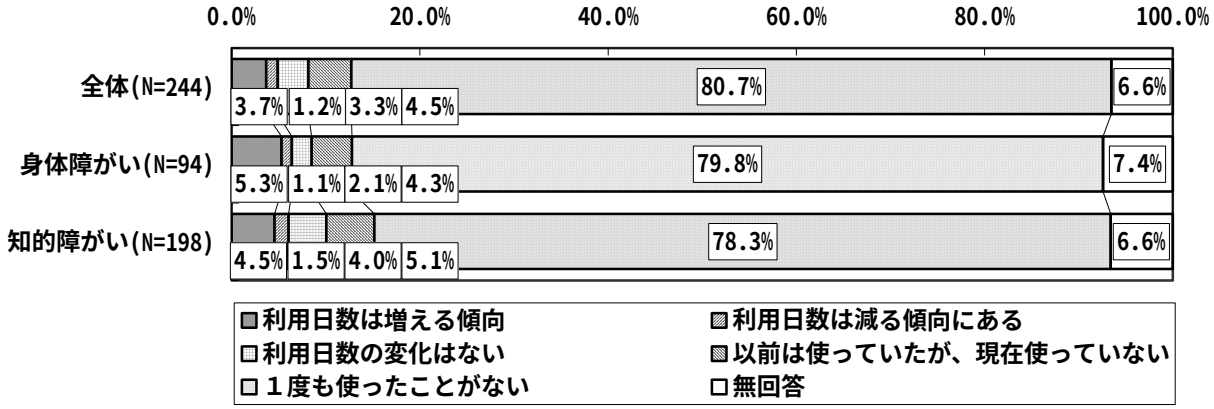
図表　ガイドヘルプサービス（年齢別）



年齢別にみると、「利用時間は増える傾向」は６～14歳の学齢期では20%以上を占め、他の年齢層に比べて多い。

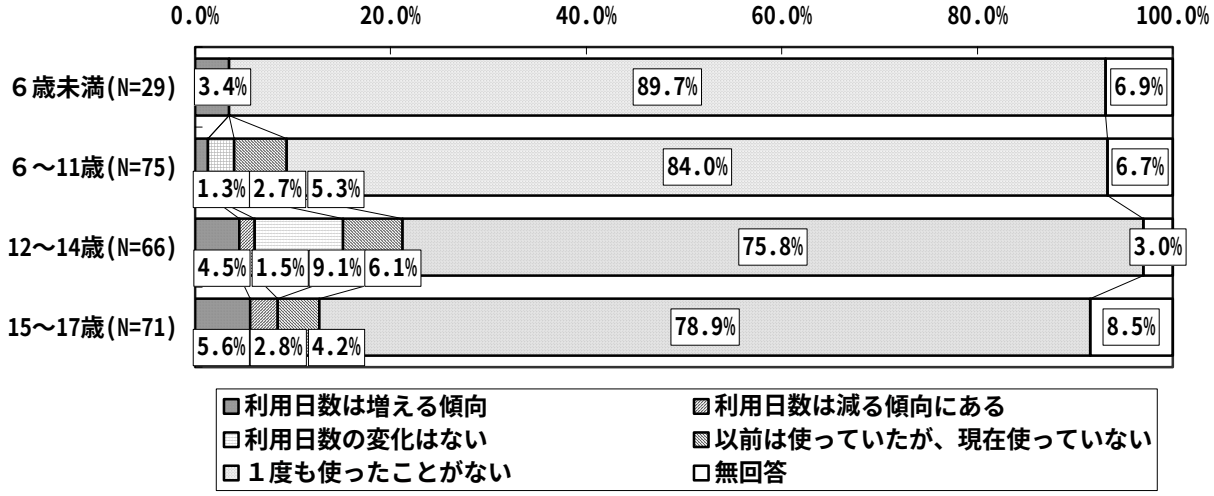
ウ　ショートステイ（短期入所）

図表　ショートステイ



ショートステイ（短期入所）の利用状況をみると、利用日数の長短に関係なく、現在利用している人は、身体障がいでは8.5%、知的障がいでは10.0%と大差はみられない。

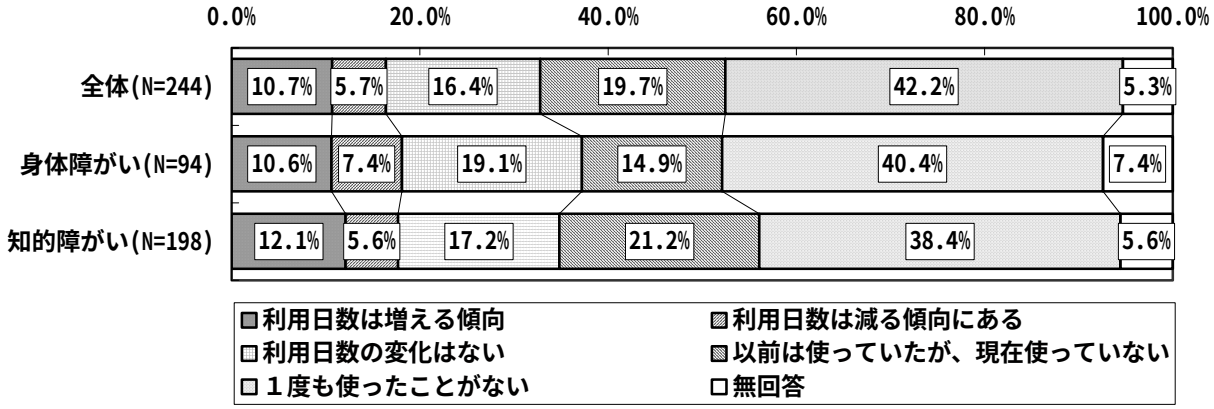
図表　ショートステイ（年齢別）



年齢別にみると、利用日数の長短に関係なく、現在利用している人は12～14歳が15.1%で最も多い。

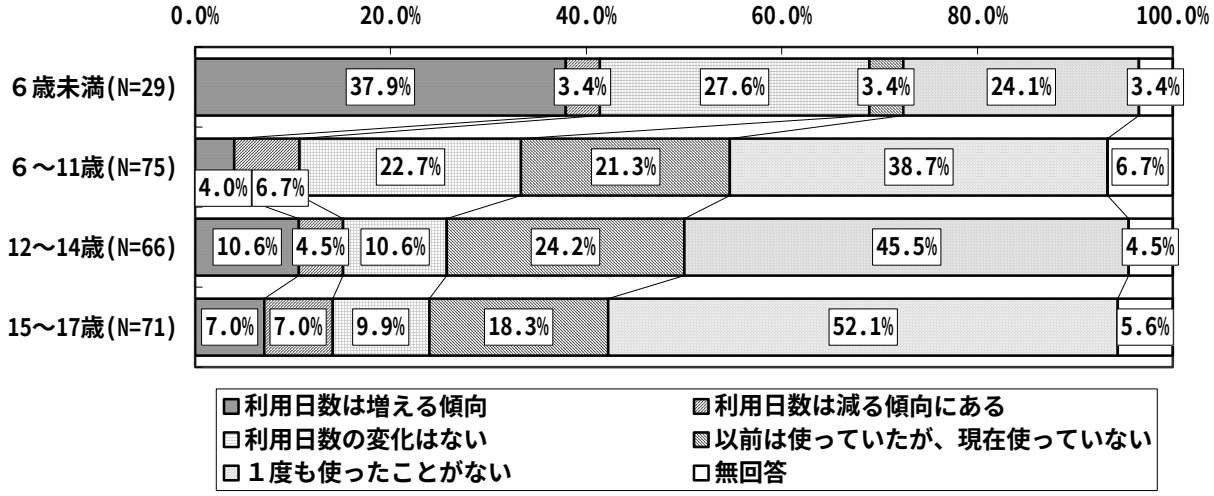
エ　通所系サービス

図表　通所系サービス



通所系サービスの利用状況をみると、利用日数の長短に関係なく、現在利用している人は身体障がいが37.1%、知的障がいが34.9%と大差はみられない。

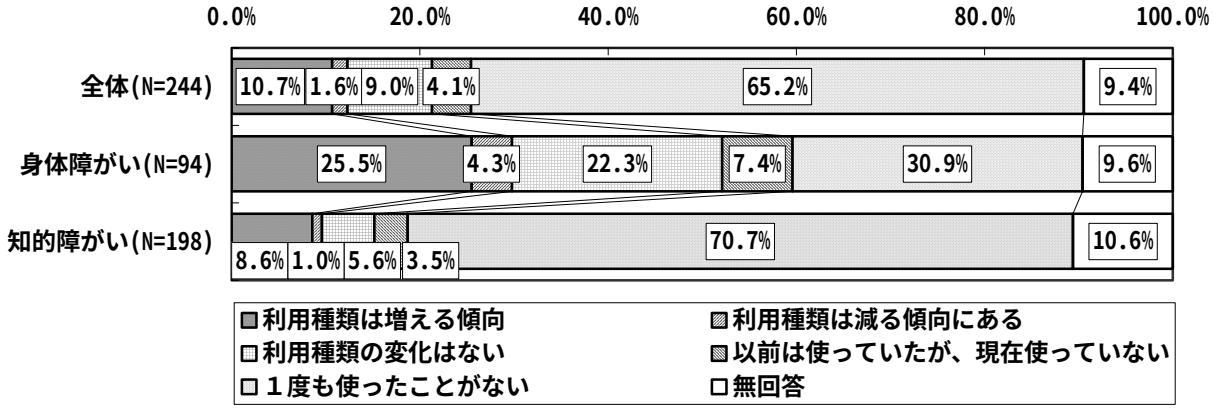
図表　通所系サービス（年齢別）



年齢別にみると、利用日数の多少に関係なく、年齢層が低いほど現在利用している人が多い傾向となっている。

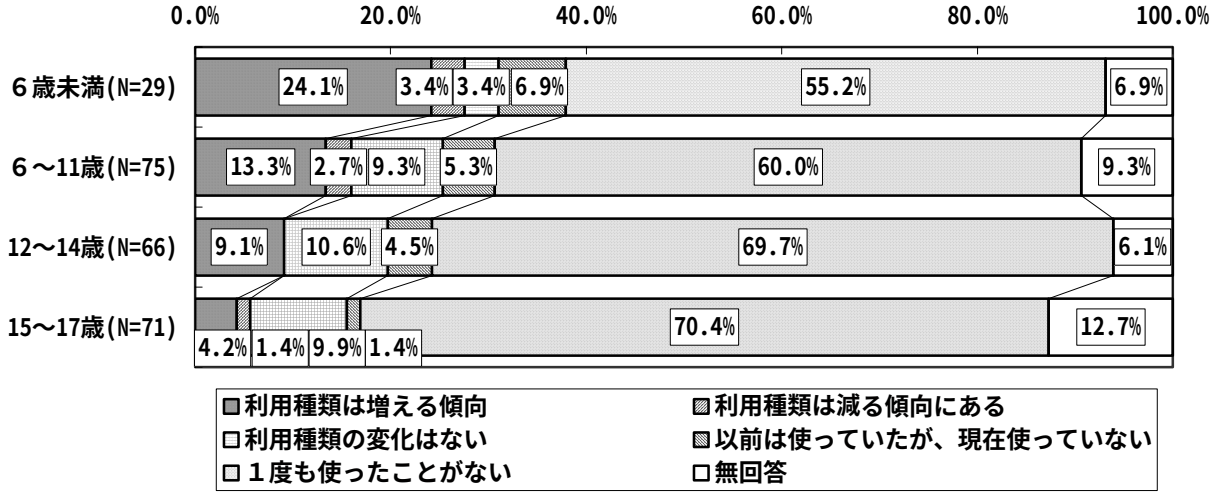
オ　補装具費の支給、日常生活用具の給付等事業

図表　補装具費の支給、日常生活用具の給付等事業



補装具費の支給、日常生活用具の給付等事業の利用状況をみると、利用種類の多少に関係なく、現在利用している人は身体障がい（52.1%）が知的障がい（15.2%）を上回っている。

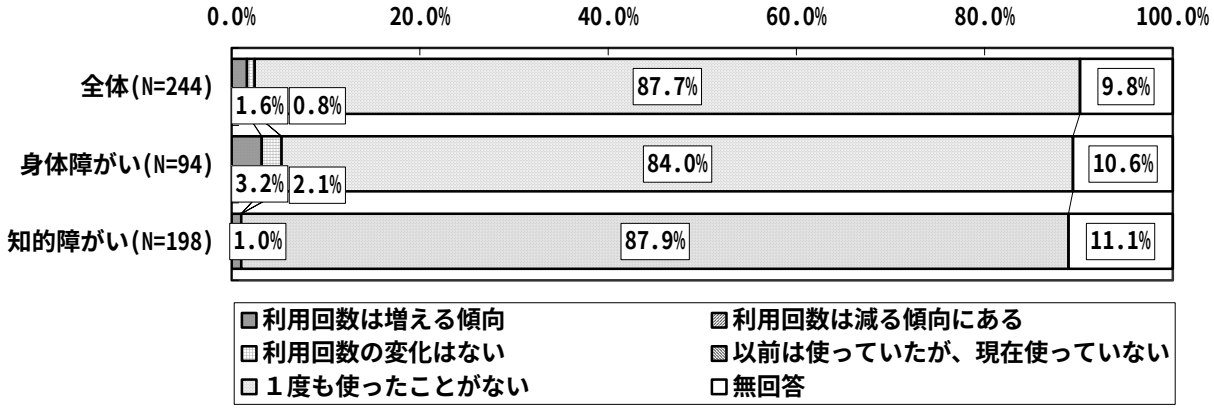
図表　補装具費の支給、日常生活用具の給付等事業（年齢別）



年齢別にみると、利用種類の多少に関係なく、年齢層が低いほど現在利用している人は多い傾向となっている。

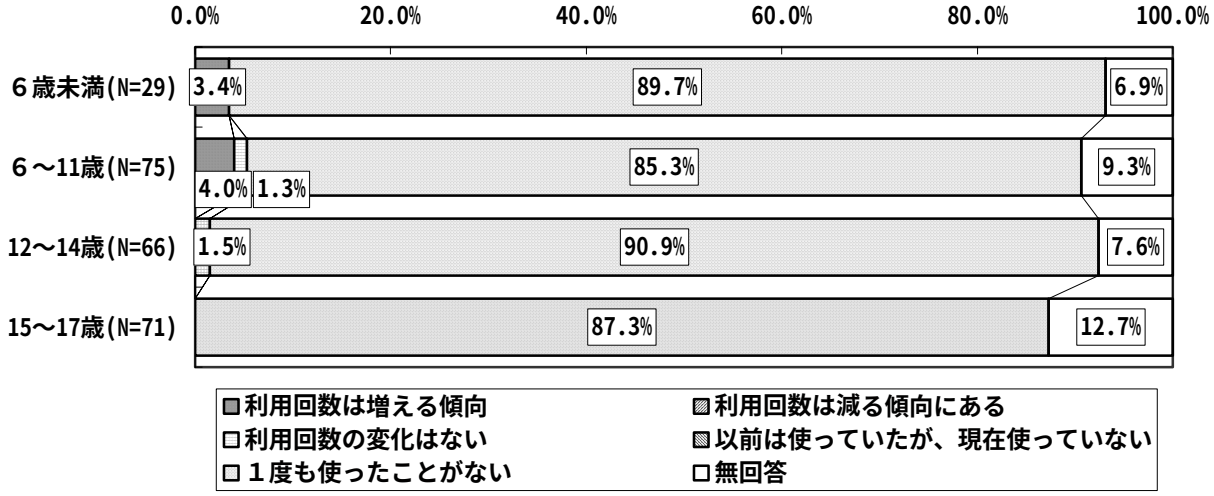
カ　コミュニケーション支援事業

図表　コミュニケーション支援事業



コミュニケーション支援事業の利用状況をみると、利用回数の多少に関係なく、現在利用している人は身体障がい（5.3%）が知的障がい（1.0%）を上回っている。

図表　コミュニケーション支援事業（年齢別）



年齢別にみると、利用回数の多少に関係なく、現在利用している人は６～11歳が5.3%で最も多い。

（2）必要度が高いサービス

図表　必要度が高いサービス（複数回答）

		集計母数	訪問系サービス	ガイドヘルプサービス	ショートステイ（短期入所）	通所系サービス	補装具費の支給、日常生活用具の給付等事業	相談支援事業	コミュニケーション支援事業	特にない
障がい種別	全体	244	12.3%	42.2%	20.1%	30.3%	20.1%	21.7%	18.9%	16.0%
	身体障がい	94	14.9%	28.7%	10.6%	22.3%	50.0%	9.6%	17.0%	14.9%
	知的障がい	198	14.6%	48.0%	23.7%	33.8%	11.6%	24.7%	19.2%	14.1%

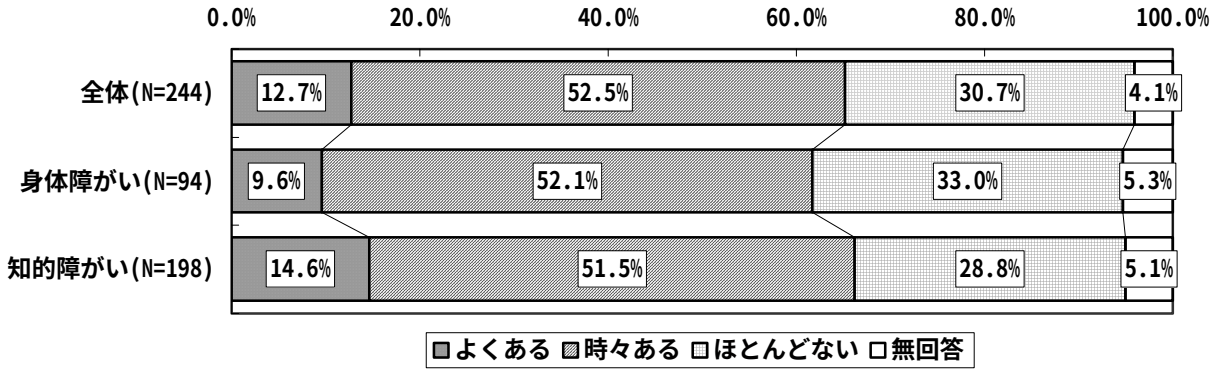
必要度が高いサービスをみると、「特にない」を除き、身体障がいでは「補装具費の支給、日常生活用具の給付等事業」が50.0%、知的障がいでは「ガイドヘルプサービス」が48.0%でそれぞれ最も多い。

「補装具費の支給、日常生活用具の給付当事業」は身体障がいが知的障がいに比べて多く、「ガイドヘルプサービス」や「ショートステイ（短期入所）」「通所系サービス」「相談支援事業」は知的障がいが身体障がいに比べて多く、障がい種別間での差が大きい。

９　心のバリアフリーについて

（１）障がいがあることで不適切な対応等をされた経験の有無

図表　障がいがあることで不適切な対応等をされた経験の有無



障がいがあることで不適切な対応等をされた経験の有無をみると、障がい種別に関係なく「時々ある」が最も多い（身体：52.1%、知的：51.5%）。

（2）障がいがあることで不適切な対応等をされた場面

図表　障がいがあることで不適切な対応等をされた場面（複数回答）

		集計母数	学校の入学や進学の時	学校での生活	就職活動の時	近所づきあい	地域での活動	地域のお店や公共施設などを利用する時	商店などでの入店拒否や店員の態度
障がい種別	全体	244	20.1%	31.1%	1.6%	22.1%	12.7%	18.4%	7.4%
	身体障がい	94	24.5%	28.7%	1.1%	8.5%	4.3%	17.0%	6.4%
	知的障がい	198	18.7%	28.8%	1.5%	26.8%	14.6%	19.7%	8.6%
不適切な対応の経験	よくある	31	38.7%	41.9%	6.5%	51.6%	38.7%	45.2%	22.6%
	時々ある	128	24.2%	41.4%	0.8%	27.3%	14.8%	22.7%	7.8%
	ほとんどない	75	8.0%	12.0%	1.3%	4.0%	0.0%	2.7%	1.3%

		集計母数	病院の診療拒否	タクシー等の乗車拒否	まちでの周りの人の視線や言動	役所での職員の対応	福祉施設で介護職員等の対応	その他
障がい種別	全体	244	4.1%	4.5%	42.2%	5.7%	2.0%	4.9%
	身体障がい	94	3.2%	6.4%	38.3%	6.4%	2.1%	6.4%
	知的障がい	198	4.0%	4.0%	44.4%	6.1%	2.5%	4.5%
不適切な対応の経験	よくある	31	19.4%	0.0%	80.6%	12.9%	6.5%	0.0%
	時々ある	128	3.1%	7.0%	53.9%	7.0%	2.3%	6.3%
	ほとんどない	75	0.0%	2.7%	9.3%	1.3%	0.0%	4.0%

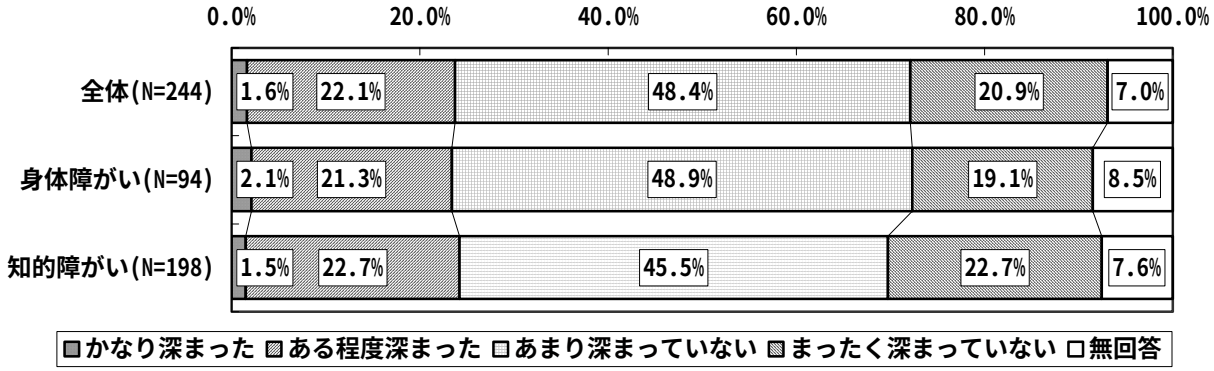
障がいがあることで不適切な対応等をされた場面をみると、障がい種別に関係なく「まちでの周りの人の視線や言動」が最も多く（身体：38.3%、知的：44.4%）、次いで、「学校での生活」（身体：28.7%、知的：28.8%）となっている。

「近所づきあい」や「地域での活動」「まちでの周りの人の視線や言動」は知的障がいが身体障がいに比べて多く、差が特に大きい。

障がいがあることで不適切な対応等をされた経験の有無別にみると、全般的に不適切な対応等の経験の頻度が高いほど多い傾向となっている。

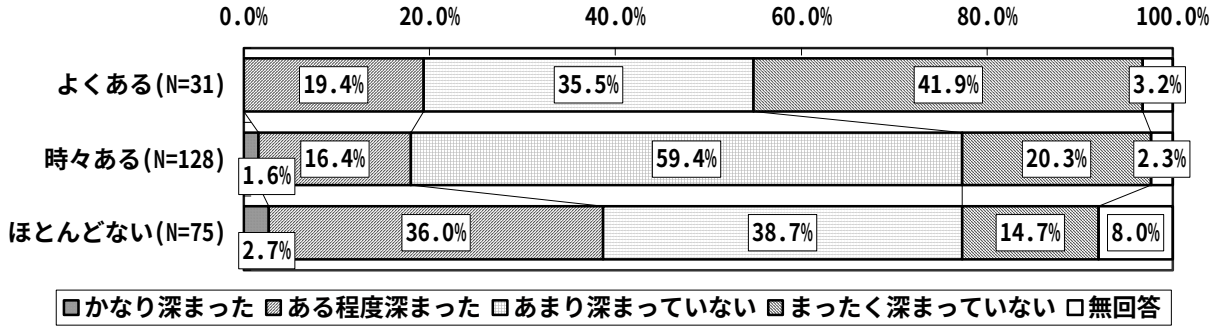
（３）障がい者や障がいに対する市民の理解は深まったか

図表　障がい者や障がいに対する市民の理解は深まったか



障がい者や障がいに対する市民の理解は深まったかをみると、障がい種別に関係なく、「まったく深まっていない」と「あまり深まっていない」とを合計した「深まっていない」（身体：68.0%、知的：68.2%）が「かなり深まった」と「ある程度深まった」とを合計した「深まった」（身体：23.4%、知的：24.2%）を上回っている。

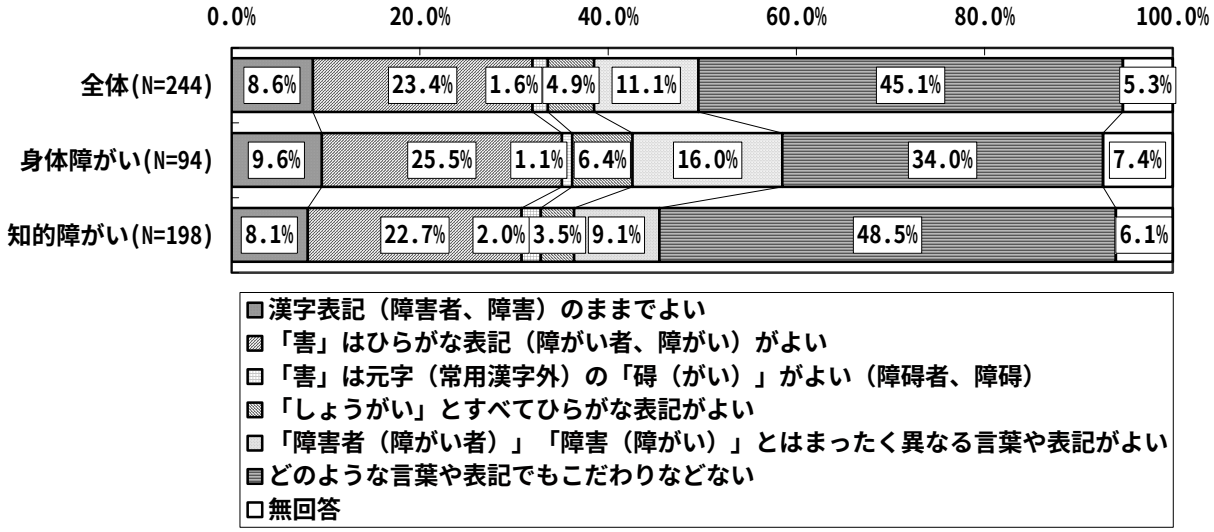
図表　障がい者や障がいに対する市民の理解は深まったか（障がいがあることで不適切な対応等をされた経験の有無別）



障がいがあることで不適切な対応等をされた経験の有無別にみると、不適切な対応の経験が多い人ほど「深まっていない」が多い傾向となっており、「まったく深まっていない」は「よくある」で40%を超えている。

（4）「障害」の「害」の字の表記についての意見

図表　「障害」の「害」の字の表記についての意見



「障害」の「害」の字の表記についての意見をみると、障がい種別に関係なく「どのような言葉や表記でもこだわりなどない」が最も多く（身体：34.0%、知的：48.5%）、次いで、「『害』はひらがな表記（障がい者、障がい）がよい」となっている（身体：25.5%、知的：22.7%）。

（５）障がい者・障がいに対する理解を深めるために吹田市に希望する取組

図表　障がい者・障がいに対する理解を深めるために吹田市に希望する取組（複数回答）

		集計母数	学校教育等を通じて、子どもの頃から障がいに関する教育を行う	企業等での社内教育・研修で、障がいに関する教育を行うよう指導する	市報すいた等の広報媒体を活用して周知・啓発を継続的に行う	障がいのある人とない人とが交流できる機会や場を充実させる	作業所や施設等の授産製品等の販売・展示機会を充実させ、障がい者の活動を知らせる	市が主催する講座・教室等の社会教育を充実させる	その他
障がい種別	全体	244	77.5%	45.5%	14.8%	43.4%	22.1%	20.1%	7.4%
	身体障がい	94	80.9%	38.3%	13.8%	41.5%	12.8%	12.8%	8.5%
	知的障がい	198	76.3%	46.0%	13.6%	44.4%	24.7%	21.7%	7.1%
年齢	６歳未満	29	79.3%	48.3%	17.2%	51.7%	6.9%	20.7%	10.3%
	６～11歳	75	82.7%	37.3%	16.0%	41.3%	14.7%	13.3%	9.3%
	12～14歳	66	72.7%	50.0%	12.1%	43.9%	25.8%	24.2%	3.0%
	15～17歳	71	77.5%	49.3%	14.1%	39.4%	33.8%	23.9%	8.5%
不適切な対応の経験	よくある	31	87.1%	41.9%	6.5%	41.9%	29.0%	29.0%	6.5%
	時々ある	128	87.5%	50.0%	18.8%	50.0%	20.3%	21.1%	8.6%
	ほとんどない	75	66.7%	45.3%	13.3%	37.3%	24.0%	17.3%	5.3%

障がい者・障がいに対する理解を深めるために吹田市に希望する取組をみると、障がい種別に関係なく「学校教育等を通じて、子どもの頃から障がいに関する教育を行う」が最も多い（身体：80.9%、知的：76.3%）。次いで、身体障がいでは「障がいのある人とない人とが交流できる機会や場を充実させる」（41.5%）、知的障がいでは「企業等での社内教育・研修で、障がいに関する教育を行うよう指導する」（46.0%）となっている。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「学校教育等を通じて、子どもの頃から障がいに関する教育を行う」が最も多い。「障がいのある人とない人とが交流できる機会や場を充実させる」は年齢層が低いほど多く、「作業所や施設等の授産製品等の販売・展示機会を充実させ、障がい者の活動を知らせる」は年齢層が高いほど多い傾向がみられる。

障がいがあることで不適切な対応等をされた経験の有無別にみると、不適切な経験の頻度に関係なく「学校教育等を通じて、子どもの頃から障がいに関する教育を行う」が最も多い。

10　将来の暮らしについて

（1）将来の暮らしについての不安

図表　将来の暮らしについての不安（複数回答）

		集計母数	本人の健康や障がいのこと	生活に必要なお金や収入のこと	住まいや生活の場所のこと	介護する人がいなくなること	自傷・他害などの行動のこと	利用できる障がい福祉サービスのこと	結婚や出産・子育てのこと	進学や学校のこと
障がい種別	全体	244	32.4%	48.4%	22.5%	25.8%	3.7%	8.6%	11.5%	14.3%
	身体障がい	94	51.1%	40.4%	19.1%	25.5%	1.1%	9.6%	14.9%	21.3%
	知的障がい	198	26.8%	51.5%	24.7%	29.8%	4.0%	9.6%	6.6%	10.6%
年齢	６歳未満	29	62.1%	24.1%	10.3%	24.1%	0.0%	6.9%	20.7%	31.0%
	６～11歳	75	34.7%	56.0%	17.3%	32.0%	5.3%	9.3%	14.7%	20.0%
	12～14歳	66	25.8%	43.9%	27.3%	24.2%	6.1%	15.2%	7.6%	15.2%
	15～17歳	71	23.9%	53.5%	29.6%	21.1%	1.4%	2.8%	8.5%	1.4%

		集計母数	就職や仕事のこと	引きこもり・閉じこもりのこと	医療や病気のこと	本人が高齢になってからのこと	ご家族が亡くなったあとのこと	意思疎通や対人関係に関すること	その他	特に不安はない
障がい種別	全体	244	41.4%	2.0%	7.4%	24.2%	61.5%	19.7%	0.4%	0.4%
	身体障がい	94	37.2%	0.0%	10.6%	16.0%	57.4%	16.0%	0.0%	1.1%
	知的障がい	198	36.9%	2.0%	7.1%	24.7%	66.2%	18.2%	0.5%	0.0%
年齢	６歳未満	29	37.9%	0.0%	20.7%	13.8%	37.9%	20.7%	0.0%	0.0%
	６～11歳	75	30.7%	4.0%	5.3%	18.7%	70.7%	18.7%	0.0%	0.0%
	12～14歳	66	43.9%	0.0%	7.6%	24.2%	59.1%	13.6%	1.5%	1.5%
	15～17歳	71	50.7%	2.8%	4.2%	33.8%	63.4%	26.8%	0.0%	0.0%

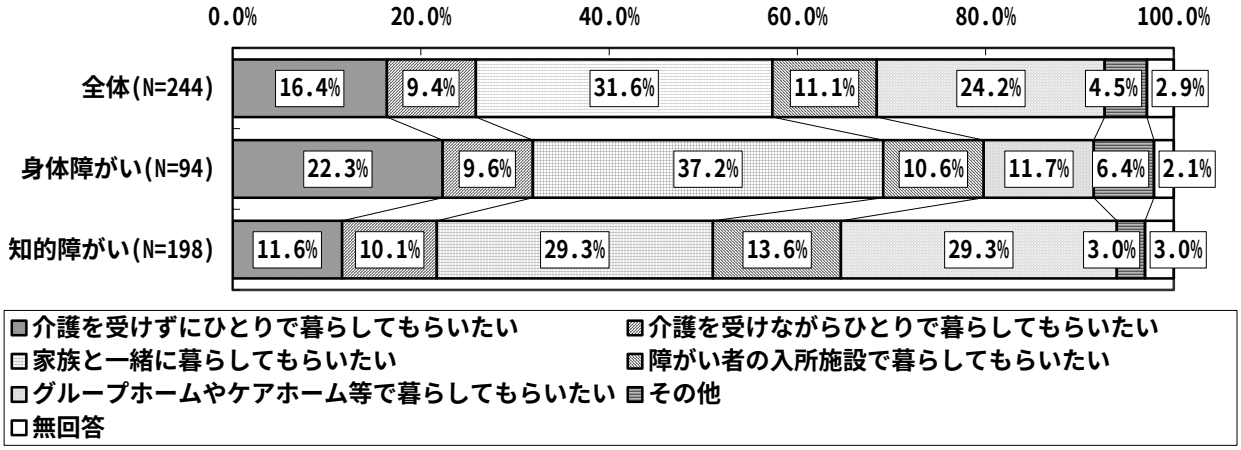
将来の暮らしで不安に思っていることをみると、障がい種別に関係なく「ご家族が亡くなったあとのこと」が最も多い（身体：57.4%、知的：66.2%）。

「本人の健康や障害のこと」や「結婚や出産・子育てのこと」「進学や学校のこと」などは身体障がいが知的障がいに比べて多く、「生活に必要なお金や収入のこと」や「住まいや生活の場所のこと」「本人が高齢になってからのこと」「ご家族が亡くなったあとのこと」などは知的障がいが身体障がいに比べて多く、障がい種別間での差が特に大きい。

年齢別にみると、「本人の健康や障がいのこと」や「結婚や出産・子育てのこと」「進学や学校のこと」「医療や病気のこと」は年齢層が低いほど多く、逆に、「住まいや生活の場所のこと」や「就職や仕事のこと」「本人が高齢になってからのこと」「ご家族が亡くなったあとのこと」は年齢層が高いほど多い傾向がみられる。

（2）希望する将来の暮らし方

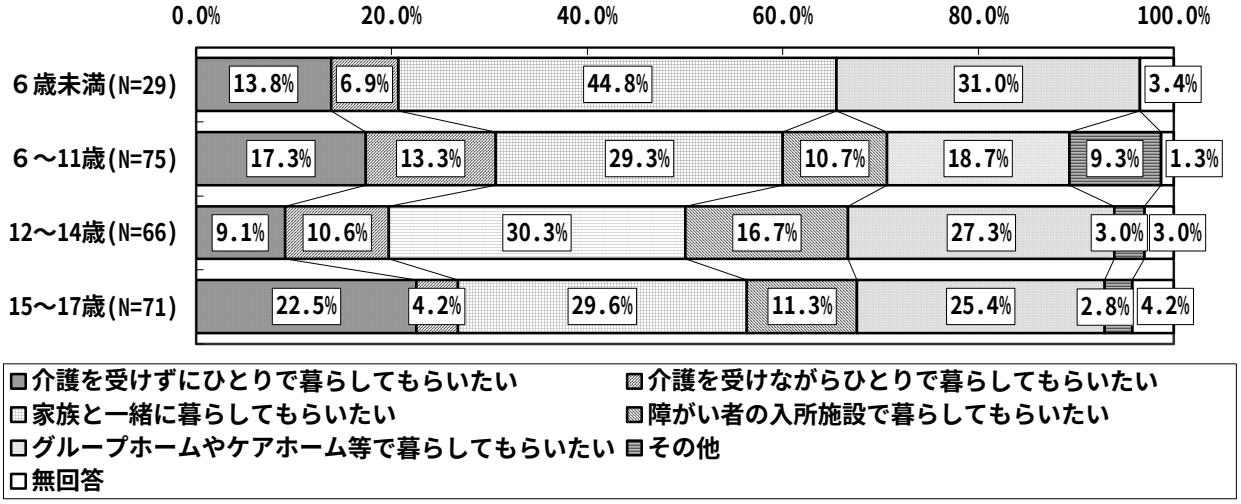
図表　希望する将来の暮らし方



希望する将来の暮らし方をみると、身体障がいでは「家族と一緒に暮らしてもらいたい」が37.2%で最も多く、次いで、「介護を受けずにひとりで暮らしてもらいたい」が22.3%となっている。知的障がいでは「家族と一緒に暮らしてもらいたい」と「グループホームやケアホームで暮らしてもらいたい」がともに29.3%で最も多い。

介護の有無に関係なく「ひとりで暮らしたい」は身体障がいでは31.9%、知的障がいでは21.7%となっている。また、「障がい者の入所施設で暮らしてもらいたい」と「グループホームやケアホーム等で暮らしてもらいたい」の合計は身体障がいでは22.3%であるのに対し、知的障がいでは42.9%となっている。

図表　希望する将来の暮らし方（年齢別）



年齢別にみると、いずれの年齢層でも「家族と一緒に暮らしてもらいたい」が最も多く、次いで、「グループホームやケアホームで暮らしてもらいたい」となっている。

（3）希望する暮らし方の実現に必要な支援や取組

図表　希望する暮らし方の実現に必要な支援や取組（複数回答）

		集計母数	ひとり暮らしをするための練習ができる場がある	介護や支援の仕組み、サービスが充実する	同じ障がいがある人との交流や活動ができる場がある	賃貸マンションなどを問題なく借りられる	働く場所が近くにある	仕事以外の活動ができる場がある	グループホームやケアホームが増える
障がい種別	全体	244	20.1%	38.1%	16.4%	8.2%	43.0%	23.0%	30.7%
	身体障がい	94	17.0%	42.6%	18.1%	14.9%	35.1%	17.0%	12.8%
	知的障がい	198	21.2%	39.9%	15.7%	4.5%	42.4%	24.2%	37.4%
年齢	６歳未満	29	20.7%	48.3%	20.7%	6.9%	27.6%	6.9%	31.0%
	６～11歳	75	21.3%	36.0%	17.3%	13.3%	41.3%	24.0%	30.7%
	12～14歳	66	18.2%	37.9%	15.2%	3.0%	42.4%	31.8%	33.3%
	15～17歳	71	18.3%	35.2%	15.5%	8.5%	50.7%	21.1%	29.6%

		集計母数	障がい者の入所施設が身近な地域に整備される	地域の人が障がい者や障がいに対する理解を深める	住まいを契約するときの保証人や契約を助けてくれる人がいる	市営・府営住宅に優先的に入居できる	介護してくれる家族が休息できる制度が充実する	その他
障がい種別	全体	244	27.5%	30.7%	4.9%	17.2%	19.3%	2.9%
	身体障がい	94	29.8%	24.5%	5.3%	22.3%	26.6%	4.3%
	知的障がい	198	31.8%	30.3%	4.5%	13.1%	20.7%	2.0%
年齢	６歳未満	29	24.1%	41.4%	10.3%	17.2%	24.1%	6.9%
	６～11歳	75	26.7%	28.0%	5.3%	12.0%	28.0%	2.7%
	12～14歳	66	33.3%	31.8%	0.0%	16.7%	13.6%	0.0%
	15～17歳	71	23.9%	26.8%	7.0%	23.9%	14.1%	4.2%

希望する暮らし方の実現に必要な支援や取組をみると、身体障がいでは「介護や支援の仕組み、サービスが充実する」が42.6%、知的障がいでは「働く場所が近くにある」が42.4%でそれぞれ最も多い。

「介護や支援の仕組み、サービスが充実する」や「賃貸マンションなどを問題なく借りられる」「市営・府営住宅に優先的に入居できる」「介護してくれる家族が休息できる制度が充実する」は身体障がいが知的障がいに比べて多く、「働く場所が近くにある」や「仕事以外の活動ができる場がある」「グループホームやケアホームが増える」「地域の人が障がい者や障がいに対する理解を深める」は知的障がいが身体障がいに比べて多く、障がい種別間での差が大きい。

年齢別にみると、「ひとり暮らしをするための練習ができる場がある」や「介護や支援の仕組み、サービスが充実する」「同じ障がいがある人との交流や活動ができる場がある」は年齢層が低いほど多い傾向がみられる。逆に、「働く場所が近くにある」や「仕事以外の活動ができる場がある」は年齢層が高いほど多い傾向がみられる。

11　吹田市の障がい者施策のあり方について

（１）障がい者施策の重要度

図表　障がい者施策の重要度（１）

		集計母数	取り組むべかりを	取り組むべかりを	取り組むべかりを	無回答
ア　市民に対する障がい者・障がいに関する啓発・教育を強化する	全体	244	41.8%	33.2%	19.3%	5.7%
	身体障がい	94	30.9%	39.4%	19.1%	10.6%
	知的障がい	198	44.9%	33.8%	17.7%	3.5%
イ　障がい者支援に関わる福祉人材やボランティアを養成する	全体	244	50.8%	30.3%	13.1%	5.7%
	身体障がい	94	45.7%	29.8%	16.0%	8.5%
	知的障がい	198	55.1%	30.3%	11.1%	3.5%
ウ　障がいの種別・程度に応じた多様な広報・情報提供態勢の充実を図る	全体	244	34.0%	43.0%	16.8%	6.1%
	身体障がい	94	31.9%	42.6%	16.0%	9.6%
	知的障がい	198	33.8%	43.4%	17.7%	5.1%
エ　障がい者の円滑な意思疎通を支援するため、支援人材の養成、設備の整備を図る	全体	244	48.0%	34.0%	11.5%	6.6%
	身体障がい	94	48.9%	27.7%	12.8%	10.6%
	知的障がい	198	48.0%	36.4%	10.6%	5.1%
オ　障がいの種別に応じた相談態勢の充実を図る	全体	244	44.7%	33.6%	15.6%	6.1%
	身体障がい	94	42.6%	24.5%	22.3%	10.6%
	知的障がい	198	44.9%	36.4%	14.1%	4.5%
カ　障がい者の権利と尊厳を守るための相談・支援態勢の充実を図る	全体	244	34.0%	41.8%	17.2%	7.0%
	身体障がい	94	31.9%	37.2%	20.2%	10.6%
	知的障がい	198	36.9%	41.9%	15.7%	5.6%
キ　障害者自立支援法のサービスの充実を図る	全体	244	55.7%	24.6%	13.5%	6.1%
	身体障がい	94	60.6%	20.2%	11.7%	7.4%
	知的障がい	198	56.6%	25.3%	13.6%	4.5%
ク　発達障がい者や難病患者への支援の仕組みを強化する	全体	244	56.6%	29.5%	7.4%	6.6%
	身体障がい	94	51.1%	27.7%	9.6%	11.7%
	知的障がい	198	58.1%	29.3%	7.6%	5.1%
ケ　障がい者の仕事や訓練（作業所や施設等）以外の日中活動、居場所の充実を図る	全体	244	68.9%	19.3%	7.4%	4.5%
	身体障がい	94	62.8%	17.0%	11.7%	8.5%
	知的障がい	198	72.2%	19.7%	5.1%	3.0%
コ　障がい児の学校等以外での日中活動、居場所の充実を図る	全体	244	65.6%	19.7%	10.2%	4.5%
	身体障がい	94	60.6%	18.1%	14.9%	6.4%
	知的障がい	198	68.2%	19.7%	8.6%	3.5%
サ　障がいの早期発見・早期対応態勢の充実を図る	全体	244	39.8%	26.6%	26.6%	7.0%
	身体障がい	94	42.6%	20.2%	26.6%	10.6%
	知的障がい	198	39.4%	28.3%	26.8%	5.6%

図表　障がい者施策の重要度（2）

		集計母数	かなり力を入れて取り組む	やや力を入れて取り組む	どちらかといえば取り組む	これまで取り組んでいない	無回答
シ　療育相談・指導態勢の充実を図る	全体	244	42.2%	30.3%	20.9%	6.6%	
	身体障がい	94	40.4%	23.4%	25.5%	10.6%	
	知的障がい	198	42.9%	31.8%	20.2%	5.1%	
ス　障がい児一人ひとりに応じた教育態勢の充実を図る	全体	244	60.7%	22.1%	11.5%	5.7%	
	身体障がい	94	63.8%	14.9%	12.8%	8.5%	
	知的障がい	198	59.6%	24.2%	11.1%	5.1%	
セ　企業等に対して障がい者雇用に関する周知・啓発を強化する	全体	244	61.1%	24.6%	8.6%	5.7%	
	身体障がい	94	58.5%	21.3%	12.8%	7.4%	
	知的障がい	198	59.1%	26.3%	9.1%	5.6%	
ソ　就労に向けた職場体験、訓練機会の確保・充実を図る	全体	244	62.3%	26.6%	5.7%	5.3%	
	身体障がい	94	55.3%	27.7%	9.6%	7.4%	
	知的障がい	198	63.6%	26.3%	6.1%	4.0%	
タ　障がいの早期発見・早期対応に向けた健診等の充実を図る	全体	244	36.9%	27.5%	28.7%	7.0%	
	身体障がい	94	39.4%	24.5%	25.5%	10.6%	
	知的障がい	198	36.9%	28.3%	29.3%	5.6%	
チ　安心して診療が受けられる地域医療体制の充実を図る	全体	244	52.0%	29.9%	12.7%	5.3%	
	身体障がい	94	57.4%	25.5%	8.5%	8.5%	
	知的障がい	198	50.5%	30.8%	14.6%	4.0%	
ツ　バリアフリーなど福祉のまちづくりを強化する	全体	244	48.0%	34.0%	12.3%	5.7%	
	身体障がい	94	64.9%	21.3%	6.4%	7.4%	
	知的障がい	198	44.9%	36.4%	14.1%	4.5%	
テ　安心して利用できる住まいの場の確保を図る	全体	244	51.6%	27.9%	14.3%	6.1%	
	身体障がい	94	51.1%	28.7%	10.6%	9.6%	
	知的障がい	198	53.0%	26.8%	15.2%	5.1%	
ト　防犯・防災対策の強化を図る	全体	244	41.4%	34.4%	18.0%	6.1%	
	身体障がい	94	43.6%	33.0%	13.8%	9.6%	
	知的障がい	198	39.9%	37.4%	17.7%	5.1%	
ナ　行政に対する障がい者・障がいに関する啓発・教育を強化する	全体	244	53.7%	31.6%	8.6%	6.1%	
	身体障がい	94	55.3%	31.9%	4.3%	8.5%	
	知的障がい	198	55.1%	30.3%	9.6%	5.1%	

障がい者施策の重要度をみると、全体で「かなり力を入れて取り組む」が最も多いのは「ケ　障がい者の仕事や訓練（作業所や施設等）以外の日中活動、居場所の充実を図る」（68.9%）で、次いで、「コ　障がい児の学校等以外での日中活動、居場所の充実を図る」（65.6%）、「ソ　就労に向けた職場体験、訓練機会の確保・充実を図る」（62.3%）となっている。

「ツ　バリアフリーなど福祉のまちづくりを強化する」「キ　障害者自立支援法のサービスの充実を図る」などは身体障がいが知的障がいに比べて「かなり力を入れて取り組む」が多い。

「ア　市民に対する障がい者・障がいに関する啓発・教育を強化する」「イ　障がい者支援に関わる福祉人材やボランティアを養成する」「ケ　障がい者の仕事や訓練（作業所や施設等）以外の日中活動、居場所の充実を図る」などは知的障がいが身体障がいに比べて「かなり力を入れて取り組む」が多い。

Ⅳ　発達障がい児調査の結果

１　対象者のことについて

（１）子どもの性別

図表　子どもの性別

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
男性	30	81.1%	18	85.7%	12	80.0%
女性	7	18.9%	3	14.3%	3	20.0%
合計	37	100.0%	21	100.0%	15	100.0%

子どもの性別をみると、小学生、中学生ともに「男性」が80%以上となっている。

（２）子どもの年齢

図表　子どもの年齢

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
６歳	1	2.7%	1	4.8%	0	0.0%
７歳	2	5.4%	2	9.5%	0	0.0%
８歳	3	8.1%	3	14.3%	0	0.0%
９歳	4	10.8%	4	19.0%	0	0.0%
10歳	5	13.5%	5	23.8%	0	0.0%
11歳	2	5.4%	2	9.5%	0	0.0%
12歳	7	18.9%	3	14.3%	4	26.7%
13歳	6	16.2%	0	0.0%	5	33.3%
14歳	4	10.8%	0	0.0%	4	26.7%
15歳	2	5.4%	0	0.0%	2	13.3%
合計	37	100.0%	21	100.0%	15	100.0%

子どもの年齢をみると、全体では「12歳」が18.9%で最も多く、次いで、「13歳」が16.2%となっている。

（３）受けている診断

図表　受けている診断（複数回答）

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
高機能自閉症	11	29.7%	5	23.8%	5	33.3%
アスペルガー症候群	5	13.5%	4	19.0%	1	6.7%
注意欠陥／多動性障がい（ＡＤＨＤ）	6	16.2%	4	19.0%	2	13.3%
学習障がい（ＬＤ）	4	10.8%	2	9.5%	2	13.3%
その他	13	35.1%	10	47.6%	3	20.0%
集計回答数	37	100.0%	21	100.0%	15	100.0%

受けている診断をみると、「その他」を除き、小学生・中学生ともに「高機能自閉症」が最も多い（小学生：23.8%、中学生：33.3%）。

（４）発達障がいの疑いを初めて感じた時期

図表　発達障がいの疑いを初めて感じた時期

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
１歳未満	5	13.5%	3	14.3%	2	13.3%
１～２歳未満	10	27.0%	10	47.6%	0	0.0%
２～３歳未満	8	21.6%	3	14.3%	4	26.7%
３～５歳	7	18.9%	3	14.3%	4	26.7%
６～11歳	6	16.2%	2	9.5%	4	26.7%
12～14歳	1	2.7%	0	0.0%	1	6.7%
合計	37	100.0%	21	100.0%	15	100.0%

発達障がいの疑いを初めて感じた時期をみると、小学生では「１～２歳未満」が47.6%で最も多い。中学生では「２～３歳未満」「３～５歳」「６～11歳」がともに26.7%で最も多い。

（５）発達障がいがある疑いがわかったきっかけ

図表　発達障がいがある疑いがわかったきっかけ（複数回答）

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
市の４か月児健康診査	1	2.7%	0	0.0%	1	6.7%
市の乳児後期（10～11か月）健康診査	1	2.7%	0	0.0%	1	6.7%
市の１歳６か月児健康診査	10	27.0%	8	38.1%	2	13.3%
市の２歳６か月児歯科健康診査	4	10.8%	2	9.5%	2	13.3%
市の３歳児健康診査	6	16.2%	3	14.3%	2	13.3%
かかりつけ医のアドバイス	1	2.7%	0	0.0%	1	6.7%
保健師のアドバイス	3	8.1%	1	4.8%	2	13.3%
幼稚園や保育所での健診	3	8.1%	3	14.3%	0	0.0%
学校での健診	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
幼稚園や保育所の教員・保育士のアドバイス	5	13.5%	1	4.8%	4	26.7%
学校の教員のアドバイス	4	10.8%	2	9.5%	2	13.3%
家族が気になる症状に気づいて	21	56.8%	12	57.1%	9	60.0%
その他	6	16.2%	4	19.0%	2	13.3%
集計回答数	37	100.0%	21	100.0%	15	100.0%

発達障がいがある疑いがわかったきっかけをみると、小学生・中学生ともに「家族が気になる症状に気づいて」が最も多く（小学生：57.1%、中学生：60.0%）、次いで、小学生では「市の１歳６か月児健康診査」が38.1%、中学生では「幼稚園や保育所の教員・保育士のアドバイス」が26.7%となっている。

（６）発達障がいの診断・判定を受けた時期

図表　発達障がいの診断・判定を受けた時期

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
１歳未満	2	5.4%	2	9.5%	0	0.0%
１～２歳未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
２～３歳未満	3	8.1%	2	9.5%	1	6.7%
３～５歳	8	21.6%	5	23.8%	3	20.0%
６～11歳	20	54.1%	12	57.1%	7	46.7%
12～14歳	4	10.8%	0	0.0%	4	26.7%
合計	37	100.0%	21	100.0%	15	100.0%

発達障がいの診断・判定を受けた時期をみると、小学生・中学生ともに「６～11歳」が最も多い（小学生：57.1%、中学生：46.7%）。

（７）身体障がい者手帳の所持の有無・等級

図表　身体障がい者手帳の所持の有無・等級

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
身体障がい者手帳は持っていない	32	86.5%	19	90.5%	12	80.0%
１級	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
２級	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
３級	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
４級	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
５級	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
６級	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	5	13.5%	2	9.5%	3	20.0%
合計	37	100.0%	21	100.0%	15	100.0%

身体障がい者手帳の所持の有無・等級をみると、小学生・中学生ともに身体障がい者手帳を持っている児童・生徒はいない。

（８）療育手帳の所持の有無・判定

図表　療育手帳の所持の有無・判定

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
療育手帳は持っていない	21	56.8%	13	61.9%	8	53.3%
Ａ	3	8.1%	2	9.5%	1	6.7%
Ｂ１	5	13.5%	3	14.3%	1	6.7%
Ｂ２	8	21.6%	3	14.3%	5	33.3%
合計	37	100.0%	21	100.0%	15	100.0%

療育手帳の所持の有無・判定をみると、小学生では38.1%、中学生では46.7%が療育手帳を所持している。

（９）精神障がい者保健福祉手帳の所持の有無・等級

図表　精神障がい者保健福祉手帳の所持の有無・等級

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
精神障がい者保健福祉手帳は持っていない	32	86.5%	19	90.5%	12	80.0%
１級	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
２級	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
３級	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	5	13.5%	2	9.5%	3	20.0%
合計	37	100.0%	21	100.0%	15	100.0%

精神障がい者保健福祉手帳の所持の有無・等級をみると、小学生・中学生ともに精神障がい者保健福祉手帳を持っている児童・生徒はいない。

２　通学の状況、日中の過ごし方について

（１）通学状況

図表　通学状況

	全体	
	回答数	構成比
小学校の通常の学級	3	8.1%
小学校の通常の学級（通級指導教室にも通っている）	8	21.6%
小学校の支援学級	10	27.0%
中学校の通常の学級	4	10.8%
中学校の通常の学級（通級指導教室にも通っている）	7	18.9%
中学校の支援学級	4	10.8%
その他	0	0.0%
無回答	1	2.7%
合計	37	100.0%

通学状況をみると、「小学校の支援学級」が27.0%で最も多く、次いで、「小学校の通常の学級（通級指導教室にも通っている）」が21.6%となっている。小学生は全体の56.7%、中学生は全体の40.5%となっている。

（2）希望する休み等の過ごし方

図表　平日の学校等の放課後（複数回答）

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
友だちとの遊びや交流をさせたい	23	62.2%	14	66.7%	9	60.0%
学童保育に行かせたい	3	8.1%	3	14.3%	0	0.0%
学校のクラブ活動等に参加させたい	17	45.9%	9	42.9%	8	53.3%
図書館や児童館へ行かせたい	4	10.8%	3	14.3%	1	6.7%
習い事に行かせたい	15	40.5%	10	47.6%	5	33.3%
地域の子ども会の活動に参加させたい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
スポーツをさせたい	11	29.7%	5	23.8%	6	40.0%
公園などへの散歩に行かせたい	3	8.1%	2	9.5%	1	6.7%
家族と一緒に旅行に連れていきたい	1	2.7%	1	4.8%	0	0.0%
「太陽の広場」に参加させたい	6	16.2%	6	28.6%	0	0.0%
外出せずに、自宅で過ごさせたい	5	13.5%	2	9.5%	2	13.3%
障がい福祉サービス（児童デイサービスやガイドヘルプサービスなど）を利用させたい	4	10.8%	4	19.0%	0	0.0%
集計回答数	37	100.0%	21	100.0%	15	100.0%

図表　学校等の休みの昼間（複数回答）

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
友だちとの遊びや交流をさせたい	22	59.5%	11	52.4%	11	73.3%
学童保育に行かせたい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学校のクラブ活動等に参加させたい	6	16.2%	2	9.5%	4	26.7%
図書館や児童館へ行かせたい	4	10.8%	3	14.3%	1	6.7%
習い事に行かせたい	5	13.5%	3	14.3%	2	13.3%
地域の子ども会の活動に参加させたい	2	5.4%	2	9.5%	0	0.0%
スポーツをさせたい	17	45.9%	10	47.6%	7	46.7%
公園などへの散歩に行かせたい	11	29.7%	7	33.3%	3	20.0%
家族と一緒に旅行に連れていきたい	3	8.1%	2	9.5%	1	6.7%
「太陽の広場」に参加させたい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
外出せずに、自宅で過ごさせたい	1	2.7%	1	4.8%	0	0.0%
障がい福祉サービス（児童デイサービスやガイドヘルプサービスなど）を利用させたい	2	5.4%	2	9.5%	0	0.0%
集計回答数	37	100.0%	21	100.0%	15	100.0%

図表　夏休みなど長い休みの昼間（複数回答）

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
友だちとの遊びや交流をさせたい	21	56.8%	13	61.9%	8	53.3%
学童保育に行かせたい	2	5.4%	2	9.5%	0	0.0%
学校のクラブ活動等に参加させたい	13	35.1%	7	33.3%	6	40.0%
図書館や児童館へ行かせたい	7	18.9%	5	23.8%	2	13.3%
習い事に行かせたい	5	13.5%	2	9.5%	3	20.0%
地域の子ども会の活動に参加させたい	3	8.1%	2	9.5%	1	6.7%
スポーツをさせたい	14	37.8%	8	38.1%	6	40.0%
公園などへの散歩に行かせたい	5	13.5%	4	19.0%	1	6.7%
家族と一緒に旅行に連れていきたい	19	51.4%	11	52.4%	7	46.7%
「太陽の広場」に参加させたい	2	5.4%	2	9.5%	0	0.0%
外出せずに、自宅で過ごさせたい	1	2.7%	1	4.8%	0	0.0%
障がい福祉サービス（児童デイサービスやガイドヘルプサービスなど）を利用させたい	6	16.2%	6	28.6%	0	0.0%
集計回答数	37	100.0%	21	100.0%	15	100.0%

希望する休み等の過ごし方をみると、平日の学校等の放課後では、小学生・中学生ともに「友だちとの遊びや交流をさせたい」が最も多く（小学生：66.7%、中学生：60.0%）、次いで、小学生では「習い事に行かせたい」が47.6%、中学生では「学校のクラブ活動等に参加させたい」が53.3%となっている。

学校等の休みの昼間では、小学生・中学生ともに「友だちとの遊びや交流をさせたい」が最も多く（小学生：52.4%、中学生：73.3%）、次いで、「スポーツをさせたい」（小学生：47.6%、中学生：46.7%）となっている。

夏休みなど長い休みの昼間では、小学生・中学生ともに「友だちとの遊びや交流をさせたい」が最も多く（小学生：61.9%、中学生：53.3%）、次いで、「家族と一緒に旅行に連れていきたい」（小学生：52.4%、中学生：46.7%）となっている。

3　障がいがあることで必要だった支援、学校生活で困っていることについて

（1）学校生活で困っていること

図表　学校生活で困っていること（複数回答）

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
授業についていけない・内容がわからない	20	54.1%	9	42.9%	11	73.3%
他の児童・生徒との人間関係がうまくいかない	24	64.9%	14	66.7%	10	66.7%
他の児童・生徒の障がいに対する理解・配慮が足りない	14	37.8%	4	19.0%	9	60.0%
教職員が障がいに配慮した適切な指導をしてくれない	7	18.9%	4	19.0%	3	20.0%
学校として発達障がいに対する理解が足りない	11	29.7%	5	23.8%	5	33.3%
集計回答数	37	100.0%	21	100.0%	15	100.0%

学校生活で困っていることをみると、小学生では「他の児童・生徒との人間関係がうまくいかない」が66.7%で最も多く、中学生では「授業についていけない・内容がわからない」が73.3%で最も多い。

（2）障がいの診断・判定を受ける前に困っていたこと

図表　障がいの診断・判定を受ける前に困っていたこと（複数回答）

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
「気になる症状・様子」について相談できる医療機関の情報が十分になかった	21	56.8%	14	66.7%	7	46.7%
「気になる症状・様子」について相談できる専門の窓口の情報が十分になかった	20	54.1%	12	57.1%	8	53.3%
幼稚園、学校の教職員等にあまり相談にのってもらえなかった	8	21.6%	4	19.0%	4	26.7%
保育園の保育士にあまり相談にのってもらえなかった	5	13.5%	3	14.3%	2	13.3%
同じような子を持つ保護者との身近な場所での交流機会があればよかった	11	29.7%	7	33.3%	3	20.0%
市の定期健診時に「気になる症状・様子」について相談にのってもらいたかった	4	10.8%	4	19.0%	0	0.0%
市の定期健診時に障がいの疑いを指摘されたが、十分な助言・指導を受けられなかった	7	18.9%	5	23.8%	1	6.7%
障がいの診断・判定を受けられる医療機関の情報が十分になかった	17	45.9%	10	47.6%	7	46.7%
幼稚園、学校で「気になる症状・様子」を踏まえた指導・教育内容が十分でなかった	11	29.7%	5	23.8%	6	40.0%
保育園で「気になる症状・様子」を踏まえた保育内容が十分ではなかった	4	10.8%	3	14.3%	1	6.7%
市役所に相談しても、適切な情報提供、助言・指導を受けられなかった	2	5.4%	2	9.5%	0	0.0%
保健所に相談しても、適切な情報提供、助言・指導を受けられなかった	6	16.2%	5	23.8%	1	6.7%
集計回答数	37	100.0%	21	100.0%	15	100.0%

障がいの診断・判定を受ける前に困っていたことをみると、小学生では「『気になる症状・様子』について相談できる医療機関の情報が十分になかった」が66.7%で最も多く、次いで、「『気になる症状・様子』について相談できる専門の窓口の情報が十分になかった」が57.1%となっている。中学生では「『気になる症状・様子』について相談できる専門の窓口の情報が十分になかった」が53.3%で最も多く、次いで、「『気になる症状・様子』について相談できる医療機関の情報が十分になかった」「障がいの診断・判定を受けられる医療機関の情報が十分になかった」がともに46.7%となっている。

「同じような子を持つ保護者との身近な場所での交流機会があればよかった」や「市の定期健診時に『気になる症状・様子』について相談にのってもらいたかった」「市の定期健診時に障がいの疑いを指摘されたが、十分な助言・指導を受けられなかった」「保育園で『気になる症状・様子』を踏まえた保育内容が十分ではなかった」「保健所に相談しても、適切な情報提供、助言・指導を受けられなかった」は小学生が中学生に比べて多く、その差が大きい。

（3）障がいの診断・判定を受けてから現在までに困ったこと

図表　障がいの診断・判定を受けてから現在までに困ったこと（複数回答）

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
治療のために継続して受診できる医療機関を身近で見つけられなかった	10	27.0%	5	23.8%	5	33.3%
療育・教育について相談できる専門の窓口がわからなかった	16	43.2%	9	42.9%	6	40.0%
幼稚園、学校の教職員等に相談にのってもらえないことがあった	4	10.8%	3	14.3%	1	6.7%
保育園の保育士に相談にのってもらえないことがあった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
同じ障がいがある子を持つ保護者との身近な場所での交流機会がなかった	10	27.0%	7	33.3%	2	13.3%
市の定期健診時に障がいに関する相談にのってもらえなかった	2	5.4%	1	4.8%	1	6.7%
市の定期健診時に障がいに関する適切な助言・指導を受けられなかった	5	13.5%	3	14.3%	1	6.7%
幼稚園、学校で、障がいを踏まえた指導・教育内容が十分に行われなかった	12	32.4%	6	28.6%	6	40.0%
保育園で、障がいを踏まえた保育が十分に行われなかった	3	8.1%	2	9.5%	1	6.7%
学校等において、他の児童等に対して理解や配慮を求める指導が十分に行われなかった	12	32.4%	6	28.6%	6	40.0%
学校等において、保護者に対する発達障がいに関する啓発が十分に行われなかった	16	43.2%	8	38.1%	8	53.3%
思うように利用できる福祉サービスがなかった、不足していた	11	29.7%	7	33.3%	4	26.7%
市役所に相談しても、適切な情報提供、助言・指導を受けられなかった	2	5.4%	2	9.5%	0	0.0%
保健所に相談しても、適切な情報提供、助言・指導を受けられなかった	2	5.4%	2	9.5%	0	0.0%
集計回答数	37	100.0%	21	100.0%	15	100.0%

障がいの診断・判定を受けてから現在までに困ったことをみると、小学生では「療育・教育について相談できる専門の窓口がわからなかった」が42.9%で最も多く、次いで、「学校等において、保護者に対する発達障がいに関する啓発が十分に行われなかった」が38.1%となっている。中学生では「学校等において、保護者に対する発達障がいに関する啓発が十分に行われなかった」が53.3%で最も多く、次いで、「療育・教育について相談できる専門の窓口がわからなかった」「幼稚園、学校で、障がいを踏まえた指導・教育内容が十分に行われなかった」「学校等において、他の児童等に対して理解や配慮を求める指導が十分に行われなかった」がともに40.0%となっている。

「治療のために継続して受診できる医療機関を身近に見つけられなかった」や「幼稚園、学校で、障がいを踏まえた指導・教育内容が十分に行われなかった」「学校等において、他の児童等に対して理解や配慮を求める指導が十分に行われなかった」「学校等において、保護者に対する発達障がいに関する啓発が十分に行われなかった」は中学生が小学生に比べて多く、その差が大きい。

4　医療の受診、医療的な支援について

（1）かかりつけ医の有無

図表　かかりつけ医の有無

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
ある	23	62.2%	15	71.4%	8	53.3%
ない	6	16.2%	1	4.8%	4	26.7%
以前はあったが、現在はない	6	16.2%	4	19.0%	2	13.3%
かかりつけ医は必要ない	2	5.4%	1	4.8%	1	6.7%
合計	37	100.0%	21	100.0%	15	100.0%

かかりつけ医の有無をみると、「ある」は小学生では71.4%、中学生では53.3%となっている。

（2）夜間や休日に医師の診察を受けたくなった経験

図表　夜間や休日に医師の診察を受けたくなった経験

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
ある	5	13.5%	3	14.3%	2	13.3%
ない	26	70.3%	15	71.4%	11	73.3%
無回答	6	16.2%	3	14.3%	2	13.3%
合計	37	100.0%	21	100.0%	15	100.0%

夜間や休日に医師の診察を受けたくなった経験をみると、「ある」は小学生では14.3%、中学生では13.3%となっている。

（3）夜間や休日に医師の診察を受けたくなったときの対応（複数回答）

図表　夜間や休日に医師の診察を受けたくなったときの対応

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
かかりつけの病院やクリニックですぐにみてもらえた	1	20.0%	0	0.0%	1	50.0%
かかりつけ以外の病院やクリニックですぐにみてもらえた	2	40.0%	1	33.3%	1	50.0%
とん服薬を服用させた	1	20.0%	1	33.3%	0	0.0%
かかりつけの病院やクリニックが開くまで何もせずに待った	1	20.0%	1	33.3%	0	0.0%
電話相談機関に電話をした	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
家族や友人に相談をした	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
集計回答数	5	100.0%	3	100.0%	2	100.0%

夜間や休日に医師の診察を受けたくなったときの対応をみると、小学生では「かかりつけ以外の病院やクリニックですぐにみてもらえた」「とん服薬を服用させた」「かかりつけの病院やクリニックが開くまで何もせずに待った」が各々33.3%（１人）、中学生では「かかりつけの病院やクリニックですぐにみてもらえた」「かかりつけ以外の病院やクリニックですぐにみてもらえた」が各々50.0%（１人）となっている。

5　障害者自立支援法に関するサービスについて

（1）障害者自立支援法に基づくサービスが利用可能であることの認知度

図表　障害者自立支援法に基づくサービスが利用可能であることの認知度

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
知っており、利用しているサービスがある	4	10.8%	3	14.3%	1	6.7%
知っているが、サービスは利用していない	16	43.2%	6	28.6%	9	60.0%
知らなかった	17	45.9%	12	57.1%	5	33.3%
合計	37	100.0%	21	100.0%	15	100.0%

障害者自立支援法に基づくサービスが利用可能であることの認知度をみると、小学生では「知らなかった」が57.1%で最も多く、中学生では「知っているが、サービスは利用していない」が60.0%で最も多くなっている。

（2）障害者自立支援法で定められているサービスの利用状況

図表　ア　訪問系サービス

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
利用時間は増える傾向	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
利用時間は減る傾向にある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
利用時間の変化はない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
以前は使っていたが、現在使っていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
使う必要がなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
使いたいが使えなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	4	100.0%	3	100.0%	1	100.0%
合計	4	100.0%	3	100.0%	1	100.0%

図表　イ　ガイドヘルプサービス

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
利用時間は増える傾向	3	75.0%	3	100.0%	0	0.0%
利用時間は減る傾向にある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
利用時間の変化はない	1	25.0%	0	0.0%	1	100.0%
以前は使っていたが、現在使っていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
使う必要がなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
使いたいが使えなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	4	100.0%	3	100.0%	1	100.0%

図表　ウ　ショートステイ（短期入所）

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
利用日数は増える傾向	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
利用日数は減る傾向にある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
利用日数の変化はない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
以前は使っていたが、現在使っていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
使う必要がなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
使いたいが使えなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	4	100.0%	3	100.0%	1	100.0%
合計	4	100.0%	3	100.0%	1	100.0%

図表　エ　通所系サービス

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
利用日数は増える傾向	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
利用日数は減る傾向にある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
利用日数の変化はない	1	25.0%	1	33.3%	0	0.0%
以前は使っていたが、現在使っていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
使う必要がなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
使いたいが使えなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	3	75.0%	2	66.7%	1	100.0%
合計	4	100.0%	3	100.0%	1	100.0%

図表　オ　補装具費の支給、日常生活用具の給付等事業

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
利用種類は増える傾向	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
利用種類は減る傾向にある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
利用種類の変化はない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
以前は使っていたが、現在使っていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
使う必要がなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
使いたいが使えなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	4	100.0%	3	100.0%	1	100.0%
合計	4	100.0%	3	100.0%	1	100.0%

図表　カ　コミュニケーション支援事業

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
利用回数は増える傾向	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
利用回数は減る傾向にある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
利用回数の変化はない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
以前は使っていたが、現在使っていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
使う必要がなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
使いたいが使えなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	4	100.0%	3	100.0%	1	100.0%
合計	4	100.0%	3	100.0%	1	100.0%

障害者自立支援法で定められているサービスの利用状況をみると、サービスの利用があるのは「イガイドヘルプサービス」と「エ　通所系サービス」となっている。

６　心のバリアフリーについて

（１）障がいがあることで不適切な対応等をされた経験の有無

図表　障がいがあることで不適切な対応等をされた経験の有無

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
よくある	8	21.6%	4	19.0%	4	26.7%
時々ある	17	45.9%	12	57.1%	4	26.7%
ほとんどない	12	32.4%	5	23.8%	7	46.7%
合計	37	100.0%	21	100.0%	15	100.0%

障がいがあることで不適切な対応等をされた経験の有無をみると、「よくある」と「時々ある」とを合計した「ある」は小学生では76.1%、中学生では53.4%となっている。

（2）障がいがあることで不適切な対応等をされた場面

図表　障がいがあることで不適切な対応等をされた場面（複数回答）

		集計母数	学校の入学や進学の時	学校での生活	近所づきあい	地域での活動	地域のお店や公共施設などを利用する時	その他
学校種別	全体	37	21.6%	51.4%	18.9%	18.9%	29.7%	16.2%
	小学生	21	28.6%	38.1%	23.8%	28.6%	42.9%	23.8%
	中学生	15	13.3%	66.7%	13.3%	0.0%	13.3%	6.7%
不適切な対応の経験	よくある	8	37.5%	100.0%	12.5%	25.0%	37.5%	12.5%
	時々ある	17	29.4%	52.9%	35.3%	29.4%	47.1%	17.6%
	ほとんどない	12	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%

障がいがあることで不適切な対応等をされた場面をみると、小学生では「地域のお店や公共施設などを利用する時」が42.9%、中学生では「学校での生活」が66.7%でそれぞれ最も多い。

障がいがあることで不適切な対応等をされた経験の有無別にみると、不適切な対応等の経験の頻度に関係なく「学校での生活」が最も多い。

（3）障がい者や障がいに対する市民の理解は深まったか

図表　障がい者や障がいに対する市民の理解は深まったか

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
かなり深まった	1	2.7%	1	4.8%	0	0.0%
ある程度深まった	7	18.9%	5	23.8%	1	6.7%
あまり深まっていない	21	56.8%	11	52.4%	10	66.7%
まったく深まっていない	7	18.9%	4	19.0%	3	20.0%
無回答	1	2.7%	0	0.0%	1	6.7%
合計	37	100.0%	21	100.0%	15	100.0%

障がい者や障がいに対する市民の理解は深まったかをみると、「まったく深まっていない」と「あまり深まっていない」を合計した「深まっていない」が小学生では71.4%、中学生では86.7%となっており、「かなり深まった」と「ある程度深まった」を合計した「深まった」（身体：28.6%、知的：6.7%）を上回っている。

（4）「障害」の「害」の字の表記についての意見

図表　「障害」の「害」の字の表記についての意見

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
漢字表記（障害者、障害）のままでよい	5	13.5%	3	14.3%	2	13.3%
「害」はひらがな表記（障がい者、障がい）がよい	10	27.0%	5	23.8%	4	26.7%
「害」は元字（常用漢字外）の「碍（がい）」がよい（障碍者、障碍）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
「しょうがい」とすべてひらがな表記がよい	2	5.4%	2	9.5%	0	0.0%
「障害者（障がい者）」「障害（障がい）」とはまったく異なる言葉や表記がよい	8	21.6%	4	19.0%	4	26.7%
どのような言葉や表記でもこだわりなどない	11	29.7%	7	33.3%	4	26.7%
無回答	1	2.7%	0	0.0%	1	6.7%
合計	37	100.0%	21	100.0%	15	100.0%

「障害」の「害」の字の表記についての意見をみると、小学生では「どのような言葉や表記でもこだわりなどない」が33.3%で最も多く、中学生では「『害』はひらがな表記（障がい者、障がい）がよい」「『障害者（障がい者)』『障害（障がい)』とはまったく異なる言葉や表記がよい」「どのような言葉や表記でもこだわりなどない」の３項目がそろって26.7%で最も多い。

（5）障がい者・障がいに対する理解を深めるために吹田市に希望する取組

図表　障がい者・障がいに対する理解を深めるために吹田市に希望する取組（複数回答）

		集計母数	学校教育等を通じて、子どもの頃から障がいに関する教育を行う	企業等での社内教育・研修で、障がいに関する教育を行うよう指導する	市報すいた等の広報媒体を活用して周知・啓発を継続的に行う	障がいのある人とない人とが交流できる機会や場を充実させる	作業所や施設等の授産製品等の販売・展示機会を充実させ、障がい者の活動を知らせる	市が主催する講座・教室等の社会教育を充実させる	その他
学校種別	全体	37	86.5%	45.9%	21.6%	48.6%	21.6%	43.2%	10.8%
	小学生	21	85.7%	38.1%	23.8%	66.7%	19.0%	47.6%	4.8%
	中学生	15	86.7%	60.0%	20.0%	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%
不適切な対応の経験	よくある	8	75.0%	62.5%	37.5%	37.5%	25.0%	62.5%	0.0%
	時々ある	17	88.2%	29.4%	11.8%	64.7%	23.5%	41.2%	0.0%
	ほとんどない	12	91.7%	58.3%	25.0%	33.3%	16.7%	33.3%	33.3%

障がい者・障がいに対する理解を深めるために吹田市に希望する取組をみると、小学生・中学生ともに「学校教育等を通じて、子どもの頃から障がいに関する教育を行う」が最も多い（小学生：85.7%、中学生：86.7%）。次いで、小学生では「障がいのある人とない人とが交流できる機会や場を充実させる」が66.7%、中学生では「企業等での社内教育・研修で、障がいに関する教育を行うよう指導する」が60.0%となっている。

障がいがあることで不適切な対応等をされた経験の有無別にみると、経験の頻度に関係なく「学校教育等を通じて、子どもの頃から障がいに関する教育を行う」が最も多い。また、「市が主催する講座・教室等の社会教育を充実させる」は経験の頻度が高いほど多い。

7　将来の暮らしについて

（1）将来の暮らしについての不安

図表　将来の暮らしについての不安（複数回答）

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
ご本人の健康や障がいのこと	9	24.3%	6	28.6%	2	13.3%
生活に必要なお金や収入のこと	21	56.8%	10	47.6%	11	73.3%
住まいや生活の場所のこと	7	18.9%	4	19.0%	3	20.0%
支援や介護してくれる人がいること	5	13.5%	3	14.3%	1	6.7%
利用できる障がい福祉サービスのこと	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
結婚や出産・子育てのこと	5	13.5%	3	14.3%	2	13.3%
進学や学校のこと	14	37.8%	10	47.6%	4	26.7%
就職や仕事のこと	23	62.2%	12	57.1%	11	73.3%
ご本人が高齢になってからのこと	7	18.9%	3	14.3%	4	26.7%
ご家族が亡くなったあとのこと	20	54.1%	8	38.1%	11	73.3%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
特に不安はない	1	2.7%	1	4.8%	0	0.0%
集計回答数	37	100.0%	21	100.0%	15	100.0%

将来の暮らしについての不安をみると、小学生では「就職や仕事のこと」が57.1%で最も多く、次いで、「生活に必要なお金や収入のこと」「進学や学校のこと」がともに47.6%となっている。中学生では「生活に必要なお金や収入のこと」「就職や仕事のこと」「ご家族が亡くなったあとのこと」がともに73.3%で最も多い。

（2）希望する将来の暮らし方

図表　希望する将来の暮らし方

	全体		小学生		中学生	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
支援や介護を受けずにひとりで暮らしてもらいたい	6	16.2%	4	19.0%	2	13.3%
支援や介護を受けながらひとりで暮らしてもらいたい	9	24.3%	3	14.3%	6	40.0%
家族と一緒に暮らしてもらいたい	16	43.2%	9	42.9%	6	40.0%
グループホームなどで暮らしてもらいたい	5	13.5%	4	19.0%	1	6.7%
その他	1	2.7%	1	4.8%	0	0.0%
合計	37	100.0%	21	100.0%	15	100.0%

希望する将来の暮らし方をみると、小学生では「家族と一緒に暮らしてもらいたい」が42.9%で最も多い。中学生では「支援や介護を受けながらひとりで暮らしてもらいたい」と「家族と一緒に暮らしてもらいたい」がともに40.0%で最も多い。

8　吹田市の障がい者施策のあり方について

（1）障がい者施策の重要度

図表　障がい者施策の重要度（1）

		集計母数	かなり重視すべき	ある程度重視すべき	あまり重視すべきでない	無回答
ア　市民に対する障がい者・障がいに関する啓発・教育を強化する	全体	37	45.9%	45.9%	2.7%	5.4%
	小学生	21	47.6%	47.6%	0.0%	4.8%
	中学生	15	40.0%	46.7%	6.7%	6.7%
イ　障がい者支援に関わる福祉人材やボランティアを養成する	全体	37	54.1%	40.5%	0.0%	5.4%
	小学生	21	76.2%	19.0%	0.0%	4.8%
	中学生	15	20.0%	73.3%	0.0%	6.7%
ウ　障がいの種別・程度に応じた多様な広報・情報提供態勢の充実を図る	全体	37	40.5%	51.4%	0.0%	8.1%
	小学生	21	57.1%	38.1%	0.0%	4.8%
	中学生	15	20.0%	66.7%	0.0%	13.3%
エ　障がい者の円滑な意思疎通を支援するため、支援人材の養成、設備の整備を図る	全体	37	35.1%	56.8%	2.7%	5.4%
	小学生	21	42.9%	47.6%	4.8%	4.8%
	中学生	15	26.7%	66.7%	0.0%	6.7%
オ　障がいの種別に応じた相談態勢の充実を図る	全体	37	59.5%	29.7%	5.4%	5.4%
	小学生	21	76.2%	14.3%	4.8%	4.8%
	中学生	15	33.3%	53.3%	6.7%	6.7%
カ　障がい者の権利と尊厳を守るための相談・支援態勢の充実を図る	全体	37	37.8%	54.1%	2.7%	5.4%
	小学生	21	42.9%	52.4%	0.0%	4.8%
	中学生	15	26.7%	60.0%	6.7%	6.7%
キ　障害者自立支援法のサービスの充実を図る	全体	37	54.1%	37.8%	2.7%	5.4%
	小学生	21	57.1%	33.3%	4.8%	4.8%
	中学生	15	46.7%	46.7%	0.0%	6.7%
ク　発達障がい者や難病患者への支援の仕組みを強化する	全体	37	56.8%	37.8%	0.0%	5.4%
	小学生	21	57.1%	38.1%	0.0%	4.8%
	中学生	15	53.3%	40.0%	0.0%	6.7%
ケ　障がい児の学校等以外での居場所の充実を図る	全体	37	62.2%	32.4%	0.0%	5.4%
	小学生	21	85.7%	9.5%	0.0%	4.8%
	中学生	15	33.3%	60.0%	0.0%	6.7%
コ　障がいの早期発見・早期対応態勢の充実を図る	全体	37	67.6%	27.0%	2.7%	2.7%
	小学生	21	61.9%	33.3%	4.8%	0.0%
	中学生	15	73.3%	20.0%	0.0%	6.7%
サ　療育相談・指導態勢の充実を図る	全体	37	64.9%	27.0%	2.7%	5.4%
	小学生	21	76.2%	14.3%	4.8%	4.8%
	中学生	15	46.7%	46.7%	0.0%	6.7%
シ　障がい児一人ひとりに応じた教育態勢の充実を図る	全体	37	67.6%	27.0%	0.0%	5.4%
	小学生	21	71.4%	23.8%	0.0%	4.8%
	中学生	15	66.7%	26.7%	0.0%	6.7%
ス　企業等に対して障がい者雇用に関する周知・啓発を強化する	全体	37	64.9%	29.7%	0.0%	5.4%
	小学生	21	66.7%	28.6%	0.0%	4.8%
	中学生	15	66.7%	26.7%	0.0%	6.7%
セ　就労に向けた職場体験、訓練機会の確保・充実を図る	全体	37	67.6%	27.0%	0.0%	5.4%
	小学生	21	76.2%	19.0%	0.0%	4.8%
	中学生	15	60.0%	33.3%	0.0%	6.7%

図表　障がい者施策の重要度（2）

		集計母数	かなり重視すべき	ある程度重視すべき	あまり重視すべきでない	無回答
ソ　障がいの早期発見・早期対応に向けた健診等の充実を図る	全体	37	56.8%	32.4%	8.1%	2.7%
	小学生	21	47.6%	38.1%	9.5%	4.8%
	中学生	15	73.3%	20.0%	6.7%	0.0%
タ　バリアフリーなど福祉のまちづくりを強化する	全体	37	32.4%	59.5%	2.7%	5.4%
	小学生	21	42.9%	52.4%	0.0%	4.8%
	中学生	15	20.0%	66.7%	6.7%	6.7%
チ　安心して利用できる住まいの場の確保を図る	全体	37	45.9%	45.9%	2.7%	5.4%
	小学生	21	57.1%	38.1%	0.0%	4.8%
	中学生	15	33.3%	53.3%	6.7%	6.7%
ツ　防犯・防災対策の強化を図る	全体	37	32.4%	54.1%	8.1%	5.4%
	小学生	21	42.9%	38.1%	14.3%	4.8%
	中学生	15	20.0%	73.3%	0.0%	6.7%
テ　行政に対する障がい者・障がいに関する啓発・教育を強化する	全体	37	62.2%	29.7%	2.7%	5.4%
	小学生	21	61.9%	33.3%	0.0%	4.8%
	中学生	15	60.0%	26.7%	6.7%	6.7%

障がい者施策の重要度をみると、小学生で「かなり力を入れて取り組む」が最も多いのは「ケ　障がい児の学校等以外での居場所の充実を図る」（85.7%）で、次いで、「イ　障がい者支援に関わる福祉人材やボランティアを養成する」「サ　療育相談・指導態勢の充実を図る」「セ　就労に向けた職場体験、訓練機会の確保・充実を図る」（ともに76.2%）となっている。

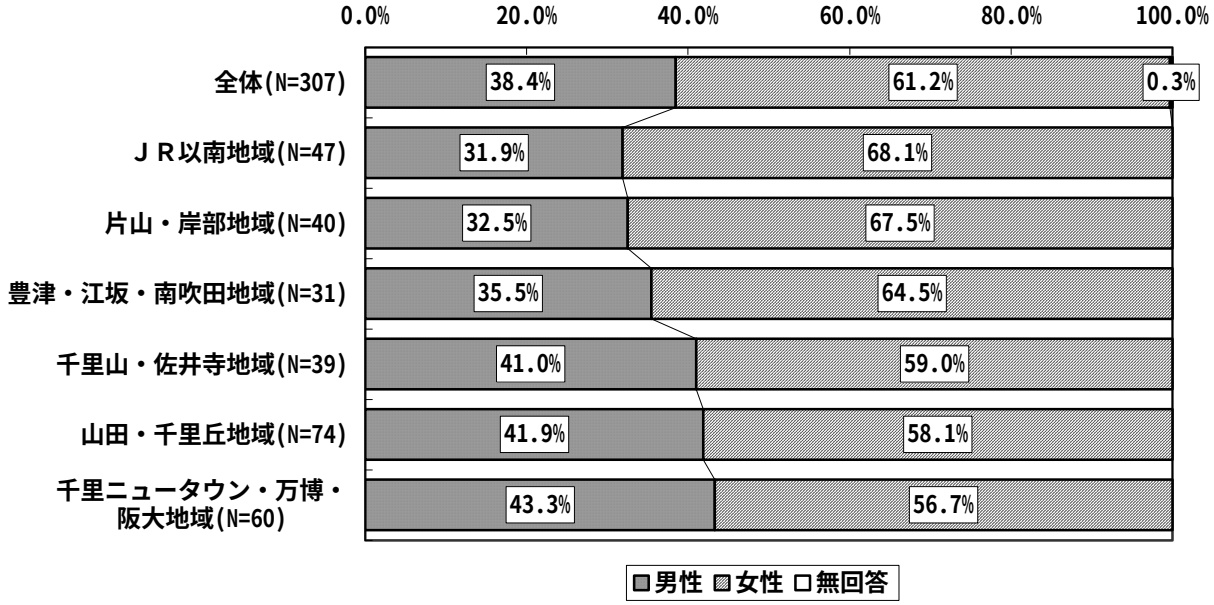
中学生で「かなり力を入れて取り組む」が最も多いのは「コ　障がいの早期発見・早期対応態勢の充実を図る」と「ソ　障がいの早期発見・早期対応に向けた健診等の充実を図る」（ともに73.3%）で、次いで、「シ　障がい児一人ひとりに応じた教育態勢の充実を図る」と「ス　企業等に対して障がい者雇用に関する周知・啓発を強化する」（ともに66.7%）となっている。

Ⅴ　地域福祉の担い手調査の結果

１　対象者のことについて

（１）性別

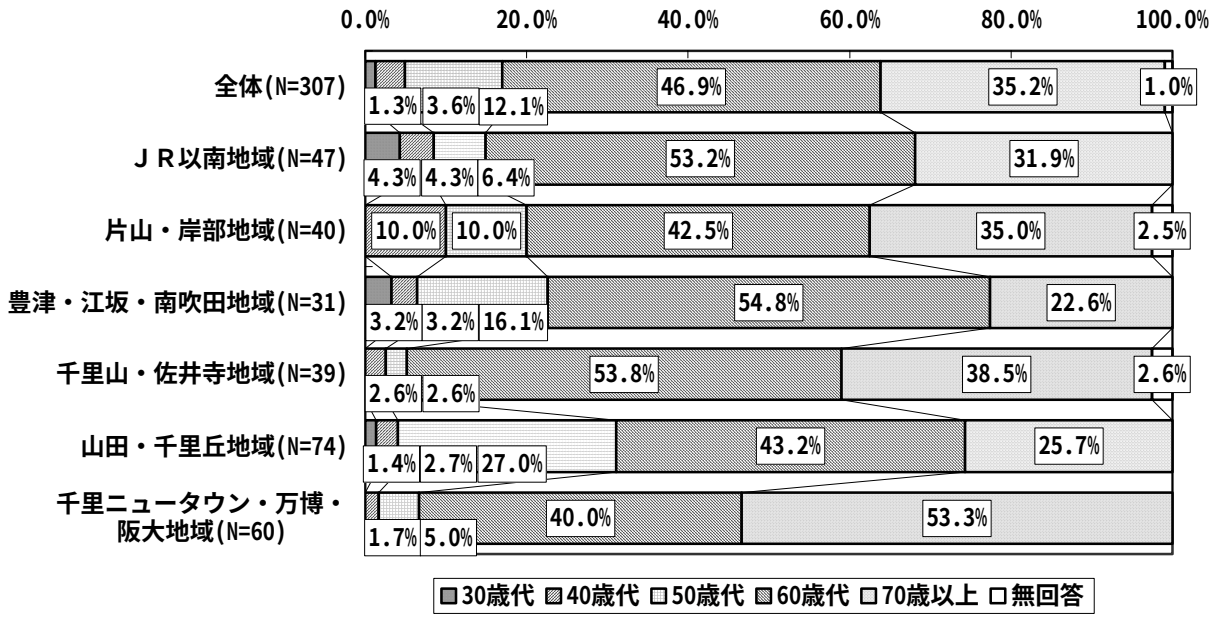
図表　性別



性別をみると、「女性」が61.2%、「男性」が38.4%となっている。
活動地域別にみると、どの地域でも「女性」が「男性」に比べて多い。

（２）年齢

図表　年齢

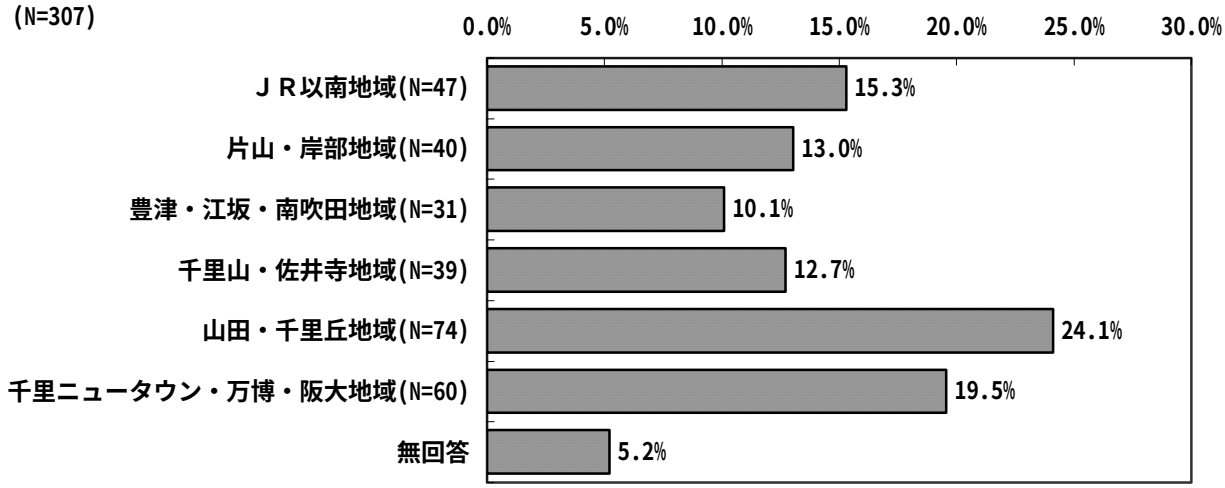


年齢をみると、「60歳代」が46.9%で最も多く、次いで、「70歳以上」が35.2%となっている。

活動地域別にみると、千里ニュータウン・万博・阪大地域では「70歳以上」が最も多く、それ以外の地域では「60歳代」が最も多い。

（３）活動地域

図表　活動地域



活動地域をみると、「山田・千里丘地域」が24.1%で最も多く、次いで、「千里ニュータウン・万博・阪大地域」が19.5%、「ＪＲ以南地域」が15.3%となっている。

（4）自身が担っている活動

図表　自身が担っている活動（複数回答）

		集計母数	自治会活動	民生委員・児童委員活動	地区福祉委員活動	市社会福祉協議会のボランティアセンター活動	市社会福祉協議会の以外のボランティア活動
	全体	307	51.1%	34.5%	64.8%	29.0%	39.1%
活動地域別	ＪＲ以南地域	47	57.4%	29.8%	55.3%	38.3%	44.7%
	片山・岸部地域	40	45.0%	30.0%	52.5%	42.5%	32.5%
	豊津・江坂・南吹田地域	31	58.1%	16.1%	48.4%	32.3%	29.0%
	千里山・佐井寺地域	39	53.8%	20.5%	84.6%	23.1%	38.5%
	山田・千里丘地域	74	45.9%	47.3%	62.2%	18.9%	50.0%
	千里ニュータウン・万博・阪大地域	60	60.0%	48.3%	86.7%	18.3%	35.0%

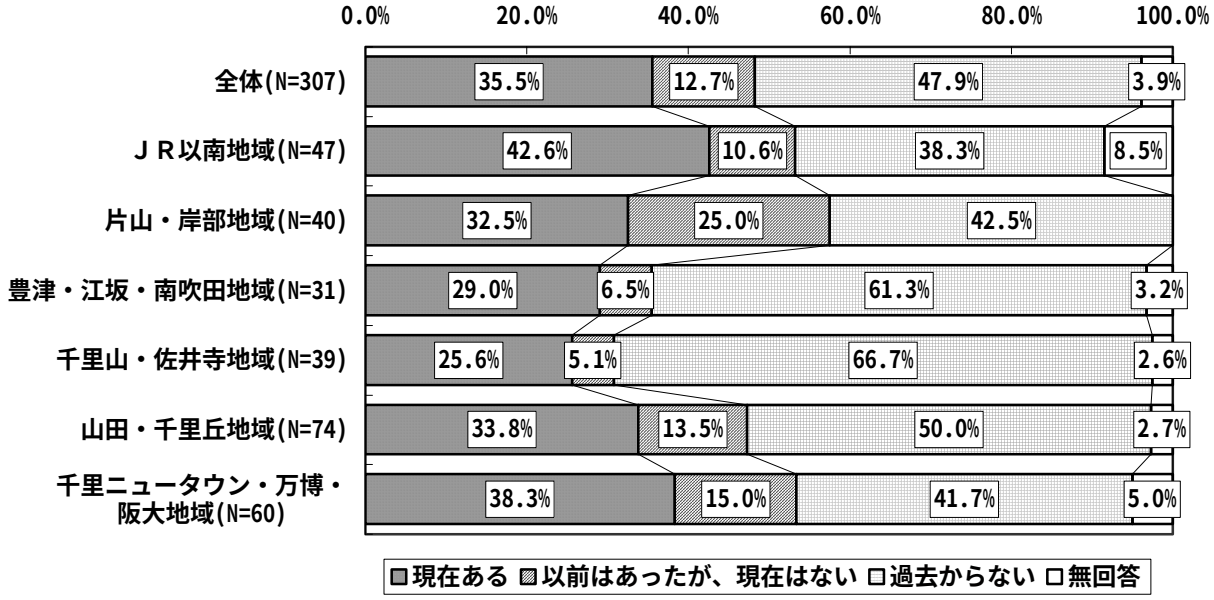
自身が担っている活動をみると、「地区福祉委員活動」が64.8%で最も多く、次いで、「自治会活動」が51.1%となっている。

活動地域別にみると、ＪＲ以南地域と豊津・江坂・南吹田地域では「自治会活動」が最も多く、それ以外の地域では「地区福祉委員活動」が最も多い。

2　障がい者に対する支援の状況について

（1）障がい者（児）や家族への支援の状況

図表　障がい者（児）や家族への支援の状況



障がい者（児）や家族への支援の状況をみると、「過去からない」が47.9%で最も多い。

活動地域別にみると、「現在ある」はＪＲ以南地域と千里ニュータウン・万博・阪大地域では40%前後を占めており、特に多い。「過去からない」は豊津・江坂・南吹田地域と千里山・佐井寺地域では60%以上を占めており、他の地域に比べて多い。

（2）障がい者（児）や家族に対して支援を行ったことがない理由

図表　障がい者（児）や家族に対して支援を行ったことがない理由（複数回答）

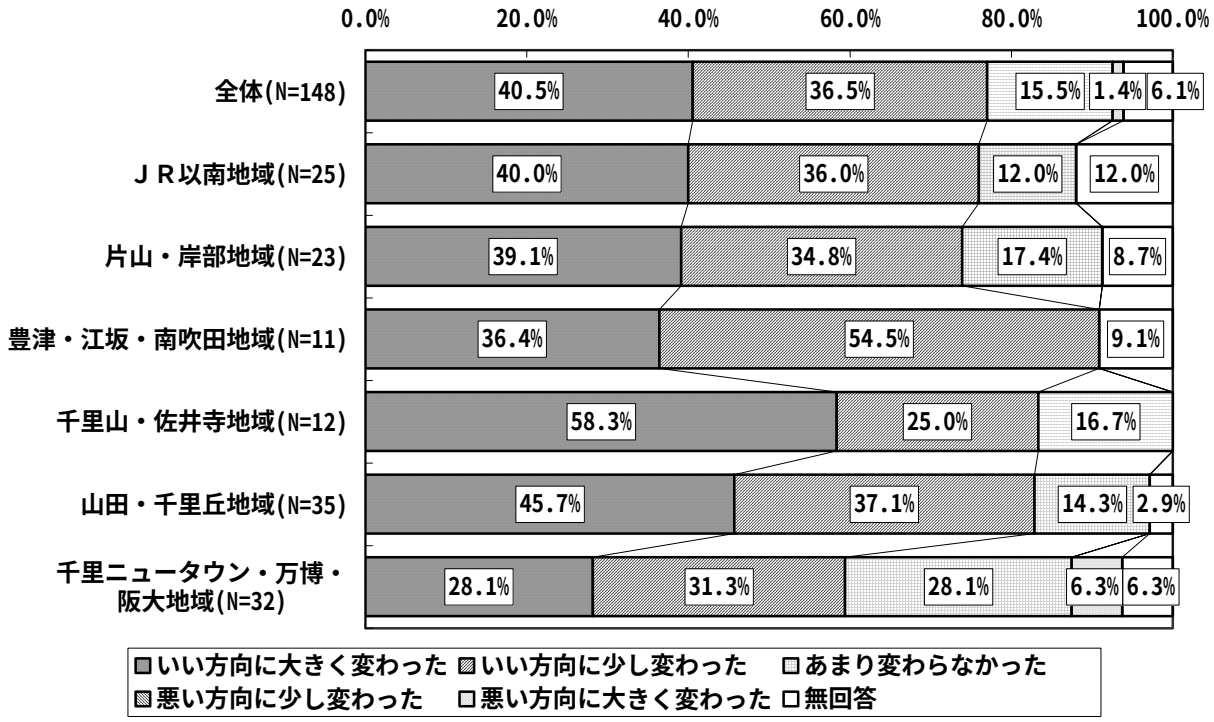
		集計母数	障がい者等から支援の要望を受けたことがないから	他の地域福祉の担い手から支援の要望を受けたことがないから	支援を行おうとした障がい者等から支援が、障がい者の支援を断られたから	障がい者の支援に必要な知識や技術が自分にはないから	障がい者の支援を行うことに抵抗を感じているから	障がい者との接し方がわからないから	その他
活動地域別	全体	147	75.5%	33.3%	0.7%	27.9%	1.4%	17.0%	12.2%
	ＪＲ以南地域	18	66.7%	22.2%	0.0%	33.3%	0.0%	5.6%	11.1%
	片山・岸部地域	17	82.4%	29.4%	0.0%	35.3%	11.8%	17.6%	5.9%
	豊津・江坂・南吹田地域	19	73.7%	36.8%	0.0%	26.3%	0.0%	21.1%	0.0%
	千里山・佐井寺地域	26	80.8%	50.0%	0.0%	30.8%	0.0%	23.1%	23.1%
	山田・千里丘地域	37	81.1%	32.4%	2.7%	29.7%	0.0%	16.2%	16.2%
	千里ニュータウン・万博・阪大地域	25	68.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	8.0%

障がい者（児）や家族に対して支援を行ったことがない理由をみると、「障がい者等から支援の要望を受けたことがないから」が75.5%で最も多く、次いで、「他の地域福祉の担い手から支援の要望を受けたことがないから」が33.3%となっている。

活動地域別にみると、どの地域でも「障がい者等から支援の要望を受けたことがないから」が最も多い。

（３）障がい者（児）や家族に対する支援をしたことで、自身の障がい者・障がいに対する理解が変わったか

図表　障がい者（児）や家族に対する支援をしたことで、自身の障がい者・障がいに対する理解が変わったか

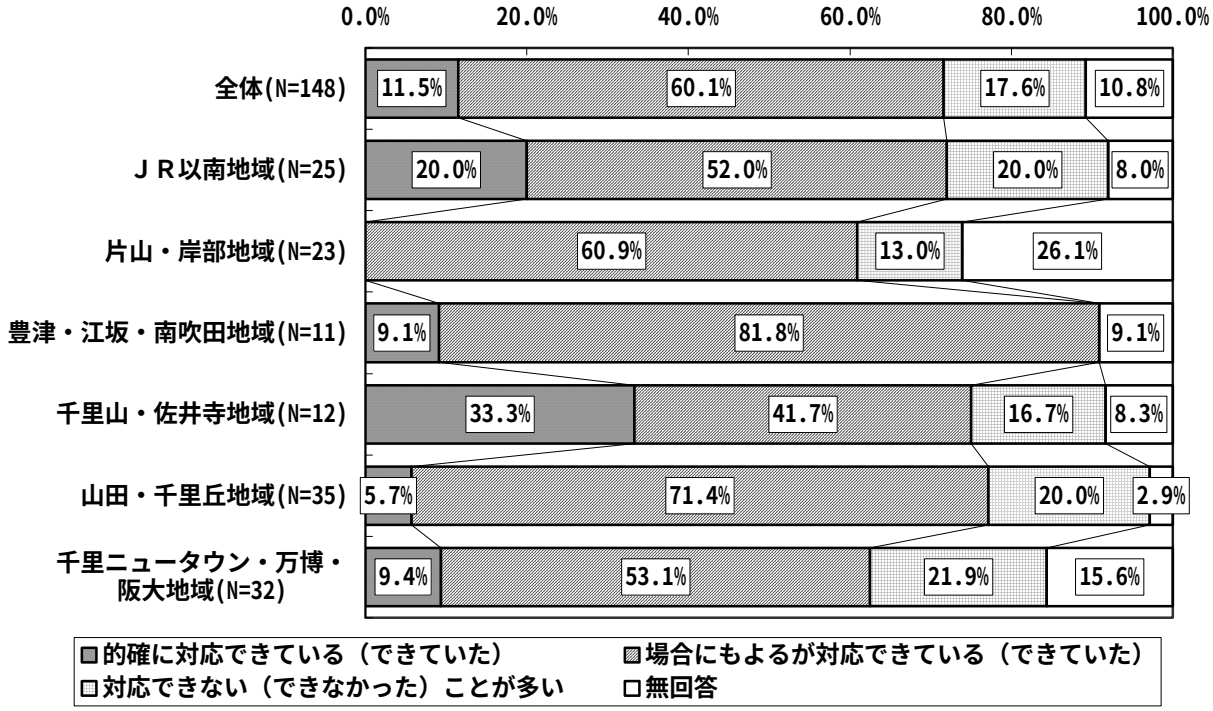


障がい者（児）や家族に対する支援をしたことで、自身の障がい者・障がいに対する理解が変わったかをみると、「いい方向に大きく変わった」が40.5%で最も多く、次いで、「いい方向に少し変わった」が36.5%となっており、70%以上がいい方向に変化したと回答している。

活動地域別にみると、「いい方向に大きく変わった」は千里山・佐井寺地域が最も多い。

（４）障がい者（児）や家族の支援ニーズに対して、十分な対応ができているか

図表　障がい者（児）や家族の支援ニーズに対して、十分な対応ができているか

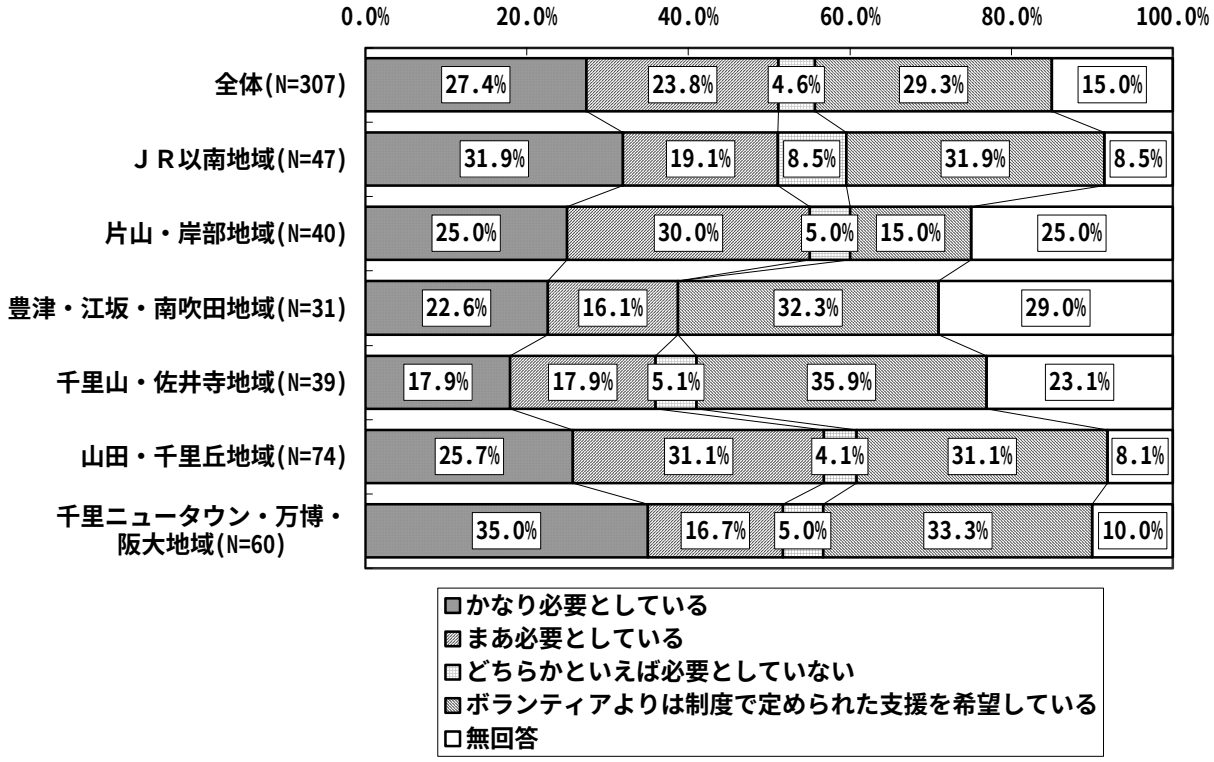


障がい者（児）や家族の支援ニーズに対して、十分な対応ができているかをみると、「場合にもよるが対応できている（できていた）」が60.1%で最も多く、次いで、「対応できない（できなかった）ことが多い」が17.6%となっている。

活動地域別にみると、どの地域でも「場合にもよるが対応できている（できていた）」が最も多い。

（５）障がい者（児）や家族のボランティアによる支援ニーズ

図表　障がい者（児）や家族のボランティアによる支援ニーズ



障がい者（児）や家族のボランティアによる支援ニーズをみると、「ボランティアよりは制度で定められた支援を希望している」が29.3%で最も多く、次いで、「かなり必要としている」が27.4%となっている。「かなり必要としている」と「まあ必要としている」の合計は51.2%で、過半数がボランティアによる支援を必要としている。

活動地域別にみると、「かなり必要としている」と「まあ必要としている」の合計は山田・千里丘地域が56.8%で最も多く、次いで、片山・岸部地域が55.0%となっている。

（６）障がい者・障がいに対する理解を深めるためにしていること

図表　障がい者・障がいに対する理解を深めるためにしていること（複数回答）

		集計母数	自学自習	所属団体のメンバー同士での勉強会の開催	行政が開催する講習会や講座への参加	大学や研究機関が開催する講習会や講座への参加	その他	何もしていない
活動地域別	全体	307	21.5%	27.7%	37.1%	7.5%	10.7%	21.8%
	ＪＲ以南地域	47	19.1%	34.0%	42.6%	4.3%	12.8%	14.9%
	片山・岸部地域	40	17.5%	30.0%	42.5%	7.5%	10.0%	15.0%
	豊津・江坂・南吹田地域	31	16.1%	25.8%	29.0%	9.7%	3.2%	25.8%
	千里山・佐井寺地域	39	20.5%	23.1%	25.6%	2.6%	10.3%	28.2%
	山田・千里丘地域	74	25.7%	27.0%	45.9%	10.8%	12.2%	20.3%
	千里ニュータウン・万博・阪大地域	60	16.7%	23.3%	33.3%	8.3%	11.7%	30.0%
支援の経験	現在ある	109	36.7%	43.1%	47.7%	8.3%	11.9%	10.1%
	以前はあったが、現在はない	39	23.1%	33.3%	46.2%	15.4%	12.8%	12.8%
	過去からない	47	8.8%	15.0%	27.2%	4.8%	8.8%	34.0%

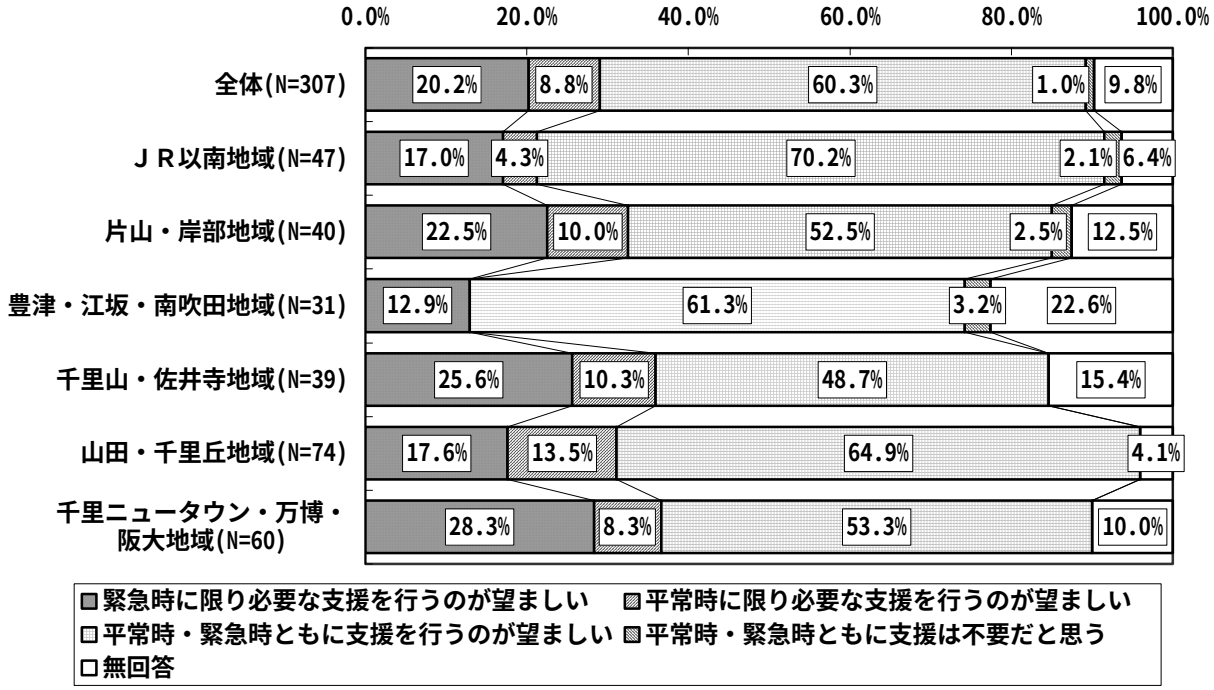
障がい者・障がいに対する理解を深めるためにしていることをみると、「行政が開催する講習会や講座への参加」が37.1%で最も多く、次いで、「所属団体のメンバー同士での勉強会の開催」が27.7%となっている。

活動地域別にみると、どの地域でも「行政が開催する講習会や講座への参加」が最も多く、次いで、「所属団体のメンバー同士での勉強会の開催」となっている。

障がい者（児）への支援の経験別にみると、現在行っているかどうかにかかわらず、経験がある人では、「行政が開催する講習会や講座への参加」が最も多く、次いで、「所属団体のメンバー同士での勉強会の開催」となっている。経験がない人では「何もしていない」が最も多い。

（７）障がい者（児）や家族への支援のあり方

図表　障がい者（児）や家族への支援のあり方



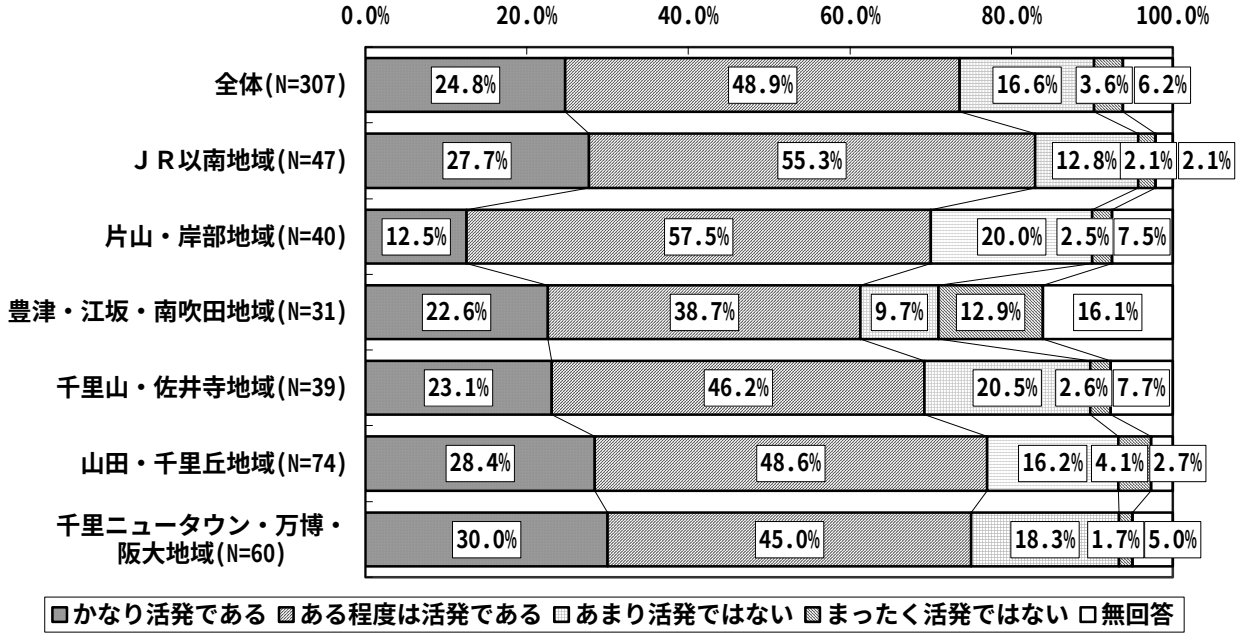
障がい者（児）や家族への支援のあり方をみると、「平常時・緊急時ともに支援を行うのが望ましい」が60.3%で最も多く、次いで、「緊急時に限り必要な支援を行うのが望ましい」が20.2%となっている。

活動地域別にみると、どの地域でも「平常時・緊急時ともに支援を行うのが望ましい」が最も多い。

３　地域での住民等による福祉活動の状況について

（１）自治会や民生委員・児童委員、地区福祉委員、ボランティア団体等による地域福祉の取組

図表　自治会や民生委員・児童委員、地区福祉委員、ボランティア団体等による地域福祉の取組

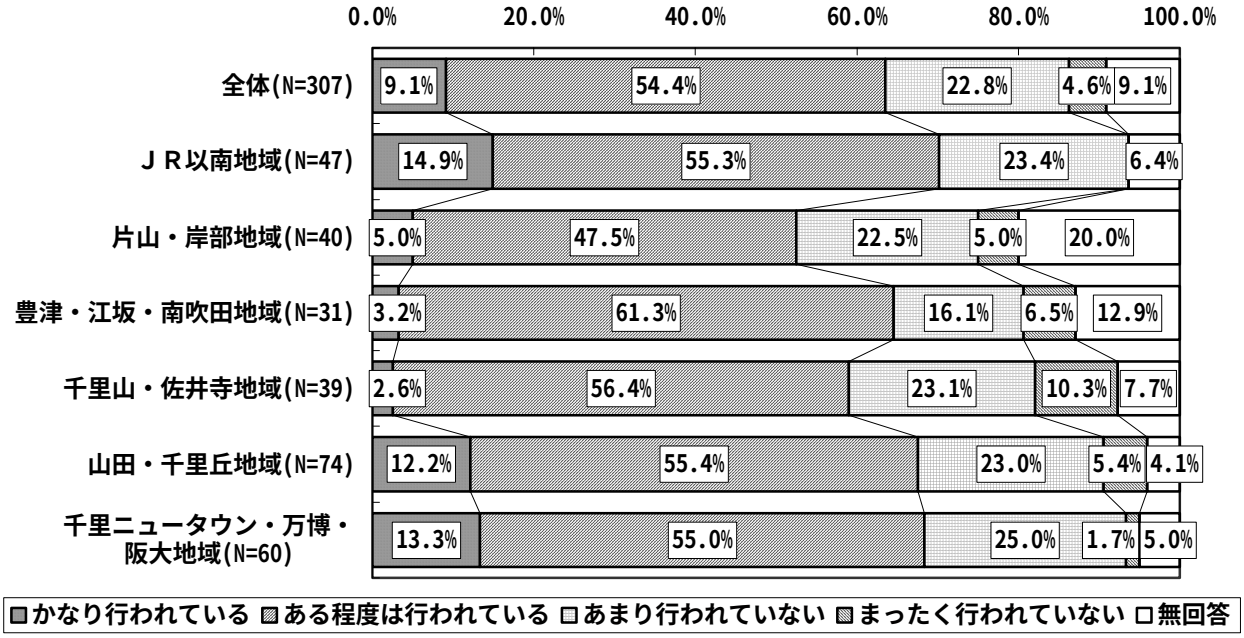


自治会や民生委員・児童委員、地区福祉委員、ボランティア団体等による地域福祉の取組をみると、「ある程度は活発である」が48.9%で最も多く、次いで、「かなり活発である」が24.8%となっている。

活動地域別にみると、いずれの地域でも「かなり活発である」と「ある程度は活発である」を合計した「活発である」が、「まったく活発ではない」と「あまり活発ではない」を合計した「活発ではない」を上回っているが、「活発である」はＪＲ以南地域が83.0%で最も多く、以下、山田・千里丘地域が77.0%、千里ニュータウン・万博・阪大地域が75.0%となっている。

（２）住民による地域福祉の取組状況

図表　住民による地域福祉の取組状況

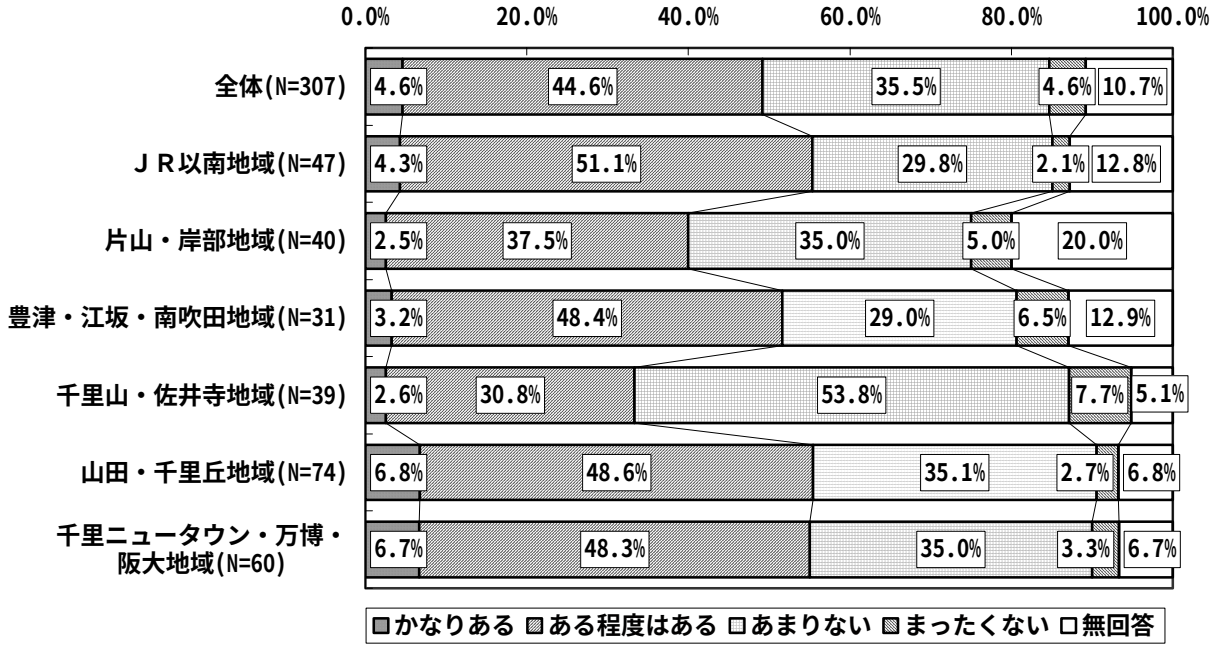


住民による地域福祉の取組状況をみると、「ある程度は行われている」が54.4%で最も多く、次いで、「あまり行われていない」が22.8%となっている。

活動地域別にみると、いずれの地域でも「かなり行われている」と「ある程度は行われている」を合計した「行われている」が、「まったく行われていない」と「あまり行われていない」を合計した「行われていない」を上回っているが、「行われている」はＪＲ以南地域が70.2%で最も多く、以下、千里ニュータウン・万博・阪大地域が68.3%、山田・千里丘地域が67.6%となっている。

（３）地域住民の障がい者支援への理解

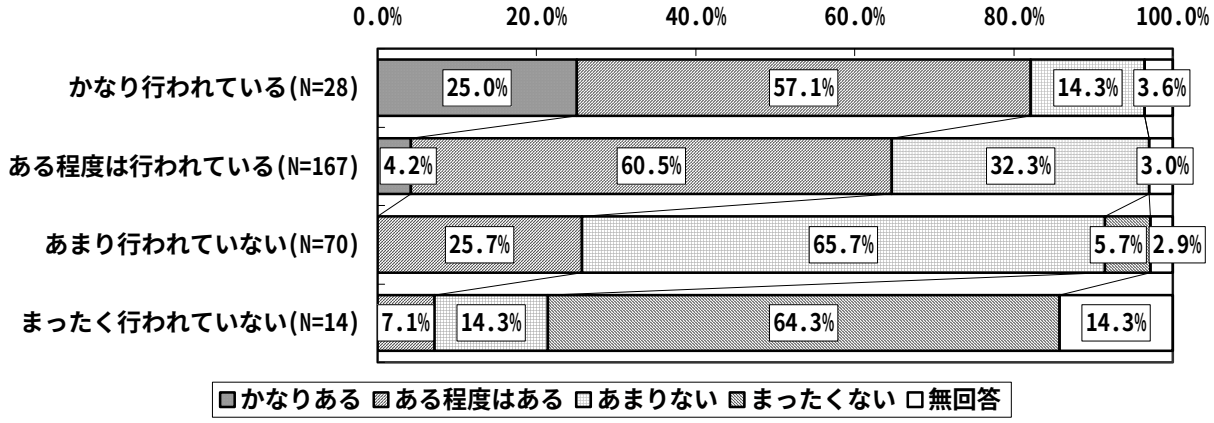
図表　地域住民の障がい者支援への理解



地域住民の障がい者支援への理解をみると、「ある程度はある」が44.6%で最も多く、次いで、「あまりない」が35.5%となっている。

活動地域別にみると、千里山・佐井寺地域では「まったくない」と「あまりない」を合計した「ない」が、「かなりある」と「ある程度はある」を合計した「ある」を上回っている。これと片山・岸部地域を除く地域では、「ある」が「ない」を上回っている。

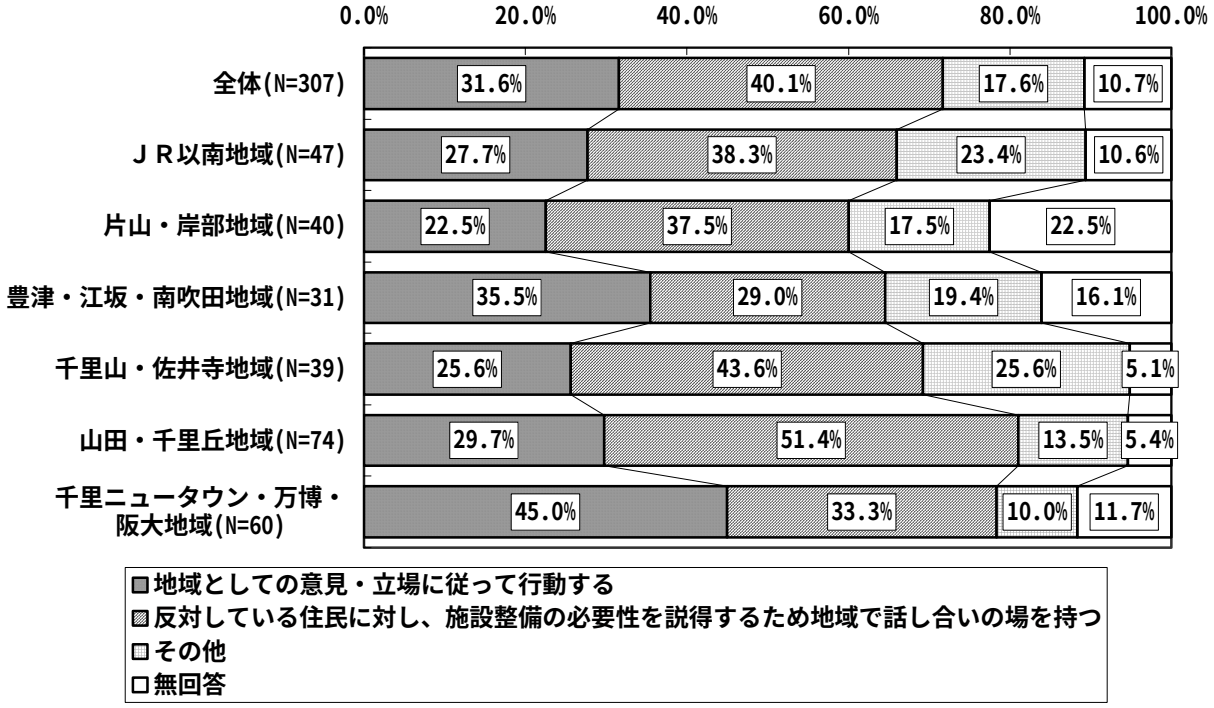
図表　地域住民の障がい者支援への理解（住民による地域福祉の取組状況別）



住民による地域福祉の取組状況別にみると、住民による地域福祉が行われているほど障がい者支援への理解があるという傾向がみられる。住民による地域福祉が「かなり行われている」と「ある程度行われている」では、「かなりある」と「ある程度はある」を合計した「ある」が、「まったくない」と「あまりない」を合計した「ない」を上回っている。

（4）障がい者施設建設に対して地域で反対運動が起こった場合にとる行動

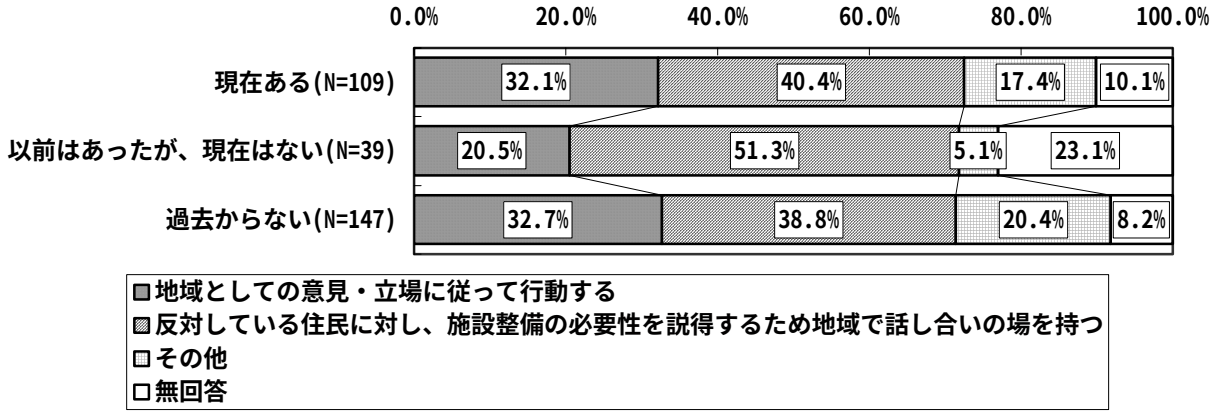
図表　障がい者施設建設に対して地域で反対運動が起こった場合にとる行動



障がい者施設建設に対して地域で反対運動が起こった場合にとる行動をみると、「反対している住民に対し、施設整備の必要性を説得するため地域で話し合いの場を持つ」が40.1%、「地域としての意見・立場に従って行動する」が31.6%となっている。

活動地域別にみると、豊津・江坂・南吹田地域と千里ニュータウン・万博・阪大地域では「地域としての意見・立場に従って行動する」が「反対している住民に対し、施設整備の必要性を説得するため地域で話し合いの場を持つ」を上回っているが、それ以外の地域では「反対している住民に対し、施設整備の必要性を説得するため地域で話し合いの場を持つ」が「地域としての意見・立場に従って行動する」を上回っている。

図表　障がい者施設に地域として反対運動が行なわれた場合にとる行動（障がい者（児）や家族への支援の状況別）



障がい者（児）や家族への支援の状況別にみると、「反対している住民に対し、施設整備の必要性を説得するため地域で話し合いの場を持つ」は「以前はあったが、現在はない」で最も多い。

巻末資料　使用した調査票

「第３期吹田市障がい者計画」策定のためのアンケート調査票

【18歳以上の方対象】

－アンケート調査へのご協力のお願い－

市民の皆様には、日頃から障がい者施策の推進に対してご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、このたび吹田市では、平成18年３月に策定しました「第２期吹田市障がい者計画」の後継計画となる「第３期吹田市障がい者計画」を策定するにあたり、皆様の生活のご様子、障がい者施策に対するご意向等をお聞きし、計画策定の資料とするため、「第３期吹田市障がい者計画策定のためのアンケート調査」を実施することといたしました。

この調査票は、吹田市内の身体障がい者手帳や療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳をお持ちの方の中から、無作為に抽出した方にお配りしています。

お忙しいこととは存じますが、今後の障がい者施策推進のための大切な調査ですので、趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご回答いただいた内容はすべて統計手法により処理しますので、個人が特定されたり、ご回答された方にご迷惑をおかけしたりすることはございません。また、調査の結果は、調査の目的以外には利用いたしません。

平成21年11月

吹　田　市

－ご回答にあたってのお願い－

◆封筒の「あて名のご本人」がご回答ください。
「ご本人」によるご回答が難しい場合は、ご家族など介護されている方が「ご本人」の立場で回答いただいても結構ですので、ご協力をお願いします。

◆すべての質問の回答は、**平成21年11月１日時点の状況**についてご回答ください。

◆回答方法は、あてはまる選択肢の番号に○をつけたり、具体的な数字やお考えなどを直接記入していただいたりする形式です。

◆ご回答が済みましたら、同封の返信用封筒（切手はいりません）に入れて、**12月15日（火）までに**お近くの郵便ポストに入れてください。

◆このアンケート調査は「無記名方式」ですので、アンケート調査票や返信用封筒にあなたのお名前やご住所を記入されないようお願いいたします。

＜このアンケート調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします＞

吹田市役所　障がい者くらし支援室（担当：吉岡、岡本）

電話　０６－６３８４－１３４６（直通）

１．あなた（封筒のあて名のご本人）のことについてお聞きします。

問１　このアンケート調査票の質問に答えた方はどなたですか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　あなたご自身（あて名のご本人）
2　ご家族や介護者がご本人のお考えを聴き取って答えた
3　ご家族や介護者がご本人の立場で代わりに答えた

問２　あなたの性別はどちらですか。あてはまる番号どちらかに○をつけてください。

1　男性　　2　女性

問３　あなたは何歳ですか。平成21年11月１日時点の満年齢を記入してください。

（　　）歳

問４　あなたの毎日の生活で介護や手助けを主にしているのは誰ですか。最もあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　夫・妻
2　父・母
3　祖父・祖母
4　兄弟姉妹
5　子ども
6　孫
7　友だちや仲間
8　ボランティア
9　近所・地域の人
10　ホームヘルパーや介護職員
11　その他（　　）
12　介護や手助けをしてくれる人がいない
13　介護や手助けは必要ない

問５　問４でお答えいただいたあなたを主に介護している方は何歳ですか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　20歳未満　　2　20歳台　　3　30歳台　　4　40歳台
5　50歳台　　6　60歳台　　7　70歳以上

問６　あなたの現在の住まいはどれですか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　持ち家・家族の持ち家
2　公営や民間の賃貸マンション・アパート・借家
3　障がい者の入所施設
4　ケアホームやグループホーム等
5　病院に入院中
6　その他（　　）

問７　あなたがお住まいの地域はどこですか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　ＪＲ以南地域	2　片山・岸部地域
3　豊津・江坂・南吹田地域	4　千里山・佐井寺地域
5　山田・千里丘地域	6　千里ニュータウン・万博・阪大地域
7　市外の大阪府内	8　大阪府外

わからない方は、お住まいの町丁目の名称をお書きください（　　町　　丁目）

問８　あなたの障がいが初めてわかった時期は何歳頃ですか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　出生時	2　０～６歳（小学校入学まで）
3　７～17歳（小学校入学以降）	4　18～39歳
5　40～64歳	6　65歳以上

問９　あなたが「身体障がい者手帳」をお持ちの場合、手帳の等級としてあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　１級	2　２級
3　３級	4　４級
5　５級	6　６級
7　身体障がい者手帳は持っていない	

問10　あなたに身体障がいがある場合、障がいの部位は何ですか。主な障がいのほか、２つ以上の障がいがある場合は、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　視覚障がい（目が不自由）
2　聴覚障がい・平衡機能障がい（耳が不自由）
3　音声・言語（ろうあ）・そしゃく機能障がい
4　肢体不自由（上肢・下肢・体幹機能・脳原性運動機能の障がい）
5　内部障がい（心臓、腎臓、呼吸器、膀胱、直腸、小腸、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障がい）
6　身体障がいはない（身体障がい者手帳は持っていない）

問11　あなたが「療育手帳」をお持ちの場合、手帳の判定としてあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　A	2　B１
3　B２	4　療育手帳は持っていない

問12　あなたが「精神障がい者保健福祉手帳」をお持ちの場合、手帳の等級としてあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　1級	2　2級
3　3級	4　精神障がい者保健福祉手帳は持っていない

問13　あなたの障がい程度認定区分はどれですか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　区分1	2　区分2	3　区分3
4　区分4	5　区分5	6　区分6
7　区分がわからない	8　区分認定を受けていない	

問14　あなたは、介護保険制度の要支援・要介護認定（65歳以上の方と特定疾病のある40歳以上の方が対象）を受けていますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　受けている	2　受けていない
3　40歳未満である（介護保険制度の対象外）	

２．日中の過ごし方や外出の状況についてお聞きします。

問15　あなたは、１週間のうちに何回くらい外出しますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。作業所やデイサービスへ通うことも含めてください。

1　ほぼ毎日	2　4～5日
3　2～3日	4　ほとんど外出しない

問16　あなたは、平日と休日の昼間は主にどのように過ごしていますか。平日と休日それぞれについて、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

	平日	休日
ア　特に何もせず、自宅にいる	1	1
イ　会社等で働いている	2	2
ウ　作業所や施設等で訓練や作業をしている	3	3
エ　学校へ通っている	4	4
オ　趣味の活動をしている	5	5
カ　スポーツをしている	6	6
キ　知りあいや友だちと会う	7	7
ク　障がい者団体等が主催の活動に参加している	8	8

	平日	休日
ケ　地域の活動や行事に参加している	9	9
コ　買物などに外出する	10	10
サ　病院やクリニックへ訓練や治療に通っている	11	11
シ　短期入所（ショートステイ）を利用している	12	12
ス　日中一時支援を利用している	13	13

問17　あなたは、外出するときにどのようなことで困っていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　道路や駅の周辺、建物の段差で移動しにくい
2　道路や歩道の自転車や店の看板などが邪魔で通りにくい
3　車道と歩道の区別がわかりにくくて危険を感じる
4　道路や建物に点字ブロックが敷かれていない
5　音声信号がなくて横断歩道を渡りにくい
6　バスや電車の乗り降りの介助をしてもらえない
7　電車やバスの切符の買い方、料金の支払い方がわからない
8　信号や道路標識の意味がわからない
9　建物のスロープの勾配がきつい
10　建物に車いす用のトイレや手すりがない
11　公共施設や駅などのエレベーターやエスカレーターの場所がわかりにくい
12　障がい者のための施設・設備を示すシンボルマークの表示がない
13　手助けを求める声を気軽にかけられない
14　他人の目や言動が気になる、または他人に迷惑をかけるので、出かける気になれない
15　その他（　　）
16　特に困っていることはない

３．仕事のことについてお聞きします。

問18　あなたは、現在働いていますか。あてはまる番号どちらかに○をつけてください。一般企業等での仕事のほか、作業所や施設等での作業も含みます。

1　働いている（作業所等へ通っている）――▶問19～問20にお答えください。
2　働いていない（学生である）――▶問21にお答えください。

問19　問18で選択肢「１」に○をつけた方にお聞きします。あなたが現在働いているところはどこですか。または、どのような働き方（雇われ方）をしていますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　一般企業や商店等の正社員
2　一般企業や商店等のパートやアルバイト
3　自分で事業（商売）をしている
4　家の事業（商売）を手伝っている
5　役所等の職員
6　作業所や施設等に通っている
7　その他（　　）

問20　問18で選択肢「１」に○をつけた方にお聞きします。あなたは、今の仕事でいやなことや不安に感じていることはありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　能力や働きに応じた賃金がもらえない
2　希望する勤務日数や勤務時間などの融通を聞いてもらえない
3　職場・作業環境がバリアフリー化されていない
4　職場・作業所等へ通うための交通が不便である
5　自分にあった仕事をさせてもらえない
6　仕事の仕方を上手に教えてくれる人がいない
7　職場の人の障がいに対する理解が足りない
8　昇進や能力の評価をきちんとしてくれない
9　人間関係がうまくいかない
10　いつやめさせられるかわからない
11　仕事のやりがいが感じられない
12　その他（　　）
13　いやなこと・不安なことはない

問21　問18で選択肢「２」に○をつけた方にお聞きします。あなたは今後、働こうと思っていますか。

1　働きたい　　2　働きたくない／働かない

問22　現在働いているかどうかに関係なく、あなたは、これまでに仕事をやめたことがありますか。あてはまる番号どちらかに○をつけてください。

1　ある ──────▶問23にお答えください。
2　ない ──────▶問24へお進みください。

問23　問22で選択肢「１」に○をつけた方にお聞きします。あなたが仕事をやめた理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　能力や働きに応じた賃金がもらえなかったから
2　希望する勤務日数や勤務時間などの融通を聞いてもらえなかったから
3　職場・作業環境のバリアフリー化などの改善がされなかったから
4　自分にあった仕事をさせてもらえなかったから
5　仕事の仕方を上手に教えてもらえなかったから
6　職場の人の態度や言動でいやな思いをしたから
7　昇進や能力の評価がきちんとされなかったから
8　仕事のやりがいが感じられなかったから
9　作業所や施設等の利用料を払えなくなったから
10　仲間ができず、孤独だったから
11　障がいの程度が重くなったから
12　病気がちになったから
13　リストラにあったから
14　その他（　　）

問24　あなたは、次のような障がい者に対する就労支援策や就労支援窓口を知っていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　障がい者を短期間試しに雇い入れるトライアル雇用制度
2　障がい者が職場や仕事に慣れるのを助けるジョブコーチ、ジョブライフサポーターを派遣する制度
3　すいた障害者就業・生活支援センターによる企業開拓や職場への定着支援
4　作業所や施設等の授産製品の販売所
5　大阪府が実施する職業訓練等の講座
6　ハローワーク
7　ＪＯＢカフェすいた、ＪＯＢナビすいた
8　知っているものはない

問25　障がい者が安心して働けるようにするため、あなたはどのような対策が必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　能力や働きに応じた賃金や身分が守られるようにする
2　希望する就労形態を可能な限り事業所が受け入れる
3　職場・作業環境をバリアフリー化するなど改善を図る
4　職場へ通うための便利な交通手段を確保する
5　仕事に就くための勉強や訓練を受けられる施設を増やす
6　仕事や社会生活に慣れる訓練を一般企業や役所等で受け入れる
7　障がい者と職場との調整や訓練の指導をする人を配置する
8　自分にあった仕事が見つけやすい相談・あっせん窓口を充実させる
9　職場での差別や偏見をなくすための指導・啓発を強化する
10　法定雇用率や障がい者雇用に関する助成制度を事業所に周知する
11　同じような障がいのある仲間といっしょに働ける場を増やす
12　障がい者が従事できる職種、分野の開拓を事業所内で進める
13　その他（　　）

４．地域との関わりについてお聞きします。

問26　あなたは、身近な地域での活動や行事に参加していますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　積極的に参加している　　2　時々参加している
3　ほとんど参加していない

問27　ホームヘルパーやガイドヘルパーでは対応できない、又は対応しにくい外出（学校への送迎）や介護（見守りや短時間の支援）などがあった場合、あなたは、近所の人やボランティアによる支援を受けたことがありますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　現在受けている
2　以前受けたことがあるが、今は受けていない
3　一度も受けたことはない

問28　あなたは、障がい者や高齢者、子育て家庭などを地域で支える活動を行っている地域福祉の担い手として、知っているものはどれですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　民生委員・児童委員	2　社会福祉協議会の地区福祉委員
3　自治会	4　社会福祉協議会のボランティア団体
5　住民や学生等によるボランティア団体	6　その他（　　）

問29　現在、ボランティア等による障がい者等に対するさまざまな支援等の活動が地域で行われています。このことについて、あなたがボランティア等による日常・緊急の支援を受けるとした場合、支援に必要なあなたや家族に関する基本情報（氏名、住所、年齢、障がいの種別）をボランティア等に知らせることをどのように思いますか。最もあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　支援のために必要な情報は積極的に知らせる
2　支援のためでも知らせる情報は最低限にとどめたい
3　支援は受けたいが、情報は知らせたくない
4　情報を知らせたくないので、ボランティア等による支援は受けない

問30　あなたは、ボランティア等からどのような支援や手助けをしてもらいたいと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　他人との意思疎通の手助けをする
2　外出の際の付き添いをする
3　趣味やレクリエーションの活動をする
4　障がい者同士、同じ障がいのある仲間同士で集まれる場を設ける
5　障がいのある人とない人とが交流できる場を設ける
6　日常の相談に応じる
7　自宅での家事や食事、入浴の手助けをする
8　家族が急用などで介護できないときの見守りをする
9　授産製品の販売活動などを助けてくれる
10　その他（　　）
11　ボランティア等による支援は受けたくない

５．災害など緊急時の対応についてお聞きします。

問31　地震や火事、水害などの災害が発生したとき、あなたは、ひとりで緊急情報を入手したり、避難したりできますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　緊急情報の入手、避難ともにひとりでできる
2　緊急情報は入手できるが、避難はひとりでは困難である
3　緊急情報の入手、避難ともにひとりでは困難である

問32　地震や火事、水害などの災害が発生したとき、あなたはどのようなことに困ると思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　どこで、どんな災害が起こったのかを知ることができない
2　助けを求めるための手段がない
3　助けを求めても、すぐに助けに来てくれる人がいない
4　避難するために手助けしてくれる人が必要である
5　避難場所等で周りの人との意思疎通がうまくできない
6　避難場所で必要な介護を受けられない
7　必要な薬が手に入らなかったり、治療を受けられなかったりする
8　医療的ケアを受けられなくなる
9　補装具や日常生活用具を使えなくなる
10　避難場所が障がい者に配慮されていない
11　ふだんと違う状況に、不安になったり混乱したりする
12　その他（　　）
13　特に困ることはない

６．医療の受診、医療的な支援についてお聞きします。

問33　あなたは、現在、精神科の病院やクリニックに入院または通院していますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　入院している ―――→ 問34～問35にお答えください。
2　通院している ―――→ 問36へお進みください。
3　入院も通院もしていない ―――→

問34　問33で選択肢「１」に○をつけた方にお聞きします。あなたが精神科病院を退院し、地域で生活することになった場合、どのようなサービスや支援が必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　自宅で身の回りの世話や介護をしてくれるサービス
2　生活に必要な外出や社会参加のための外出を支援してくれるサービス
3　自宅に看護師等が訪問し、薬や病気のこと、生活の相談にのってくれるサービス
4　創作的活動や生産活動に参加できるサービス
5　身近で生活や障がい福祉サービス等の相談ができるサービス
6　働くために必要な訓練と仕事に慣れる訓練が受けられるサービス
7　職場との連絡・調整や仕事の指導をしてくれる人がいてくれるサービス
8　入院している間から地域で生活するための練習ができるサービス
9　地域で生活する練習ができるグループホーム等の施設
10　サービスの契約やお金の管理に関する支援をしてくれるサービス
11　入院中から退院後の生活や仕事のことなどを継続して相談できるサービス
12　その他（　　）

問35　問33で選択肢「１」に○をつけた方にお聞きします。あなたが精神科病院を退院し、地域で生活することになった場合、どのようにして毎日を過ごしたいと思いますか。最もあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　一般企業や商店等で働きたい
2　役所等で働きたい
3　作業所や施設等で訓練や作業をしたい
4　病院等のデイケアやナイトケアに通いたい
5　地域活動支援センターに通いたい
6　市役所等のグループワークに通いたい
7　障がい者団体が行う活動に通いたい
8　患者同士の集まりや活動に参加したい
9　特に何もしないで、自宅で過ごしたい
10　その他（　　）

問36　あなたは、ご自身の障がいのことで、継続して診断を受けたり、日常から相談をしたりできる病院やクリニック（かかりつけ医）はありますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　ある　　2　ない
3　以前はあったが、現在はない　　4　かかりつけ医は必要ない

問37　あなたは、ご自身の障がい、あるいは精神的に具合が悪くなったり、てんかん発作になったりして、夜間や休日に医師の診察を受けたくなったことがありますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　ある → 問38にお答えください。
2　ない → 問39へお進みください。
3　現在入院中 → 問39へお進みください。

問38　問37で選択肢「１」に○をつけた方にお聞きします。夜間や休日に医師の診察を受けたくなったとき、あなたはどのように対応しましたか。または、どのような対応がとれましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　かかりつけの病院やクリニックですぐにみてもらえた
2　かかりつけ以外の病院やクリニックですぐにみてもらえた
3　とん服薬を服用して我慢した
4　かかりつけの病院やクリニックが開くまで何もせずに我慢した
5　電話相談機関に電話をした
6　家族や友人に相談をした
7　その他（　　）

問39　あなたは、ご自身の障がい以外のけがや病気で病院などで診療を受けたとき、又は受けようとしたとき、病院などで不適切な対応を受けたり、いやな思いをしたりしたことはありますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　ある → 問40にお答えください。
2　ない → 問41へお進みください。

問40　問39で選択肢「１」に○をつけた方にお聞きします。あなたが病院などにおいて経験した不適切な対応等はどのようなことでしたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　医師の態度や言動でいやな思いをした
2　看護師や受付の人の態度や言動でいやな思いをした
3　診療を拒否された
4　入院できなかったり、すぐに退院させられたりした
5　障がいがあることで、通常受けられる医療や検査を受けられなかった
6　障がいがあることで、付き添いなど特別な対応を求められた
7　医師や看護師などが障がい者への対応に慣れていなかった
8　待合室等での他の患者の態度や言動でいやな思いをした

これらのほかに経験されたことがありましたら、その内容を記入してください。

問41　あなたは、どのような医療的ケアを必要としていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　膀胱留置カテーテル
2　導尿
3　摘便
4　人工肛門の造設
5　胃ろう
6　経管栄養
7　人工呼吸器の装着
8　気管切開
9　気管内・口腔内吸引
10　在宅酸素療法
11　じょく瘡（床ずれ）の処置
12　インシュリン注射
13　経中心静脈栄養（ＩＶＨ、ＣＶ等）
14　その他（　　）
15　特に必要ない

７．障害者自立支援法に関するサービスについてお聞きします。

問42　あなたは、障害者自立支援法で定められている以下のサービスについて、この３年間でのサービスの利用傾向はどのように変化しましたか。サービスの種類ごとにあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

サービスの種類	利用の傾向（回答欄）
ア　訪問系サービス **ホームヘルパーが住まいを訪問し、障がいの種別や程度に応じた介護や外出の支援などを行うサービス【居宅介護、重度訪問介護、行動援護、重度障がい者等包括支援】**	1　利用時間は増える傾向 2　利用時間は減る傾向にある 3　利用時間の変化はない 4　以前は使っていたが、現在使っていない 5　１度も使ったことがない
イ　ガイドヘルプサービス **視覚障がいや全身性障がい、知的障がい、精神障がいのある人に、社会生活で必要な外出や社会参加のための外出の際の移動を支援するサービス【移動支援事業】**	1　利用時間は増える傾向 2　利用時間は減る傾向にある 3　利用時間の変化はない 4　以前は使っていたが、現在使っていない 5　１度も使ったことがない
ウ　ショートステイ（短期入所） **家族が病気などで介護ができなくなったとき、短期入所して介護を受けられるサービス**	1　利用日数は増える傾向 2　利用日数は減る傾向にある 3　利用日数の変化はない 4　以前は使っていたが、現在使っていない 5　１度も使ったことがない
エ　通所系サービス **障がい者支援施設等へ通い、心身の状態に応じて、仕事に就くための勉強や訓練、社会での生活に慣れるための訓練、社会参加の機会を提供するサービス【生活介護、療養介護、自立訓練（機能訓練、生活訓練）、就労移行支援、就労継続支援、地域活動支援センター、日中一時支援事業、障害者自立支援法が始まる前の位置づけの作業所や施設など】**	1　利用日数は増える傾向 2　利用日数は減る傾向にある 3　利用日数の変化はない 4　以前は使っていたが、現在使っていない 5　１度も使ったことがない
オ　補装具費の支給、日常生活用具の給付等事業 **補装具の購入費用や修理費用が支給されるほか、重度の障がいのある人に補装具以外の用具の給付や貸出を行うサービス**	1　利用種類は増える傾向 2　利用種類は減る傾向にある 3　利用種類の変化はない 4　以前は使っていたが、現在使っていない 5　１度も使ったことがない

サービスの種類	利用の傾向（回答欄）
カ　コミュニケーション支援事業 **聴覚・音声・言語機能障がい、視覚障がいその他の障がいがあるため、意思の伝達のための支援が必要な人に手話通訳者等を派遣するサービス【手話通訳者派遣、要約筆記者派遣】**	1　利用回数は増える傾向 2　利用回数は減る傾向にある 3　利用回数の変化はない 4　以前は使っていたが、現在使っていない 5　１度も使ったことがない
キ　訪問入浴サービス事業 **在宅生活をしていて、入浴が困難な身体障がいのある人の住まいに浴槽を持ち込み、入浴の介助をするサービス**	1　利用回数は増える傾向 2　利用回数は減る傾向にある 3　利用回数の変化はない 4　以前は使っていたが、現在使っていない 5　１度も使ったことがない

問43　今後、あなたが利用を増やす必要度が特に高いと感じているサービスはどれですか。特にあてはまる番号３つまでに○をつけてください。

1　訪問系サービス
2　ガイドヘルプサービス
3　ショートステイ（短期入所）
4　通所系サービス
5　居住系サービス（グループホームやケアホーム）
6　補装具費の支給、日常生活用具の給付等事業
7　相談支援事業
8　コミュニケーション支援事業
9　訪問入浴サービス事業
10　更生訓練費・施設入所者就職支度金給付事業
11　特にない

８．心のバリアフリーについてお聞きします。

問44　あなたは、障がいがあることで、ふだんの生活において不適切な対応をされたり、いやな思いをしたりしたことがありますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　よくある　　2　時々ある　　3　ほとんどない

問45　あなたは、どのような場面で不適切な対応をされたり、いやな思いをしたりしたことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　学校の入学や進学の時	2　学校での生活
3　就職活動の時	4　職場でのふだんの生活
5　仕事の給料や昇進	6　近所づきあい
7　商店などでの入店拒否や店員の態度	8　病院の診療拒否
9　タクシー等の乗車拒否	10　まちでの周りの人の視線や言動
11　役所での職員の対応	12　福祉施設での介護職員等の対応
13　その他（　　）	

問46　この５年間くらいを振り返って、あなたは、障がいや難病等の病気に対する市民の理解は深まったと思いますか。最もあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　かなり深まった	2　ある程度深まった
3　あまり深まっていない	4　まったく深まっていない

問47　「障害者」「障害」という言葉に不快感を感じる方が多いとされることから、吹田市では、平成21年（2009年）２月より、法律名称や団体名などの固有名詞を除き、「害」という字を「がい」（ひらがな）に置き換えて表記することとしました。

「障がい者」「障がい」という言葉や表記について、ご本人やご家族はどのように思っていますか。最もあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　漢字表記（障害者、障害）のままでよい
2　「害」はひらがな表記（障がい者、障がい）がよい
3　「害」は元字（常用漢字外）の「碍（がい）」がよい（障碍者、障碍）
4　「しょうがい」とすべてひらがな表記がよい
5　「障害者（障がい者）」「障害（障がい）」とはまったく異なる言葉や表記がよい
（それは、例えばどのような言葉や表記ですか。下のご意見記入欄にご記入ください）
6　どのような言葉や表記でもこだわりなどない

このことに関して、ご意見があればお書きください。

問48　すべての市民が障がい者・障がいに対する理解を深めるために、吹田市ではどのような取組が必要だと思いますか。特にあてはまる番号３つまでに○をつけてください。

1　学校教育等を通じて、子どもの頃から障がいに関する教育を行う
2　企業等での社内教育・研修で、障がいに関する教育を行うよう指導する
3　市報すいた等の広報媒体を活用して周知・啓発を継続的に行う
4　障がいのある人とない人とが交流できる機会や場を充実させる
5　作業所や施設等の授産製品等の販売・展示機会を充実させ、障がい者の活動を知らせる
6　市が主催する講座・教室等の社会教育を充実させる
7　その他（　　）

９．将来の暮らしについてお聞きします。

問49　あなたは、ご自身の将来の暮らしについてどのような不安を持っていますか。特にあてはまる番号３つまでに○をつけてください。

1　自分の健康や障がいのこと
2　生活に必要なお金や収入のこと
3　住まいや生活の場所のこと
4　介護してくれる人がいなくなること
5　自傷・他害などの行動のこと
6　利用できる障がい福祉サービスのこと
7　結婚や出産・子育てのこと
8　進学や学校のこと
9　就職や仕事のこと
10　引きこもり・閉じこもりのこと
11　医療や病気のこと
12　自分が高齢になってからのこと
13　親が亡くなったあとのこと
14　意思疎通や対人関係に関すること
15　その他（　　）
16　特に不安はない

問50　将来、あなたはどのような暮らし方をしたいと思っていますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　介護を受けずにひとりで暮らしたい
2　介護を受けながらひとりで暮らしたい
3　家族と一緒に暮らしたい
4　障がい者の入所施設で暮らしたい
5　グループホームやケアホーム等で暮らしたい
6　その他（　　）

問51　あなたが望んでいる暮らし方をするためには、どのような支援や取組があればよいと思いますか。特にあてはまる番号３つまでに○をつけてください。

1　ひとり暮らしをするための練習ができる場がある
2　介護や支援の仕組み、サービスが充実する
3　同じ障がいがある人との交流や活動ができる場がある
4　賃貸マンションなどを問題なく借りられる
5　働く場所が近くにある
6　仕事以外の活動ができる場がある
7　グループホームやケアホームが増える
8　障がい者の入所施設が身近な地域に整備される
9　地域の人が障がい者や障がいに対する理解を深める
10　家族が自分の暮らし方を理解してくれる
11　住まいを契約するときの保証人や契約を助けてくれる人がいる
12　市営・府営住宅に優先的に入居できる
13　介護してくれる家族が休息できる制度が充実する
14　その他（　　）

10. 吹田市の障がい者施策のあり方についてお聞きします。

問52　あなたは、今後吹田市が障がい者施策を推進していくうえで、以下の事柄の推進のあり方としてどのように思いますか。ア～ナそれぞれについて、最もあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

	1 かなり力を入れて取り組む	2 やや力を入れて取り組む	3 これまでどおりに取り組む
ア　市民に対する障がい者・障がいに関する啓発・教育を強化する	1	2	3
イ　障がい者支援に関わる福祉人材やボランティアを養成する	1	2	3
ウ　障がいの種別・程度に応じた多様な広報・情報提供態勢の充実を図る	1	2	3
エ　障がい者の円滑な意思疎通を支援するため、支援人材の養成、設備の整備を図る	1	2	3

	1 かなり力を入れて取り組む	2 やや力を入れて取り組む	3 これまでどおりに取り組む
オ　障がいの種別に応じた相談態勢の充実を図る	1	2	3
カ　障がい者の権利と尊厳を守るための相談・支援態勢の充実を図る	1	2	3
キ　障害者自立支援法のサービスの充実を図る	1	2	3
ク　発達障がい者や難病患者への支援の仕組みを強化する	1	2	3
ケ　障がい者の仕事や訓練（作業所や施設等）以外の日中活動、居場所の充実を図る	1	2	3
コ　障がい児の学校等以外での日中活動、居場所の充実を図る	1	2	3
サ　障がいの早期発見・早期対応態勢の充実を図る	1	2	3
シ　療育相談・指導態勢の充実を図る	1	2	3
ス　障がい児一人ひとりに応じた教育態勢の充実を図る	1	2	3
セ　企業等に対して障がい者雇用に関する周知・啓発を強化する	1	2	3
ソ　就労に向けた職場体験、訓練機会の確保・充実を図る	1	2	3
タ　障がいの早期発見・早期対応に向けた健診等の充実を図る	1	2	3
チ　安心して診療が受けられる地域医療体制の充実を図る	1	2	3
ツ　バリアフリーなど福祉のまちづくりを強化する	1	2	3
テ　安心して利用できる住まいの場の確保を図る	1	2	3
ト　防犯・防災対策の強化を図る	1	2	3
ナ　行政に対する障がい者・障がいに関する啓発・教育を強化する	1	2	3

問53　最後に、吹田市の今後の障がい者施策の方向性やあり方に関するご意見やお考えを自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

「第３期吹田市障がい者計画」策定のためのアンケート調査票

【18歳未満の方対象】

－アンケート調査へのご協力のお願い－

市民の皆様には、日頃から障がい者施策の推進に対してご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、このたび吹田市では、平成18年３月に策定しました「第２期吹田市障がい者計画」の後継計画となる「第３期吹田市障がい者計画」を策定するにあたり、皆様の生活のご様子、障がい者施策に対するご意向等をお聞きし、計画策定の資料とするため、「第３期吹田市障がい者計画策定のためのアンケート調査」を実施することといたしました。

この調査票は、吹田市内の身体障がい者手帳や療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳をお持ちの方の中から、無作為に抽出した方にお配りしています。

お忙しいこととは存じますが、今後の障がい者施策推進のための大切な調査ですので、趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご回答いただいた内容はすべて統計手法により処理しますので、個人が特定されたり、ご回答された方にご迷惑をおかけしたりすることはございません。また、調査の結果は、調査の目的以外には利用いたしません。

平成21年11月

吹　田　市

－ご回答にあたってのお願い－

◆**保護者の方にご回答をお願いいたします。**

◆すべての質問の回答は、**平成21年11月１日時点の状況**についてご回答ください。

◆回答方法は、あてはまる選択肢の番号に○をつけたり、具体的な数字やお考えなどを直接記入していただいたりする形式です。

◆ご回答が済みましたら、同封の返信用封筒（切手はいりません）に入れて、**12月15日（火）までに**お近くの郵便ポストに入れてください。

◆このアンケート調査は「無記名方式」ですので、アンケート調査票や返信用封筒にあなたのお名前やご住所を記入されないようお願いいたします。

＜このアンケート調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします＞

吹田市役所 障がい者くらし支援室（担当：吉岡、岡本）

電話　０６－６３８４－１３４６（直通）

１．封筒のあて名のご本人のことについてお聞きします。

問１　ご本人の性別はどちらですか。あてはまる番号どちらかに○をつけてください。

1　男性	2　女性

問２　ご本人は何歳ですか。平成21年11月１日時点の満年齢を記入してください。

（　　）歳

問３　ご本人の毎日の生活で介護や手助けを主にしているのは誰ですか。最もあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　父	2　母
3　祖父	4　祖母
5　兄弟姉妹	6　ボランティア
7　ホームヘルパー	8　その他（　　）
9　介護や手助けをしてくれる人がいない	10　介護や手助けは必要ない

問４　問３でお答えいただいたご本人を主に介護している方は何歳ですか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　20歳未満	2　20歳台	3　30歳台
4　40歳台	5　50歳台	6　60歳台
7　70歳以上		

問５　ご本人の現在の住まいはどれですか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　家族の持ち家
2　公営や民間の賃貸マンション・アパート・借家
3　障がい児の入所施設
4　病院に入院中
5　その他（　　）

問６　ご本人がお住まいの地域はどこですか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　ＪＲ以南地域	2　片山・岸部地域
3　豊津・江坂・南吹田地域	4　千里山・佐井寺地域
5　山田・千里丘地域	6　千里ニュータウン・万博・阪大地域
7　市外の大阪府内	8　大阪府外

わからない方は、お住まいの町丁目の名称をお書きください（　　町　　丁目）

問７　ご本人が「身体障がい者手帳」をお持ちの場合、手帳の等級としてあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　１級	2　２級
3　３級	4　４級
5　５級	6　６級
7　身体障がい者手帳は持っていない	

問８　ご本人に身体障がいがある場合、障がいの部位は何ですか。主な障がいのほか、２つ以上の障がいがある場合は、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　視覚障がい（目が不自由）
2　聴覚障がい・平衡機能障がい（耳が不自由）
3　音声・言語（ろうあ）・そしゃく機能障がい
4　肢体不自由（上肢・下肢・体幹機能・脳原性運動機能の障がい）
5　内部障がい（心臓、腎臓、呼吸器、膀胱、直腸、小腸、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障がい）
6　身体障がいはない（身体障がい者手帳は持っていない）

問９　ご本人が「療育手帳」をお持ちの場合、手帳の判定としてあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　A	2　B１
3　B２	4　療育手帳は持っていない

問10　ご本人が「精神障がい者保健福祉手帳」をお持ちの場合、手帳の等級としてあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　１級	2　２級
3　３級	4　精神障がい者保健福祉手帳は持っていない

問11　ご本人の障がい程度認定区分はどれですか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　区分１	2　区分２	3　区分３
4　区分４	5　区分５	6　区分６
7　区分がわからない	8　区分認定を受けていない	

２．日中の過ごし方や外出の状況についてお聞きします。

問12　ご本人は、１週間のうちに何回くらい外出しますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

１　ほぼ毎日	２　４～５日
３　２～３日	４　ほとんど外出しない

問13　「平日の学校等の放課後」「学校等の休みの昼間」「夏休みなど長い休みの昼間」について、ご本人にどのような過ごし方をさせたいと思っていますか。それぞれの時間・時期について、特にあてはまる番号３つまでに○をつけてください。

	平日の学校等の放課後	学校等の休みの昼間	夏休みなど長い休みの昼間
ア　障がいのない友だちとの遊びや交流をさせたい	1	1	1
イ　障がいのある友だちとの遊びや交流をさせたい	2	2	2
ウ　学童保育に行かせたい	3	3	3
エ　学校のクラブ活動等に参加させたい	4	4	4
オ　図書館や児童館へ行かせたい	5	5	5
カ　習い事に行かせたい	6	6	6
キ　地域の子ども会の活動に参加させたい	7	7	7
ク　スポーツをさせたい	8	8	8
ケ　公園などへの散歩に行かせたい	9	9	9
コ　家族と一緒に旅行に連れていきたい	10	10	10
サ　ガイドヘルパーと一緒に外出させたい	11	11	11
シ　「太陽の広場」(注)に参加させたい	12	12	12
ス　児童デイサービスに行かせたい	13	13	13
セ　短期入所（ショートステイ）に行かせたい	14	14	14
ソ　日中一時支援（日帰りショートステイ）に行かせたい	15	15	15
タ　障がい者団体等が行う日中見守り事業に行かせたい	16	16	16
チ　障がい者団体等が主催する行事に参加させたい	17	17	17
ツ　外出せずに、自宅で過ごさせたい	18	18	18

(注)太陽の広場：放課後や休日に小学校を利用して、安心して安全に過ごせる居場所や体験活動の場を子どもたちに提供する事業。

問14　ご本人の外出の際、どのようなことで困っていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1　道路や駅の周辺、建物の段差で移動しにくい
2　道路・歩道上の自転車や店の看板などが邪魔で通りにくい
3　車道と歩道の区別がわかりにくくて危険を感じる
4　道路や建物に点字ブロックが敷かれていない
5　音声信号がなくて横断歩道を渡りにくい
6　バスや電車の乗り降りの介助をしてもらえない
7　電車やバスの切符の買い方、料金の支払い方がわからない
8　信号や道路標識の意味がわからない
9　建物のスロープの勾配がきつい
10　建物に車いす用のトイレや手すりがない
11　公共施設や駅などのエレベーターやエスカレーターの場所がわかりにくい
12　障がい者のための施設・設備を示すシンボルマークの表示がない
13　手助けを求める声を気軽にかけられない
14　他人の目や言動が気になる、または他人に迷惑をかけるので、出かける気になれない
15　その他（　　）
16　特に困っていることはない

３．学校、進路のことについてお聞きします。

問15　ご本人が通っている学校等（通園施設、保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校特別支援(養護)学校）はどれですか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　通園施設（杉の子学園、わかたけ園、吹田療育園など）
2　保育所(園)
3　幼稚園
4　小学校・中学校の通常の学級
5　小学校・中学校の支援学級
6　高等学校
7　特別支援学校幼稚部
8　特別支援学校小学部
9　特別支援学校中学部
10　特別支援学校高等部
11　その他（　　）
12　学校などに通っていない

問16　ご本人が現在通っている学校等を卒園・卒業したあと、どのような進路へ進むことが望ましいとお考えですか。最もあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　小学校・中学校の通常の学級	2　小学校・中学校の支援学級
3　高等学校	4　特別支援学校幼稚部
5　特別支援学校小学部・中学部・高等部	6　大学・短期大学
7　作業所や施設等での訓練や就労	8　一般企業等への就職
9　その他（　　）	10　わからない

問17　ご本人が学校等へ通園・通学しているなかで困っていることや悩んでいることはありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　学校等の施設や設備が障がいに配慮されていない
2　他の児童・生徒との人間関係がうまくいかない
3　他の児童・生徒の障がいに対する理解・配慮が足りない
4　学校として障がいに対する理解・配慮が足りない
5　通学・通園のための移動手段や移動介助が確保しにくい
6　希望する個別指導を受けられない
7　進級・進学に関する適切な指導・相談に応じてもらえない
8　その他（　　）

４．障がい状況の診断・判定、療育についてお聞きします。

問18　ご本人の障がいが初めてわかった時期は何歳頃ですか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　出生時	2　１歳未満	3　１歳
4　２歳	5　３～５歳	6　６～11歳
7　12～14歳	8　15～17歳	

問19　ご本人に障がいがある疑いがわかったきっかけは何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　市の乳幼児健診（４か月児・乳児後期・１歳６か月児・２歳６か月児・３歳児など）
2　かかりつけ医のアドバイス
3　保健師のアドバイス
4　幼稚園や保育所での健診
5　学校での健診
6　幼稚園や保育所の教員・保育士のアドバイス
7　学校の教員のアドバイス
8　家族が気になる症状に気づいて
9　その他（　　）

問20　ご本人の障がいについて、どこで診断・判定を受けてはっきりとしたことがわかりましたか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　病院やクリニック、医院	2　子ども家庭センター
3　保健所	4　学校
5　その他（　　）	

問21　ご本人の障がいについて診断・判定を受けた頃を振り返っていただき、保護者・ご家族の方々は、どのようなことで困っていましたか。また、どのような支援があれば不安や悩みの解消につながりましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　障がいのことや療育について相談できる医療機関や相談窓口が十分になかった
2　適切な治療を受けられる医療機関が十分になかった
3　療育施設が十分になかった
4　保健所や病院等に相談しても、適切な情報提供、助言・指導を受けられなかった
5　介護などのために利用できる福祉サービスの種類・内容がわからなかった
6　保護者が仕事を続けられないなど仕事上の問題が生じた
7　医療費などの助成を受けられるかどうかわからなかった
8　成長段階に応じて、適切かつ継続的な支援を受けられるか不安だった
9　その他（　　）

５．地域との関わりについてお聞きします。

問22　ご本人は、身近な地域での活動や行事に参加していますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　積極的に参加している	2　時々参加している
3　ほとんど参加していない	

問23　ホームヘルパーやガイドヘルパーでは対応できない、又は対応しにくい外出（学校への送迎）や介護（見守りや短時間の支援）などがあった場合、ご本人は、近所の人やボランティアによる支援を受けたことがありますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　現在受けている
2　以前受けたことがあるが、今は受けていない
3　一度も受けたことはない

問24　高齢者や障がい者、子育て家庭などを地域で支える活動を行っている地域福祉の担い手として、知っているものはどれですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　民生委員・児童委員	2　社会福祉協議会の地区福祉委員
3　自治会	4　社会福祉協議会のボランティア団体
5　住民や学生等によるボランティア団体	6　その他（　　）

問25　現在、ボランティア等による障がい者等に対するさまざまな支援等の活動が地域で行われています。このことについて、ボランティア等による日常・緊急の支援を受けるとした場合、支援に必要なご本人やご家族に関する基本情報（氏名、住所、年齢、障がいの種別）をボランティア等に知らせることをどのように思いますか。最もあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　支援のために必要な情報は積極的に知らせる
2　支援のためでも知らせる情報は最低限にとどめたい
3　支援は受けたいが、情報は知らせたくない
4　情報を知らせたくないので、ボランティア等による支援は受けない

問26　ボランティア等からどのような支援や手助けをしてもらいたいと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　他人との意思疎通の手助けをする
2　外出の際の付き添いをする
3　趣味やレクリエーションの活動をする
4　障がい者同士、同じ障がいのある仲間同士で集まれる場を設ける
5　障がいのある人とない人とが交流できる場を設ける
6　日常の相談に応じる
7　自宅での家事や食事、入浴の手助けをする
8　家族が急用などで介護できないときの見守りをする
9　授産製品の販売活動などを助けてくれる
10　その他（　　）
11　ボランティア等による支援は受けたくない

６．災害など緊急時の対応についてお聞きします。

問27　地震や火事、水害などの災害が発生したとき、ご本人は、ひとりで緊急情報を入手したり、避難したりできますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　緊急情報の入手、避難ともにひとりでできる
2　緊急情報は入手できるが、避難はひとりでは困難である
3　緊急情報の入手、避難ともにひとりでは困難である

問28　地震や火事、水害などの災害が発生したとき、ご本人はどのようなことに困ると思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　どこで、どんな災害が起こったのかを知ることができない
2　助けを求めるための手段がない
3　助けを求めても、すぐに助けに来てくれる人がいない
4　避難するために手助けしてくれる人が必要である
5　避難場所等で周りの人との意思疎通がうまくできない
6　避難場所で必要な介護を受けられない
7　必要な薬が手に入らなかったり、治療を受けられなかったりする
8　医療的ケアを受けられなくなる
9　補装具や日常生活用具を使えなくなる
10　避難場所が障がい者に配慮されていない
11　ふだんと違う状況に、不安になったり混乱したりする
12　その他（　　）
13　特に困ることはない

７．医療の受診、医療的な支援についてお聞きします。

問29　ご本人の障がいのことで、継続して診断を受けたり、日常から相談をしたりできる病院やクリニック（かかりつけ医）はありますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　ある　　2　ない
3　以前はあったが、現在はない　　4　かかりつけ医は必要ない

問30　ご本人の障がい、あるいはてんかん発作などが原因で、夜間や休日に医師の診察を受ける必要が生じたことがありますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　ある ──→ 問31にお答えください。
2　ない ──→ 問32へお進みください。
3　現在入院中 ──→

問31　問30で選択肢「１」に○をつけた方にお聞きします。ご本人が夜間や休日に医師の診察を受けたくなったとき、どのように対応しましたか。または、どのような対応がとれましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　かかりつけの病院やクリニックですぐにみてもらえた
2　かかりつけ以外の病院やクリニックですぐにみてもらえた
3　とん服薬を服用して我慢した
4　かかりつけの病院やクリニックが開くまで何もせずに我慢した
5　電話相談機関に電話をした
6　家族や友人に相談をした
7　その他（　　）

問32　ご本人の障がい以外のけがや病気で病院などで診療を受けたとき、又は受けようとしたとき、病院などで不適切な対応を受けたり、いやな思いをしたりしたことはありますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　ある ―――▶ 問33にお答えください。
2　ない ―――▶ 問34へお進みください。

問33　問32で選択肢「１」に○をつけた方にお聞きします。病院などにおいて経験した不適切な対応等はどのようなことでしたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　医師の態度や言動でいやな思いをした
2　看護師や受付の人の態度や言動でいやな思いをした
3　診療を拒否された
4　入院できなかったり、すぐに退院させられたりした
5　障がいがあることで、通常受けられる医療や検査を受けられなかった
6　障がいがあることで、付き添いなど特別な対応を求められた
7　医師や看護師などが障がい者への対応に慣れていなかった
8　待合室等での他の患者の態度や言動でいやな思いをした

これらのほかに経験されたことがありましたら、その内容を記入してください。

問34　ご本人は、どのような医療的ケアを必要としていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　膀胱留置カテーテル	2　導尿
3　摘便	4　人工肛門の造設
5　胃ろう	6　経管栄養
7　人工呼吸器の装着	8　気管切開
9　気管内・口腔内吸引	10　在宅酸素療法
11　じょく瘡（床ずれ）の処置	12　インシュリン注射
13　経中心静脈栄養（ＩＶＨ、ＣＶ等）	14　その他（　　）
15　特に必要ない	

８．障害者自立支援法に関するサービスについてお聞きします。

問35　障害者自立支援法で定められている以下のサービスについて、この３年間でのご本人のサービスの利用傾向はどのように変化しましたか。サービスの種類ごとあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

サービスの種類	利用の傾向（回答欄）
ア　訪問系サービス **ホームヘルパーが住まいを訪問し、障がいの種別や程度に応じた介護や外出の支援などを行うサービス【居宅介護、重度訪問介護、行動援護、重度障がい者等包括支援】**	1　利用時間は増える傾向 2　利用時間は減る傾向にある 3　利用時間の変化はない 4　以前は使っていたが、現在使っていない 5　１度も使ったことがない
イ　ガイドヘルプサービス **視覚障がいや全身性障がい、知的障がい、精神障がいのある人に、社会生活で必要な外出や社会参加のための外出の際の移動を支援するサービス【移動支援事業】**	1　利用時間は増える傾向 2　利用時間は減る傾向にある 3　利用時間の変化はない 4　以前は使っていたが、現在使っていない 5　１度も使ったことがない
ウ　ショートステイ（短期入所） **家族が病気などで介護ができなくなったとき、短期入所して介護を受けられるサービス**	1　利用日数は増える傾向 2　利用日数は減る傾向にある 3　利用日数の変化はない 4　以前は使っていたが、現在使っていない 5　１度も使ったことがない
エ　通所系サービス **障がい者支援施設等へ通い、心身の状態に応じて、仕事に就くための勉強や訓練、社会での生活に慣れるための訓練、社会参加の機会を提供するサービス【児童デイサービス、通園施設（杉の子学園、わかたけ園、吹田療育園など）、地域活動支援センター、日中一時支援事業】**	1　利用日数は増える傾向 2　利用日数は減る傾向にある 3　利用日数の変化はない 4　以前は使っていたが、現在使っていない 5　１度も使ったことがない

サービスの種類	利用の傾向（回答欄）
オ　補装具費の支給、日常生活用具の給付等事業 **補装具の購入費用や修理費用が支給されるほか、重度の障がいのある人に補装具以外の用具の給付や貸出を行うサービス**	1　利用種類は増える傾向 2　利用種類は減る傾向にある 3　利用種類の変化はない 4　以前は使っていたが、現在使っていない 5　１度も使ったことがない
カ　コミュニケーション支援事業 **聴覚・音声・言語機能障がい、視覚障がいその他の障がいがあるため、意思の伝達のための支援が必要な人に手話通訳者等を派遣するサービス【手話通訳者派遣、要約筆記者派遣】**	1　利用回数は増える傾向 2　利用回数は減る傾向にある 3　利用回数の変化はない 4　以前は使っていたが、現在使っていない 5　１度も使ったことがない

問36　今後、ご本人が利用を増やす必要度が特に高いと感じているサービスはどれですか。特にあてはまる番号３つまでに○をつけてください。

1　訪問系サービス
2　ガイドヘルプサービス
3　ショートステイ（短期入所）
4　通所系サービス
5　補装具費の支給、日常生活用具の給付等事業
6　相談支援事業
7　コミュニケーション支援事業
8　特にない

９．心のバリアフリーについてお聞きします。

問37　ご本人やご家族は、ご本人に障がいがあることで、ふだんの生活において不適切な対応をされたり、いやな思いをしたりしたことがありますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　よくある　　2　時々ある　　3　ほとんどない

問38　ご本人やご家族は、どのような場面で不適切な対応をされたり、いやな思いをしたりしたことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　学校の入学や進学の時
2　学校での生活
3　就職活動の時
4　近所づきあい
5　地域での活動
6　地域のお店や公共施設などを利用する時
7　商店などでの入店拒否や店員の態度
8　病院の診療拒否
9　タクシー等の乗車拒否
10　まちでの周りの人の視線や言動
11　役所での職員の対応
12　福祉施設での介護職員等の対応
13　その他（　　）

問39　この５年間くらいを振り返って、障がい者や障がいに対する市民の理解は深まったと思いますか。最もあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　かなり深まった	2　ある程度深まった
3　あまり深まっていない	4　まったく深まっていない

問40　「障害者」「障害」という言葉に不快感を感じる方が多いとされることから、吹田市では、平成21年（2009年）２月より、法律名称や団体名などの固有名詞を除き、「害」という字を「がい」（ひらがな）に置き換えて表記することとしました。
「障がい者」「障がい」という言葉や表記について、ご本人やご家族はどのように思っていますか。最もあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　漢字表記（障害者、障害）のままでよい
2　「害」はひらがな表記（障がい者、障がい）がよい
3　「害」は元字（常用漢字外）の「碍（がい）」がよい（障碍者、障碍）
4　「しょうがい」とすべてひらがな表記がよい
5　「障害者（障がい者）」「障害（障がい）」とはまったく異なる言葉や表記がよい
　（それは、例えばどのような言葉や表記ですか。下のご意見記入欄にご記入ください）
6　どのような言葉や表記でもこだわりなどない

このことに関して、ご意見があればお書きください。

問41　すべての市民が障がい者・障がいに対する理解を深めるために、吹田市ではどのような取組が必要だと思いますか。特にあてはまる番号３つまでに○をつけてください。

1　学校教育等を通じて、子どもの頃から障がいに関する教育を行う
2　企業等での社内教育・研修で、障がいに関する教育を行うよう指導する
3　市報すいた等の広報媒体を活用して周知・啓発を継続的に行う
4　障がいのある人とない人とが交流できる機会や場を充実させる
5　作業所や施設等の授産製品等の販売・展示機会を充実させ、障がい者の活動を知らせる
6　市が主催する講座・教室等の社会教育を充実させる
7　その他（　　）

10. 将来の暮らしについてお聞きします。

問42　ご家族として、ご本人の将来の暮らしについてどのような不安を持っていますか。特にあてはまる番号３つまでに○をつけてください。

1　本人の健康や障がいのこと	2　生活に必要なお金や収入のこと
3　住まいや生活の場所のこと	4　介護する人がいなくなること
5　自傷・他害などの行動のこと	6　利用できる障がい福祉サービスのこと
7　結婚や出産・子育てのこと	8　進学や学校のこと
9　就職や仕事のこと	10　引きこもり・閉じこもりのこと
11　医療や病気のこと	12　本人が高齢になってからのこと
13　ご家族が亡くなったあとのこと	14　意思疎通や対人関係に関すること
15　その他（　　）	16　特に不安はない

問43　将来、ご本人にはどのような暮らし方をしてもらいたいと思っていますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　介護を受けずにひとりで暮らしてもらいたい
2　介護を受けながらひとりで暮らしてもらいたい
3　家族と一緒に暮らしてもらいたい
4　障がい者の入所施設で暮らしてもらいたい
5　グループホームやケアホーム等で暮らしてもらいたい
6　その他（　　）

問44　ご本人に望む暮らし方を実現させるためには、どのような支援や取組があればよいと思いますか。特にあてはまる番号３つまでに○をつけてください。

1　ひとり暮らしをするための練習ができる場がある
2　介護や支援の仕組み、サービスが充実する
3　同じ障がいがある人との交流や活動ができる場がある
4　賃貸マンションなどを問題なく借りられる
5　働く場所が近くにある
6　仕事以外の活動ができる場がある
7　グループホームやケアホームが増える
8　障がい者の入所施設が身近な地域に整備される
9　地域の人が障がい者や障がいに対する理解を深める
10　住まいを契約するときの保証人や契約を助けてくれる人がいる
11　市営・府営住宅に優先的に入居できる
12　介護する家族が休息できる制度が充実する
13　その他（　　）

11. 吹田市の障がい者施策のあり方についてお聞きします。

問45　今後吹田市が障がい者施策を推進していくうえで、以下の事柄をどの程度重視すべきだと思いますか。ア～ナそれぞれについて、最もあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

	1 かなり力を入れて取り組む	2 やや力を入れて取り組む	3 これまでどおりに取り組む
ア　市民に対する障がい者・障がいに関する啓発・教育を強化する	1	2	3
イ　障がい者支援に関わる福祉人材やボランティアを養成する	1	2	3
ウ　障がいの種別・程度に応じた多様な広報・情報提供態勢の充実を図る	1	2	3
エ　障がい者の円滑な意思疎通を支援するため、支援人材の養成、設備の整備を図る	1	2	3
オ　障がいの種別に応じた相談態勢の充実を図る	1	2	3
カ　障がい者の権利と尊厳を守るための相談・支援態勢の充実を図る	1	2	3
キ　障害者自立支援法のサービスの充実を図る	1	2	3
ク　発達障がい者や難病患者への支援の仕組みを強化する	1	2	3
ケ　障がい者の仕事や訓練（作業所や施設等）以外の日中活動、居場所の充実を図る	1	2	3
コ　障がい児の学校等以外での日中活動、居場所の充実を図る	1	2	3
サ　障がいの早期発見・早期対応態勢の充実を図る	1	2	3
シ　療育相談・指導態勢の充実を図る	1	2	3
ス　障がい児一人ひとりに応じた教育態勢の充実を図る	1	2	3
セ　企業等に対して障がい者雇用に関する周知・啓発を強化する	1	2	3
ソ　就労に向けた職場体験、訓練機会の確保・充実を図る	1	2	3

	1 かなり力を入れて取り組む	2 やや力を入れて取り組む	3 これまでどおりに取り組む
タ　障がいの早期発見・早期対応に向けた健診等の充実を図る	1	2	3
チ　安心して診療が受けられる地域医療体制の充実を図る	1	2	3
ツ　バリアフリーなど福祉のまちづくりを強化する	1	2	3
テ　安心して利用できる住まいの場の確保を図る	1	2	3
ト　防犯・防災対策の強化を図る	1	2	3
ナ　行政に対する障がい者・障がいに関する啓発・教育を強化する	1	2	3

問46　最後に、吹田市の今後の障がい者施策の方向性やあり方に関するご意見やお考えを自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

「第３期吹田市障がい者計画」策定のためのアンケート調査票

【発達障がい児対象】

－アンケート調査へのご協力のお願い－

市民の皆様には、日頃から障がい者施策の推進に対してご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、このたび吹田市では、平成18年３月に策定しました「第２期吹田市障がい者計画」の後継計画となる「第３期吹田市障がい者計画」を策定するにあたり、皆様の生活のご様子、障がい者施策に対するご意向等をお聞きし、計画策定の資料とするため、「第３期吹田市障がい者計画策定のためのアンケート調査」を実施することといたしました。

この調査票は、医療機関等において発達障がいとの診断を受けられた吹田市内の小学校及び中学校に通学されている児童・生徒の保護者の方に対し、各学校を通じて調査のご依頼をし、ご協力のご同意をいただけた方に対してお配りしています。

お忙しいこととは存じますが、今後の障がい者施策推進のための大切な調査ですので、趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご回答くださった内容はすべて統計手法により処理しますので、個人が特定されたり、ご回答された方にご迷惑をおかけしたりすることはございません。また、調査の結果は、調査の目的以外には利用いたしません。

平成21年９月

吹　田　市

－ご回答にあたってのお願い－

◆保護者の方にご回答をお願いいたします。

◆すべての質問の回答は、平成21年９月１日時点の状況についてご回答ください。

◆回答方法は、あてはまる選択肢の番号に○をつけたり、具体的な数字やお考えなどを直接記入していただいたりする形式です。

◆ご回答が済みましたら、同封の返信用封筒（切手はいりません）に入れて、10月25日（日）までにお近くの郵便ポストに入れてください。

◆このアンケート調査は「無記名方式」ですので、アンケート調査票や返信用封筒にあなたのお名前やご住所を記入されないようお願いいたします。

＜このアンケート調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします＞

吹田市役所 障がい者くらし支援室（担当：吉岡、岡本）

電話　０６－６３８４－１３４６（直通）

問１　ご本人の性別はどちらですか。あてはまる番号どちらかに○をつけてください。

１　男性　　２　女性

問２　ご本人は何歳ですか。平成21年９月１日時点の満年齢を記入してください。

（　　）歳

問３　ご本人が受けている診断はどれですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

１　高機能自閉症
２　アスペルガー症候群
３　注意欠陥／多動性障がい（ＡＤＨＤ）
４　学習障がい（ＬＤ）
５　その他（　　）

問４　ご本人に発達障がいがある疑い（気になる症状・様子）を初めて感じた時期は何歳頃ですか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

１　１歳未満　　２　１～２歳未満
３　２～３歳未満　　４　３～５歳
５　６～11歳　　６　12～14歳

問５　ご本人に発達障がいがある疑い（気になる症状・様子）がわかったきっかけは何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

１　市の４か月児健康診査
２　市の乳児後期（10～11か月）健康診査
３　市の１歳６か月児健康診査
４　市の２歳６か月児歯科健康診査
５　市の３歳児健康診査
６　かかりつけ医のアドバイス
７　保健師のアドバイス
８　幼稚園や保育所での健診
９　学校での健診
10　幼稚園や保育所の教員・保育士のアドバイス
11　学校の教員のアドバイス
12　家族が気になる症状に気づいて
13　その他（　　）

問６　ご本人の発達障がいの診断・判定を受けたのは何歳頃ですか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　１歳未満	2　１～２歳未満
3　２～３歳未満	4　３～５歳
5　６～11歳	6　12～14歳

問７　ご本人の「身体障がい者手帳」の所持の有無について、あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　身体障がい者手帳は持っていない	2　１級
3　２級	4　３級
5　４級	6　５級
7　６級	

問８　ご本人の「療育手帳」の所持の有無について、あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　療育手帳は持っていない	2　A
3　Ｂ１	4　Ｂ２

問９　ご本人の「精神障がい者保健福祉手帳」の所持の有無について、あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　精神障がい者保健福祉手帳は持っていない	2　１級
3　２級	4　３級

問10　ご本人が通っている学校はどれですか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　小学校の通常の学級
2　小学校の通常の学級（通級指導教室にも通っている）
3　小学校の支援学級
4　中学校の通常の学級
5　中学校の通常の学級（通級指導教室にも通っている）
6　中学校の支援学級
7　その他（　　）

問11　「平日の学校等の放課後」「学校等の休みの昼間」「夏休みなど長い休みの昼間」について、ご本人にどのような過ごし方をさせたいと思っていますか。それぞれの時間・時期について、特にあてはまる番号３つまでに○をつけてください。

	平日の学校等の放課後	学校等の休みの昼間	夏休みなど長い休みの昼間
ア　友だちとの遊びや交流をさせたい			
イ　学童保育に行かせたい			
ウ　学校のクラブ活動等に参加させたい			
エ　図書館や児童館へ行かせたい			
オ　習い事に行かせたい			
カ　地域の子ども会の活動に参加させたい			
キ　スポーツをさせたい			
ク　公園などへの散歩に行かせたい			
ケ　家族と一緒に旅行に連れていきたい			
コ　「太陽の広場」に参加させたい			
サ　外出せずに、自宅で過ごさせたい			
シ　障がい福祉サービス（児童デイサービスやガイドヘルプサービスなど）を利用させたい			

問12　ご本人が学校生活を送るなかで困っていることや悩んでいることはありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　授業についていけない・内容がわからない
2　他の児童・生徒との人間関係がうまくいかない
3　他の児童・生徒の障がいに対する理解・配慮が足りない
4　教職員が障がいに配慮した適切な指導をしてくれない
5　学校として発達障がいに対する理解が足りない

上記の選択肢に関する具体的な内容や選択肢以外のことで、学校生活を送るなかで困っていることや悩んでいることなどを具体的にお書きください。

問13　ご本人の障がいの診断・判定を受ける前、症状や様子が「気になる」状況だった頃を振り返っていただき、保護者・ご家族の方々は、どのようなことで困っていましたか。また、どのような支援があれば不安や悩みの解消につながりましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　「気になる症状・様子」について相談できる医療機関の情報が十分になかった
2　「気になる症状・様子」について相談できる専門の窓口の情報が十分になかった
3　幼稚園、学校の教職員等にあまり相談にのってもらえなかった
4　保育園の保育士にあまり相談にのってもらえなかった
5　同じような子を持つ保護者との身近な場所での交流機会があればよかった
6　市の定期健診時に「気になる症状・様子」について相談にのってもらいたかった
7　市の定期健診時に障がいの疑いを指摘されたが、十分な助言・指導を受けられなかった
8　障がいの診断・判定を受けられる医療機関の情報が十分になかった
9　幼稚園、学校で「気になる症状・様子」を踏まえた指導・教育内容が十分でなかった
10　保育園で「気になる症状・様子」を踏まえた保育内容が十分ではなかった
11　市役所に相談しても、適切な情報提供、助言・指導を受けられなかった
12　保健所に相談しても、適切な情報提供、助言・指導を受けられなかった

上記の選択肢に関する具体的な内容や選択肢以外のこと、そのほか、ご本人が障がいの診断・判定を受ける前、症状や様子が「気になる」状況だった頃の保護者・ご家族の不安や悩み、あればよかったなあと思う支援などについて、具体的にお書きください。

問14　ご本人の障がいの診断・判定を受けてから現在までのことを振り返っていただき、保護者・ご家族の方々は、どのようなことで困ったことがありますか。または、どのような支援があればよかったと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　治療のために継続して受診できる医療機関を身近で見つけられなかった
2　療育・教育について相談できる専門の窓口がわからなかった
3　幼稚園、学校の教職員等に相談にのってもらえないことがあった
4　保育園の保育士に相談にのってもらえないことがあった
5　同じ障がいがある子を持つ保護者との身近な場所での交流機会がなかった
6　市の定期健診時に障がいに関する相談にのってもらえなかった
7　市の定期健診時に障がいに関する適切な助言・指導を受けられなかった
8　幼稚園、学校で、障がいを踏まえた指導・教育内容が十分に行われなかった
9　保育園で、障がいを踏まえた保育が十分に行われなかった
10　学校等において、他の児童等に対して理解や配慮を求める指導が十分に行われなかった
11　学校等において、保護者に対する発達障がいに関する啓発が十分に行われなかった
12　思うように利用できる福祉サービスがなかった、不足していた
13　市役所に相談しても、適切な情報提供、助言・指導を受けられなかった
14　保健所に相談しても、適切な情報提供、助言・指導を受けられなかった

上記の選択肢に関する具体的な内容や選択肢以外のこと、そのほか、ご本人が障がいの診断・判定を受けてからの保護者・ご家族の不安や悩み、あればよかったなあと思う支援などについて、具体的にお書きください。

問15　ご本人の障がいのことで、継続して診断を受けたり、日常から相談をしたりできる病院やクリニック（かかりつけ医）はありますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　ある　　2　ない
3　以前はあったが、現在はない　　4　かかりつけ医は必要ない

問16　ご本人の障がいが原因で具合が悪くなるなどして、夜間や休日に医師の診察を受けたくなったことがありますか。あてはまる番号どちらかに○をつけてください。

1　ある ―――▶ 問17にお答えください
2　ない ―――▶ 問18へお進みください

問17　問16で選択肢「１」に○をつけた方にお聞きします。夜間や休日に医師の診察を受けたくなったとき、どのように対応しましたか。または、どのような対応がとれましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　かかりつけの病院やクリニックですぐにみてもらえた
2　かかりつけ以外の病院やクリニックですぐにみてもらえた
3　とん服薬を服用させた
4　かかりつけの病院やクリニックが開くまで何もせずに待った
5　電話相談機関に電話をした
6　家族や友人に相談をした

上記の選択肢に関する具体的な内容や選択肢以外のことで、夜間や休日に医師の診察を受けたくなったときに困ったことやどのような対応をされたのか具体的にお書きください。

問18　発達障がい者・児は、平成18年に施行された障害者自立支援法に基づく障がい福祉サービスや地域生活支援事業を利用できることになっています。このことを知っていますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　知っており、利用しているサービスがある ──▶ 問19にお答えください。
2　知っているが、サービスは利用していない ──▶ 問20へお進みください。
3　知らなかった ──▶ 問20へお進みください。

問19　問18で「１」に○をつけた方にお聞きします。以下のサービスについて、この３年間でのサービスの利用傾向はどのように変化しましたか。サービスの種類ごとあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

サービスの種類	利用の傾向（回答欄）
ア　訪問系サービス **ホームヘルパーが住まいを訪問し、障がいの種別や程度に応じた介護や外出の支援などを行うサービス。【居宅介護、重度訪問介護、行動援護、重度障害者等包括支援】**	1　利用時間は増える傾向 2　利用時間は減る傾向にある 3　利用時間の変化はない 4　以前は使っていたが、現在使っていない 5　使う必要がなかった 6　使いたいが使えなかった
イ　ガイドヘルプサービス **障がいのある人に、社会生活で必要な外出や社会参加のための外出の際の移動を支援するサービス。【移動支援事業】**	1　利用時間は増える傾向 2　利用時間は減る傾向にある 3　利用時間の変化はない 4　以前は使っていたが、現在使っていない 5　使う必要がなかった 6　使いたいが使えなかった
ウ　ショートステイ（短期入所） **家族が病気などで介護ができなくなったとき、短期入所して介護を受けられるサービス。**	1　利用日数は増える傾向 2　利用日数は減る傾向にある 3　利用日数の変化はない 4　以前は使っていたが、現在使っていない 5　使う必要がなかった 6　使いたいが使えなかった
エ　通所系サービス **障がい者支援施設等へ通い、心身の状態に応じて、社会での生活になれるための訓練、社会参加の機会を提供するサービス。【児童デイサービス、地域活動支援センター、日中一時支援事業】**	1　利用日数は増える傾向 2　利用日数は減る傾向にある 3　利用日数の変化はない 4　以前は使っていたが、現在使っていない 5　使う必要がなかった 6　使いたいが使えなかった
オ　補装具費の支給、日常生活用具の給付等事業 **補装具の購入費用や修理費用の９割が支給されるほか、重度の障がいのある人に補装具以外の用具の給付や貸出を行うサービス。**	1　利用種類は増える傾向 2　利用種類は減る傾向にある 3　利用種類の変化はない 4　以前は使っていたが、現在使っていない 5　使う必要がなかった 6　使いたいが使えなかった
カ　コミュニケーション支援事業 **聴覚・音声・言語機能障がい、視覚障がいその他の障がいがあるため、意思の伝達のための支援が必要な人に手話通訳者等を派遣するサービス。【手話通訳者派遣、要約筆記者派遣】**	1　利用回数は増える傾向 2　利用回数は減る傾向にある 3　利用回数の変化はない 4　以前は使っていたが、現在使っていない 5　使う必要がなかった 6　使いたいが使えなかった

問20　ご本人やご家族は、障がいがあることで、いやな思いをされたり、不適切な対応をされたりすることはありますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　よくある	2　時々ある	3　ほとんどない

問21　ご本人やご家族は、どのような場面でいやな思いをされたり、不適切な対応をされたりすることはありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　学校の入学や進学の時
2　学校での生活
3　近所づきあい
4　地域での活動
5　地域のお店や公共施設などを利用する時
6　その他（　　）

問22　この５年間くらいを振り返って、障がい者や障がいに対する市民の理解は深まったと思いますか。

1　かなり深まった	2　ある程度深まった
3　あまり深まっていない	4　まったく深まっていない

問23　「障害者」「障害」という言葉に不快感を感じる方が多いとされることから、吹田市では、平成21年（2009年）２月より、法律名称や団体名などの固有名詞を除き、「害」という字を「がい」（ひらがな）に置き換えて表記することとしました。

「障がい者」「障がい」という言葉や表記について、ご本人やご家族はどのように思っていますか。最もあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　漢字表記（障害者、障害）のままでよい
2　「害」はひらがな表記（障がい者、障がい）がよい
3　「害」は元字（常用漢字外）の「碍（がい）」がよい（障碍者、障碍）
4　「しょうがい」とすべてひらがな表記がよい
5　「障害者（障がい者）」「障害（障がい）」とはまったく異なる言葉や表記がよい
　（それは、例えばどのような言葉や表記ですか。下のご意見記入欄にご記入ください）
6　どのような言葉や表記でもこだわりなどない

このことに関して、ご意見があればお書きください。

問24　すべての市民が障がい者・障がいに対する理解を深めるために、吹田市ではどのような取り組みが必要だと思いますか。特にあてはまる番号３つまでに○をつけてください。

1　学校教育等を通じて、子どもの頃から障がいに関する教育を行う
2　企業等での社内教育・研修で、障がいに関する教育を行うよう指導する
3　市報すいた等の広報媒体を活用して周知・啓発を継続的に行う
4　障がいのある人とない人とが交流できる機会や場を充実させる
5　作業所や施設等の授産製品等の販売・展示機会を充実させ、障がい者の活動を知らせる
6　市が主催する講座・教室等の社会教育を充実させる
7　その他（　　）

問25　ご家族として、ご本人の将来の暮らしについてどのような不安を持っていますか。特にあてはまる番号３つまでに○をつけてください。

1　ご本人の健康や障がいのこと
2　生活に必要なお金や収入のこと
3　住まいや生活の場所のこと
4　支援や介護してくれる人がいること
5　利用できる障がい福祉サービスのこと
6　結婚や出産・子育てのこと
7　進学や学校のこと
8　就職や仕事のこと
9　ご本人が高齢になってからのこと
10　ご家族が亡くなったあとのこと
11　その他（　　）
12　特に不安はない

問26　将来、ご本人にはどのような暮らし方をしてもらいたいと思っていますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　支援や介護を受けずにひとりで暮らしてもらいたい
2　支援や介護を受けながらひとりで暮らしてもらいたい
3　家族と一緒に暮らしてもらいたい
4　グループホーム（世話人の支援を受け、障がい者が共同で生活する施設）などで暮らしてもらいたい
5　その他（　　）

問27　今後吹田市が障がい者施策を推進していくうえで、以下の事柄をどの程度重視すべきだと思いますか。それぞれについて、お考えに最も近いもの１つだけに○をつけてください。

	1 かなり重視すべき	2 ある程度重視すべき	3 あまり重視すべきでない
ア　市民に対する障がい者・障がいに関する啓発・教育を強化する	1	2	3
イ　障がい者支援に関わる福祉人材やボランティアを養成する	1	2	3
ウ　障がいの種別・程度に応じた、多様な広報・情報提供態勢の充実を図る	1	2	3
エ　障がい者の円滑な意思疎通を支援するため、支援人材の養成、インフラ整備を図る	1	2	3
オ　障がいの種別に応じた相談態勢の充実を図る	1	2	3
カ　障がい者の権利と尊厳を守るための相談・支援態勢の充実を図る	1	2	3
キ　障害者自立支援法のサービスの充実を図る	1	2	3
ク　発達障がい者や難病患者への支援の仕組みを強化する	1	2	3
ケ　障がい児の学校等以外での居場所の充実を図る	1	2	3
コ　障がいの早期発見・早期対応態勢の充実を図る	1	2	3
サ　療育相談・指導態勢の充実を図る	1	2	3
シ　障がい児一人ひとりに応じた教育態勢の充実を図る	1	2	3
ス　企業等に対して障がい者雇用に関する周知・啓発を強化する	1	2	3
セ　就労に向けた職場体験、訓練機会の確保・充実を図る	1	2	3
ソ　障がいの早期発見・早期対応に向けた健診等の充実を図る	1	2	3
タ　バリアフリーなど福祉のまちづくりを強化する	1	2	3
チ　安心して利用できる住まいの場の確保を図る	1	2	3
ツ　防犯・防災対策の強化を図る	1	2	3
テ　行政に対する障がい者・障がいに関する啓発・教育を強化する	1	2	3

問28　最後に、吹田市の今後の障がい者施策の方向性やあり方に関するご意見やお考えを自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました

「第３期吹田市障がい者計画」策定のためのアンケート調査票

【地域福祉の担い手対象】

－アンケート調査へのご協力のお願い－

市民の皆様には、日頃から障がい者施策並びに地域福祉活動の推進に対してご理解とご尽力いただき、誠にありがとうございます。

さて、このたび吹田市では、平成18年３月に策定しました「第２期吹田市障がい者計画」の後継計画となる「第３期吹田市障がい者計画」を策定するにあたり、地域福祉に係る取り組みを中心となって担われている市民の方々に対し、その取り組みの現状と課題、地域福祉に係る取り組みのあり方などをお聞きし、計画策定の資料とするため、「第３期吹田市障がい者計画策定のためのアンケート調査」を実施することといたしました。

この調査票は、市内33地区の地区福祉委員会を通じ、各地区で地域福祉に係るさまざまな活動に取り組んでおられる市民の方々にお配りしています。

お忙しいこととは存じますが、今後の障がい者施策推進のための大切な調査ですので、趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご回答くださった内容はすべて統計手法により処理しますので、個人が特定されたり、ご回答された方にご迷惑をおかけしたりすることはございません。また、調査の結果は、調査の目的以外には利用いたしません。

平成21年９月

吹　田　市

－ご回答にあたってのお願い－

◆あなたご自身によるご回答をお願いいたします。

◆すべての質問の回答は、平成21年９月１日時点の状況についてご回答ください。

◆回答方法は、あてはまる選択肢の番号に○をつけたり、具体的な数字やお考えなどを直接記入していただいたりする形式です。各種活動に関する取り組みの現状や課題、ご自身のお考えをお書きいただく設問が多くありますが、内容を具体的にご説明くださいますよう、お願いいたします。

◆ご回答が済みましたら、同封の返信用封筒（切手はいりません）に入れて、10月25日（日）までにお近くの郵便ポストに入れてください。

◆このアンケート調査は「無記名方式」ですので、アンケート調査票や返信用封筒にあなたのお名前やご住所を記入されないようお願いいたします。

＜このアンケート調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします＞

吹田市役所 障がい者くらし支援室（担当：吉岡、岡本）

電話　０６－６３８４－１３４６（直通）

【地域福祉の担い手】

問１　あなたの性別はどちらですか。あてはまる番号どちらかに○をつけてください。

１　男性　　２　女性

問２　あなたは何歳ですか。平成21年９月１日時点の満年齢を記入してください。

（　　）歳

問３　あなたが活動されている地域はどちらですか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

１　ＪＲ以南地域　　２　片山・岸辺地域
３　豊津・江坂・南吹田地域　　４　千里山・佐井寺地域
５　山田・千里丘地域　　６　千里ニュータウン・万博・阪大地域

わからない方は、お住まいの町丁目の名称をお書きください（　　町　　丁目）

問４　あなたは、地域での福祉活動の担い手としてどれくらいの期間活動されていますか。また、その活動の主な内容などはどのようなものですか。ア～オの参加している活動区分に○をつけていただき、その活動ごとに内容を記述してください。

活動区分	活動年数	主な活動・支援内容
ア　自治会活動	約（　　）年	
イ　民生委員・児童委員活動	約（　　）年	
ウ　地区福祉委員活動	約（　　）年	
エ　市社会福祉協議会のボランティアセンター活動	約（　　）年	
オ　市社会福祉協議会の以外のボランティア活動	約（　　）年	

問５　あなたが支援・活動を展開しているなかで、障がい者(児)やそのご家族に対して支援を行っているケースはありますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　現在ある ──→ 問７へお進みください
2　以前はあったが、現在はない ──→ 問７へお進みください
3　過去からない ──→ 問６にお答えください

問６　問５で選択肢「３」に○をつけた方にお聞きします。あなたが、過去から障がい者(児)やそのご家族に対して支援を行ったことがない理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　障がい者等から支援の要望を受けたことがないから
2　他の地域福祉の担い手から支援の要望を受けたことがないから
3　支援を行おうとしたが、障がい者等から支援を断られたから
4　障がい者の支援を行うことに抵抗を感じているから
5　障がい者の支援に必要な知識や技術が自分にはないから
6　障がい者との接し方がわからないから
7　その他（　　）

問７　問５で選択肢「１」または「２」に○をつけた方にお聞きします。あなたは、障がい者(児)やそのご家族にどのような支援を行っていますか（行っていましたか）。内容を記述してください。

問８　問５で選択肢「１」または「２」に○をつけた方にお聞きします。あなたが障がい者(児)やそのご家族を支援している（支援していた）なかで、どのような支援ニーズを持っていると感じていますか。内容を記述してください。

問９　問５で選択肢「１」または「２」に○をつけた方にお聞きします。あなたは、障がい者(児)やそのご家族に対する支援をしたことで、あなた自身の障がい者・障がいに対する理解がどのように変わったと思いますか。最もあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　いい方向に大きく変わった
2　いい方向に少し変わった
3　あまり変わらなかった
4　悪い方向に少し変わった
5　悪い方向に大きく変わった

問10　問５で選択肢「１」または「２」に○をつけた方にお聞きします。あなたは、障がい者(児)やそのご家族が持っている支援ニーズに対して、十分な対応ができていると思いますか。最もあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　的確に対応できている（できていた）→ 問12へお進みください
2　場合にもよるが対応できている（できていた）→ 問12へお進みください
3　対応できない（できなかった）ことが多い → 問11にお答えください

問11　問10で選択肢「３」に○をつけた方にお聞きします。あなたが支援において対応できない（できなかった）ケースがあるのは、どのような理由からですか。また、「やりたくてもできていない」支援にはどのようなことがありますか。内容を記述してください。

問12　あなた（地域福祉の担い手）が障がい者(児)やそのご家族の支援ニーズに対応するため、市があなたに対してできる支援はどのようなことが考えられますか。内容を記述してください。

問13　障がい者(児)やそのご家族は、ボランティアによる支援をどの程度必要としていると感じていますか。あてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　かなり必要としている
2　まあ必要としている
3　どちらかといえば必要としていない
4　ボランティアよりは制度で定められた支援を希望している

問14　あなたは、障がい者(児)やそのご家族に対する支援を行ううえで、障がい者・障がいに対する理解を深めるために、どのようなことをしていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　自学自習
2　所属団体のメンバー同士での勉強会の開催
3　行政が開催する講習会や講座への参加
4　大学や研究機関が開催する講習会や講座への参加
5　その他（　　）
6　何もしていない

問15　障がい者(児)やそのご家族に対する支援のあり方として、地域福祉の担い手として、あなたはどのような支援を行っていくことが望ましいと思いますか。最もあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　緊急時に限り必要な支援を行うのが望ましい
2　平常時に限り必要な支援を行うのが望ましい
3　平常時・緊急時ともに支援を行うのが望ましい
4　平常時・緊急時ともに支援は不要だと思う

問16　あなたが活動している地域では、自治会や民生委員・児童委員、地区福祉委員、ボランティア団体等による地域福祉の取り組みは、どの程度活発に行われていますか。最もあてはまる番号１つだけに○をつけてください。

1　かなり活発である　　2　ある程度は活発である
3　あまり活発ではない　　4　まったく活発ではない

問17　あなたが活動している地域では、住民同士での助けあいや支えあいなど、住民による地域福祉はどの程度浸透し、行われていると感じますか。最もあてはまる番号１つに○をつけてください。

1　かなり行われている	2　ある程度は行われている
3　あまり行われていない	4　まったく行われていない

問18　あなたが活動している地域の住民は、地域で共に暮らしている障がい者に対して、住民自身が手助けや支援を行うことに関してどの程度理解があると思いますか。最もあてはまる番号１つに○をつけてください。

1　かなりある	2　ある程度はある
3　あまりない	4　まったくない

問19　あなたが活動している地域において、仮に、障がい者のためのグループホーム（世話人の支援のもと、障がい者が共同生活をする施設）や作業所などの施設が整備されることになり、<u>地域として反対運動が行なわれた場合</u>、あなたはどのような行動をとりますか。最もあてはまる番号１つに○をつけてください。

1　地域としての意見・立場に従って行動する
2　反対している住民に対し、施設整備の必要性を説得するため地域で話し合いの場を持つ
3　その他（　　）

問20　最後に、吹田市の今後の障がい者施策の方向性やあり方に関するご意見やお考えを自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました

第３期吹田市障がい者計画策定のための
アンケート調査結果報告書

平成22年（2010年）３月

発行　吹田市福祉保健部障がい者くらし支援室
〒564-8550　吹田市泉町１丁目３番40号
電話　06-6384-1231(代表)
ホームページ　http://www.city.suita.osaka.jp/
Eメールアドレス　shofuku@city.suita.osaka.jp